

【 大学院聴講生 】

※2024年1月29日現在(未更新のシラバスは掲載していません)

担当専修別	講義コード	講義科目名	単位	開講期	曜日		担当教員名	使用言語	聴講可否	シラバス番号	備考
					時限1	時限2					
国語学国文学	1330001	国語学国文学(特殊講義)	4	通年	月	2	河村 瑛子	日本語	○	文献文化学1	
国語学国文学	1331010	国語学国文学(特殊講義)	2	前期	月	3	田中 草大	日本語	○	文献文化学2	
国語学国文学	1331011	国語学国文学(特殊講義)	2	後期	月	3	田中 草大	日本語	○	文献文化学3	
国語学国文学	1331007	国語学国文学(特殊講義)	2	前期	木	1	市村 太郎	日本語	○	文献文化学4	
国語学国文学	1331008	国語学国文学(特殊講義)	2	後期	木	1	市村 太郎	日本語	○	文献文化学5	
国語学国文学	1331009	国語学国文学(特殊講義)	2	前期集中	他	他	齋藤 真麻理	日本語	○	文献文化学6	
国語学国文学	1340001	国語学国文学(演習)	4	通年	金	5	大槻 信	日本語	○	文献文化学7	
国語学国文学	1340003	国語学国文学(演習)	4	通年	月	5	河村 瑛子	日本語	○	文献文化学8	
国語学国文学	1340004	国語学国文学(演習)	4	通年	木	5	田中 草大	日本語	○	文献文化学9	
国語学国文学	1341003	国語学国文学(演習)	2	前期	月	4	鈴木 隆司	日本語	○	文献文化学10	
国語学国文学	1341004	国語学国文学(演習)	2	後期	月	4	鈴木 隆司	日本語	○	文献文化学11	
国語学国文学	1341007	国語学国文学(演習)	2	前期	火	2	高橋 幸平	日本語	○	文献文化学12	
国語学国文学	1341008	国語学国文学(演習)	2	後期	火	2	高橋 幸平	日本語	○	文献文化学13	
中国語学中国文学	1431001	中国語学中国文学(特殊講義)	2	前期	火	1	永田 知之	日本語	○	文献文化学14	
中国語学中国文学	1431002	中国語学中国文学(特殊講義)	2	後期	火	1	永田 知之	日本語	○	文献文化学15	
中国語学中国文学	1431003	中国語学中国文学(特殊講義)	2	前期	火	2	道坂 昭廣	日本語	○	文献文化学16	
中国語学中国文学	1431004	中国語学中国文学(特殊講義)	2	後期	火	2	道坂 昭廣	日本語	○	文献文化学17	
中国語学中国文学	1431005	中国語学中国文学(特殊講義)	2	前期	月	1	二宮 美那子	日本語	○	文献文化学18	
中国語学中国文学	1431006	中国語学中国文学(特殊講義)	2	前期	火	3	松江 崇	日本語	○	文献文化学19	
中国語学中国文学	1431007	中国語学中国文学(特殊講義)	2	後期	火	3	松江 崇	日本語	○	文献文化学20	
中国語学中国文学	1431008	中国語学中国文学(特殊講義)	2	後期	金	1	野原 将輝	日本語	○	文献文化学21	
中国語学中国文学	1431009	中国語学中国文学(特殊講義)	2	前期	金	1	野原 将輝	日本語	○	文献文化学22	
中国語学中国文学	1431012	中国語学中国文学(特殊講義)	2	前期集中	他	他	齋藤 希史	日本語	○	文献文化学23	
中国語学中国文学	M123001	中国語学中国文学(演習)	2	前期	月	2	成田 健太郎	日本語	○	文献文化学24	
中国語学中国文学	M123002	中国語学中国文学(演習)	2	後期	月	2	成田 健太郎	日本語	○	文献文化学25	
中国語学中国文学	M123005	中国語学中国文学(演習)	2	前期	水	4	緑川 英樹	日本語	○	文献文化学26	
中国語学中国文学	M123006	中国語学中国文学(演習)	2	後期	水	4	緑川 英樹	日本語	○	文献文化学27	
中国哲学史	1530002	中国哲学史(特殊講義)	4	通年	水	1	池田 恭哉	日本語	○	文献文化学28	
中国哲学史	1531001	中国哲学史(特殊講義)	2	前期集中	他	他	村田 みお	日本語	○	文献文化学29	
中国哲学史	1531002	中国哲学史(特殊講義)	2	後期	水	5	宇佐美 文理	日本語	○	文献文化学30	
中国哲学史	1531003	中国哲学史(特殊講義)	2	前期	水	5	宇佐美 文理	日本語	○	文献文化学31	
中国哲学史	1531008	中国哲学史(特殊講義)	2	後期	月	5	福谷 彬	日本語	○	文献文化学32	
中国哲学史	1531009	中国哲学史(特殊講義)	2	前期	月	5	福谷 彬	日本語	○	文献文化学33	
中国哲学史	1531010	中国哲学史(特殊講義)	2	前期	火	1	永田 知之	日本語	○	文献文化学34	
中国哲学史	1531011	中国哲学史(特殊講義)	2	後期	火	1	永田 知之	日本語	○	文献文化学35	
中国哲学史	1540001	中国哲学史(演習)	4	通年	金	5	宇佐美 文理	日本語	○	文献文化学36	
中国哲学史	1540002	中国哲学史(演習)	4	通年	月	2	池田 恭哉	日本語	○	文献文化学37	
中国哲学史	1541003	中国哲学史(演習)	2	前期	月	3	古跡 隆一	日本語	○	文献文化学38	
中国哲学史	1541004	中国哲学史(演習)	2	後期	月	3	古跡 隆一	日本語	○	文献文化学39	
インド古典学	1633001	インド古典学(特殊講義)	2	後期	金	3	横地 優子	日本語及び英語	○	文献文化学40	
インド古典学	1633007	インド古典学(特殊講義)	2	後期	水	3	GATT, Adam Alvah	日本語	○	文献文化学41	
インド古典学	1633008	インド古典学(特殊講義)	2	前期	水	3	GATT, Adam Alvah	日本語	○	文献文化学42	
インド古典学	1644001	インド古典学(演習)	2	後期	月	2	Tao PAN	英語	○	文献文化学43	
インド古典学	1644002	インド古典学(演習)	2	後期	月	3	Tao PAN	英語	○	文献文化学44	
インド古典学	1644003	インド古典学(演習)	2	前期	金	3	横地 優子	日本語及び英語	○	文献文化学45	
インド古典学	1644004	インド古典学(演習)	2	前期	火	5	VASUDEVA, Somdev	英語	○	文献文化学46	
インド古典学	1644005	インド古典学(演習)	2	前期	木	4	山口 周子	日本語	○	文献文化学47	
インド古典学	1644006	インド古典学(演習)	2	後期	木	4	芳原 綾子	日本語	○	文献文化学48	
インド古典学	1644007	インド古典学(演習)	2	前期	水	2	天野 恭子	日本語	○	文献文化学49	
インド古典学	1644008	インド古典学(演習)	2	前期	月	2	Tao PAN	英語	○	文献文化学50	
インド古典学	1644011	インド古典学(演習)	2	後期	火	5	VASUDEVA, Somdev	英語	○	文献文化学51	
インド古典学	1653001	インド古典学(講読)	2	前期	月	4	横地 優子	日本語	○	文献文化学52	
インド古典学	1653002	インド古典学(講読)	2	後期	月	4	天野 恭子	日本語	○	文献文化学53	
インド古典学	1653003	インド古典学(講読)	2	前期	木	3	Tao PAN	英語	○	文献文化学54	
インド古典学	1653004	インド古典学(講読)	2	後期	木	3	Tao PAN	英語	○	文献文化学55	
仏教学	1831001	仏教学(特殊講義)	2	前期	水	3	宮崎 泉	日本語	○	文献文化学56	
仏教学	1831002	仏教学(特殊講義)	2	後期	水	3	宮崎 泉	日本語	○	文献文化学57	
仏教学	1831003	仏教学(特殊講義)	2	前期	火	4	船山 徹	日本語	○	文献文化学58	
仏教学	1831004	仏教学(特殊講義)	2	後期	火	4	船山 徹	日本語	○	文献文化学59	
仏教学	1831007	仏教学(特殊講義)	2	後期	金	2	DEROCHE, Marc-Henri Jean	英語	○	文献文化学60	
仏教学	1831008	仏教学(特殊講義)	2	前期	木	2	倉本 尚徳	日本語	○	文献文化学61	
仏教学	1831009	仏教学(特殊講義)	2	後期	木	2	倉本 尚徳	日本語	○	文献文化学62	
仏教学	1841001	仏教学(演習)	2	前期	火	3	宮崎 泉	日本語	○	文献文化学63	
仏教学	1841002	仏教学(演習)	2	後期	火	3	宮崎 泉	日本語	○	文献文化学64	
仏教学	1841003	仏教学(演習)	2	前期集中	他	他	加納 和雄	日本語	○	文献文化学65	
仏教学	1841004	仏教学(演習)	2	前期	水	4	熊谷 誠慈	日本語	○	文献文化学66	
仏教学	1841006	仏教学(演習)	2	前期	火	2	佐藤 直美	日本語	○	文献文化学67	
仏教学	1841007	仏教学(演習)	2	後期	月	5	志賀 浄邦	日本語	○	文献文化学68	
仏教学	1841008	仏教学(演習)	2	前期	木	4	山口 周子	日本語	○	文献文化学69	
仏教学	1841009	仏教学(演習)	2	後期	木	4	芳原 綾子	日本語	○	文献文化学70	
仏教学	1841010	仏教学(演習)	2	前期	月	5	志賀 浄邦	日本語	○	文献文化学71	
仏教学	1851001	仏教学(講読)	2	前期	木	3	Tao PAN	英語	○	文献文化学72	
仏教学	1851002	仏教学(講読)	2	後期	木	3	Tao PAN	英語	○	文献文化学73	
仏教学	9628001	チベット語(初級)(語学)	2	前期	月	1	高橋 慶治	日本語	○	文献文化学74	
仏教学	9629001	チベット語(初級)(語学)	2	後期	月	1	高橋 慶治	日本語	○	文献文化学75	
仏教学	9630001	チベット語(中級)(語学)	2	前期	水	1	宮崎 泉	日本語	○	文献文化学76	
仏教学	9630002	チベット語(中級)(語学)	2	後期	水	1	宮崎 泉	日本語	○	文献文化学77	
西洋古典学	3131001	西洋古典学(特殊講義)	2	前期	木	2	河島 忠朗	日本語	○	文献文化学78	
西洋古典学	3131002	西洋古典学(特殊講義)	2	後期	木	2	河島 忠朗	日本語	○	文献文化学79	
西洋古典学	3131003	西洋古典学(特殊講義)	2	前期	月	3	河島 忠朗	日本語	○	文献文化学80	
西洋古典学	3131004	西洋古典学(特殊講義)	2	後期	月	3	河島 忠朗	日本語	○	文献文化学81	
西洋古典学	3131005	西洋古典学(特殊講義)	2	前期集中	他	他	堀尾 耕一	日本語	○	文献文化学82	
西洋古典学	3141001	西洋古典学(演習)	2	前期	水	3	竹下 哲文	日本語	○	文献文化学83	
西洋古典学	3141002	西洋古典学(演習)	2	後期	金	3	平山 晃司	日本語	○	文献文化学84	
西洋古典学	3141003	西洋古典学(演習)	2	後期	水	3	竹下 哲文	日本語	○	文献文化学85	
西洋古典学	3141004	西洋古典学(演習)	2	前期	金	4	竹下 哲文	日本語	○	文献文化学86	
西洋古典学	3141005	西洋古典学(演習)	2	後期	金	4	竹下 哲文	日本語	○	文献文化学87	
西洋古典学	3141006	西洋古典学(演習)	2	前期	月	5	河島 忠朗	日本語	○	文献文化学88	
西洋古典学	3141007	西洋古典学(演習)	2	後期	月	5	河島 忠朗	日本語	○	文献文化学89	
西洋古典学	3141010	西洋古典学(演習)	2	前期	金	5	西村 洋平	日本語	○	文献文化学90	
西洋古典学	3141011	西洋古典学(演習)	2	後期	金	5	西村 洋平	日本語	○	文献文化学91	
西洋古典学	3151001	西洋古典学(講読)	2	前期	火	4	竹下 哲文	日本語	○	文献文化学92	
西洋古典学	3151002	西洋古典学(講読)	2	後期	火	4	竹下 哲文	日本語	○	文献文化学93	
西洋古典学	3151003	西洋古典学(講読)	2	前期	火	2	山下 修一	日本語	○	文献文化学94	
西洋古典学	3151004	西洋古典学(講読)	2	後期	火	2	山下 修一	日本語	○	文献文化学95	
スラブ語学スラブ文学	3231003	スラブ語学スラブ文学(特殊講義)	2	後期	月	4	中村 唯史	日本語	○	文献文化学96	
スラブ語学スラブ文学	3231005	スラブ語学スラブ文学(特殊講義)	2	前期	月	4	中村 唯史	日本語	○	文献文化学97	
スラブ語学スラブ文学	3241001	スラブ語学スラブ文学(演習)	2	前期	月	3	中野 悠希	日本語	○	文献文化学98	
スラブ語学スラブ文学	3241003	スラブ語学スラブ文学(演習)	2	後期	月	2	中村 唯史	日本語	○	文献文化学99	
スラブ語学スラブ文学	3241007	スラブ語学スラブ文学(演習)	2	後期	月	3	中野 悠希	日本語	○	文献文化学100	
スラブ語学スラブ文学	3250001	スラブ語学スラブ文学(講読)	4	後期	水	2	水 3 北井 聡子	日本語	○	文献文化学101	
スラブ語学スラブ文学	3251003	スラブ語学スラブ文学(講読)	2	前期	水	2	中村 唯史	日本語	○	文献文化学102	
スラブ語学スラブ文学	3251005	スラブ語学スラブ文学(講読)	2	後期	金	4	帯谷 知可	日本語	○	文献文化学103	
スラブ語学スラブ文学	3251006	スラブ語学スラブ文学(講読)	2	前期	火	4	小山 哲	日本語	○	文献文化学104	
スラブ語学スラブ文学	3251007	スラブ語学スラブ文学(講読)	2	後期	火	4	小山 哲	日本語	○	文献文化学105	

【 大学院聴講生 】

※2024年1月29日現在(未更新のシラバスは掲載していません)

Table with columns: 担当専修別, 講義コード, 講義科目名, 単位, 開講期, 曜日, 時間1, 時間2, 担当教員名, 使用言語, 聴講可否, シラバス連携, 備考. Contains a detailed list of courses and lecturers.

【 大学院聴講生 】

※2024年1月29日現在(未更新のシラバスは掲載していません)

担当専修別	講義コード	講義科目名	単位	開講期	曜日	時間1	時間2	担当教員名	使用言語	聴講可否	シラバス連携	備考
英語学英文学	3431004	英語学英文学(特殊講義)	2	前期	水	5		森 慎一郎	日本語	○	文献文化学211	学部科目
英語学英文学	3431005	英語学英文学(特殊講義)	2	後期	水	5		小林 久美子	日本語	○	文献文化学212	学部科目
英語学英文学	3431010	英語学英文学(特殊講義)	2	前期	木	2		滝沢 直宏	日本語	○	文献文化学213	学部科目
英語学英文学	3431011	英語学英文学(特殊講義)	2	後期	木	2		滝沢 直宏	日本語	○	文献文化学214	学部科目
英語学英文学	3431012	英語学英文学(特殊講義)	2	前期	月	3		出口 菜摘	日本語	○	文献文化学215	学部科目
英語学英文学	3431013	英語学英文学(特殊講義)	2	後期	月	2		後藤 篤	日本語	○	文献文化学216	学部科目
英語学英文学	3431014	英語学英文学(特殊講義)	2	前期	月	1		マドロック 麻弥	日本語	○	文献文化学217	学部科目
英語学英文学	3431015	英語学英文学(特殊講義)	2	後期	火	2		西谷 拓哉	日本語	○	文献文化学218	学部科目
英語学英文学	3431016	英語学英文学(特殊講義)	2	前期	月	2		西谷 茉莉子	日本語	○	文献文化学219	学部科目
英語学英文学	3431017	英語学英文学(特殊講義)	2	後期	木	2		木島 菜葉子	日本語	○	文献文化学220	学部科目
英語学英文学	3431018	英語学英文学(特殊講義)	2	前期	火	3		WROBETZ, Kevin Reay	英語	○	文献文化学221	学部科目
英語学英文学	3431019	英語学英文学(特殊講義)	2	後期	火	3		WROBETZ, Kevin Reay	英語	○	文献文化学222	学部科目
英語学英文学	3431020	英語学英文学(特殊講義)	2	後期	月	4		西谷 茉莉子	日本語	○	文献文化学223	学部科目
英語学英文学	3431021	英語学英文学(特殊講義)	2	前期集中	他	他		竹内 康浩	日本語	○	文献文化学224	学部科目
英語学英文学	3431022	英語学英文学(特殊講義)	2	前期集中	他	他		家入 菜子	日本語及び英語	○	文献文化学225	学部科目
英語学英文学	3431023	英語学英文学(特殊講義)	2	前期	金	3		和田 葉子	日本語	○	文献文化学226	学部科目
英語学英文学	3431024	英語学英文学(特殊講義)	2	後期	金	3		和田 葉子	日本語	○	文献文化学227	学部科目
英語学英文学	3441001	英語学英文学(演習I)	2	前期	火	4		家入 菜子	日本語	○	文献文化学228	学部科目
英語学英文学	3441002	英語学英文学(演習I)	2	後期	火	4		家入 菜子	日本語	○	文献文化学229	学部科目
英語学英文学	3441003	英語学英文学(演習I)	2	前期	金	4		南谷 奈良	日本語	○	文献文化学230	学部科目
英語学英文学	3441004	英語学英文学(演習I)	2	後期	金	4		南谷 奈良	日本語	○	文献文化学231	学部科目
英語学英文学	3441005	英語学英文学(演習I)	2	前期	金	2		小林 久美子	日本語	○	文献文化学232	学部科目
英語学英文学	3441006	英語学英文学(演習I)	2	後期	金	2		小林 久美子	日本語	○	文献文化学233	学部科目
英語学英文学	3451001	英語学英文学(講義)	2	前期	火	1		廣田 篤彦	日本語	○	文献文化学234	学部科目
英語学英文学	3451002	英語学英文学(講義)	2	後期	月	3		南谷 奈良	日本語	○	文献文化学235	学部科目
英語学英文学	3451003	英語学英文学(講義)	2	前期	火	5		森 慎一郎	日本語	○	文献文化学236	学部科目
英語学英文学	3451004	英語学英文学(講義)	2	後期	金	3		小林 久美子	日本語	○	文献文化学237	学部科目
英語学英文学	3462001	英語学英文学(外国語実習)	1	前期	水	1		LUDVIK, Catherine	英語	○	文献文化学238	学部科目
英語学英文学	3462002	英語学英文学(外国語実習)	1	後期	木	1		LUDVIK, Catherine	英語	○	文献文化学239	学部科目
英語学英文学	3462003	英語学英文学(外国語実習)	1	前期	水	4		JACKSON, Lachlan Rigby	英語	○	文献文化学240	学部科目
英語学英文学	3462004	英語学英文学(外国語実習)	1	後期	水	4		JACKSON, Lachlan Rigby	英語	○	文献文化学241	学部科目
アメリカ文学	3502001	系共通科目(アメリカ文学)(講義A)	2	前期	水	2		小林 久美子	日本語	○	文献文化学242	学部科目
アメリカ文学	3503001	系共通科目(アメリカ文学)(講義B)	2	後期	水	2		森 慎一郎	日本語	○	文献文化学243	学部科目
アメリカ文学	3531001	アメリカ文学(特殊講義)	2	前期	水	5		森 慎一郎	日本語	○	文献文化学244	学部科目
アメリカ文学	3531002	アメリカ文学(特殊講義)	2	後期	水	5		小林 久美子	日本語	○	文献文化学245	学部科目
アメリカ文学	3531004	アメリカ文学(特殊講義)	2	後期	火	1		廣田 篤彦	日本語	○	文献文化学246	学部科目
アメリカ文学	3531005	アメリカ文学(特殊講義)	2	前期	月	4		南谷 奈良	日本語	○	文献文化学247	学部科目
アメリカ文学	3531010	アメリカ文学(特殊講義)	2	前期	月	3		出口 菜摘	日本語	○	文献文化学248	学部科目
アメリカ文学	3531011	アメリカ文学(特殊講義)	2	後期	月	2		後藤 篤	日本語	○	文献文化学249	学部科目
アメリカ文学	3531012	アメリカ文学(特殊講義)	2	前期	月	1		マドロック 麻弥	日本語	○	文献文化学250	学部科目
アメリカ文学	3531013	アメリカ文学(特殊講義)	2	後期	火	2		西谷 拓哉	日本語	○	文献文化学251	学部科目
アメリカ文学	3531014	アメリカ文学(特殊講義)	2	前期	木	2		滝沢 直宏	日本語	○	文献文化学252	学部科目
アメリカ文学	3531015	アメリカ文学(特殊講義)	2	後期	木	2		滝沢 直宏	日本語	○	文献文化学253	学部科目
アメリカ文学	3531016	アメリカ文学(特殊講義)	2	前期	月	2		西谷 茉莉子	日本語	○	文献文化学254	学部科目
アメリカ文学	3531017	アメリカ文学(特殊講義)	2	後期	木	2		木島 菜葉子	日本語	○	文献文化学255	学部科目
アメリカ文学	3531018	アメリカ文学(特殊講義)	2	前期	火	3		WROBETZ, Kevin Reay	英語	○	文献文化学256	学部科目
アメリカ文学	3531019	アメリカ文学(特殊講義)	2	後期	火	3		WROBETZ, Kevin Reay	英語	○	文献文化学257	学部科目
アメリカ文学	3531020	アメリカ文学(特殊講義)	2	後期	月	4		西谷 茉莉子	日本語	○	文献文化学258	学部科目
アメリカ文学	3531021	アメリカ文学(特殊講義)	2	前期集中	他	他		竹内 康浩	日本語	○	文献文化学259	学部科目
アメリカ文学	3531022	アメリカ文学(特殊講義)	2	前期集中	他	他		家入 菜子	日本語及び英語	○	文献文化学260	学部科目
アメリカ文学	3531023	アメリカ文学(特殊講義)	2	前期	金	3		和田 葉子	日本語	○	文献文化学261	学部科目
アメリカ文学	3531024	アメリカ文学(特殊講義)	2	後期	金	3		和田 葉子	日本語	○	文献文化学262	学部科目
アメリカ文学	3541001	アメリカ文学(演習I)	2	前期	金	2		小林 久美子	日本語	○	文献文化学263	学部科目
アメリカ文学	3541002	アメリカ文学(演習I)	2	後期	金	2		小林 久美子	日本語	○	文献文化学264	学部科目
アメリカ文学	3541003	アメリカ文学(演習I)	2	前期	火	4		家入 菜子	日本語	○	文献文化学265	学部科目
アメリカ文学	3541004	アメリカ文学(演習I)	2	後期	火	4		家入 菜子	日本語	○	文献文化学266	学部科目
アメリカ文学	3541005	アメリカ文学(演習I)	2	前期	金	4		南谷 奈良	日本語	○	文献文化学267	学部科目
アメリカ文学	3541006	アメリカ文学(演習I)	2	後期	金	4		南谷 奈良	日本語	○	文献文化学268	学部科目
アメリカ文学	3551001	アメリカ文学(講義)	2	前期	火	5		森 慎一郎	日本語	○	文献文化学269	学部科目
アメリカ文学	3551002	アメリカ文学(講義)	2	後期	金	3		小林 久美子	日本語	○	文献文化学270	学部科目
アメリカ文学	3551003	アメリカ文学(講義)	2	前期	火	1		廣田 篤彦	日本語	○	文献文化学271	学部科目
アメリカ文学	3551004	アメリカ文学(講義)	2	後期	月	3		南谷 奈良	日本語	○	文献文化学272	学部科目
アメリカ文学	3562001	アメリカ文学(外国語実習)	1	前期	水	1		LUDVIK, Catherine	英語	○	文献文化学273	学部科目
アメリカ文学	3562002	アメリカ文学(外国語実習)	1	後期	木	1		LUDVIK, Catherine	英語	○	文献文化学274	学部科目
アメリカ文学	3562003	アメリカ文学(外国語実習)	1	前期	水	4		JACKSON, Lachlan Rigby	英語	○	文献文化学275	学部科目
アメリカ文学	3562004	アメリカ文学(外国語実習)	1	後期	水	4		JACKSON, Lachlan Rigby	英語	○	文献文化学276	学部科目
フランス語学フランス文学	3604001	系共通科目(フランス文学)(講義)	2	後期	水	2		永盛 克也	日本語	○	文献文化学277	学部科目
フランス語学フランス文学	3606001	系共通科目(フランス文学)(講義)	2	前期	水	2		森 淳生	日本語	○	文献文化学278	学部科目
フランス語学フランス文学	3607001	系共通科目(フランス文学)(講義)	2	前期	火	3		小田 涼	日本語	○	文献文化学279	学部科目
フランス語学フランス文学	3648001	フランス語学フランス文学(演習I)	2	前期	月	2		鳥山 定詞	日本語	○	文献文化学280	学部科目
フランス語学フランス文学	3648002	フランス語学フランス文学(演習I)	2	後期	月	2		村上 祐二	日本語	○	文献文化学281	学部科目
フランス語学フランス文学	3651001	フランス語学フランス文学(講義)	2	後期	月	3		鳥山 定詞	日本語	○	文献文化学282	学部科目
フランス語学フランス文学	3651002	フランス語学フランス文学(講義)	2	前期	月	3		村上 祐二	日本語	○	文献文化学283	学部科目
フランス語学フランス文学	3651007	フランス語学フランス文学(講義)	2	前期	月	5		柴田 秀樹	日本語	○	文献文化学284	学部科目
フランス語学フランス文学	3663001	フランス語学フランス文学(外国語実習)	1	前期	火	4		Justine LE FLOC'H	フランス語	○	文献文化学285	学部科目
フランス語学フランス文学	3663002	フランス語学フランス文学(外国語実習)	1	後期	火	4		Justine LE FLOC'H	フランス語	○	文献文化学286	学部科目
フランス語学フランス文学	9636001	フランス語(上級)(語学)	2	前期	水	2		Justine LE FLOC'H	フランス語	○	文献文化学287	学部科目
フランス語学フランス文学	9636002	フランス語(上級)(語学)	2	後期	水	2		Justine LE FLOC'H	フランス語	○	文献文化学288	学部科目
イタリア語学イタリア文学	3702001	イタリア語学イタリア文学(講義)	2	前期	月	3		村瀬 有司	日本語	○	文献文化学289	学部科目
イタリア語学イタリア文学	3703001	イタリア語学イタリア文学(講義)	2	後期	月	3		村瀬 有司	日本語	○	文献文化学290	学部科目
イタリア語学イタリア文学	3751001	イタリア語学イタリア文学(講義)	2	前期	水	4		村瀬 有司	日本語	○	文献文化学291	学部科目
イタリア語学イタリア文学	3751002	イタリア語学イタリア文学(講義)	2	後期	水	4		村瀬 有司	日本語	○	文献文化学292	学部科目
イタリア語学イタリア文学	3751003	イタリア語学イタリア文学(講義)	2	前期	火	4		河合 成雄	日本語	○	文献文化学293	学部科目
イタリア語学イタリア文学	3751004	イタリア語学イタリア文学(講義)	2	後期	火	4		河合 成雄	日本語	○	文献文化学294	学部科目
イタリア語学イタリア文学	9668001	スペイン語(中級I)(語学)	2	前期	火	5		小西 咲子	日本語	○	文献文化学295	学部科目
イタリア語学イタリア文学	9669001	スペイン語(中級II)(語学)	2	後期	火	5		小西 咲子	日本語	○	文献文化学296	学部科目
イタリア語学イタリア文学	9673001	スペイン語(初級I)	2	前期	火	4		小西 咲子	日本語	○	文献文化学297	学部科目
イタリア語学イタリア文学	9674001	スペイン語(初級II)	2	後期	火	4		小西 咲子	日本語	○	文献文化学298	学部科目
イタリア語学イタリア文学	9675001	イタリア語(初級4時間コース)I	4	前期	月	2	木 3	菅野 類	日本語	○	文献文化学299	学部科目
イタリア語学イタリア文学	9676001	イタリア語(初級4時間コース)II	4	後期	月	2	木 3	菅野 類	日本語	○	文献文化学300	学部科目
西洋文化学系	3902001	西洋文学入門(講義)	2	前期	木	5		河島 忠朗・村瀬 有司・永盛 克也・川島 隆・中村 唯史・南谷 奈良・森 慎一郎	日本語	○	文献文化学301	学部科目

文献文化学1

科目ナンバリング		G-LET10 61330 LJ36			
授業科目名 <英訳>	国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 河村 瑛子		
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	芭蕉研究				
[授業の概要・目的]					
<p>俳諧は、俳句の源流とされる短詩型文芸である。近世初期、俳諧は文学ジャンルとして確立し、以来、急速な成熟と変容を遂げた。そのような俳諧史の変革に最も意識的に与した人物に、芭蕉がいる。芭蕉は、同時代より近現代に到るまで日本文学史上の重要人物とされており、文学・文化・思想における影響力は甚大である。本講義では、最新の研究状況を踏まえ、その文学的特性や表現上の妙味について実践的に把握することを目指す。</p> <p>前期は、芭蕉の伝記とその作品について、近世前期の文学史の展開を踏まえつつ講義する。その上で、芭蕉の代表作である『奥の細道』の精読を行う。作品の生成過程を吟味しつつ、関連資料の運用方法を学びながら、一字一句に込められた作意を繙くことで、作品を実証的に解釈する手法を身につける。</p> <p>後期は、近世文学研究を行う上で重要な資料であり、芭蕉の作品とも分かちがたく結びつく書簡資料を取り上げる。書簡資料を扱う上での入門的な講義を行った上で、芭蕉書簡の読解に取り組む。内容に関連する芭蕉の作品や、伝記上の問題、俳壇状況、芭蕉の思想・人間性など、俳諧史の諸問題と併せて解説し、芭蕉の文事を史的動態の中に位置づける。</p> <p>芭蕉は、文学作品・書簡を含めた「ふみ」の持つ力について、きわめて意識的な人物として特筆される。本講義の主体的な受講を通して、文学および文学研究の意味について、各自が考察を深めることを期待する。</p>					
[到達目標]					
<p>近世前期から中期にかけての俳諧史と、諸派の俳諧の特性を把握し、その動態の中で、芭蕉文学の特性を説明できるようになる。芭蕉作品の生成過程の諸相を理解し、関連資料を適切に運用しつつ、作品を精密に読解できるようになる。くずし字の読解能力を身につけ、俳諧作品や書簡資料を読解できるようになる。テキストにおける良質な問題点を自ら発見し、それを実証的方法によって解決できるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 芭蕉の伝記と作品 3. 芭蕉と紀行文 4. 『奥の細道』概説 5. 『奥の細道』精読(1) 室の八島 6. 『奥の細道』精読(2) 日光 7. 『奥の細道』精読(3) 黒髪山・裏見の滝 8. 『奥の細道』精読(4) 那須野 9. 『奥の細道』精読(5) 黒羽 10. 『奥の細道』精読(6) 霊岸寺 11. 『奥の細道』精読(7) 殺生石・遊行柳 12. 『奥の細道』精読(8) 白河の関 					
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

国語学国文学(特殊講義)(2)

13. 『奥の細道』精読(9) 須賀川
14. 『奥の細道』精読(10) 花かつみ・文字摺石
15. 前期のまとめ
16. 書簡資料概説
17. 往来物読解(1) 往信
18. 往来物読解(2) 返信
19. 貞門俳人の書簡
20. 談林俳人の書簡
21. 芭蕉書簡精読(1) 天和期の書簡(前半)
22. 芭蕉書簡精読(2) 天和期の書簡(後半)
23. 芭蕉書簡精読(3) 貞享期の書簡(前半)
24. 芭蕉書簡精読(4) 貞享期の書簡(後半)
25. 芭蕉書簡精読(5) 元禄初年の書簡(前半)
26. 芭蕉書簡精読(6) 元禄初年の書簡(後半)
27. 芭蕉書簡精読(7) 晩年の書簡(前半)
28. 芭蕉書簡精読(8) 晩年の書簡(後半)
29. 総括
30. フィードバック

授業の進行度や受講者の理解度、新型コロナウイルスの感染拡大状況等によって、内容や順序等を変更する場合がある。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点(30%)、小テスト(20%)、年度末のレポート(50%)による。平常点は、授業への参加度や、毎回提出されるコメント等によって評価する。レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。なお、新型コロナウイルスの感染拡大状況により、小テストを課題提出に変更する可能性がある。

【教科書】

使用しない
プリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)
鈴木勝忠 『俳諧史要』(明治書院、1973)
このほかの参考書は、適宜授業中に紹介する。

【授業外学修(予習・復習)等】

版本・写本および書簡資料など文書類の写真を用いるため、くずし字読解への強い意欲が求められる。配付資料の予習・復習はもちろんのこと、不断に古典籍に親しむこと。くずし字を自在に読み解く力を身につけることは、各人の研究活動の幅を広げることとなる。また、書簡資料に馴染

国語学国文学(特殊講義)(3)へ続く

国語学国文学(特殊講義)(3)

みのない場合、活字化された書簡集を読むなどして書簡の文体に親しむことが、読解能力の向上を支えるであろう。

俳諧は、和漢雅俗にわたる文化現象を取りこむ文芸であるから、日頃より幅広い読書を心がけることが望ましい。また、授業で扱わない芭蕉作品や、前時代・同時代の俳人の作品についても、積極的に読解を試みてほしい。講義内容を精緻かつ俯瞰的に理解する助けとなるはずである。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学2

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36			
授業科目名 <英訳>	国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 田中 草大	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本語文語史概説				
[授業の概要・目的]					
<p>一般に、言語史研究は話し言葉を主な対象とするが、書き言葉の歴史は、それ自体が言語史の重要な一局面であるのみならず、話し言葉史の解明のためにも留意されるべきものである。</p> <p>この授業では、日本語の書き言葉史において大きな位置を占める「文語文」の沿革について概説する。</p> <p>(日本の学校教育における)国語科で学習される「古文」は、奈良時代～江戸時代という極めて長期にわたる題材を扱っているにもかかわらず、それらは一つの「古典文法」に(おおよそ)則っている。この授業では、(1)この「古文」とは何なのかという問いを起点にして、文語文についての基礎的な事らを確認し、次いで(2)その通時的な変化と、共時的なバリエーション(つまり、ある一時代にどのような種類の文語文が用いられたか)を説明する。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・日本語史における口語文と文語文の関係について理解する。 ・文語文の歴史を、各時代の資料と文体という観点から理解する。 ・実際の文語文を読み、他資料との比較によってその特徴を分析する。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回：口語文と文語文 第2-3回：文語文の発生 第4-5回：中世の文語文 第6-7回：近世の文語文 第8-9回：近代の文語文 第10-11回：文語文の衰滅 付：現代の文語文 第12-13回：仮名遣い 第14回：韻文の文語法 第15回：提出課題の紹介</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

国語学国文学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

レポート課題：100%

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示する参考文献を読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学3

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36			
授業科目名 <英訳>	国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 田中 草大	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本語史の諸問題とその解決法				
【授業の概要・目的】					
<p>日本語史学は、日本語の歴史における未解決問題を発見し、それを学術的方法によって解決する学問である。では、日本語の歴史における未解決問題とはどのようなものがあるのだろうか、またそうした問題を解決するにはどのような手段・方法があるのだろうか。</p> <p>本授業では、特定のトピックを設けて(今年度は「ある表記法はどのように創出され、どのように普及するか」)、実際の学術論文を取り上げて上記のことを受講生が理解できることを目指す。</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> 日本語史の研究において、どのような問題がトピックたり得るかを理解する。 それらのトピックについて、解決のためにどのような資料や方法が用いられているかを理解する。 論旨(主張や根拠)の妥当性について検討しながら学術論文を読むことができる。 					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 授業の概要</p> <p>第2-8回 主トピック：表記法の創出と普及(仮名遣い、和訓、漢字字体・仮名字体など)</p> <p>第9-13回 その他のトピック(文法史、音韻史など)</p> <p>第14-15回 提出課題の紹介</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
レポート課題：100%					
【教科書】					
使用しない					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
授業中に指示する参考文献を読むこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学4

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36			
授業科目名 <英訳>	国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学文学部 准教授 市村 太郎	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本語文法の歴史概説				
[授業の概要・目的]					
<p>(授業の概要・目的)</p> <p>本講義は、古代から現代にかけて、日本語文法がどのように変化したのかを、現代文法研究の枠組みに沿って通時的な観点から概説するものである。日本語文法史に関する基本的・一般的な事項について、用例を吟味しながら確認・解説し、学術的な議論を行うための知見を養う。</p> <p>文法は言語の骨格を成すものであり、日本語の史的変遷を考える上で、文法の変遷の要点を理解しておくことは欠かせない。古典語と現代語の言葉遣いが大きく異なることは日本語母語話者にとっては一般的な感覚であろうが、その感覚は一体何によるものなのだろうか。また国語教育では個別的に扱われることの多い文語文法と口語文法はどのようなつながりを持つのだろうか。</p> <p>日本語文法史研究には、これまで膨大な蓄積があり、現在も日々、大小さまざまなテーマでの研究がなされているが、そこに適切にアクセスするためにも、まずは基本的なトピックをおさえておきたい。</p>					
[到達目標]					
<p>1.古代から現代に至る日本語文法について、各文法概念における歴史的変遷に関して、主要事項を理解し、説明できる。</p> <p>2.古代から現代に至る日本語文法について、自ら問題を発見し、テーマを設定して考察できる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 インTRODクション・授業の概要 文法史研究のための用例収集方法【メディア授業・同時双方向型】</p> <p>第2回 文の構造・文のタイプ</p> <p>第3回 活用</p> <p>第4回 格</p> <p>第5回 ヴォイス</p> <p>第6回 アスペクト・テンス</p> <p>第7回 モダリティ</p> <p>第8回 感動表現・希望表現</p> <p>第9回 係り結び</p> <p>第10回 とりたて</p> <p>第11回 準体句</p> <p>第12回 条件表現</p> <p>第13回 待遇表現</p>					
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

国語学国文学(特殊講義) (2)

第14回 文法史研究の実際

レポートの提出

フィードバック【文書を作成してポータルサイトにて通知】

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

成績は、期末のレポート70%、平常点30%によって評価する。

レポート課題は講義中に指示する。

平常点は、毎回の小課題・コメントによる。

レポートは、学術論文に準じた形式で、日本語文法史上の問題に関するテーマを適切に設定し、先行研究を確認しつつ、用例に基づいて、論理的に論述できているかを評価する。

【教科書】

高山善行・青木博史編 『ガイドブック日本語文法史』（ひつじ書房,2010）ISBN:978-4894764897

本授業は、特に2回目以降、教科書の記述内容を解説し、確認・吟味することが主となる。

【参考書等】

（参考書）

小田勝 『実例詳解 古典文法総覧』（和泉書院,2015）ISBN:978-4757607316

日本語文法学会編 『日本語文法事典』（大修館書店,2014）ISBN:978-4469012866

岡崎友子・森勇太 『ワークブック日本語の歴史』（くろしお出版,2016）ISBN:978-4874247068

その他、授業内に紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

【予習】

この授業では、教科書を使用するため、事前に目を通し、疑問点等を整理しておいてほしい。

【復習】

講義を復習し、再度確認するとともに、レポート執筆に向けての構想・調査を行う。

（その他（オフィスアワー等））

・メール等の連絡は随時受け付けます。また、各回の課題提出用に回答フォームを利用する予定であり、そちらに記入していただければ毎回確認します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学5

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36			
授業科目名 <英訳>	国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学文学部 准教授 市村 太郎	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本語文法史・語彙史研究のためのコーパスの活用				
[授業の概要・目的]					
<p>(授業の概要・目的)</p> <p>本授業では、『日本語歴史コーパス』の等のコーパスを用いて、日本語文法史・語彙史に関する調査を行う方法について、例題を通して検討する。 また、コーパス化された各時代の資料の特質や、利用にあたって注意すべき点等も解説する。</p>					
[到達目標]					
<p>1.コーパスを日本語史研究に利用するための必要な知識を習得する。 2.コーパスを日本語文法史・語彙史の研究に適切に活用する方法を考え、自らテーマを設定し応用できる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 授業概説 日本語史研究で利用できるコーパス・データベースの紹介【メディア授業・同時双方向型】</p> <p>第2回 『日本語歴史コーパス』『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の解説</p> <p>第3回 コーパスの検索方法・データの集計方法【メディア授業・オンデマンド型】</p> <p>第4回 奈良時代語コーパスの解説</p> <p>第5回 奈良時代語コーパスの文法史・語彙史研究への活用【メディア授業・オンデマンド型】</p> <p>第6回 平安時代語コーパスの解説</p> <p>第7回 平安時代語コーパスの文法史・語彙史研究への活用【メディア授業・オンデマンド型】</p> <p>第8回 鎌倉時代語コーパスの解説と文法史・語彙史研究への活用</p> <p>第9回 室町時代語コーパスの解説</p> <p>第10回 室町時代語コーパスの文法史・語彙史研究への活用【メディア授業・オンデマンド型】</p> <p>第11回 江戸時代語コーパスの解説</p> <p>第12回 江戸時代語コーパスの文法史・語彙史研究への活用【メディア授業・オンデマンド型】</p> <p>第13回 明治・大正以降のコーパスの解説</p> <p>第14回 明治・大正以降のコーパスの文法史・語彙史研究への活用【メディア授業・オンデマンド型】</p> <p>レポートの執筆と提出 フィードバック【文書を作成しポータルサイトにて通知】</p>					
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

国語学国文学(特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

成績は、期末のレポート70%、平常点30%によって評価する。

レポート課題は講義中に指示する。

平常点は、毎回の小課題・コメントによる。

レポートは、学術論文に準じた形式で、日本語文法・語彙史上の問題に関するテーマを適切に設定し、先行研究を確認しつつ、コーパスによる調査を行い、論理的に論述できているかを評価する。

【教科書】

田中牧郎編『コーパスで学ぶ日本語学 日本語の歴史』（朝倉書店,2020）ISBN:978-4254516548（第4回以降の内容および毎回の課題は、本書を基に行う。）

第1～3回は教科書なしでも受講可。第4回より、教科書を基に講義を進めていく。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

（関連URL）

<https://clrd.ninjal.ac.jp/index.html>(国立国語研究所・言語資源開発センター)

【授業外学修（予習・復習）等】

【予習】

教科書の当該箇所に事前に目を通し、疑問点を整理しておく等しておいてほしい。

【復習】

授業で解説した手順を確認し、各自確認のための小課題に取り組む。また、期末レポートの構想や調査の準備を行う。

（その他（オフィスアワー等））

・コーパスの授業用アカウントを配布します。もちろん各自で取得したものはそれを使ってくださって構いません。（アカウント取得は無料）

・コンピュータの利用を前提としているため、メディア授業を交えて行います。

・ネットワークの状況次第ですが、持ち込み可能ならばPC（エクセル等が使える端末）をお持ちいただくとよいでしょう。

・メール等の連絡は随時受け付けます。また、各回の課題提出用に回答フォームを利用する予定であり、そちらに記入していただければ毎回確認します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学6

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36			
授業科目名 <英訳>	国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	国文学研究資料館研究部 教授 齋藤 真麻理	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	室町物語の方法と圏域				
[授業の概要・目的]					
<p>室町時代から江戸時代にかけて盛行し、しばしば挿絵を伴って享受された室町物語(御伽草子)を対象とする。その特質をよく伝える作品を選び、多角的な視点から本文と挿絵の双方を読み解く。国内外に伝存する室町物語の絵巻や絵本、屏風等の作例はもとより、関連する説話や絵画作品等をあわせみること、作品世界とそこに反映された学芸の諸相、さらにはその文学圏域を醸成した文化的・思想的背景を考察する。また、室町物語の絵入り本は高精細のデジタル画像の公開が急速に進んでいることから、本講では在外コレクションの画像も活用し、デジタル画像の基礎的な活用方法についても学ぶ。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・室町物語をめぐる現在の研究水準と手法、課題を理解する。 ・関心を持った作品をめくって自ら問いを立て、参考文献等を参照しながら客観的に分析する力を養う。 ・古典文学のデジタル画像について適切な活用方法を身につける。 					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 室町物語と奈良絵本 2. 物語のかたち 絵巻・絵本・屏風 3. 『酒吞童子』概説 4. 『酒吞童子』と異境の表象 5. 『酒吞童子』の信仰と都市 6. 『付喪神絵巻』概説 7. 『付喪神絵巻』の和漢故事 8. 室町物語にみる都市と境界 9. 『鼠の草子』概説 10. 『源氏物語』の受容と展開 11. 『乳母の草紙』概説 12. 女訓書の受容と展開 13. 室町物語にみる古典教養 14. 奈良絵本と出版文化 15. 室町物語の方法と圏域 					
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

国語学国文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点20%、レポート80%

【教科書】

講義資料を配付する。

【参考書等】

(参考書)

齋藤真麻理 『異類の歌合 室町の機智と学芸』(吉川弘文館、2014年) ISBN:9784642085267

齋藤真麻理 『妖怪たちの秘密基地 つくもがみの時空』(平凡社、2022年) ISBN:9784582364675

【授業外学修(予習・復習)等】

講義に取り上げる作品について、翻刻・注釈等、デジタル画像などを探し、原文を読んでもらうこと。

【その他(オフィスアワー等)】

メールによる質問等を受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学7

科目ナンバリング		G-LET10 71340 SJ36			
授業科目名 <英訳>	国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 大槻 信		
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	金5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	漢籍訓点資料の研究				
[授業の概要・目的]					
<p>漢籍訓点資料をとりあげ、演習形式で研究を行う。 訓点資料についての基礎知識を獲得し、訓点資料を日本語史・日本文学の研究資料として使用する ための方法・視点を学ぶことを目的とする。 授業では、調べ、考える楽しさを重視する。</p>					
[到達目標]					
<p>訓点資料についての基礎知識を獲得し、様々な工具書を用いて訓点資料を読解し、そこに現れた日 本語について考察できるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>日本では、漢文を読解するための補助手段として、漢文本文に返点・仮名・ヲコト点などを記入す ることがあった。返点により語順を示し、仮名によって訓や音を表す。ヲコト点は字画の様々な位 置に点や線を施すことで、助詞・助動詞のような助辞や活用語尾などを表示した。これらの注記・ 符号を「訓点」、訓点が施された文献を「訓点資料」と呼ぶ。 本演習では、唐代の伝奇小説『遊仙窟』の訓点本(陽明文庫本)をとりあげ、その研究を行う。具 体的には、資料をもとに訓み下し文を作成し、その過程で、書誌・表記・音韻・文法・語彙といっ た種々の方面から検討を加える。日本語史、訓読語、古辞書、伝奇小説に興味がある人には面白い ものとなる。</p> <p>年度はじめ数回をイントロダクションと訓点資料入門にあてる。 その後、受講者による発表形式で進める。発表者は担当部分(半丁分、洋本の1ページに相当)か ら問題点を見つけ出し、発表する。 授業では受講者からの積極的な発言を歓迎し、活発な議論が行われることを期待している。</p>					
【前期】					
第1回イントロダクション					
第2回イントロダクション、担当決め					
第3回イントロダクション					
第4回 26才 前半					
第5回 26才 後半					
第6回 26才 前半					
第7回 26才 後半					
第8回 27才 前半					
第9回 27才 後半					
第10回 27才 前半					
第11回 27才 後半					
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----					

国語学国文学(演習)(2)

第12回 28才 前半
第13回 28才 後半
第14回 28ウ 前半
第15回 28ウ 後半

【後期】

第1回 29才 前半
第2回 29才 後半
第3回 29ウ 前半
第4回 29ウ 後半
第5回 30才 前半
第6回 30才 後半
第7回 30ウ 前半
第8回 30ウ 後半
第9回 31才 前半
第10回 31才 後半
第11回 31ウ 前半
第12回 31ウ 後半
第13回 32才 前半
第14回 32才 後半
第15回まとめ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

成績は発表によって評価し、授業中の発言等を平常点として加味する。
発表の機会がなかった者は発表に相当するレポートをもって評価する。

【教科書】

資料のコピーを配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

受講者全員がその時間に取り上げる該当部分について予習した上で授業にのぞむこと。

国語学国文学(演習)(3)へ続く

国語学国文学(演習)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学8

科目ナンバリング		G-LET10 71340 SJ36			
授業科目名 <英訳>	国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 河村 瑛子	
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	月5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	『俳諧類船集』研究				
[授業の概要・目的]					
<p>過去の文献に記されたことからを正確に理解するためには、言葉の精密な意味合いと、その背後にある世界観を把握することが肝要である。近世前期に花開いた古俳諧は、文学史上初めて、豊富な俗語の資料を残してくれた。本演習では、古俳諧が齎した史上最大の連想語辞書『俳諧類船集』の読解を通して、古人の精神世界に分け入りたい。</p> <p>本書に記された連想語群は、日本人の伝統的な共通認識を反映しており、しかも、和漢雅俗にわたる浩瀚な内容を含んでいる。たとえば「語る」の項目を見ると、その連想語として、浄瑠璃、平家、みどり子、謡、梓神子、盗人、遊女などが挙げられている。これを眺めるだけで、「語る」と「話す」とがどう違うのかといった言葉の原義から、物語や歴史叙述の根源的な問題にまで想像が膨らんでくるだろう。本演習では、『類船集』の連想語のネットワークを分析する方法とその意義について実践的に学ぶ。</p> <p>本演習では、はじめに教員による概説的講義を行い、以後は受講者の発表によって進める。具体的には、本書の見出語と連想語との関係性を文献上の根拠にもとづいて考察し、そこから浮かび上がる問題点を受講者全員で吟味することによって、言葉の深奥に迫る。</p> <p>この授業は、古文献の基礎的な調査・読解の方法を習得し、文学・語学・文化における良質な問題点を発見するための思考を養う場である。近世文学研究の立場にとどまらず、様々な角度から取り組むことが可能であろう。本演習が受講者各々の専門的研究へとつながる視座を獲得する機会となることを期待する。</p>					
[到達目標]					
<p>くずし字読解能力と、和本の基本的な扱い方を身につける。多様な資料の性格を把握し、古文献を適切に運用できるようになる。テキストを実証的に解釈する方法を習得する。自ら良質な問題点を発見し、それを適切な方法によって解決できるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1.イントロダクション 2.『俳諧類船集』概説 3.京都大学の所蔵資料について 4.和装本の扱い方について 5.受講者による発表と討議(1)「袴」条・前半 6.受講者による発表と討議(2)「袴」条・後半 7.受講者による発表と討議(3)「脛巾」条 8.受講者による発表と討議(4)「羽折」条 9.受講者による発表と討議(5)「旗」条・前半 10.受講者による発表と討議(6)「旗」条・後半 11.受講者による発表と討議(7)「白衣」条 12.受講者による発表と討議(8)「初もとゆひ」条 13.受講者による発表と討議(9)「白髪」条 					
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----					

国語学国文学(演習)(2)

- 14.受講者による発表と討議 (10) 「初雪」条
- 15.受講者による発表と討議 (11) 「浜」条・前半
- 16.受講者による発表と討議 (12) 「浜」条・後半
- 17.受講者による発表と討議 (13) 「橋」条・前半
- 18.受講者による発表と討議 (14) 「橋」条・後半
- 19.受講者による発表と討議 (15) 「階子」条
- 20.受講者による発表と討議 (16) 「柱」条・前半
- 21.受講者による発表と討議 (17) 「柱」条・後半
- 22.受講者による発表と討議 (18) 「畑」条
- 23.受講者による発表と討議 (19) 「畠」条
- 24.受講者による発表と討議 (20) 「旅籠屋」条
- 25.受講者による発表と討議 (21) 「早船」条
- 26.受講者による発表と討議 (22) 「馬場」条
- 27.受講者による発表と討議 (23) 「馬鹿」条
- 28.受講者による発表と討議 (24) 「放下」条
- 29.総括
- 30.フィードバック

受講者の理解の度合いや発表の進行度、新型コロナウイルスの感染拡大状況等によって、予定を変更する場合がある。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業への参加度(20%)、発表(40%)、年度末のレポート(40%)による。発表・レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。

【教科書】

使用しない
プリントを配付する。

【参考書等】

(参考書)
瀬原退蔵『瀬原退蔵著作集 第16巻 近世語研究』(中央公論社) ISBN:4124012012
このほかの参考書は、適宜授業中に紹介する。

【授業外学修(予習・復習)等】

発表担当者はもちろん、受講者全員が該当箇所を十分に予習し、自身の見解を持って授業に臨むこと。授業では版本・写本および文書類の写真を用いるため、くずし字読解への強い意欲が求められる。授業で扱う資料の予習復習はもちろんのこと、不断に古典籍に親しむこと。『類船集』の注釈研究においては、古俳諧をはじめとした和漢の古典文学作品はもとより、近世期の随筆類、歴史資料や図像資料、時には民俗学・文化人類学など隣接諸学の成果をも参照することが求められる。専門分野にかかわらず、日頃から広い分野の読書を心がけること。

国語学国文学(演習)(3)へ続く

国語学国文学(演習)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学9

科目ナンバリング		G-LET10 71340 SJ36			
授業科目名 <英訳>	国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 田中 草大	
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	木5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本語を調査する				
[授業の概要・目的]					
<p>言葉について考えるためにはそれが現代の言葉であれ過去の言葉であれ自分の考えが独りよがりなものでないことを確認するため、「調べる」という過程を経ることが必要である。この授業では、日本語の調べ方を学び、実践する。具体的には次の行程をとる；</p> <p>(1) 日本語を調べるにはどのような方法があるか、調べる際に注意すべきことは何か、そもそも日本語を調べるとは何を調べることなのかといったことについて一通り学ぶ(講義形式)。 (2) 上記(1)を踏まえて各自、日本語の任意のトピックについて調べる(教員からの課題に答えるのでも、自分で課題を設定するのもよい)。</p> <p>なお、より詳しい行程については受講生数に応じて調整していく。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> 日本語を調べるにはどのような方法があるか、調べる際に注意すべきことは何かを理解する。 日本語のトピックについて、そのトピックにとって適切な方法によって調べ、それをもとに考えを進めることができる。 自分の調べたことと考えたことを、読者がストレスなく理解できるような形で文章化できる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回：概要説明 第2-5回：レクチャー(「調べ方」「調べる際の注意」) 第6-29回：受講生発表 第30回：ふりかえり</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点と授業内発表：100%					
[教科書]					
使用しない					
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----					

国語学国文学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

レクチャー及び他参加者の発表内容を、自分の発表にどのように活用できるか考え、試行する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学10

科目ナンバリング		G-LET10 71341 SJ36			
授業科目名 <英訳>	国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 鈴木 隆司	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	蜻蛉日記を読む				
[授業の概要・目的]					
蜻蛉日記は、平安時代の日記文学を代表する作品として、古くから読まれてきた作品であり、後世の文学作品に与えた影響も大きい。本授業では、上巻冒頭から順に担当範囲を決めて読み進めていき、併せて平安時代の貴族社会における、恋愛・結婚のあり方についての理解を深めていくことを目的とする。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> 客観的な論拠に基づく的確な解釈を考えることができるようになる。 研究史を踏まえた作品研究ができるようになる。 自身の研究成果についてのプレゼンテーション能力を養う。 他者の研究成果について適切に批評し議論する能力を養う。 					
[授業計画と内容]					
第1回 ガイダンス(授業の概要を説明し、発表担当を決める) 第2回 蜻蛉日記の基礎知識(講義) 第3回～第14回 発表と討議 第15回 まとめ なお、受講生の人数などにより、進め方を変更することがある。					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(100点) 発表を重視し、授業への積極的な参加度を加味する。 状況によっては別にレポートを課すことがある。					
[教科書]					
川村裕子『新版 蜻蛉日記Ⅰ』(KADOKAWA、2003) ISBN:9784043679010					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に紹介する					
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----					

国語学国文学(演習)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

各回の発表者は、発表準備に十分な時間を確保して取り組むこと。
自身の発表回以外も、本文をしっかり読んで予習しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

連絡方法等については初回の授業で説明する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学11

科目ナンバリング		G-LET10 71341 SJ36			
授業科目名 <英訳>	国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 鈴木 隆司		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	蜻蛉日記を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>蜻蛉日記は、平安時代の日記文学を代表する作品として、古くから読まれてきた作品であり、後世の文学作品に与えた影響も大きい。本授業では、上巻冒頭から順に担当範囲を決めて読み進めていき、併せて平安時代の貴族社会における、恋愛・結婚のあり方についての理解を深めていくことを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・客観的な論拠に基づく的確な解釈を考えることができるようになる。 ・研究史を踏まえた作品研究ができるようになる。 ・自身の研究成果についてのプレゼンテーション能力を養う。 ・他者の研究成果について適切に批評し議論する能力を養う。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 ガイダンス(授業の概要を説明し、発表担当を決める) 第2回 続・蜻蛉日記の基礎知識(講義) 第3回～第14回 発表と討議 第15回 まとめ</p> <p>なお、受講生の人数などにより、進め方を変更することがある。</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>平常点(100点) 発表を重視し、授業への積極的な参加度を加味する。 状況によっては別にレポートを課すことがある。</p>					
[教科書]					
川村裕子『新版 蜻蛉日記Ⅰ』(KADOKAWA、2003) ISBN:9784043679010					
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----					

国語学国文学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各回の発表者は、発表準備に十分な時間を確保して取り組むこと。
自身の発表回以外も、本文をしっかり読んで予習しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

連絡方法等については初回の授業で説明する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学12

科目ナンバリング		G-LET10 71341 SJ36			
授業科目名 <英訳>	国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 高橋 幸平	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	文学をめぐる諸概念(フィクション・作品・テキスト)				
[授業の概要・目的]					
<p>文学やその鑑賞行為をめぐる諸概念は、必ずしも自明ではない。たとえば、文学研究には作品解釈も含まれようが、解釈とは正確には何をどうすることを意味しているのだろうか。妥当な解釈とそうでない解釈があるとすれば、何によって両者は区別されるのか。ほかにも分析すべき概念は多い。「文学作品に読む価値があるとすれば、その価値とは何だろうか」、「文学はフィクションと同義だろうか」、「作品とはどれのことか。初出誌面で読むテキストとWeb上で公開されたテキストとは同じ作品だろうか」。いずれも、重要であるとはわかっていても簡単には答えられず、手のつけにくい問題である。</p> <p>文学の哲学(The philosophy of literature)と呼ばれる分析美学の一分野では、文学とその鑑賞行為にまつわる諸概念を精緻化すべく議論が展開されてきた。しかし、それらの学問的蓄積の多くは未邦訳であり、特に日本文学研究においては参照されることが少ない。</p> <p>本演習では、Contemporary Readings in the Philosophy of Literature: An Analytic Approach (Davies & Matheson, 2008)におさめられた文学の哲学の代表的な論文のうち、フィクション・作品・テキストを論じたものを輪読し、文学と文学をめぐる実践にかかわる諸概念への理解を深めることを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<p>文学理論に関する英語文献を理解することができる。 文学と文学をめぐる実践にかかわる諸概念について、代表的な学問的立場を説明できる。 自身の研究の前提としてどのような学問的立場を取るのかを自覚し説明できる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>1 ガイダンス 2 "The logical status of fictional discourse" / John R. Searle 1 3 "The logical status of fictional discourse" / John R. Searle 2 4 "The logical status of fictional discourse" / John R. Searle 3 5 "Fiction, fiction-making, and styles of fictionality" / Kendall L. Walton 1 6 "Fiction, fiction-making, and styles of fictionality" / Kendall L. Walton 2 7 "The concept of fiction" / Gregory Currie 1 8 "The concept of fiction" / Gregory Currie 2 9 "The concept of fiction" / Gregory Currie 3 10 "Interpretation and identity: can the work survive the world?" / Nelson Goodman and Catherine Z. Elgin 11 "Work and text" / Gregory Currie 1 12 "Work and text" / Gregory Currie 2 13 "Work and text" / Gregory Currie 3</p>					
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----					

国語学国文学(演習)(2)

14 "Work and text" / Gregory Currie 4
15まとめ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業に臨む態度...25%
(欠席:1回...-5点、2回...-15点、3回...-30点、4回...-50点)
文献の理解度...25%
(受講生は順に日本語訳する。また内容を自分の言葉で敷衍する)
期末レポート...50%

【教科書】

対象論文をコピーして配布する。

【参考書等】

(参考書)
Davies, D., & Matheson, C. (Eds.) 『Contemporary readings in the philosophy of literature: An analytic approach』 (Broadview Press. 2008.) (授業で扱う論文を収めた論文集。)
Carroll, N., & Gibson, J. 『The Routledge Companion to Philosophy of Literature』 (Routledge. 2015)

【授業外学修(予習・復習)等】

発表は課さないが、受講生は毎回、指名を受けて文献の部分訳を求められる。授業で扱う範囲は事前に日本語で説明できるように準備しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

授業は対象論文の日本語訳とその内容についてのディスカッションで構成される。一般に、この分野の論文は特に明晰で論理展開を追いやすく、英語としての難易度はそれほど高くない。なお、一回の授業で扱う分量は3000 wordsくらいを予定している。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学13

科目ナンバリング		G-LET10 71341 SJ36			
授業科目名 <英訳>	国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 高橋 幸平	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	文学をめぐる諸概念(作品中の真理・物語・解釈)				
[授業の概要・目的]					
<p>文学やその鑑賞行為をめぐる諸概念は、必ずしも自明ではない。たとえば、文学研究には作品解釈も含まれようが、解釈とは正確には何をどうすることを意味しているのだろうか。妥当な解釈とそうでない解釈があるとすれば、何によって両者は区別されるのか。ほかにも分析すべき概念は多い。「文学作品に読む価値があるとすれば、その価値とは何だろうか」、「文学はフィクションと同義だろうか」、「作品とはどれのことか。初出誌面で読むテキストとWeb上で公開されたテキストとは同じ作品だろうか」。いずれも、重要であるとはわかっていても簡単には答えられず、手のつけにくい問題である。</p> <p>文学の哲学(The philosophy of literature)と呼ばれる分析美学の一分野では、文学とその鑑賞行為にまつわる諸概念を精緻化すべく議論が展開されてきた。しかし、それらの学問的蓄積の多くは未邦訳であり、特に日本文学研究においては参照されることが少ない。</p> <p>本演習では、Contemporary Readings in the Philosophy of Literature: An Analytic Approach (Davies & Matheson, 2008)におさめられた文学の哲学の代表的な論文のうち、作品中の真理・物語・解釈を論じたものを輪読し、文学と文学をめぐる実践にかかわる諸概念への理解を深めることを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<p>文学理論に関する英語文献を理解することができる。 文学と文学をめぐる実践にかかわる諸概念について、代表的な学問的立場を説明できる。 自身の研究の前提としてどのような学問的立場を取るのかを自覚し説明できる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>1 ガイダンス 2 "Truth in fiction" / David Lewis 1 3 "Truth in fiction" / David Lewis 2 4 "The structure of stories" / Gregory Currie 1 5 "The structure of stories" / Gregory Currie 2 6 "Fictional truth and fictional authors" / David Davies 1 7 "Fictional truth and fictional authors" / David Davies 2 8 "Fictional truth and fictional authors" / David Davies 3 9 "The intentional fallacy" / W.K. Wimsatt, Jr. and M.C. Beardsley 1 10 "The intentional fallacy" / W.K. Wimsatt, Jr. and M.C. Beardsley 2 11 "Validity in interpretation" / E.D. Hirsch 12 "Intention and interpretation" / Jerrold Levinson 1 13 "Intention and interpretation" / Jerrold Levinson 2</p>					
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----					

国語学国文学(演習)(2)

14 "Intention and interpretation" / Jerrold Levinson 3
15まとめ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業に臨む態度...25%
(欠席:1回...-5点、2回...-15点、3回...-30点、4回...-50点)
文献の理解度...25%
(受講生は順に日本語訳する。また内容を自分の言葉で敷衍する)
期末レポート...50%

【教科書】

対象論文をコピーして配布する。

【参考書等】

(参考書)
Davies, D., & Matheson, C. (Eds.) 『Contemporary readings in the philosophy of literature: An analytic approach』 (Broadview Press. 2008.) (授業で扱う論文を収めた論文集。)
Carroll, N., & Gibson, J. 『The Routledge Companion to Philosophy of Literature』 (Routledge. 2015)

【授業外学修(予習・復習)等】

発表は課さないが、受講生は毎回、指名を受けて文献の部分訳を求められる。授業で扱う範囲は事前に日本語で説明できるように準備しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

授業は対象論文の日本語訳とその内容についてのディスカッションで構成される。一般に、この分野の論文は特に明晰で論理展開を追いやすく、英語としての難易度はそれほど高くない。なお、一回の授業で扱う分量は3000 wordsくらいを予定している。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学14

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 永田 知之	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	漢籍目録法				
[授業の概要・目的]					
漢籍目録の作成要領を理解することを通じて、中国学の基本構造を把握する。					
[到達目標]					
各種の漢籍目録(データベースを含む)の構造や内容を読み取る力をつけることにより、目的や用途に応じて必要な漢籍をすぐに検索できるようになる。					
[授業計画と内容]					
漢籍の目録法、書誌情報の採取について解説する。 進行の度合いによって内容や順序に変更を生じることもあり得る。					
第1回 ガイダンス					
第2回 漢籍の定義(漢籍と目録の関係)					
第3回 カード作成の目的(書誌の基本)					
第4回 書名(表題の確定)					
第5回 書名(合刻と合綴)					
第6回 書名(漢籍の同定)					
第7回 巻数(書誌の特徴)					
第8回 撰者(書籍への関与の形態)					
第9回 撰者(書籍に関与した人物の情報)					
第10回 鈔刻(複製の手法)					
第11回 鈔刻(刊行年と出版者)					
第12回 鈔刻(底本の表示)					
第13回 鈔刻(特殊な情報)					
第14回 叢書・増出・地志カードの作成					
第15回 まとめ					
フィードバックの方法については、授業時に指示する。					
[履修要件]					
特になし					
-----中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く-----					

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートを主として、平常点（授業への関与など）を加味する。
評価の6割はレポート、4割は平常点による。
レポートの作成に当たっては、原典を参照するなど、積極的な姿勢が明らかなものに高い評価を与える。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

清水茂 『中国目録学』（筑摩書房,1991）ISBN:4480836055

井波陵一 『知の座標 中国目録学』（白帝社,2003）ISBN:9784891746346

京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センター編集 『漢籍目録 カードのとりかた』（朋友書店,2005）ISBN:9784892811067

（関連URL）

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/kanseki>(全国漢籍データベース)

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/db-machine/toho/html/top.html>(東方学デジタル図書館)

[https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/5592/2006%E6%BC%A2%E7%B1%8D%E7%9B%AE%E9%8C%B2%E5%85%A5%E9%96%80\(%E8%B3%87%E6%96%99\).pdf](https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/5592/2006%E6%BC%A2%E7%B1%8D%E7%9B%AE%E9%8C%B2%E5%85%A5%E9%96%80(%E8%B3%87%E6%96%99).pdf)(漢籍目録入門（資料）（中里見敬氏）)

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/130672/1/kogusho.pdf>(工具書について 漢籍の整理（永田知之）)

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jcul/106/0/106_1493/_pdf/-char/ja(漢籍整理備忘録 中国の古典籍・古文書の理解のために（小島浩之氏）)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介された各種の文献を自主的に読むこと。

（その他（オフィスアワー等））

授業中、分からない点については積極的な質問を期待する。
担当教員の研究室へ来る際には事前にメールで連絡した上で訪問されたい。
メールアドレスは初回の講義で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学15

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 永田 知之		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	漢籍分類法				
[授業の概要・目的]					
四部分類法を理解することを通じて、中国学の基本構造を把握する。					
[到達目標]					
書物の分類を通じて漢字文化の特徴を理解することにより、西洋近代に由来する学術の枠組みを超えた幅広い視野を養う。					
[授業計画と内容]					
『京都大学人文科学研究所漢籍分類一覧』に基づき、分類法について解説すると共に、漢籍に関わる諸事象を紹介する。 進行の度合いによって内容や順序に変更を生じることもあり得る。 第1回 ガイダンス 第2回 経部・概説 第3回 経部・五経等(経注疏合刻類～春秋類) 第4回 経部・四書等(四書類～小学類) 第5回 史部・概説 第6回 史部・叙述形式(正史類～載記類) 第7回 史部・制度、伝記、地理(詔令奏議類～政書類) 第8回 史部・資料、史論(書目類～史評類) 第9回 子部・概説 第10回 子部・思想、技術(儒家類～術数類) 第11回 子部・趣味、宗教(芸術類～道家類) 第12回 集部・概説 第13回 集部・各論 第14回 叢書部 第15回 まとめ フィードバックの方法については、授業時に指示する。					
[履修要件]					
特になし					
-----中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く-----					

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートを主として、平常点（授業への関与など）を加味する。
評価の6割はレポート、4割は平常点による。
レポートの作成に当たっては、原典を参照するなど、積極的な姿勢が明らかなものに高い評価を与える。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

清水茂 『中国目録学』（筑摩書房,1991）ISBN:4480836055

井波陵一 『知の座標 中国目録学』（白帝社,2003）ISBN:9784891746346

吉川幸次郎 『吉川幸次郎遺稿集 第1巻』（筑摩書房,1995）ISBN:4480746412

程千帆・徐有富著、向嶋成美・大橋賢一・樋口泰裕・渡邊大訳 『中国古典学への招待 目録学入門』（研文出版,2016）ISBN:9784876364091

（関連URL）

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/kanseki>(全国漢籍データベース)

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/65024>(京都大学人文科学研究所漢籍分類一覧：部-類-属-目-例)

<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/refguide/13216>(漢籍の探し方（大西賢人氏）)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介された各種の文献を自主的に読むこと。

（その他（オフィスアワー等））

授業中、分からない点については積極的な質問を期待する。
担当教員の研究室へ来る際には事前にメールで連絡した上で訪問されたい。
メールアドレスは初回の講義で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学16

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 道坂 昭廣		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	初唐文学研究				
[授業の概要・目的]					
<p>唐代の文学は一般に初唐、盛唐、中唐、晩唐と4つの時期に分けられる。この講義の目的は、4時期のうち初唐文学の特色を明らかにすることにある。初唐は南北朝時代の形式を重視した文学を克服し、盛唐文学を準備した時期とされる。初唐時代の代表的文学者王勃、楊炯、盧照鄰、駱賓王の文学について考察する。</p>					
[到達目標]					
<p>初唐四傑の文学作品の読解を通して、この時期の文学の特色と文学史における意義を明らかにする。過渡期とされる初唐文学に注目することにより、その前後の時期の文学の特色も明確に理解することができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1 初唐という時期について 第2 初唐四傑に対する評価について 第3 初唐四傑を中心とする文学者の交流について 第4 王勃作品読解1 第5 王勃作品読解2 第6 王勃作品読解3 第7 楊炯作品読解1 第8 楊炯作品読解2 第9 楊炯作品読解3 第10 盧照鄰作品読解1 第11 盧照鄰作品読解2 第12 駱賓王作品読解1 第13 駱賓王作品読解2 第14 初唐時代の文学考察 第15 まとめ・文学史における初唐文学の位置付け</p>					
[履修要件]					
中国古典文学について、基礎的な読解力が必要となる。					
[成績評価の方法・観点]					
授業における発言と、報告に基づいて評価する。					
[教科書]					
プリントを配布する。					
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

鈴木虎雄 『駢文史序説』 (研文出版) ISBN:978-4-87636-270-7

興膳宏 『中国詩文の美学』 (創文社) ISBN:978-4-423-19420-1

[授業外学修(予習・復習)等]

平仄についての基本的な知識を得ておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

最初の授業で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学17

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 道坂 昭廣		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	初唐時期詩文選読				
[授業の概要・目的]					
この講義の目的は、日本の伝わる中国初唐時期の古写本(『翰林学士集』『杜家立成』『趙士集』など)に注目し、それらの作品の読解を通して、初唐時期の文学の特色について考察する。					
[到達目標]					
日本に残る唐人の作品集は、遣唐使によって持ち帰られた。それらは唐土における流行を反映したものであり、それらを読解することによって、現代の文学史とは異なる、同時代の文学評価、好尚を理解することができる。これらの古写本の読解から中国文学と当時の社会の関わりについて理解を深めることが可能である。また同時代の中国・日本の作品に対する影響についても考察することにより、東アジア古典世界の広がりをも具体的に理解することができる。					
[授業計画と内容]					
第1 初唐文学について 第2 日本に持ち帰られた中国文学作品について 第3 唐鈔本の伝来と発見について 第4 『杜家立成』読解1 第5 『杜家立成』読解2 第6 『杜家立成』読解3 第7 『杜家立成』読解4 第8 『翰林学士集』読解1 第9 『翰林学士集』読解2 第10 『翰林学士集』読解3 第11 『翰林学士集』読解4 第12 『趙士集』読解1 第13 『趙士集』読解2 第14 その他の日本伝存唐鈔本考察。 第15 まとめ。唐鈔本と中国文学					
[履修要件]					
中国古典文学について、基礎的な読解力が必要となる。					
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業における発言と、報告に基づいて評価する。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

鈴木虎雄 『駢文史序説』(研文出版) ISBN:987-4-87636-270-7

興膳宏 『中国詩文の美学』(創文社) ISBN:978-4-423-19420-1

[授業外学修(予習・復習)等]

中国の詩文について基本的な知識を得ておくこと

(その他(オフィスアワー等))

最初の授業で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学18

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	滋賀大学教育学部 教授 二宮 美那子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	唐代「園林・居宅」文学研究				
[授業の概要・目的]					
<p>唐代の詩人たちは、私的空間を作品の中で様々に描いてきた。私的空間、具体的には園林や居宅を描いた文学は、唐代のみを見ても一定の変遷がある。その背景には、荘園の所有の広がり・都市内部への関心・隠逸観の変化など種々の要因が存在する。また、園林や居宅という現実の「場」は、山水詩・田園詩・公宴詩など代表的な詩のジャンルと深く関わり合う。本講義では、唐代詩人たちの私的空間を描く作品をいくつか取り上げ、場所と文学との関わり・隠逸・閑適・山水・所有や所属意識などのテーマについて、取り上げる作品に応じて考察を加える。</p>					
[到達目標]					
<p>唐代の詩人たちの園林・居宅文学について考察し、隠逸や山水などの唐詩の重要テーマについて理解を深める。あわせて、主要な詩人たちの表現の独自性について理解を深める。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>基本的には以下の内容について講義を進める。講義の進み具合に応じて、順序や内容を変更することもある。講義内容について、授業中に受講生にコメントを求めることがある。</p> <p>第1回 導入(1) 唐代の「園林・居宅」に至るまで 第2回 導入(2) 「園林・居宅」文学の諸相 第3回 初盛唐の荘園と文学(1) 第4回 初盛唐の荘園と文学(2) 第5回 盛唐 王維 隠逸意識と園林 第6回 盛唐 杜甫 「公宴詩」に連なる作品 第7回 盛唐 杜甫 浣花草堂(1) 第8回 盛唐 杜甫 浣花草堂(2) 第9回 盛唐 杜甫 居宅への言及をめぐって 第10回 中唐 白居易 都市と詩人 第11回 中唐 白居易 土地との結びつき 第12回 中唐 韓愈 城南別墅(1) 第13回 中唐 韓愈 城南別墅(2) 第14回 中唐 韓愈と白居易の園林文学 第15回 盛唐から中唐へ</p>					
[履修要件]					
<p>中国古典文学について、基礎的な読解力を備えていることが望ましい。</p>					
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（4割・授業への関与など）と期末レポート(6割)によって評価する。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

中国古典文学史に関するおおまかな流れを把握しておくこと。
また、唐詩についての基礎的な知識を、書籍などで把握しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

連絡先：mninomiya@edu.shiga-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学19

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 松江 崇		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国語史における意味範疇の変遷				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業の目的は、中国語史における意味範疇について、主要な類型にはどのようなものがあるのか、それぞれのいかなる変遷を辿ってきたのかを理解することである。</p> <p>古代中国語(上古中国語)と現代中国語との意味範疇のあり方の相違について概説した後、その史的変遷について中国語で書かれた論文を読解しつつ、教員が内容上の補足を行うことにより、主要な類型と変化を促した種々の要因等について理解する。具体的には、「不定範疇」と「程度範疇」の変遷をとりあげる。さらにこれらの範疇の変化が、中国語史の如何なる類型論的性質の変化と関連しているかについて理解する。</p>					
[到達目標]					
<p>古代中国語と現代中国語における「不定範疇」「程度範疇」といった意味範疇の相違点を理解した上で、中国語史における意味範疇の変化を巡る諸問題について把握する。さらに中国語の意味範疇の変化のメカニズムを検討することを通じて、古今の中国語の類型論的性質の変化について理解を深める。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>この授業はフィードバック(方法は別途連絡)を含む全15回で行う。</p> <p>古代中国語研究のための基本書を紹介した上で、古今の中国語の「不定範疇」「程度範疇」の違いについて概説する。その上で、董秀芳2010「漢語光杆名詞指称特性的歴時演变」(『語言研究』)および陳xin穎・盛益民2023「漢語程度特指訊問編碼策略的類型学研究 兼論程度疑問代詞的演变模型」(『中国語文』3期)を読解しつつ(下に記した当該論文の「」内の名称は、読解する箇所の内容を日本語に翻訳したもの)、中国語史における意味範疇の変化を巡る諸問題を検討する。中国語論文の読解の際は、担当の履修者が日本語訳を提出し、教員が内容について解説と補足を行う形式で授業を進める。具体的な授業計画は以下のようである。</p>					
第1回	授業の目的の説明、古代中国語研究のための基本書の紹介				
第2回	現代中国語の指示性の体系についての概説				
第3回	董秀芳2010「主語位置の裸名詞の指示性の変化」(1)				
第4回	董秀芳2010「主語位置の裸名詞の指示性の変化」(2)				
第5回	董秀芳2010「目的語位置の裸名詞の指示性の変化」(1)				
第6回	董秀芳2010「目的語位置の裸名詞の指示性の変化」(2)				
第7回	董秀芳2010「目的語位置の裸名詞の指示性の変化」(3)				
第8回	まとめ：不定範疇の中国語史における変化				
第9回	現代中国語の程度範疇についての概説				
第10回	語彙的意味範疇の研究方法について 「感応」による方法				
第11回	陳xin穎・盛益民2023「方言・中国語史における疑問代名詞の類型」(1)				
第12回	陳xin穎・盛益民2023「方言・中国語史における疑問代名詞の類型」(2)				
中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く					

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

第13回 陳xin穎・盛益民 2023 「方言・中国語史における疑問代名詞の類型」(3)

第14回 まとめ：程度範疇の中国語史における変化

第15回 フィードバック

【履修要件】

中国語学習の経験者であること。
漢文についての基礎的な知識を備えていること。

【成績評価の方法・観点】

平常点50点とレポート50点により評価する。ただし、レポートの提出については、授業において中国語論文の日本語訳(訳と注釈を含む)を發表することにより代替することが可能とする。

【教科書】

ハンドアウトを配布する

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

中国語論文の日本語訳を担当する履修者は、必ず事前に日本語訳を作成しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

教員との連絡方法はメールによること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学20

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 松江 崇		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国語史における時間表現の諸問題				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業の目的は、中国語の歴史における時間表現に関する諸問題について、主として(1)「時点」概念と「時量」概念の区別、(2)時間副詞・時点直指詞の類型、という二つの側面に着目し、それぞれ如何なる変遷を辿ってきたのかを理解することである。</p> <p>上記(1)(2)の点につき、現代中国語における状況を概説した後、その史的変遷について中国語で書かれた論文を読解しつつ、教員が内容上の補足を行うことにより、両者が中国語史において如何なる変遷を辿ってきたのか、またそのメカニズムはどのようなものかについて理解する。</p>					
[到達目標]					
<p>中国語史における時間表現に関する諸問題、具体的には(1)「時点」概念と「時量」概念の区別、(2)時間副詞・時点直指詞の類型、といった問題について、古代中国語と現代中国語における相違を理解した上で、両者の史的変遷を巡る諸問題について把握する。さらに中国語の時間表現の変化のメカニズムを検討し、他の文法項目との関連や中国語の類型論的性質の変化との関係についても理解を深める。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>この授業はフィードバック(方法は別途連絡)を含む全15回で行う。古代中国語研究のための基本書を紹介した上で、古今の中国語の(1)「時点」概念と「時量」概念の区別、(2)時間副詞・時点直指詞の類型、の違いについて概説する。その上で、当該の問題と関連する何亮2007「從中古相對時点詞看漢語時間表達認知方式的發展」(『南昌大学学报』人文社会科学版)、梁銀峰2010「『祖堂集』的時間副詞系統」(『長江學術』2010・1)、徐旦2016「古漢語里的縱向時間表達」(『語言科學』第15卷第1期)を読解しつつ、中国語史における時間表現の変化を巡る諸問題を検討する(下に記した当該論文の「 」内は、読解する箇所の内容を日本語に翻訳したもの)。中国語論文の読解の際は、担当の履修者が日本語訳を提出し、教員が内容について解説と補足を行う形式で授業を進める。具体的な授業計画は以下のようである。</p>					
第1回	授業の目的の説明、古代中国語研究のための基本書の紹介				
第2回	現代中国語の時点概念と時量概念についての概説				
第3回	何亮2007「中古中国語の時点表現」(1)				
第4回	何亮2007「中古中国語の時点表現」(2)				
第5回	まとめ：中国語史における「時点」概念と「時量」概念の区別の変遷				
第6回	現代中国語の時間副詞についての概説				
第7回	梁銀峰2010「近古中国語の時間副詞体系語」(1)				
第8回	梁銀峰2010「近古中国語の時間副詞体系語」(2)				
第9回	梁銀峰2010「近古中国語の時間副詞体系語」(3)				
第10回	まとめ：中国語史における時間副詞体系の変遷				
第11回	現代中国語における時点限定節についての概説				
第12回	徐旦2016「古漢語における縦方向の時間表現」(1)				
中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く					

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

第13回 徐旦2016「古漢語における縦方向の時間表現」(2)

第14回 まとめ：中国語史における時点限定節の史的変遷

第15回 フィードバック

【履修要件】

現代中国語を学習した経験があること。
漢文について基礎的な知識を持っていること。

【成績評価の方法・観点】

平常点50点とレポート50点により評価する。ただし、レポートの提出については、授業において中国語論文の日本語訳(訳と注釈を含む)を発表することにより代替することが可能とする。

【教科書】

ハンドアウトを配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

中国語論文の日本語訳を担当する履修者は、必ず事前に日本語訳を作成しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

教員との連絡方法はメールによること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学21

科目ナンバリング	G-LET11 61431 LJ36				
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 野原 将揮		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国古文字学				
[授業の概要・目的]					
本講義は中国の古文字学について大まかな枠組み、各時代の古文字の特徴を概観することを目的とする。また古文字と合わせて、上古音との関係についても紹介する予定である。					
[到達目標]					
文字「学」に関する理論を理解している 中国の古文字学の概要を理解している 各時代の古文字を理解している					
[授業計画と内容]					
以下の計画に沿って講義を進めるが、参加者の理解状況、興味関心とトピックによって、テーマごとの講義回数あるいは順序に変更が生じる可能性がある。 第1回-第3回：ガイダンス 文字論一般 第4回-第6回：説文解字、字書、漢字の起源、記号と文字、甲骨文字 第7回-第9回：金文、戦国文字 第10回-第12回：戦国文字 第13回-第14回：秦の文字以降 第15回：フィードバック					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
授業への取り組み(50点)とレポート(50点)					
[教科書]					
使用しない 配布資料を準備する					
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

適宜紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参照すべき文献は多岐にわたるので、テーマに応じて授業時に指示する。指示に従って読んでおくこと。資料はその都度配布する予定。

(その他(オフィスアワー等))

授業内で案内します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学22

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 野原 将揮		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国語音韻学：中古音について				
【授業の概要・目的】					
<p>中古音は上古音、近世音を研究するための一つの定点であり、中国語諸方言、漢字音等を研究する上で不可欠の分野である。そこで本講義では中古音の基礎的な知識・概念を提供するとともに、関連する事項(特に中国語学の専門用語、字書、義書等)についても紹介する予定である。また中古音と上古音の関係についてもあわせて紹介したい。</p>					
【到達目標】					
<p>中古音の基本的な概念を理解する 中古音の声母・韻母の用語を覚える 中国語音韻学の専門用語を音声学の用語で説明ができる 字書・義書・韻書の成立と大まかな流れを理解する</p>					
【授業計画と内容】					
<p>特に前半では中古音の基本的な概念を理解することを目的とする。第10回までに中古音の基本的な専門用語を暗記すること。授業内でも工夫して暗記する時間を設ける予定である。</p> <p>第1回－第3回 ガイダンス 音声学、音韻論、中国語音韻学の用語について 第4回－第6回 切韻系韻書、反切について 第7回－第9回 韻図、方言、漢字音について 第10回 中古音の用語チェック 後半は中古音に関連する事項について紹介する。</p> <p>第11回－14回 字書、義書について 第15回 まとめ、フィードバック</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
<p>議論への積極的な参加(20%) 小テスト(50%) レポート(30%)</p>					
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業内で適宜紹介しますが、専門用語を覚えてもらいます。

(その他(オフィスアワー等))

授業内で案内します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学23

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	東京大学大学院人文社会系研究科 齋藤 希史 教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	六朝詩賦論				
[授業の概要・目的]					
漢から六朝にいたる賦と詩について、辞賦から五言詩へという大きな流れを、叙詠主体の機能の変容という観点からとらえなおしつつ、詩賦の主題や表現の分析を行ない、中国古典文学の新たな見取り図を提示する。また、従来、文法的には破格もしくは不全とされがちな詩の表現について検討し、六朝詩賦の句法の漢語表現史における意義を明らかにする。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・中国文学における賦という文体と叙詠主体の意義はどこにあるのか、五言詩におけるそれらはどう異なるのかを理解する。 ・六朝詩賦の主題がどのような構成原理にもとづいているかを理解する。 ・五言詩が古漢語の表現をいかに拡大させたかを理解する。 ・山水詩を五言詩の完成とみなす考え方がなぜ成立するのかを理解する。 ・以上の理解を通じて、東アジアにおける韻文表現の特徴について、各自の考えとその根拠を説明できるようになる。 					
[授業計画と内容]					
2024年9月中旬以降の集中講義として実施する。スケジュールは以下を予定している。ただし、講義の進行によって前後する場合がある。					
第1日					
0. ガイダンス					
I 叙詠主体の生成					
1. 職能としての賦					
2. 漢魏文学の焦点					
第2日					
3. 五言詩のトポス					
4. 共鳴する詠懐					
II 詩賦の句法					
5. 散体と駢体					
6. 四言と五言					
7. 詩から賦へ					
第3日					
III 詩賦の主題					
8. 行と居					
中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く					

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

9.景と感
IV 知覚主体の生成
10.わけいる耳目
11.晤言と玄言

第4日

12.山水を得る
13.詠物による空間

14.まとめ(0-14で全15回)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点(20%)レポート(80%)による。レポートの題目は授業時に指示する。

【教科書】

使用しない
授業用のレジユメをオンラインで用意する。

【参考書等】

(参考書)

興膳宏・川合康三『精選訳注 文選』(講談社学術文庫, 2023)

李成市他『世界宗教圏の誕生と割拠する東アジア』(集英社, 2023)(このうち「第4章 六朝時代とは何であったか アジアの名文集『文選』の誕生まで」)

授業中にも紹介する。

【授業外学修(予習・復習)等】

集中講義なので、講義開始前は参考書によって漢代から六朝までの詩賦について基礎的な知識を得ておく。講義開始後は、その日ごとの授業のまとめを行ない、次の日の授業で行われる質疑応答に備える。講義終了後は、全体のまとめを行ない、レポートの準備をする。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学24

科目ナンバリング		G-LET11 7M123 SJ36			
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 成田 健太郎	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	『管錐編』選読				
【授業の概要・目的】					
『管錐編』は、中国近代を代表する文学者の一人である錢鍾書(1910-1998)による中国古典文学に関する札記である。本演習ではそのなかでも、『毛詩正義』に関する札記の部分を読み、その説くところを正確に理解し、得られた知見を訳注の形にまとめる。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・古典中国語で書かれたテキストを正確に読解し、明晰な日本語による訳注の形式において再構成する能力を獲得する。 ・札記テキストが対象とし、またそのなかで言及される多数の文学テキストを比較対照し、その総体を立体的に理解する。 ・札記テキストの所論を文学研究の方法として批判的に理解する。 					
【授業計画と内容】					
第1回：使用テキストの確認、分担の決定 第2回～第15回：訳注の作成、検討作業					
【履修要件】					
古典中国語の読解力、中国古典文学についての知識と関心を有すること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点(訳注原稿の内容、授業における訳注改善に寄与する発言等)による。					
【教科書】					
PandAを使用して資料を共有する。					
【参考書等】					
(参考書) 錢鍾書『管錐編』(生活・読書・新知三聯書店) ISBN:9787108065933					
【授業外学修(予習・復習)等】					
出席者は、訳注作成担当者以外も、各自テキストを誠実に読みこんだうえで授業にのぞむ必要がある。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学25

科目ナンバリング		G-LET11 7M123 SJ36			
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 成田 健太郎	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	『管錐編』選読				
【授業の概要・目的】					
『管錐編』は、中国近代を代表する文学者の一人である銭鍾書(1910-1998)による中国古典文学に関する札記である。本演習ではそのなかでも、『毛詩正義』に関する札記の部分を読み、その説くところを正確に理解し、得られた知見を訳注の形にまとめる。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・古典中国語で書かれたテキストを正確に読解し、明晰な日本語による訳注の形式において再構成する能力を獲得する。 ・札記テキストが対象とし、またそのなかで言及される多数の文学テキストを比較対照し、その総体を立体的に理解する。 ・札記テキストの所論を文学研究の方法として批判的に理解する。 					
【授業計画と内容】					
第1回：使用テキストの確認、分担の決定 第2回～第15回：訳注の作成、検討作業					
【履修要件】					
古典中国語の読解力、中国古典文学についての知識と関心を有すること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点(訳注原稿の内容、授業における訳注改善に寄与する発言等)による。					
【教科書】					
PandAを使用して資料を共有する。					
【参考書等】					
(参考書) 銭鍾書『管錐編』(生活・読書・新知三聯書店) ISBN:9787108027467					
【授業外学修(予習・復習)等】					
出席者は、訳注作成担当者以外も、各自テキストを誠実に読みこんだうえで授業にのぞむ必要がある。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学26

科目ナンバリング		G-LET11 7M123 SJ36			
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 緑川 英樹		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	東坡詩選読				
【授業の概要・目的】					
北宋の代表的な詩人として知られる蘇軾(蘇東坡、1036~1101)の詩を読む。精密な訳注を作成することを通して古典詩文の読解力を身につけるとともに、宋代文学に対する理解を深めることをめざす。					
【到達目標】					
中国における伝統的な古典注釈学の成果を踏まえつつ、精密かつ斬新な解釈をみずから提出する能力を養う。あわせて日本中世の抄物を参照することにより、五山漢文学に関して一定の知見を得る。					
【授業計画と内容】					
清・馮応榴『蘇文忠公詩合註』を底本にして蘇軾の詩を読み進めてゆく。南宋以来の諸注釈や日本の室町時代に編纂された抄物『四河入海』を参考にしながら、担当者に詳細な校勘記・訳注を準備してもらい、それをもとに受講者全員で討論する。					
第1回 イン트로ダクション 蘇軾および蘇軾集についての概説。参考文献などを紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。					
第2回~第14回 蘇軾詩の精読					
第15回 まとめ 精読の成果を踏まえ、蘇軾研究の現状と課題についてまとめる。					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点(授業内での担当、発言)による。					
【教科書】					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
発表担当者以外の受講者の方も毎回きちんと予習をしてください。最低限、当該作品の本文および任淵注は読んでおくこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
特になし。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学27

科目ナンバリング		G-LET11 7M123 SJ36			
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 緑川 英樹		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	東坡詩選読				
【授業の概要・目的】					
北宋の代表的な詩人として知られる蘇軾(蘇東坡、1036~1101)の詩を読む。精密な訳注を作成することを通して古典詩文の読解力を身につけるとともに、宋代文学に対する理解を深めることをめざす。					
【到達目標】					
中国における伝統的な古典注釈学の成果を踏まえつつ、精密かつ斬新な解釈をみずから提出する能力を養う。あわせて日本中世の抄物を参照することにより、五山漢文学に関して一定の知見を得る。					
【授業計画と内容】					
清・馮応榴『蘇文忠公詩合註』を底本にして蘇軾の詩を読み進めてゆく。南宋以来の諸注釈や日本の室町時代に編纂された抄物『四河入海』を参考にしながら、担当者に詳細な校勘記・訳注を準備してもらい、それをもとに受講者全員で討論する。					
第1回 イン트로ダクション 蘇軾および蘇軾集についての概説。参考文献などを紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。					
第2回~第14回 蘇軾詩の精読					
第15回 まとめ 精読の成果を踏まえ、蘇軾研究の現状と課題についてまとめる。					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点(授業内での担当、発言)による。					
【教科書】					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
発表担当者以外の受講者の方も毎回きちんと予習をしてください。最低限、当該作品の本文および任淵注は読んでおくこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
特になし。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング		G-LET12 61530 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 池田 恭哉		
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	水1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	北朝正史の儒林伝を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>南北朝時代、中国は南北に分かれ、その学問の在り方も様相を異にした部分が多い。中国の思想と言えば儒学をすぐに想起しようが、その根幹たる経書には歴代様々な注釈が施され、南朝と北朝とで、どの注釈書に依拠して各経書を読んだかが異なったことは、よく知られる。</p> <p>そこで本講義では、北朝における儒学、経学の実態を探る第一歩として、北朝正史の儒林伝を読んでいく。具体的には『魏書』『北齊書』『周書』である。</p> <p>北朝における学問の共有や伝承の様子を、時には南朝の動向をも視野に入れつつたどることで、北朝ではどのような学問を備えることが目指されたのかを、探っていく。また儒者に対して、社会がどのような役割を期待していたのかについても、考えていきたい。こうした営みは、南北朝時代に限らず、中国社会全般を考える上でのヒントになる。</p> <p>なおすでに令和2年度から『魏書』儒林伝、『周書』儒林伝の途中までを読み終えており、今年度は『周書』儒林伝の途中からになる。ただし過去の内容は当然フォローするので、今年度からの受講も問題ない。分野を問わず、様々な学生の履修に期待したい。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・北朝正史の儒林伝を精読することで、北朝における学問の特質を理解できる。 ・北朝における学問継承の在り方を明らかにし、それを系統立てて説明できる。 ・儒林伝に描出される儒者の活動を読み解くことで、学問と社会の関係性について、自らの問題意識に関連付けて考察する。 					
[授業計画と内容]					
<p>原則として講義形式(北朝正史の儒林伝に対する教員作成の訳注を基に、それに関連する事項などを解説、補足する)で進めるが、時に出席者にも講義の内容にコメントしてもらう場面を設けることがある。</p>					
<p>1 ガイダンス</p> <p>2・3 北朝儒学に関する先行研究紹介</p> <p>4～6 『周書』儒林伝精読：楽遜</p> <p>7～9 『北齊書』儒林伝精読：儒林伝序</p> <p>10～12 李鉉</p> <p>13・14 チョウ柔</p> <p>15 馮偉</p> <p>16～18 張買奴・劉軌思・鮑季詳</p> <p>19・20 ケイ峙・劉昼</p> <p>21 馬敬徳</p> <p>22・23 張景仁</p> <p>24・25 権会・張思伯</p>					
中国哲学史(特殊講義) (2)へ続く					

中国哲学史(特殊講義) (2)

26・27 張 翥
28 孫 愷・石 曜
29・30 北朝儒学をどう考えるか

フィードバックの方法は授業時に指示する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（教員による発問に対する積極的な回答、講義に際しての討議への参加など）を40%、最終レポートを60%で評価。

【教科書】

授業中に指示する
教員作成のプリントを使用する。

【参考書等】

（参考書）
氣賀澤保規ほか『中国史書入門 現代語訳 北齊書』（勉誠出版,2021年）ISBN:978-4-585-29612-6
（『北齊書』の邦訳で、儒林伝序の邦訳を含む。北齊を含む北朝の歴史を概観できる。）
上記の書籍の他、参考書籍は数多いので、授業中に紹介していく。

【授業外学修（予習・復習）等】

予習としては、講義で取り上げる漢文を、自分でも現代語訳してみる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学30

科目ナンバリング		G-LET12 61531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 宇佐美 文理		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	版本学概説				
【授業の概要・目的】					
<p>中国古典文献の版本学、なかでも版刻の歴史について学ぶとともに、版面から刊刻年代を特定できる知識を身につける。講述者による説明と、実際に版本や写真版を手にして年代を出席者が個々に考察する作業を併用する。なお、数回、文学部図書館にある版本のうち、当日考察する書籍を、出席者各自が一点を選んでその本の情報を授業時に提出、次回授業時に実際にその本を教室において全員で検討するという回を設ける。従って、しばしば文学研究科図書館に行つて本を探す作業があることをあらかじめご留意いただきたい。</p>					
【到達目標】					
<p>版本学に関する基礎的な知識を修得するとともに、版面から版刻時代を特定できる眼を養う。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第一回 目録学と版本学 第二回 宋版概観 第三回 北宋版 第四回 浙版 第五回 蜀版 第六回 ビン版 第七回 元版概説 第八回 趙体 第九回 明版概説 第十回 正徳まで 第十一回 正徳以後 第十二回 明末清初 第十三回 道光まで 第十四回 咸豊以後 第十五回 フィードバック(授業時に指示します)</p>					
【履修要件】					
特になし					
----- 中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----					

中国哲学史(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点(50%)レポート(50%)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

古勝隆一 『目録学の誕生 劉向が生んだ書物文化』(臨川書店) ISBN:978-4-653-04376-8

[授業外学修(予習・復習)等]

文学研究科の図書館に入って実際に漢籍を手にとって、講義の内容を確かめる作業が必要になると同時に、概要にも書きましたが、授業で皆さんで検討する書籍を個々に選ぶ作業が必要になります。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学31

科目ナンバリング		G-LET12 61531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 宇佐美 文理		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国絵画理論史概説				
【授業の概要・目的】					
中国の絵画理論史を概説する。					
【到達目標】					
前近代の中国において絵画がどのようなものと考えられていたのか、どのような観点で評価されてきたのかを学ぶことにより、前近代の中国人が芸術や絵画をどのようにとらえたかを知り、中国文化に対する理解を深める。					
【授業計画と内容】					
第一回 絵画理論と中国哲学 第二回 先秦時代 第三回 漢代 第四回 六朝時代 第五回 唐代(張彦遠まで) 第六回 唐代(張彦遠以後) 第七回 宋代1(蘇東坡まで) 第八回 宋代2(蘇東坡) 第九回 宋代3(蘇東坡以後) 第十回 元代1(元末四大家まで) 第十一回 元代2(元末四大家) 第十二回 明代1(董其昌まで) 第十三回 明代2(董其昌) 第十四回 清代 第十五回 フィードバック(授業時に指示します)					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
レポート(100%)					
----- 中国哲学史(特殊講義) (2)へ続く -----					

中国哲学史(特殊講義) (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

古原宏伸 『画論』 (明德出版社) ISBN:978-4896192650

[授業外学修(予習・復習)等]

できるだけ中国絵画の展覧会あるいは図録などに気を配っておくことを勧めます。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学32

科目ナンバリング		G-LET12 61531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授 福谷 彬		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	朱子学の文献を精読する				
[授業の概要・目的]					
<p>中国宋代の朱子学に関わる文献を精読することを通じて、史料を読解し、思想を深く理解するための能力を身に着ける。</p> <p>朱子学は中国だけでなく、前近代の朝鮮や日本の社会にも大きな影響を与えた。しかし、朱子学を正しく理解するためには、中国の伝統的な経学の知識はもとより、哲学的思考も必要なため、独学は難しい。本授業では、基本的な参考文献・工具書を紹介しつつ、朱子学を深く理解するための素地を養って頂きたい。</p>					
[到達目標]					
<p>講義では講師は自分の見解を示すが、最も大切なのは参加者自身が自分で考える姿勢を身に着けることであると考えている。疑問や着想、読みたい文献、受講者の側から出してくれることを歓迎したい。</p> <p>自ら文献を集め、問題を見つけ、考察を深める方法を身に着けることを到達目標とする。基本的に以下のプランに従って講義を進めるが、進度によっては変更もあり得る。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第一回 ガイダンス 第二回～第八回 『朱文公文集』から 第九回～第十四回 『四書章句集注』から 第十五回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
中国古典初心者の受講を歓迎する。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点100%					
[教科書]					
使用しない					
[参考書等]					
(参考書)					
----- 中国哲学史(特殊講義) (2)へ続く -----					

中国哲学史(特殊講義) (2)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業内に適宜説明する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学33

科目ナンバリング		G-LET12 61531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授 福谷 彬		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	朱子学の文献を精読する				
[授業の概要・目的]					
<p>中国宋代の朱子学に関わる文献を精読することを通じて、史料を読解し、思想を深く理解するための能力を身に着ける。</p> <p>朱子学は中国だけでなく、前近代の朝鮮や日本の社会にも大きな影響を与えた。しかし、朱子学を正しく理解するためには、中国の伝統的な経学の知識はもとより、哲学的思考も必要なため、独学は難しい。本講義では、基本的な参照文献・工具書を紹介しつつ、朱子学を深く理解するための素地を養って頂きたい。</p>					
[到達目標]					
<p>講義では講師は自分の見解を示すが、最も大切なのは参加者自身が自分で考える姿勢を身に着けることであると考えている。疑問や着想、読みたい文献、受講者の側から出してくれることを歓迎したい。</p> <p>自ら文献を集め、問題を見つけ、考察を深める方法を身に着けることを到達目標とする。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進めるが、進度によっては変更もあり得る。</p> <p>第一回 ガイダンス 第二回～第八回 『朱文公文集』から 第九回～第十四回 『四書章句集注』から 第十五回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
中国古典初心者の受講を歓迎する。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点100%。					
----- 中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----					

中国哲学史(特殊講義)(2)

[教科書]

教科書やテキストは特に指定せず、教室でプリントを配布する。参考文献などは適宜、紹介し、併せて先行研究への道案内を果たしたい。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

特に前提となる専門的な知識などは要求しないが、広く東アジアや中国の伝統思想や歴史に関心を有する学生の履修を期待する。また、各自の関心や専門など、必要に応じて、授業時に紹介した史料や参考文献などを適宜、参看することが望まれる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学34

科目ナンバリング		G-LET12 61531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 永田 知之		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	漢籍目録法				
[授業の概要・目的]					
漢籍目録の作成要領を理解することを通じて、中国学の基本構造を把握する。					
[到達目標]					
各種の漢籍目録(データベースを含む)の構造や内容を読み取る力をつけることにより、目的や用途に応じて必要な漢籍をすぐに検索できるようになる。					
[授業計画と内容]					
漢籍の目録法、書誌情報の採取について解説する。 進行の度合いによって内容や順序に変更を生じることもあり得る。 第1回 ガイダンス 第2回 漢籍の定義(漢籍と目録の関係) 第3回 カード作成の目的(書誌の基本) 第4回 書名(表題の確定) 第5回 書名(合刻と合綴) 第6回 書名(漢籍の同定) 第7回 巻数(書誌の特徴) 第8回 撰者(書籍への関与の形態) 第9回 撰者(書籍に関与した人物の情報) 第10回 鈔刻(複製の手法) 第11回 鈔刻(刊行年と出版者) 第12回 鈔刻(底本の表示) 第13回 鈔刻(特殊な情報) 第14回 叢書・増出・地志カードの作成 第15回 まとめ フィードバックの方法については、授業時に指示する。					
[履修要件]					
特になし					
-----中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く-----					

中国哲学史(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートを主として、平常点（授業への関与など）を加味する。
評価の6割はレポート、4割は平常点による。
レポートの作成に当たっては、原典を参照するなど、積極的な姿勢が明らかなものに高い評価を与える。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

清水茂 『中国目録学』（筑摩書房,1991）ISBN:4480836055

井波陵一 『知の座標 中国目録学』（白帝社,2003）ISBN:9784891746346

京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センター編集 『漢籍目録 カードのとりかた』（朋友書店,2005）ISBN:9784892811067

（関連URL）

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/kanseki>(全国漢籍データベース)

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/db-machine/toho/html/top.html>(東方学デジタル図書館)

[https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/5592/2006%E6%BC%A2%E7%B1%8D%E7%9B%AE%E9%8C%B2%E5%85%A5%E9%96%80\(%E8%B3%87%E6%96%99\).pdf](https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/5592/2006%E6%BC%A2%E7%B1%8D%E7%9B%AE%E9%8C%B2%E5%85%A5%E9%96%80(%E8%B3%87%E6%96%99).pdf)(漢籍目録入門（資料）（中里見敬氏）)

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/130672/1/kogusho.pdf>(工具書について 漢籍の整理（永田知之）)

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jcul/106/0/106_1493/_pdf/-char/ja(漢籍整理備忘録 中国の古典籍・古文書の理解のために（小島浩之氏）)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介された各種の文献を自主的に読むこと。

（その他（オフィスアワー等））

授業中、分からない点については積極的な質問を期待する。
担当教員の研究室へ来る際には事前にメールで連絡した上で訪問されたい。
メールアドレスは初回の講義で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学35

科目ナンバリング		G-LET12 61531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 永田 知之		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	漢籍分類法				
[授業の概要・目的]					
四部分類法を理解することを通じて、中国学の基本構造を把握する。					
[到達目標]					
書物の分類を通じて漢字文化の特徴を理解することにより、西洋近代に由来する学術の枠組みを超えた幅広い視野を養う。					
[授業計画と内容]					
『京都大学人文科学研究所漢籍分類一覧』に基づき、分類法について解説すると共に、漢籍に関わる諸事象を紹介する。 進行の度合いによって内容や順序に変更を生じることもあり得る。 第1回 ガイダンス 第2回 経部・概説 第3回 経部・五経等(経注疏合刻類～春秋類) 第4回 経部・四書等(四書類～小学類) 第5回 史部・概説 第6回 史部・叙述形式(正史類～載記類) 第7回 史部・制度、伝記、地理(詔令奏議類～政書類) 第8回 史部・資料、史論(書目類～史評類) 第9回 子部・概説 第10回 子部・思想、技術(儒家類～術数類) 第11回 子部・趣味、宗教(芸術類～道家類) 第12回 集部・概説 第13回 集部・各論 第14回 叢書部 第15回 まとめ フィードバックの方法については、授業時に指示する。					
[履修要件]					
特になし					
-----中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く-----					

中国哲学史(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートを主として、平常点（授業への関与など）を加味する。
評価の6割はレポート、4割は平常点による。
レポートの作成に当たっては、原典を参照するなど、積極的な姿勢が明らかなものに高い評価を与える。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

清水茂 『中国目録学』（筑摩書房,1991）ISBN:4480836055

井波陵一 『知の座標 中国目録学』（白帝社,2003）ISBN:9784891746346

吉川幸次郎 『吉川幸次郎遺稿集 第1巻』（筑摩書房,1995）ISBN:4480746412

程千帆・徐有富著、向嶋成美・大橋賢一・樋口泰裕・渡邊大訳 『中国古典学への招待 目録学入門』（研文出版,2016）ISBN:9784876364091

（関連URL）

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/kanseki>(全国漢籍データベース)

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/65024>(京都大学人文科学研究所漢籍分類一覧：部-類-属-目-例)

<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/refguide/13216>(漢籍の探し方（大西賢人氏）)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介された各種の文献を自主的に読むこと。

（その他（オフィスアワー等））

授業中、分からない点については積極的な質問を期待する。
担当教員の研究室へ来る際には事前にメールで連絡した上で訪問されたい。
メールアドレスは初回の講義で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学36

科目ナンバリング		G-LET12 71540 SJ36			
授業科目名 <英訳>	中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 宇佐美 文理		
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	金5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	『日知録集釈』精読				
[授業の概要・目的]					
顧炎武『日知録』ならびに黄汝成の集釈を精密に読むことによって、漢文読解力を高めるとともに、引用されている数々の文献にあたることによって、古典中国学に関する知識を深める。今年度は、巻六の中の『礼記』にかかわる諸条のうち「中庸」から始め、巻七の「論語」へと読み進める。					
[到達目標]					
古典漢文を自分の言葉に直して読むことができるようになる。 古典中国学の基本的な事項を理解する。					
[授業計画と内容]					
第一回	ガイダンス				
第二回	君子而時中				
第三回	子路問強				
第四回	素夷狄行於夷狄				
第五回	鬼神				
第六回	期之喪達乎大夫				
第七回	達孝				
第八回	思事親不可以不知人				
第九回	誠者天之道也				
第十回	<月屯><月屯>其仁				
第十一回	孝弟為仁之本				
第十二回	察其所安				
第十三回	子路問十世				
第十四回	媚奧				
第十五回	武未盡善				
第十六回	朝聞道夕死可矣				
第十七回	忠恕				
第十八回	夫子之言性与天道				
第十九回	变齐变魯				
第二十回	博学於文				
第二十一回	三以天下讓				
第二十二回	有婦人焉				
第二十三回	季路問事鬼神				
第二十四回	不踐迹				
第二十五回	異乎三子者之撰				
第二十六回	去兵去食				
第二十七回	ゴウ盪舟				
第二十八回	管仲不死乎糾				
中国哲学史(演習) (2)へ続く					

中国哲学史(演習) (2)

第二十九回 予一以貫之
第三十回 フィードバック (授業時に説明する)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点による。

【教科書】

コピーして配布します。

【参考書等】

(参考書)
西田太一郎 『漢文の語法』 (角川書店,2023) ISBN:978-4-04-400634-1

【授業外学修(予習・復習)等】

引用されている書物についてはかならず元の書物にあたることを心がける。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学37

科目ナンバリング		G-LET12 71540 SJ36			
授業科目名 <英訳>	中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 池田 恭哉		
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	月2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	阮元の文章を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>阮元(1764-1849)は言うまでもなく清朝考証学を代表する学者である。この授業では、彼の著作『ケン経室集』(ケン:研+手)の中から、経学を中心として思想に関わる内容の文章を選読する。文章のジャンルは序・論・跋・書など多岐にわたる。</p> <p>多彩なテーマやジャンルの文章を読むことは、特定の分野に偏らない中国古典全般にわたる読解能力を高めるとともに、その考証の手法や表現の方法を学ぶことをも可能にするであろう。そして同時代の学者が、同じテーマに対して考察を展開していた場合、時に阮元を離れてでも、それについて検証していくので、清朝という時代の学的風潮も体感できる。</p> <p>話題は経学を中心としつつ、中国の多様な時代、分野に及ぶことになる。また文章のジャンルも特定のものにこだわらない。そのため中国哲学史に限らない、様々な専攻の学生の出席を期待する。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・中国古典文献を、典拠や用例を調べ、その原典にあたりながら正確に読解できる。 ・読解の成果を自然な日本語に訳し、また適切な注釈を附すことで、訳注の形で提示する能力を身につける。 ・文献に披瀝されている考証の手法を体得することを目指す。 ・読解内容に対する阮元以外の考証をも検討することで、同一テーマに対する多角的な視野を持つ力を養う。 					
[授業計画と内容]					
<p>毎回の担当を決め、訳注稿を作成してきてもらい、それについて出席者全員で討議する形式をとる。読む文章は教員が適宜選択するが、履修者の興味関心を見て決定する予定である。</p> <p>1 ガイダンス 2 ~30 阮元の文章を読む</p> <p>例: 焦氏雕菰楼易学序、論語論仁論、孟子論仁論、性命古訓、石刻孝経論語記、惠半農先生礼説序、張皋文儀礼図序、春秋公羊通義序、焦里堂循群経宮室図序、与臧拜経庸書、与洪[竹+均]軒頤暄論三朝記書、十三経注疏校勘記序(十三篇)</p> <p>フィードバックの方法は授業時に説明する。</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 中国哲学史(演習) (2)へ続く -----					

中国哲学史(演習) (2)

[成績評価の方法・観点]

平常点による（訳注稿に基づく発表、その修正稿の提出、自身の予習に基づく討議への参加などを総合的に判断する）。

[教科書]

授業中に指示する
テキストはコピーして配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

演習は何より学生が主役であるため、自身の意見を言うためには、相応の予習が必要である。また作成した訳注稿は、後日修正稿を提出してもらおう。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学38

科目ナンバリング		G-LET12 71541 SJ36			
授業科目名 <英訳>	中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 古勝 隆一		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	『論語義疏』講読				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、儒教文献『論語義疏』を講読する。その経文・何晏等集解・皇侃義疏、そして『經典釈文』（論語音義）を講読の対象とする。</p> <p>テキストに正面から向かい合い、正確な理解を目指すのはもちろんだが、それをサポートする、書誌学的・校勘学的な知識もあわせて習得することを目標としている。</p> <p>複数の写本の影印に基づき、郷党篇の詳細な校勘記を作成する。</p>					
[到達目標]					
<p>以下の三点が具体的な到達目標である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『論語義疏』の諸本を比較し、書誌学的ならびに校勘学的な手法を習得する。 ・訓詁に着目し、『論語義疏』を正確に理解する。 ・上記二点に基づき、校勘記を完成させる。 					
[授業計画と内容]					
<p>『論語義疏』郷党篇の校勘記を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 ガイダンス ・第2から5回 「食不厭精」章 ・第6回 「席不正」章 ・第7回 「問人於他邦」章 ・第8回 「康子饋藥」章 ・第9回 「厩焚」章 ・第10から12回 「君賜食」章 ・第13回 「入太廟」章 ・第14回 「朋友死」章 ・第15回 フィードバック(詳細は授業時に指示する) 					
[履修要件]					
中級程度の中国語を修得していること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点による。平常点は、授業への参加状況、授業の予習、および授業内での発言を重視する。					
[教科書]					
<p>授業中に指示する 必要なテキストは教室にて配布する。</p>					
----- 中国哲学史(演習)(2)へ続く -----					

中国哲学史(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

毎回の授業に、以下に指定する工具書のうち、いずれかを携帯することを求める。

『新華字典』『古代漢語詞典』『王力古漢語字典』。

[授業外学修(予習・復習)等]

必ず予習した上で、授業に出席すること。

(その他(オフィスアワー等))

月曜4限をオフィス・アワーにあてる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET12 71541 SJ36			
授業科目名 <英訳>	中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 古勝 隆一		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	『論語義疏』講読				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、儒教文献『論語義疏』を講読する。その経文・何晏等集解・皇侃義疏、そして『經典釈文』（論語音義）を講読の対象とする。</p> <p>テキストに正面から向かい合い、正確な理解を目指すのはもちろんだが、それをサポートする、書誌学的・校勘学的な知識もあわせて習得することを目標としている。</p> <p>複数の写本の影印に基づき、郷党篇・子罕篇の詳細な校勘記を作成する。</p>					
[到達目標]					
<p>以下の三点が具体的な到達目標である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『論語義疏』の諸本を比較し、書誌学的ならびに校勘学的な手法を習得する。 ・訓詁に着目し、『論語義疏』を正確に理解する。 ・上記二点に基づき、校勘記を完成させる。 					
[授業計画と内容]					
<p>『論語義疏』郷党篇ならびに子罕篇の校勘記を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 ガイダンス ・第2から4回 郷党篇「寝不尸」章 ・第5から6回 「升車，必正立」章 ・第7から8回 「色斯舉矣」章 ・第9回 子罕篇「子曰吾自衛反魯」章 ・第10回 「子曰出則事公卿」章 ・第11回 「子在川上」章 ・第12回 「子曰譬如為山」章 ・第13回 「子曰語之而不惰者」章 ・第14回 「子曰後生可畏」章 ・第15回 フィードバック（詳細は授業時に指示する） 					
[履修要件]					
中級程度の中国語を修得していること。					
----- 中国哲学史(演習)(2)へ続く -----					

中国哲学史(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点による。平常点は、授業への参加状況、授業の予習、および授業内での発言を重視する。

[教科書]

授業中に指示する
必要なテキストはPDFにて配布する。

[参考書等]

(参考書)

毎回の授業に、以下に指定する工具書のうち、いずれかを携帯することを求める。
『新華字典』『古代漢語詞典』『王力古漢語字典』。

[授業外学修(予習・復習)等]

事前に工具書類を用いて文意を読み取っておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

月曜4限をオフィス・アワーにあてる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学40

科目ナンバリング		G-LET13 61633 LJ36			
授業科目名 <英訳>	インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 横地 優子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
題目	スカンダプラーナ研究				
[授業の概要・目的]					
『スカンダプラーナ』(550-650年頃)はシヴァ神話を体系的に編纂した最古のプラーナ文献である。その第114章は、ニーラカンタというシヴァの呼称の一つを説明する、乳海攪拌の際に出現した毒を飲んでシヴァの喉が黒くなるという神話を語るが、そのテキストは、現存する『ヴァーユプラーナ』と『ブラフマーンダプラーナ』に共有される部分から再構成される、本文献に先立つプラーナ作品から借用され、本文献の文脈に合わせて改訂されたものである。この授業では、この章について『スカンダプラーナ』写本の複数のリセンション、『ヴァーユプラーナ』、『ブラフマーンダプラーナ』、それぞれに伝わるテキストを比較することで、プラーナ文献における特定の神話テキストの伝承過程を考察する。					
[到達目標]					
ヒンドゥー神話を研究する上で、非常に重要な文献群であるプラーナ文献の特徴、この文献群におけるテキストの貸借・改作・伝承過程での変化を学ぶことができる。					
[授業計画と内容]					
第1-2回 スカンダプラーナの内容、写本伝承、研究の現状など 第3-4回 ヴァーユプラーナとブラフマーンダプラーナの共有部分、各々の成立過程 第5-7回 スカンダプラーナの各リセンション、ヴァーユプラーナ、ブラフマーンダプラーナ等におけるニーラカンタ神話の比較 第8-14回 スカンダプラーナ第114章校訂テキストの検討 第15回 総括					
[履修要件]					
基礎的なサンスクリット読解能力					
[成績評価の方法・観点]					
平常点により評価する。					
----- インド古典学(特殊講義)(2)へ続く -----					

インド古典学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に扱う資料については、最初の授業の際に資料をアップロードしたリンクを指示する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

校訂テキストを検討する回には予習が必要となる。プラーナ文献のサンスクリットは簡単であるが、古典サンスクリットとは異なる語法に注意する必要がある。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学41

科目ナンバリング	G-LET13 61633 LJ36				
授業科目名 <英訳>	インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 CATT, Adam Alvah		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	リグ・ヴェーダを読む (Reading the Rigveda)				
【授業の概要・目的】					
紀元前1400年頃にさかのぼるヴェーダ語(古期サンスクリット語)はインド・ヨーロッパ語の一つである。その文献の信頼度の高さと豊富さから、ヴェーダ語は古代インド・ヨーロッパ語研究において中心的な存在である。今回の授業では、最古のテキストであるリグ・ヴェーダとその注釈書を読み、言語学およびパーニニ文法の観点から考察する。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ヴェーダ語を読む力を身につける。 ・古代インド・ヨーロッパ語としてのヴェーダ語に関する知識を深める。 ・言語学者としてヴェーダ語を考える能力を養う。 ・問題意識を高め、研究テーマを自分で探せるようになる。 					
【授業計画と内容】					
この授業では、1週間に1 stanza ~ 2 stanzaのペースで読み進める予定(学生のレベルや議論の深さに応じて内容を調整できるように、以下の授業計画は週毎に分けられていない)。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. Hymn 1 (7週間) 2. Hymn 2 (7週間) 3. フィードバックなど(1週間) 					
【履修要件】					
サンスクリット語の基礎知識を持つことが望ましい。					
【成績評価の方法・観点】					
予習の出来具合により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。					
【教科書】					
使用しない					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
前回の復習と、課された宿題を十分に準備すること。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学42

科目ナンバリング	G-LET13 61633 LJ36				
授業科目名 <英訳>	インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 CATT, Adam Alvah		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	リグ・ヴェーダを読む (Reading the Rigveda)				
【授業の概要・目的】					
<p>紀元前1400年頃にさかのぼるヴェーダ語(古期サンスクリット語)はインド・ヨーロッパ語の一つである。その文献の信頼度の高さと豊富さから、ヴェーダ語は古代インド・ヨーロッパ語研究において中心的な存在である。今回の授業では、最古のテキストであるリグ・ヴェーダとその注釈書を読み、言語学およびパーニニ文法の観点から考察する。</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ヴェーダ語を読む力を身につける。 ・古代インド・ヨーロッパ語としてのヴェーダ語に関する知識を深める。 ・言語学者としてヴェーダ語を考える能力を養う。 ・問題意識を高め、研究テーマを自分で探せるようになる。 					
【授業計画と内容】					
<p>この授業では、1週間に1 stanza ~ 2 stanzaのペースで読み進める予定(学生のレベルや議論の深さに応じて内容を調整できるよう、以下の授業計画は週毎に分けられていない)。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Hymn 1 (7週間) 2. Hymn 2 (7週間) 3. フィードバックなど(1週間) 					
【履修要件】					
サンスクリット語の基礎知識を持つことが望ましい。					
【成績評価の方法・観点】					
予習の出来具合により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。					
【教科書】					
使用しない					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
前回の復習と、課された宿題を十分に準備すること。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学43

科目ナンバリング	G-LET13 71644 SJ36				
授業科目名 <英訳>	インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定講師 Tao PAN		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Tocharian and Indo-European Linguistics				
[授業の概要・目的]					
<p>This course offers an introduction to Tocharian languages and historical grammar of Indo-European languages. Based on the knowledge of Indo-European linguistics presented at the beginning of the course, synchronic and diachronic (historical) grammar of Tocharian including nominal and verbal systems will be explained. Reading materials include Sanskrit-Tocharian bilingual texts and Tocharian B Vinaya and Jataka with well-preserved parallel texts in Sanskrit and Chinese.</p>					
[到達目標]					
<p>The participants will be able to read Tocharian manuscripts in Brahmi script, learn the basic grammar of Tocharian A and B as well as rudiments of Indo-European linguistics.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Week #01 Introduction: Discovery and History Week #02 Introduction: Indo-European linguistics and PIE part 1 Week #03 Introduction: Indo-European linguistics and PIE part 2 Week #04 Script and Manuscripts Week #05 Tocharian B: nominal system (case), verbal system (ending, present) Week #06 Tocharian B: nominal system (declension class), verbal system (subjunctive) Week #07 Tocharian B: nominal system (adjective, pronoun), verbal system (preterite) Week #08 Tocharian B: reading Sanskrit-Tocharian B bilinguals of Udanavarga Week #09 Tocharian B: reading Sanskrit-Tocharian B bilinguals of Udanavarga Week #10 Tocharian B: reading Tocharian B Vinaya Week #11 Tocharian B: reading Tocharian B Jataka Week #12 Tocharian A: grammar Week #13 Tocharian A: reading Vinaya Week #14 Tocharian A: reading Vinaya Week #15 Feedback</p>					
[履修要件]					
<p>Sanskrit knowledge is desired, but not necessary.</p>					
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----					

インド古典学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final exam.
#160Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

Melanie Malzahn 『Instrumenta Tocharica』 (Heidelberg, 2007) (for the Brahmi script)

Wolfgang Krause, Werner Thomas 『Tocharisches Elementarbuch, Band I Grammatik』 (Heidelberg, 1960)

Georges-Jean Pinault 『Chrestomathie tokharienne』 (Paris, 2008)

(関連URL)

<https://www.univie.ac.at/tocharian> (Manuscript, text, grammar, dictionary, bibliography)

[授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学44

科目ナンバリング	G-LET13 71644 SJ36				
授業科目名 <英訳>	インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定講師 Tao PAN		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Introduction to Indian (Paninian) Grammar				
[授業の概要・目的]					
This course offers an introduction to traditional Indian grammar represented by the grammarian Panini. The course content will cover history of Indian grammatical traditions, system of Paninian grammar and its influence. Reading materials include Panini's grammar Astadhyayi, commentaries on Astadhyayi as well as Pali, Prakrit and Buddhist grammar developed from Astadhyayi.					
[到達目標]					
The participants will learn the logic and terminology of Paninian grammar, grammatical operations as well as other grammatical traditions based on Astadhyayi.					
[授業計画と内容]					
<p>Week #01 Introduction: Why should we study Indian grammar?</p> <p>Week #02 Introduction: History of scholarship and bibliography</p> <p>Week #03 Introduction: History, influence and terminology of Paninian grammar</p> <p>Week #04 Introduction: Grammatical operations (pratyahara, pratyaya, agama, declension, conjugation)</p> <p>Week #05 Reading: Sarasiddhantakaumudi of Varadaraja (17th cent., Devasthali); Siddhantakaumudi of Bhattoji Diksita (16th-17th cent., Chandra Vasu)</p> <p>Week #06 Reading: Sarasiddhantakaumudi; Siddhantakaumudi</p> <p>Week #07 Astadhyayi (5th-4th cent. BCE, Katre)</p> <p>Week #08 Astadhyayi (Katre)</p> <p>Week #09 Astadhyayi in RV commentary (Sayana 14th cent.) and Kavya commentary (Meghaduta, Mallinatha 14th-15th cent.)</p> <p>Week #10 Kasika of Jayaditya & Vamana (7th cent., Ojihara & Renou)</p> <p>Week #11 Mahabhasya of Patanjali (2nd cent. BCE), Pradipa of Kaiyata (10th-11th cent.) and Uddyota of Nagesa (18th cent., Joshi & Roodbergen)</p> <p>Week #12 Pali grammar: Saddaniti of Aggavamsa (12th cent., Smith)</p> <p>Week #13 Prakrit grammar: Prakrtaprakasa of Vararuci (3rd-4th cent., Cowell)</p> <p>Week #14 Buddhist grammar: Candravyakarana of Candragomin (7th cent., Liebich)</p> <p>Week #15 Feedback</p>					
[履修要件]					
Sanskrit knowledge is desired, but not necessary.					
----- インド古典学(演習) (2)へ続く -----					

インド古典学(演習) (2)

[成績評価の方法・観点]

Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final exam.
Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学45

科目ナンバリング		G-LET13 71644 SJ36			
授業科目名 <英訳>	インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 横地 優子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
題目	マハーカーヴィヤ研究				
[授業の概要・目的]					
<p>9世紀にカシュミールでシヴァシュヴァーミン焔vasvaminによって著された『Kapphinabhyudaya (カッピナ王の興隆)』は、成熟期のマハーカーヴィヤの代表作であるマーガ作『焔焔palavadha (シシュパーラの殺害)』(6世紀)を模範として作られていると思われる。本授業では、後者の第15・16章を模範としていると思われる『Kapphinabhyudaya』の第16章をとりあげる。本章では、プラセーナジット王とカッピナの使者とが、戦争か和平かを巡って2重の意味をもつ会話を行うが、ここで2重義がどのように使われているかを、『焔焔palavadha』の該当章での使用法と比較しつつ考察する。</p>					
[到達目標]					
<p>成熟期の、技巧をこらしたサンスクリット詩を読解する力が身につく。またインドにおける文学の伝統が実際にどのように機能していたのかを学ぶことができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1～2回 Kapphinabhyudayaの概説、Kapphinabhyudaya第16章と焔焔palavadha第15・16章の対応する会話構成の比較 第3～14回 Kapphinabhyudaya第16章を講読し、会話における2重義の用法を、焔焔palavadhaにおける用法と比較しつつ検討する。 第15回 総括</p>					
[履修要件]					
サンスクリット読解能力					
[成績評価の方法・観点]					
平常点により評価する。					
[教科書]					
<p>授業中に扱うテキストの章については、最初の授業の際に資料をアップロードしたリンクを指示する。主たるテキストは、Michael Hahn (compiled by Yusho Wakahara), Kapphinabhyudaya or King Kapphina's Triumph: A ninth century Kashmiri Buddhist Poem. Institute of Buddhist Cultural Studies, Ryukoku University, Kyoto, 2007. (978-4-8318-7281-4 C3015)。</p>					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に紹介する					
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----					

インド古典学(演習)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

Kapphinabhyudayaには現代語訳が存在しないので、予習に十分な時間が必要となる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学46

科目ナンバリング	G-LET13 71644 SJ36				
授業科目名 <英訳>	インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授	VASUDEVA , Somdev	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Nyaya and Vaishesika Realist Philosophy in India				
[授業の概要・目的]					
This course is a Sanskrit reading course focussing on the Tarkasamgraha of Annambhatta composed in the 17th century. We will perform a close reading of the selected text and analyze the content paying attention to philosophical themes and controversies with rival schools of thought.					
[到達目標]					
The objective is to familiarize students to read specialized Sanskrit philosophical texts. Students will learn: 1) how to interpret the sutras and commentaries according to the criteria that guided the original authors, and 2) how to interpret the text according to contemporary philological, hermeneutic and philosophical theories. Students will be introduced to standard form of English translation commonly used to translate such material.					
[授業計画と内容]					
week 1: padartha, dravya, guna week 2: karma, samanya, visesa week 3: samavaya, non-existence, the elements week 4: time and space week 5: the self week 6: the mind, the sensory media week 7: maturation week 8: number, size week 9: separateness, union week 10: division week 11: otherness and belonging week 12: language week 13: intellect and experience week 14: cause and effect week 15: reflection					
[履修要件]					
特になし					
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----					

インド古典学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

participation in class. preparation and translation in class.

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of material before each week's reading.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学47

科目ナンバリング	G-LET13 71644 SJ36				
授業科目名 <英訳>	インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 山口 周子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	パーリ語講読				
[授業の概要・目的]					
<p>パーリ語は、上座部仏教系の聖典書写に使用された主要言語であり、サンスクリット語、チベット語などと同様、インド古典学および仏教学の学習・研究を進めるうえで極めて有益な言語のひとつである。</p> <p>また、その音韻的特徴などを把握することで、古典サンスクリット語やヴェーダ語といった古代インド語に対する知識を深めることも期待できる。</p> <p>テキスト講読を通してパーリ語の読解力を付けることを目指す。(上座部仏教に伝わる「ジャータカ(本生譚)」に収録の短編物語を講読テキストとする。)</p> <p>なお、文法的な事柄については、講読を進める中で、必要に応じて解説する。</p>					
[到達目標]					
今後の学習や研究に必要なパーリ語原典テキストを自力で読解できる程度の語彙力と読解力を身につける。					
[授業計画と内容]					
<p>第1回：イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パーリ語について(言語的特徴などについて概説) ・精読に必要な辞書や文法書などの紹介 ・講読テキストのプリント配布 ・講読テキストに関する概説(物語の内容、関連テキストなど) <p>第2回-9回：テキスト講読：Telapattajaataka(油鉢本生譚)</p> <p>第10回-14回：テキスト講読：Anusaasikajaataka(アヌサーシカ本生譚)</p> <p>学期末テスト</p> <p>第15回：フィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輪読形式を基本とする。文法事項等、テキストの理解に必要な事柄は、必要に応じて解説を加える。 ・授業の進度は、受講生の理解度に応じて変更する場合がある。 					
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----					

インド古典学(演習)(2)

【履修要件】

初級程度のサンスクリット語読解力があること。

【成績評価の方法・観点】

平常点（テキスト読解力、あるいは内容理解への積極性：50点）と学期末テスト（50点）による。
（ 学期末テストは初見テキストを問題とし、辞書・文法書などの持ち込みは可とする。 ）

【教科書】

プリント配布

【参考書等】

（参考書）

Wilhelm Geiger 『A Pali Grammar』（The Pali Text Society）ISBN:0 86013 318 4

水野 弘元 『パーリ語文法』（山喜房佛書林）ISBN:4-7963-0010-4

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・テキスト講読は輪読形式で行うため、原則として予習をして臨むこと。
- ・初学者はできる範囲で予習し、復習に重点をおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET13 71644 SJ36			
授業科目名 <英訳>	インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 芳原 綾子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アルダマーガディー入門				
【授業の概要・目的】					
<p>現在もインド国内で教団が存続しているジャイナ教の起源は、仏教の成立と同時代であり、両教には類似点もある。ジャイナ教白衣派の聖典で使用されるアルダマーガディー(Amg)は、中期インド語の一つでありパーリ語とも類似性を持つ。Amgで書かれたテキストを実際に読み、必要な参考書を使い、音韻変化等になれる。</p>					
【到達目標】					
<p>アルダマーガディー(Amg)で書かれたテキストを読み、サンスクリットとは異なる、音韻変化や文法をもつ中期インド語の特徴を理解する。単語の意味や語形を調べるために必要な参考書類を使用できるようになる。『ウヴァヴァーイヤ』の撰文の読解を通して、Amgで書かれた経典を保持してきたジャイナ教の基本的な思想に触れる。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>1回目:アルダマーガディーに関する概説と辞書・参考書、および、Amgのテキストを伝承してきたジャイナ教白衣派の紹介 2回目:母音と子音の音韻変化 3回目:名詞変化 4回目:代名詞の変化 5回目:a語幹動詞、e語幹動詞の活用(現在形、未来形) 6回目:過去時制、分詞etc. 7回目~14回目:散文で書かれた経典である『ウヴァヴァーイヤ』からの抜粋の読解。散文経典の形式になれ、ジャイナ教の基本的な教義を理解する。 7~9回目:苦行について(§30) 10~11回目:修行者について(§§23-29) 12~14回目:マハーヴィーラの説法(§§56-57) 15回目:まとめ</p> <p>テキストの読解に際しては、出席者のサンスクリットの知識を考慮して進める予定である。</p>					
【履修要件】					
初級サンスクリット文法を履修していることが望ましい。					
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----					

インド古典学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点：授業内での発言（和訳等含む）

[教科書]

授業中に指示する
コピーを配布する。

渡辺研二 「アルダ・マーガディー語文法入門(1)--(3)」『ジャイナ教研究』第14-16号, 2008--2010.
F. van den Bossche. A Reference Manual of Middle Prakrit Grammar. Gent. 1999.
Ernst Leumann (Ed.), Das Aupapatika Sutra, erstes Upanga der Jaina. Leipzig, 1883.

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：サンスクリット語文法の既習者は、同じ文法事項についてサンスクリット語の場合を確認しておく。
復習：各回、文法事項の確認

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学49

科目ナンバリング		G-LET13 71644 SJ36			
授業科目名 <英訳>	インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 天野 恭子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ヴェーダ祭式文献研究				
[授業の概要・目的]					
<p>古代インド最古層の散文テキストを含む、マイトラーヤニー・サンヒター(BC900年頃成立)から重要な箇所を選んで内容を検討し、当時の思想および社会について考察する。今学期は、ヴェーダ祭式のうち起源が古く、最も重要な祭式の一つと考えられるソーマ祭(興奮状態を作る作用のあるソーマという植物の搾り汁を使った祭式)の章を講読する。難解な内容を理解するために、言語的に精密な読解が必要であり、そのためのヴェーダ言語学、印欧語比較言語学の知識を学ぶ。同文献は、インド思想の発展、社会の変遷についても貴重な資料を多く含むため、後の時代のインドの宗教(ヒンドゥー教、仏教、ジャイナ教)や社会に関心のある者にとっても、重要である。</p>					
[到達目標]					
<p>最古のヴェーダ祭式文献の精読によって、インド文献(サンスクリット文献)を言語学的に正しく読解する能力を得る。ヴェーダ文献の言語、思想を深く理解するために必要な研究書を多く紹介し、ヴェーダ研究の専門的な知識、印欧語比較言語学の基礎知識を身に付ける。後にインドで発展した様々な宗教(ヒンドゥー教、仏教、ジャイナ教)に連なる、原初的な信仰について学ぶため、インド思想史、インド社会史全体についての理解が深まることが期待される。文献の内容のみならず、文献の成立状況についても多くの問題が残っているため、このような未解決の問題に対する学問的な態度を学ぶ。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回授業時に「ヴェーダ祭式文献についての概観、ヴェーダ文献研究の方法論」を講義する。予習のやり方(必要な研究書について、その使い方について)を詳しく講義する。 第2回から第15回は、マイトラーヤニー・サンヒター(ソーマ祭に関する記述)の原典講読を行う。原文テキストはこちらで用意するので、それをもとに参加者が事前に訳を準備し授業内で発表し、解釈について議論を行う。言語学的あるいは祭式・文化的側面について、参加者から疑問を提示してくれることを歓迎する。</p>					
[履修要件]					
<p>サンスクリット基礎文法の既習者。ただし、サンスクリット文法の未修者であっても授業に興味のある人は、個別に相談に応じた上、履修を許可する場合があります。</p>					
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----					

インド古典学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（予習および授業内容の復習の状況）による。

[教科書]

教材を授業時に配布する。

[参考書等]

（参考書）

Macdonell, A. A. 『A Vedic Grammar for Students』 (Motilal Banarsidass, 1993) ISBN:81-208-1053-8 (インド古典学研究室にて購入できる。)

[授業外学修（予習・復習）等]

講義で紹介したヴェーダ原典研究の方法を用いて、予習をすること。原典を精読するため、量的に多くは進まないが、一語一語の音韻、文法、語義についてよく吟味し、文全体の構造を考える必要がある。授業で紹介した論文等は、その都度触れておくことが望ましい。学習したことをいつでも見直しできるように、ノートや何らかのシステムを自分で構築することが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学50

科目ナンバリング	G-LET13 71644 SJ36				
授業科目名 <英訳>	インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定講師 Tao PAN		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Tocharian and Indo-European Linguistics				
[授業の概要・目的]					
This course offers an introduction to Tocharian languages and historical grammar of Indo-European languages. Based on the knowledge of Indo-European linguistics presented at the beginning of the course, synchronic and diachronic (historical) grammar of Tocharian including nominal and verbal systems will be explained. Reading materials include Sanskrit-Tocharian bilingual texts and Tocharian B Vinaya and Jataka with well-preserved parallel texts in Sanskrit and Chinese.					
[到達目標]					
The participants will be able to read Tocharian manuscripts in Brahmi script, learn the basic grammar of Tocharian A and B as well as rudiments of Indo-European linguistics.					
[授業計画と内容]					
<p>Week #01 Introduction: Discovery and History</p> <p>Week #02 Introduction: Indo-European linguistics and PIE part 1</p> <p>Week #03 Introduction: Indo-European linguistics and PIE part 2</p> <p>Week #04 Script and Manuscripts</p> <p>Week #05 Tocharian B: nominal system (case), verbal system (ending, present)</p> <p>Week #06 Tocharian B: nominal system (declension class), verbal system (subjunctive)</p> <p>Week #07 Tocharian B: nominal system (adjective, pronoun), verbal system (preterite)</p> <p>Week #08 Tocharian B: reading Sanskrit-Tocharian B bilinguals of Udanavarga</p> <p>Week #09 Tocharian B: reading Sanskrit-Tocharian B bilinguals of Udanavarga</p> <p>Week #10 Tocharian B: reading Tocharian B Vinaya</p> <p>Week #11 Tocharian B: reading Tocharian B Jataka</p> <p>Week #12 Tocharian A: grammar</p> <p>Week #13 Tocharian A: reading Vinaya</p> <p>Week #14 Tocharian A: reading Vinaya</p> <p>Week #15 Feedback</p>					
[履修要件]					
Sanskrit knowledge is desired, but not necessary.					
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----					

インド古典学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final exam.
Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<https://www.univie.ac.at/tocharian> (Manuscript, text, grammar, dictionary, bibliography)

[授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学51

科目ナンバリング	G-LET13 71644 SJ36				
授業科目名 <英訳>	インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授	VASUDEVA, Somdev	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	The Kumarasambhava of Kalidasa				
【授業の概要・目的】					
This course is a Sanskrit reading course focussing on the fourth chapter of the Kumarasambhava of Kalidasa an ornate "Composition in Cantos" completed in the Gupta empire between 415 and 445 CE. The work is a courtly retelling of the mythological events leading to the birth of the God of War.					
【到達目標】					
The objective is to familiarize students to read the specialized Sanskrit of courtly "Compositions in Cantos" (sargabandha) that were the most prestigious literary form of produced by classical poets. Students will learn: 1) how to interpret the grammar, syntax, narrative, and aesthetic content of the work according to the standards that guided the original author and his commentators. 2) We will examine how to interpret the text according to contemporary philological, linguistic, aesthetic and philosophical theories. Students will be introduced to standard form of English translation commonly used to translate such material.					
【授業計画と内容】					
week 1: Introduction to the poet, the literary genre and the style.					
week 2-14: Reading, translation and analysis of the text and occasional consultation of commentarial passages.					
week 15: revision and recapitulation					
【履修要件】					
Completion of first year of Sanskrit study.					
【成績評価の方法・観点】					
participation in class. preparation and translation in class.					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
Preparation of material before each week's reading. approximately one hour per week.					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学52

科目ナンバリング		G-LET13 71653 LJ36			
授業科目名 <英訳>	インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 横地 優子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月4	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	サンスクリット初級演習(古典サンスクリット)				
[授業の概要・目的]					
サンスクリット文法を既習した学生を対象とする初級演習。語彙集を備えたリーダーを使って、易しい韻文・散文を読むことで文法知識を確実に身につけること、最終的には辞書を使って自力で原典が読めるようになることを目的とする。					
[到達目標]					
サンスクリット文法をきちんと身につけた上で、テキストを正確に読むことができるようになる。また、サンスクリットの辞書を有効に使えるようになる。					
[授業計画と内容]					
第1回 これからテキストを読んでいくための基礎的知識と工具書(文法書・辞書など)の説明を行う。文の基本構造の分析や複合語などのいくつかの文法項目の復習を行う。 第2~6回 「ナラ王物語」から数章を読む。 第7~11回 「ヒトパデーシャ」からいくつかの物語を選んで読む。 第12~14回 「カターサリットサーガラ」からいくつかの物語を選んで読む。 第15回 定期試験 第16回 フィードバック 毎回の進度は受講者の習熟度によるが、最初の数回は文法を確認しながらゆっくり読み、その後は、毎回2頁程度の進度で読み進める。					
[履修要件]					
サンスクリット文法既習者					
[成績評価の方法・観点]					
定期試験によって評価する。					
[教科書]					
Lanman, C.R. 『A Sanskrit Reader』(Motilal Banarsidass) ISBN:978-81-208-1362-2(インド学研究室にて購入できる。)					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に紹介する					
----- インド古典学(講読)(2)へ続く -----					

インド古典学(講読)(2)

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回の予習・復習が必須である。特に復習が大事であり、予習が十分にできなかった場合も授業には出席して復習をきちんと行うことが肝心である。またデーヴァナーガリー文字を学んでいない者は、受講前に自習しておくこと(サンスクリットやヒンディーの文法書で自習することができる)。

(その他(オフィスアワー等))

この授業を履修する学生は、後期に開講される「サンスクリット初級演習(ヴェーダ語)」も履修することが望ましい。どちらを先に履修してもかまわない。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学53

科目ナンバリング		G-LET13 71653 LJ36			
授業科目名 <英訳>	インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 天野 恭子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月4	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	サンスクリット初級演習(初期サンスクリット[ヴェーダ語])				
[授業の概要・目的]					
サンスクリット基礎文法の既習者を対象とする初級演習。ヴェーダ聖典の原文を講読しながら、初期サンスクリット(ヴェーダ語)の文法や原典講読の方法論の基礎を習得する。					
[到達目標]					
サンスクリット語の文章を正確に分析する技法を学ぶ。音韻、文法、語形成法についての知識を、実際の原典講読に生かす、原典研究の基礎的な力を身に付ける。サンスクリット原典研究に必要な、基本的な研究書の使い方を学ぶ。本授業では、古典サンスクリットとは異なる古い特徴を残す、初期サンスクリット語(ヴェーダ語)を扱うため、その語形・文法理解に欠かせない、印欧語比較言語学の基礎知識も学ぶ。ヴェーダ聖典という、非常に古い文献を扱うため、古代インド社会の歴史的・文化的背景についての知見も得る機会となる。					
[授業計画と内容]					
Lanman, C. R., A Sanskrit Readerを教科書とし、その中のヴェーダ聖典を引用している部分を学習する。 引用されているヴェーダ聖典は、韻文で作られた讃歌や、散文で記された神学的祭式解釈など、幅広いジャンルを含むが、そのような様々な文体、内容に触れる。参加者は、A Sanskrit Readerに集録されている語彙集を用いて事前に原文を訳し、授業で発表する。それに加え、原典を実際に研究する際に必要な専門書を授業の中で紹介し、使用の手ほどきをする。 第1回 ヴェーダ聖典についての概論。 第2回～第15回 テキスト精読(リグヴェーダ、アイタレーヤ・ブラーフマナ、シャタパタ・ブラーフマナ)。					
[履修要件]					
サンスクリット文法既習者。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(講読の予習および授業内容の復習の状況)によって評価する。					
----- インド古典学(講読)(2)へ続く -----					

インド古典学(講読)(2)

[教科書]

Lanman, C.R. 『A Sanskrit Reader』 ISBN:978-81-208-1363-2 (インド古典学研究室にて購入できる。)

[参考書等]

(参考書)

Macdonell, A. A. 『A Vedic Grammar for Students』 (Motilal Banarsidass, 1993) ISBN:81-208-1053-8 (インド古典学研究室にて購入できる。)

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回の予習が必須であるが、予習をしていなくても欠席しないこと。原典を丁寧に精読するため、量的には多く進まないが、一語一語の音韻の問題、文法形、語彙の意味を吟味し、文全体の構造もよく考えて予習を行う必要がある。授業で習ったことを、必要があればいつでも見直しできるように、知識を蓄積するノートや何らかのシステムを、それぞれが工夫して作ることが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学54

科目ナンバリング		G-LET13 71653 LJ36			
授業科目名 <英訳>	インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定講師 Tao PAN	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木3	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	German Reading in Indology and Buddhology				
[授業の概要・目的]					
<p>We will read representative pieces of the German academic writing in the fields of Indology and Buddhology, in order to help the students develop abilities to read and understand academic German on their own. The purposes of the course include: (1) to introduce students into the disciplines of German Indology and Buddhology by means of the renowned academic works; (2) to familiarise them with the main stylistics of academic writings in German and with the features of German translations from Sanskrit; (3) to develop the students' abilities to read and understand German academic writings on their own.</p>					
[到達目標]					
Students will develop abilities to read and understand German academic writings on their own.					
[授業計画と内容]					
<p>Part I Background Knowledge (2 weeks) Week #01 Tools & Tips 1.1. Lexika, Handbooks, Tools 1.2. Abbreviations (German, Latin, Bibliographic) 1.3. Conventions (Citation of Texts), Stylistics and Tones (e.g. wohl, vielleicht, nicht sicher) Reference: PW, pw, SWTF, EWAia, Goto 1987; Bechert 1990 Abkürzungsverzeichnis zum buddhistischen Literatur;</p> <p>Week #02 Introduction to German Indology 2.1. Vedic Studies, Indic Linguistics 2.2. Buddhist Studies 2.3. Jaina Studies Reference: Bechert & von Simson 1993 Einführung in die Indologie; Windisch Geschichte der Sanskrit-Philologie und Indischen Altertumskunde; Vorwort in SWTF; Veröffentlichungen der Helmuth von Glasenapp-Stiftung Website: https://www.harrassowitz-verlag.de/reihenwerk_249.shtml ; https://whowaswho-indology.info ;</p> <p>Part II History of Scholarship (4 weeks) Week #03 Indology in German 3.1. Important Scholars 3.2. Representative Works 3.3. Reading Exercise Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen; Website: https://whowaswho-indology.info ;</p>					
----- インド古典学(講読)(2)へ続く -----					

インド古典学(講読)(2)

Week #04 Indology in German

4.1. Important Scholars

4.2. Representative Works

4.3. Reading Exercise

Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen;

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #05 Indic Linguistics in German

5.1. Important Scholars

5.2. Representative Works

5.3. Reading Exercise

Reference: EWAia

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #06 Buddhist Studies in German

6.1. Important Scholars

6.2. Representative Works

6.3. Reading Exercise

Reference: SWTF

Part III Reading Materials from Students (8 weeks)

Week #07 to #14 Read, Exercise & Analyse

The choice of texts depends on the participants' interest and specialisation. Various periods and styles of German Indological and Buddhological literature will be read, from essays to excerpts from monographs.

Week #15

Feedback

[履修要件]

Basic knowledge of German (e.g. completion of College German) is required.

[成績評価の方法・観点]

Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

インド古典学(講読)(3)へ続く

インド古典学(講読)(3)

[授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学55

科目ナンバリング	G-LET13 71653 LJ36				
授業科目名 <英訳>	インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定講師 Tao PAN		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木3	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	German Reading in Indology and Buddhology				
[授業の概要・目的]					
<p>We will read representative pieces of the German academic writing in the fields of Indology and Buddhology, in order to help the students develop abilities to read and understand academic German on their own. The purposes of the course include: (1) to introduce students into the disciplines of German Indology and Buddhology by means of the renowned academic works; (2) to familiarise them with the main stylistics of academic writings in German and with the features of German translations from Sanskrit; (3) to develop the students' abilities to read and understand German academic writings on their own.</p>					
[到達目標]					
Students will develop abilities to read and understand German academic writings on their own.					
[授業計画と内容]					
<p>Part I Background Knowledge (2 weeks) Week #01 Tools & Tips 1.1. Lexika, Handbooks, Tools 1.2. Abbreviations (German, Latin, Bibliographic) 1.3. Conventions (Citation of Texts), Stylistics and Tones (e.g. wohl, vielleicht, nicht sicher) Reference: PW, pw, SWTF, EWAia, Goto 1987; Bechert 1990 Abkürzungsverzeichnis zum buddhistischen Literatur;</p> <p>Week #02 Introduction to German Indology 2.1. Vedic Studies, Indic Linguistics 2.2. Buddhist Studies 2.3. Jaina Studies Reference: Bechert & von Simson 1993 Einführung in die Indologie; Windisch Geschichte der Sanskrit-Philologie und Indischen Altertumskunde; Vorwort in SWTF; Veröffentlichungen der Helmuth von Glasenapp-Stiftung Website: https://www.harrassowitz-verlag.de/reihenwerk_249.ahtml ; https://whowaswho-indology.info ;</p> <p>Part II History of Scholarship (4 weeks) Week #03 Indology in German 3.1. Important Scholars 3.2. Representative Works 3.3. Reading Exercise Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen; Website: https://whowaswho-indology.info ;</p>					
----- インド古典学(講読)(2)へ続く -----					

インド古典学(講読)(2)

Week #04 Indology in German

- 4.1. Important Scholars
- 4.2. Representative Works
- 4.3. Reading Exercise

Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen;

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #05 Indic Linguistics in German

- 5.1. Important Scholars
- 5.2. Representative Works
- 5.3. Reading Exercise

Reference: EWAia

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #06 Buddhist Studies in German

- 6.1. Important Scholars
- 6.2. Representative Works
- 6.3. Reading Exercise

Reference: SWTF

Part III Reading Materials from Students (8 weeks)

Week #07 to #14 Read, Exercise & Analyse

The choice of texts depends on the participants' interest and specialisation. Various periods and styles of German Indological and Buddhological literature will be read, from essays to excerpts from monographs.

Week #15

Feedback

【履修要件】

Basic knowledge of German (e.g. completion of College German) is required.

【成績評価の方法・観点】

Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

インド古典学(講読)(3)へ続く

インド古典学(講読)(3)

[授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学56

科目ナンバリング		G-LET14 61831 LJ36			
授業科目名 <英訳>	仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 宮崎 泉	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ツォンカパの説く仏教の実践とその典拠研究				
[授業の概要・目的]					
チベット仏教を代表する大学者のひとりである、ゲルク派の祖ツォンカパが大乗仏教の実践について著した論書のひとつに『菩提道次第大論』がある。本特殊講義は、インド大乗仏教の実践と比較しながら『菩提道次第大論』を精読し、ツォンカパとインド仏教双方の実践についての理解を深めることを目的とする。					
[到達目標]					
ツォンカパの説く実践の検討を通じて、ツォンカパとインド仏教双方の実践に対する理解を深める。					
[授業計画と内容]					
授業は『菩提道次第大論』を通読しながら進める。ツォンカパに関する研究はチベット仏教の中では比較的進んでおり、本講義で扱う『菩提道次第大論』にも既に和訳が存在するが、既存の研究を批判的に扱いながら授業に参加することが望まれる。授業の発表担当者は、引用されるインド原典ならびにその論師の立場も十分に把握しておくことが求められる。授業は、初回に『菩提道次第大論』について概説し、二回目から十四回目は、『菩提道次第大論』を読み進めながら、必要に応じインド原典を引用箇所の前後も含めて平行して取り上げ、問題点の解説ならびに議論を行う。第十五回の授業にはフィードバックを行う。					
フィードバック方法は授業中に説明する。					
[履修要件]					
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。後期の同特殊講義をあわせて受講することが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点による。					
[教科書]					
テキストはコピーして配布する。					
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----					

仏教学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の予習をしておくことが求められる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学57

科目ナンバリング		G-LET14 61831 LJ36			
授業科目名 <英訳>	仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 宮崎 泉	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ツォンカパの説く仏教の実践とその典拠研究				
[授業の概要・目的]					
チベット仏教を代表する大学者のひとりである、ゲルク派の祖ツォンカパが大乗仏教の実践について著した論書のひとつに『菩提道次第大論』がある。本特殊講義は、インド大乗仏教の実践と比較しながら『菩提道次第大論』を精読し、ツォンカパとインド仏教双方の実践についての理解を深めることを目的とする。					
[到達目標]					
ツォンカパの説く実践の検討を通じて、ツォンカパとインド仏教双方の実践に対する理解を深める。					
[授業計画と内容]					
前期に引き続き、十四回目までの授業は『菩提道次第大論』を通読しながら進める。ツォンカパに関する研究はチベット仏教の中では比較的進んでおり、本講義で扱う『菩提道次第大論』にも既に和訳が存在するが、既存の研究を批判的に扱いながら授業に参加することが望まれる。授業の発表担当者は、引用されるインド原典ならびにその論師の立場も十分に把握しておくことが求められる。授業は、『菩提道次第大論』を読み進めながら、必要に応じインド原典を引用箇所の前後も含めて平行して取り上げ、問題点の解説ならびに議論を行う。必要があれば、初回に『菩提道次第大論』について概説する。第十五回の授業にはフィードバックを行う。					
フィードバック方法は授業中に説明する。					
[履修要件]					
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。前期の同特殊講義を受講していることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点による。					
[教科書]					
テキストはコピーして配布する。					
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----					

仏教学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の予習をしておくことが求められる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET14 61831 LJ36			
授業科目名 <英訳>	仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 船山 徹	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	鳩摩羅什訳『龍樹菩薩伝』と龍宮伝説(1)				
[授業の概要・目的]					
<p>インド仏教には大乘と声聞乗(小乗)があり、大乘仏教は早期經典編纂後、一切は空であることを教えの中心とする中観派と、心の状態とその改善に意を注いだ瑜伽行派という二つの学派が生まれました。本授業では中観派の始祖ナーガールジュナ(龍樹)の一生を描く『龍樹菩薩伝』(5世紀初頭の鳩摩羅什訳)を主題とし、それを精読しながら、様々な関連事項を合わせて考察します。授業で中心的にすることは漢訳『龍樹菩薩伝』を訓読し、適切な日本語訳を示すことです。ナーガールジュナの生涯を知ることは、インド仏教史と中国仏教史の両方にとって必ず必要ですから、この授業はインドにおける中観派の発生と中国における三論学(中観派に相当)の形成を理解するという意義があります。</p> <p>『龍樹菩薩伝』の内容を深く理解できるようにするため、関連する他の事柄も扱います。一つは龍樹の弟子だったデーヴァ(提婆)の伝記を漢訳した鳩摩羅什訳『提婆菩薩伝』の解説と、中国仏教で龍樹と密接につながる龍宮伝説の形成です。</p> <p>漢訳文献を扱う最新の方法を学びます。さらに既存の参考資料として、中村元訳「龍樹菩薩伝」(現代日本語訳)も批判的な視点から扱います。</p>					
[到達目標]					
<p>一、仏典漢訳史(仏典漢訳の歴史的変異)の概略を理解する。</p> <p>二、仏教漢語を伝統漢語と訳語の二面から扱うための方法論を身に付ける。</p> <p>三、漢訳仏典の読解力を向上させ、漢訳仏典の適切な現代日本語訳を作る力を養成する。</p> <p>あわせて次の3点を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大蔵経に関する知識と使用上の留意点。 2. 仏教漢文の訓読法(仏教に特有の訓読の問題点を含む)。 3. 電子化された一次資料の使い方と留意事項。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回：中国仏教を学ぶために必要な基本的な一次資料と工具書</p> <p>第2回：大蔵経の基礎知識・歴史・使用に当たって特に注意すべきこと・大蔵経を使用する時の注意点・電子テキスト利用上の注意点</p> <p>第3回：仏典漢訳史の概要と鳩摩羅什訳『龍樹菩薩伝』の位置づけ</p> <p>第4回：鳩摩羅什訳『龍樹菩薩伝』と同訳『提婆菩薩伝』の書誌情報(原典・前近代の諸訳・注釈・現代の主な研究)</p> <p>第5回：『龍樹菩薩伝』精読(1)</p> <p>第6回：『龍樹菩薩伝』精読(2)</p> <p>第7回：『龍樹菩薩伝』精読(3)</p>					
<p>----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----</p>					

仏教学(特殊講義) (2)

- 第8回：以上に読んだ箇所を他の資料と関連付ける
第9回：『龍樹菩薩伝』精読(4)
第10回：『龍樹菩薩伝』精読(5)
第11回：『龍樹菩薩伝』精読(6)
第12回：『龍樹菩薩伝』精読(7)
第13回：『龍樹菩薩伝』精読(8)
第14回：以上に読んだ箇所を他の資料と関連付ける。龍宮伝説について(1)
第15回：龍宮伝説について(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（原文精読を必ず一度は担当する。積極的に意見と質問を提起する）。
自らの疑問や調べた内容について発言し、出席者たち全員に意見交換を促す。

【教科書】

使用しない

教科書は使用しません。

授業は毎回、配布資料を作成し、それに基づいて原文を読み、現代語訳を作ります。

個別事項や内容に関して参照すべき図書や論文があれば、授業中にその都度知らせます。

特に必読の論文はPDFを作成し、読むことを義務付けます。

【参考書等】

（参考書）

船山徹 『仏典はどう漢訳されたのか：スートラが経典になるとき』（岩波書店，2013）ISBN:978-4-00-024691-0（仏典漢訳史の全貌を知るための唯一の概説書。アマゾンの読者レビューも参照。）
中村元 『龍樹』（講談社学術文庫，2002年）ISBN:4-06-159548-2（第一章「ナーガールジュナ（龍樹）の生涯」は必読。できれば購入するのが望ましい。）

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：

配布資料を基にして、授業で精読する箇所を下読みし、自分自身の訳を準備しなさい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設定しません。

授業に関係する事柄であれば質問等はいつでも大歓迎します。

授業初回に問い合わせ先メールアドレスを知らせます。

仏教学(特殊講義) (3)へ続く

仏教学(特殊講義)(3)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET14 61831 LJ36			
授業科目名 <英訳>	仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 船山 徹	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	鳩摩羅什訳『龍樹菩薩伝』と龍宮伝説(2)				
[授業の概要・目的]					
<p>インド仏教には大乘と声聞乗(小乗)があり,大乘仏教は早期經典編纂後,一切は空であることを教えの中心とする中観派と,心の状態とその改善に意を注いだ瑜伽行派という二つの学派が生まれました。本授業では中観派の始祖ナーガールジュナ(龍樹)の一生を描く『龍樹菩薩伝』(5世紀初頭の鳩摩羅什訳)を主題とし,それを精読しながら,様々な関連事項を合わせて考察します。授業で中心的にすることは漢訳『龍樹菩薩伝』を訓読し,適切な日本語訳を示すことです。ナーガールジュナの生涯を知ることが,インド仏教史と中国仏教史の両方にとって必ず必要ですから,この授業はインドにおける中観派の発生と中国における三論学(中観派に相当)の形成を理解するという意義があります。</p> <p>『龍樹菩薩伝』の内容を深く理解できるようにするため,関連する他の事柄も扱います。一つは龍樹の弟子だったデーヴァ(提婆)の伝記を漢訳した鳩摩羅什訳『提婆菩薩伝』の解説と,中国仏教で龍樹と密接につながる龍宮伝説の形成です。</p> <p>漢訳文献を扱う最新の方法を学びます。さらに既存の参考資料として,中村元訳「龍樹菩薩伝」(現代日本語訳)も批判的な視点から扱います。</p>					
[到達目標]					
<p>一, 仏典漢訳史(仏典漢訳の歴史的変異)の概略を理解する。 二, 仏教漢語を伝統漢語と訳語の二面から扱うための方法論を身に付ける。 三, 漢訳仏典の読解力を向上させ,漢訳仏典の適切な現代日本語訳を作る力を養成する。</p> <p>あわせて次の3点を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大蔵経に関する知識と使用上の留意点。 2. 仏教漢文の訓読法(仏教に特有の訓読の問題点を含む)。 3. 電子化された一次資料の使い方と留意事項。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回: 中国仏教を学ぶために必要な基本的な一次資料と工具書 第2回: 大蔵経の基礎知識・歴史・使用に当たって特に注意すべきこと・大蔵経を使用する時の注意点・電子テキスト利用上の注意点 第3回: 仏典漢訳史の概要と鳩摩羅什訳『龍樹菩薩伝』の位置づけ 第4回: 鳩摩羅什訳『龍樹菩薩伝』と同訳『提婆菩薩伝』の書誌情報(原典・前近代の諸訳・注釈・現代の主な研究) 第5回: 『龍樹菩薩伝』精読(1) 第6回: 『龍樹菩薩伝』精読(2) 第7回: 『龍樹菩薩伝』精読(3) 第8回: 『龍樹菩薩伝』の内容整理 第9回: 『提婆菩薩伝』精読(1)</p>					
<p>----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----</p>					

仏教学(特殊講義)(2)

- 第10回：『提婆菩薩伝』精読(2)
第11回：『提婆菩薩伝』精読(3)
第12回：『提婆菩薩伝』精読(4)
第13回：『提婆菩薩伝』精読(5)
第14回：『龍樹菩薩伝』 『提婆菩薩伝』 から見た龍宮伝説について(1)
第15回：『龍樹菩薩伝』 『提婆菩薩伝』 から見た龍宮伝説について(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（原文精読を必ず一度は担当する。積極的に意見と質問を提起する）。
自らの疑問や調べた内容について発言し、出席者たち全員に意見交換を促す。

【教科書】

使用しない

教科書は使用しません。

授業は毎回、配布資料を作成し、それに基づいて原文を読み、現代語訳を作ります。

個別事項や内容に関して参照すべき図書や論文があれば、授業中にその都度知らせます。

特に必読の論文はPDFを作成し、読むことを義務付けます。

【参考書等】

（参考書）

船山徹 『仏典はどう漢訳されたのか：スートラが経典になるとき』（岩波書店，2013）ISBN:978-4-00-024691-0（仏典漢訳史の全貌を知るための唯一の概説書。アマゾンの読者レビューも参照。）
中村元 『龍樹』（講談社学術文庫，2002年）ISBN:4-06-159548-2（第一章「ナーガールジュナ（龍樹）の生涯」は必読。できれば購入するのが望ましい。）

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：

配布資料を基にして、授業で精読する箇所を下読みし、自分自身の訳を準備しなさい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設定しません。

授業に関係する事柄であれば質問等はいつでも大歓迎します。

授業初回に問い合わせ先メールアドレスを知らせます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学60

科目ナンバリング		G-LET14 61831 LJ36			
授業科目名 <英訳>	仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	総合生存学館 准教授 Deroche, Marc-Henri	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	チベット仏教瞑想論 / Theories of Meditation in Tibetan Buddhism (II)				
[授業の概要・目的]					
<p>We will investigate the relation between oral/textual tradition (Tibetan: thos pa), philosophical inquiry (bsam pa) and meditative practices (sgom pa) in Tibet, by focusing on the literature of theories of meditation and of spiritual advice.</p> <p>We will provide first a general overview of such various literary genres and of the history of meditation and yoga in Tibet. Then we will focus especially on the tradition of the School of the Ancients (rNying ma pa), following its classification of Buddhist teachings which culminates in the Great Perfection (rDzogs chen), considered as the pinnacle of both sUltra-s and tantra-s.</p> <p>We will read a selection of texts by Klong chen Rab 'byams pa (1308-1363), 'Jigs med gling pa (1730-1798), etc.</p> <p>We will intend to elucidate such materials by situating them in the broader history of Buddhist philosophy, psychology and epistemology. Especially, we will consider two main cognitive faculties, "mindfulness" and "clear comprehension" (dran pa dang shes bzhin), and their training in connection to the soteriological question of the recognition of the "nature of mind" (sems nyid).</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> - Acquiring the fundamental knowledge of theories of meditation in Tibetan Buddhism - Developing Tibetan reading skills and critical research methodology in this field 					
[授業計画と内容]					
<p>Class 1. Introduction</p> <p>Classes 2-14. Reading selected Tibetan texts</p> <p>Class 15. Wrap-up session and feedback</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
Evaluation is made according to active participation and presentation.					
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----					

仏教学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Tibetan texts and secondary literature will be provided or indicated at each class for the preparation of the next class.

(その他(オフィスアワー等))

DEROCHE Marc-Henri: deroche.marchenri.6u@kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学61

科目ナンバリング		G-LET14 61831 LJ36			
授業科目名 <英訳>	仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 倉本 尚徳	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国の僧伝を読むー『続高僧伝』講読				
[授業の概要・目的]					
<p>中国初唐の道宣が撰した『続高僧伝』は、南北朝期から初唐にかけての中国仏教史を考える際に最も基本となる史料であり、日本仏教にも大きな影響を与えている。この書は、道宣自身が僧伝にかかわる関連史料の網羅的な収集と各地の実地踏査をもとに幾度も増補改訂を行ったものであり、同種の書に例をみない豊富な内容と版本ごとの大きな異なりを有している。特に日本の寺院が所蔵する古写本は、版本よりも以前の形態を保存しており、近年研究が進み、その増補過程が次第に明らかとなってきている。</p> <p>本授業では、『続高僧伝』の各種版本・撰者道宣の伝記について概観した後、主要な僧の伝について、研究史を紹介し、複数の版本を比較検討し、同一人物についての他の史料と比較検討しながら読み進める。それによって、中国仏教史の理解を深め、僧伝の内容にいかに関者の主観が大きく影響しているかを考えてみたい。関連する石刻資料があれば現物の写真・拓本なども紹介する。</p> <p>今年度は昨年度に引き続き訳経篇巻に収録された人物を検討する。具体的には北朝後期から隋代にかけて生きた彦琮をとりあげる。彦琮は北齊の名門趙郡李氏の出身であり、早くから梵語仏典にも通じていた。翻訳事業への参与を通じて西域事情にも通じ、玄奘が弟子に『大唐西域記』を編纂させるにあたり彼の『西域伝』を参照させたとされる。近年、彦琮について、その翻訳論や国家論文学など、多角的に検討した齊藤隆信『釈彦琮の研究』が上梓された。この書を参照しその内容を検討することも同時に行う。</p>					
[到達目標]					
<p>内容面</p> <p>一、インド仏教と中国仏教との差異を学ぶ。</p> <p>二、隋代の主要な僧の経歴を把握し、隋の仏教復興政策について理解する。</p> <p>三、僧伝執筆の時代的背景や執筆者の思想的立場を理解する。</p> <p>四、伝記の記事内容を事実として鵜呑みにせず、相対化する視点を身につける。</p> <p>技能面</p> <p>一、僧伝に使用される常套句やロジックに親しみ、仏教漢語読解能力を高める。</p> <p>二、C B E T A ・ S A T などの電子仏典資料や様々な工具書について理解し適切に使用できるようになる。</p> <p>三、複数の版本を用いた文字の校勘の仕方を習得する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回： 『続高僧伝』を読むために必要な基本的資料と工具書</p> <p>第2回： 『続高僧伝』講義 道宣の略伝・諸版本・訳注レジュメ作成方法の説明</p> <p>第3回： 『続高僧伝』講義 彦琮の経歴</p>					
仏教学(特殊講義)(2)へ続く					

仏教学(特殊講義)(2)

第4回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝1
第5回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝2
第6回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝3
第7回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝4
第8回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝5
第9回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝6
第10回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝7
第11回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝8
第12回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝9
第13回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝10
第14回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝11
第15回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝12

【履修要件】

古典漢文読解の基礎的な能力や現代中国語文読解能力があれば望ましいが、学ぶ意欲のある方であればどなたでも受講を歓迎する

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業内での発言・発表状況またはレポート）100%。

【教科書】

中華書局『続高僧伝』郭紹林校点本（2013）を基本テキストとして使用する。蘇小華『續高僧傳校注』も随時参照する。他に多数の版本を対校に用いる・すべてデータあるいはプリントとして配布する。

【参考書等】

（参考書）

『国訳一切経 和漢撰述部 史伝部8, 9, 10』（大東出版社）（書の解題と書き下し・簡単な注釈を掲載したもの）

『大乘仏典 中国・日本篇』（中央公論社）（『続高僧伝』の何人かの伝記について現代語訳と注を掲載）

『新国訳大蔵経・『続高僧伝』1』（大蔵出版）（巻六までの書き下し・簡単な注釈を掲載したもの）

齊藤隆信『釈彦琮の研究』（臨川書店，2022）

その他の参考文献については講義中に随時提示する。

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：僧伝をあらかじめ下読みしておく。関連する僧伝の現代語訳や書き下し（国訳一切経）各種版本の文字の異同等を調べておく。

復習：講義内容を復習し、疑問等があれば関連する資料を調査し、次回講義時に発表する。

仏教学(特殊講義)(3)へ続く

仏教学(特殊講義)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは特に設けないが、開講時にメールアドレスを伝えるので質問・意見等があれば随時歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET14 61831 LJ36			
授業科目名 <英訳>	仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 倉本 尚徳	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	東アジアの都市と山林郷村における仏教				
[授業の概要・目的]					
<p>近年、東アジアの都市と仏教をテーマとした書籍がいくつか出版されている。本講義は、それらの最新の研究動向の把握と多角的な視座を身につけることを目的とする。具体的には、中国の南北朝隋唐時代を中心に、さらに朝鮮や日本を視野に入れて都市と仏教との関わりに関する様々なテーマを取り扱う。仏教が社会にその影響力を広めていく過程において、都市における寺院というのは中核的な役割を果たしてきたが、そこには、中国の儒教や道教との軋轢。皇帝権力による介入など様々な問題が生じた。それは仏教と中国社会の軋轢を象徴するような事件が多い。一方で聖地とされる五台山に代表されるように、山林や郷村における仏教の果たした役割には、都市では見られない独自性があることも事実である。こうした両面を取り扱いたい。</p> <p>講義においては、毎回事前にテーマを決め、関連論文あるいは図書を用意するので、全員があらかじめそれを読んで出席し授業で自由に討論を行う形で進める。テーマごとに担当者を決め、関連論文図書のその概要や方法論、資料などを簡潔にまとめたレジュメを用意する。授業計画で示した書籍はあくまで一例であり、参加者の希望により題材とする論文・図書を柔軟に変更する。</p>					
[到達目標]					
<p>内容面</p> <p>一、中国・日本における最新の都市と仏教研究の動向を学ぶ。 二、中国南北朝隋唐時代の都市と仏教の関係について理解する。 三、山林における仏教のあり方について学ぶ。</p> <p>技能面</p> <p>一、研究動向を把握し、先行研究を批判的に読み込むことができる。 二、異なる視点から見れば同じ史料に対し別の解釈がなされることを理解する。 三、主体的かつ論理的に自己の意見を述べ、議論することができる。</p>					
[授業計画と内容]					
第1回： ガイダンス・東アジア都市と仏教に関する近年の著作の紹介 第2回： 西本昌弘編『都市と宗教の東アジア史』2023前半 第3回： 西本昌弘編『都市と宗教の東アジア史』2023後半 第4回： 堀裕等編『東アジアの王宮・王都と仏教』2023 前半 第5回： 堀裕等編『東アジアの王宮・王都と仏教』2023 後半 第6回： 伴瀬明美等編『東アジアの後宮』2023 前半 第7回： 伴瀬明美等編『東アジアの後宮』2023 後半 第8回： 李猛『齊梁皇室の仏教信仰与撰述』2021 前半 第9回： 李猛『齊梁皇室の仏教信仰与撰述』2021 後半 第10回 James Robson, Power of Place: The Religious Landscape of the Southern Sacred Peak (Nanyue 南嶽) in Medieval China 前半					
----- 仏教学(特殊講義) (2)へ続く -----					

仏教学(特殊講義)(2)

- 第11回： James Robson , Power of Place 前半
第13回： James Robson , Power of Place 後半
第14回： 劉淑芬 『中古的社邑与信仰』 2023 前半
第15回： 劉淑芬 『中古的社邑与信仰』 2023 後半

【履修要件】

現代中国語の読解能力があれば望ましいが、なくても受講に支障はない。

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業内での発言・発表状況）100%。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

その他の参考文献については講義中に随時提示する。

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：次回の論文・図書を読み内容を把握しておく。関連する研究を探して読む。論文で引用された史料の現代語訳や書き下し（国訳一切経）などを調べておく。

復習：講義内容を復習し、疑問等があれば関連する資料を調査し、次回講義時に発表する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設けないが、開講時にメールアドレスを伝えるので質問・意見等があれば随時歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学63

科目ナンバリング	G-LET14 71841 SJ36				
授業科目名 <英訳>	仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 宮崎 泉		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	インド中期中観派と空思想をめぐる諸問題研究				
【授業の概要・目的】					
ナーガールジュナの主著『中論』には様々な立場から多数の注釈が著され、それによって中観派も様々に展開していく。本演習では、サンスクリットも現存するチャンドラキールティのプラサンナパダーを中心に、関連する諸注釈も参照しながら、そこに見られる多様な議論の検討を通して、その当時の思想状況とインド中期中観派について理解を深めることを目的とする。					
【到達目標】					
『プラサンナパダー』に見られる多様な議論を検討しながら、その当時の思想状況とインド中期中観派について理解を深める。					
【授業計画と内容】					
初回の授業の中で、著者、著作、背景等についてイントロダクションを行い、二回目から十四回の授業では、『プラサンナパダー』を精読しながら、関連する諸問題について解説ならびに議論を行う。第十五回の授業にはフィードバックを行う。					
フィードバック方法は授業中に説明する。					
【履修要件】					
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。後期の演習もあわせて受講することが望ましい。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点による。					
【教科書】					
テキストはコピーして配布する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の予習をしておくことが求められる。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学64

科目ナンバリング	G-LET14 71841 SJ36				
授業科目名 <英訳>	仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 宮崎 泉		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	インド中期中観派と空思想をめぐる諸問題研究				
【授業の概要・目的】					
ナーガールジュナの主著『中論』には様々な立場から多数の注釈が著され、それに従って中観派も様々に展開していく。本演習では、サンスクリットも現存するチャンドラキールティのプラサンナパダーを中心に、関連する諸注釈も参照しながら、そこに見られる多様な議論の検討を通して、その当時の思想状況とインド中期中観派について理解を深めることを目的とする。					
【到達目標】					
『プラサンナパダー』に見られる多様な議論を検討しながら、その当時の思想状況とインド中期中観派について理解を深める。					
【授業計画と内容】					
前期に引き続き、十四回目までの授業では、『プラサンナパダー』を精読しながら、関連する諸問題について解説ならびに議論を行う。必要があれば、初回の授業の中で、著者、著作、背景等についてイントロダクションを行う。第十五回の授業にはフィードバックを行う。					
フィードバック方法は授業中に説明する。					
【履修要件】					
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。前期の演習も受講していることが望ましい。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点による。					
【教科書】					
テキストはコピーして配布する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の予習をしておくことが求められる。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学65

科目ナンバリング		G-LET14 71841 SJ36			
授業科目名 <英訳>	仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	駒澤大学 仏教学部 准教授 加納 和雄	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	梵文仏典写本精読				
【授業の概要・目的】					
インド周辺諸国に伝存する梵文仏典写本は、失われたインド仏教の原像に近づくための一次資料であり、とくにチベットやネパールに伝来する梵文写本については近年めざましい研究成果が報告されている。授業では梵文仏典写本研究の現状を理解したうえで、実際に写本の解読を行いながら写本研究の方法論を習得することを目指す。					
【到達目標】					
梵文仏典写本の研究状況の大局を把握し、写本読解の基礎を習得する。					
【授業計画と内容】					
<p>授業においてはまず、ネパール・チベットに伝存する梵文仏典写本研究の現状を解説する。世界各地の研究機関が所蔵するコレクションを俯瞰して、それらがいかなる由来をもち、どの程度解読が進んでいるのかについて説明する。また、写本を読むための基礎知識として写本特有の文字の綴り方や奥書の読み方などについて学ぶ。そして、写本の所有者について明かし、その来歴と伝承過程について補足する。それらの基礎知識を習得した後は、写本解読の実践的な能力を養うために、未解読の写本をサンプルとして選り抜き、順次、授業において丹念に解読を進める。サンプルは、短めの断片写本を扱い(大乘仏典を中心とする予定だが出席者の要望にも応じる)、写本の読みに問題がある箇所を一つずつ洗い出して解決策を模索しながら精読してゆく。資料は適宜授業において配布する予定である。基本的に演習形式とするが初心者も歓迎する。今回は特に『俱舍論』の安慧釈の梵本について業品(4章)の40偈あたりから読解を行う。</p> <p>第一～三回 歴史的背景の確認と研究状況の概観 第四、五回 資料読解のための実践知識の習得 第六～十五回 資料の読解</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点による。					
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----					

仏教学(演習)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業配布資料を予習・復習すること。出席者には課題をそのつど課す。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学66

科目ナンバリング		G-LET14 71841 SJ36			
授業科目名 <英訳>	仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	人と社会の未来研究院 准教授 熊谷 誠慈	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	仏教思想研究(インド・チベット宗教哲学文献精読)				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業では、ボン教(チベットの土着宗教)の範疇論的存在論を理解すべく、テトゥン・ギェルツェンペル(14世紀)著『ボン門明示』(Bon sgo gsal byed)を精読する。加えて、インド仏教思想からの影響を分析すべく、Abhidharmakosaについても適宜参照する。また、受講者の興味に応じて適宜、他の文献の精読やディスカッションを行い、さらには応用仏教学的な学際的議論も行うなど、総合的に仏教思想の理解を深めることを目標とする。</p> <p>本授業はチベット語文献の精読に基づいて行うため、受講者はすでにチベットを習得していることが望ましい。さらに、サンスクリット語および漢訳テキストも適宜参照することから、サンスクリット語および漢文についても一定の読解技術が要求される。ただし各言語でのテキストを読めない場合でも、授業中に提示する日本語訳にもとづいて、各自の専門分野の知識をバックグラウンドとして議論に加わるという形式での参加も認める。</p>					
[到達目標]					
古典チベット語文献を原典で精読しながら、思想を体系的に整理することを目標とする。					
[授業計画と内容]					
<p>初回は『ボン門明示』のイントロダクションを行う。</p> <p>第2回～第15回は、『ボン門明示』の精読・分析を行う。また、受講者の興味に応じて適宜、他の文献の精読、ディスカッションを行い、さらには応用仏教学的な学際的議論も行うなど、総合的に仏教思想の理解を深めることを目標とする。</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
成績評価は、平常点に基づいて行う。					
[教科書]					
授業中に指示する テキストおよび資料については適宜授業中に配布する。					
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----					

仏教学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

配布資料を事前に参照し、文献を事前に精読してくる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET14 71841 SJ36			
授業科目名 <英訳>	仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	宗教情報センター 京都支社 研究員 佐藤 直実	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	大乘仏教經典の読解				
【授業の概要・目的】					
<p>最初期の大乗經典『阿しゆく仏国經』第2章の講読を行う。</p> <p>阿しゆく仏は、東方・妙喜世界を主宰する他土仏である。西方・極楽世界の阿弥陀仏と共に、大乘仏教黎明期に登場し、般若經や維摩經にも記され、後に四方四仏の東方仏として定着する。密教では金剛界曼荼羅の東方に据えられ、後期密教では、大日如来に代わり、曼荼羅の主尊になる場合もある。</p> <p>『阿しゆく仏国經』は、阿しゆく仏の修行から成道、涅槃にいたるまでの半生と、その仏国土の様子を描く經典で、大乘仏教興起のなぞを解くための重要な資料である。漢訳が2種類、チベット語訳が1種類ある。</p> <p>本演習では、全6章の中から、阿しゆく仏の仏国土「妙喜世界」の様子を描く第2章をとりあげる。妙喜世界は、般若經ではガンガデーヴィーが再生する世界、維摩經では、維摩のもといた世界として取り上げられており、それらの記述と照らし合わせながら、読解する。</p> <p>漢訳2訳を参照しながら、チベット語訳を読み進め、大乘仏教の発展過程についても外観したい。</p>					
【到達目標】					
<p>1) 古典チベット語で書かれた仏教經典の読解力の養成</p> <p>2) 大乘仏教の基礎知識の習得</p> <p>3) 仏教文献学の研究手法の習得</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 テキストの概説と資料配付</p> <p>第2-14回 『阿しゆく仏国經』第2章の講読</p> <p>第15回 フィードバック</p>					
【履修要件】					
<p>わからないことに関しては、授業中に積極的に質問してください。</p>					
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----					

仏教学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業時の発表及び平常点をもとに総合的に評価。
テストは行わない。

[教科書]

授業中に資料を配付する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業時に読むテキスト箇所の和訳。必要に応じて、その背景についても調べる。

(その他(オフィスアワー等))

わからないことに関しては、授業中に積極的に質問してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET14 71841 SJ36			
授業科目名 <英訳>	仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	京都産業大学 文化学部 教授 志賀 浄邦	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	シャーンタラクシタ作『真実集成』及びカマラシーラ作『真実集成細注』を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>8世紀インドおよびチベットにおいて活躍した学僧シャーンタラクシタによる著作『真実集成(Tattvasamgraha)』とその弟子カマラシーラによる『真実集成細注(Tattvasamgrahapanjika)』第7章第4節「ジャイナ教徒によって構想されたアートマンの考察」を講読する。本著作『真実集成』は独立作品でありながら、ダルマキールティの認識論・論理学の注釈書的な側面も合わせ持っている。本授業では、上記のテキストを精読することを通して、ジャイナ教のアートマン(ジーヴァ)論はいかなるものであったか、またそれに対して無我の立場に立つ仏教徒からはどのような批判がなされたのか、ジャイナ教徒と仏教徒の論争の争点はいかなるものであったかといった問題について考察することを目的とする。当該テキストには、対論者の見解が他の論書等から忠実に引用されている場合も少なくないため、テキストの読解と同時にサンスクリット断片の収集・精査も合わせて行いたい。</p> <p>また本著作には様々な学派の見解が引用・紹介されていることから、このテキストを読み解くことを通して7～8世紀インドの思想状況を概観することができる。『真実集成』の他の章・節(特に第7章第1～3節)の記述とも比較しながら、本著作のインド思想史上における位置づけも試みたい。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・サンスクリットおよびチベット語で書かれたテキストを正確に読解することができるようになる。 ・テキスト上の問題点に気づき、それを発見・指摘し的確に修正できるようになる。 ・先行研究を批判的に検討した上で、独自の意見・見解を打ち出せるようになる。 ・電子データをはじめとする周辺資料を駆使することにより、チベット訳テキストをサンスクリット断片と同定できるようになる。 ・テキストを読解する過程で遭遇した問題に対して適切に問いを設定し、立論と論証によりそれを解決することができるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>授業では『真実集成』及び『真実集成細注』第7章第4節「ジャイナ教徒が構想したアートマンの考察」を講読する。担当者が作成した校訂テキストを元に、先行研究等を参考にしながら、批判的に精読する。</p> <p>第1～2回 インド哲学諸派によるアートマン論 第3～5回 仏教徒による無我説についての概説</p> <p>第6～14回 『真実集成』及び『真実集成細注』第7章第4節の講読と解説(受講生による輪読形式)</p> <p>第15回 フィードバック</p>					
<p>----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----</p>					

仏教学(演習)(2)

受講生と議論を交わしながら原典テキストを読み進めるという授業の性格上、授業各回の進度は異なる。

【履修要件】

サンスクリット、チベット語、英語の基本的な読解能力を必要とする。

【成績評価の方法・観点】

平常点による。（毎時間の発表が100％）

【教科書】

授業中に指示する
その他、授業中に適宜プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・講読するテキストを事前に配布するので、その回に読む箇所を事前に精読しておくこと。
- ・テキスト上の問題点等について、指摘・質問できるよう準備しておくこと。
- ・その回に読んだ箇所について再度読み直し、授業で議論された問題点等を再度確認しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

質問等は授業の前後に受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET14 71841 SJ36			
授業科目名 <英訳>	仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 山口 周子	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	パーリ語講読				
[授業の概要・目的]					
<p>パーリ語は、上座部仏教系の聖典書写に使用された主要言語であり、サンスクリット語、チベット語などと同様、インド古典学および仏教学の学習・研究を進めるうえで極めて有益な言語のひとつである。</p> <p>また、その音韻的特徴などを把握することで、古典サンスクリット語やヴェーダ語といった古代インド語に対する知識を深めることも期待できる。</p> <p>テキスト講読を通してパーリ語の読解力を付けることを目指す。(上座部仏教に伝わる「ジャータカ(本生譚)」に収録の短編物語を講読テキストとする。)</p> <p>なお、文法的な事柄については、講読を進める中で、必要に応じて解説する。</p>					
[到達目標]					
今後の学習や研究に必要なパーリ語原典テキストを自力で読解できる程度の語彙力と読解力を身につける。					
[授業計画と内容]					
<p>第1回：イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パーリ語について(言語的特徴などについて概説) ・精読に必要な辞書や文法書などの紹介 ・講読テキストのプリント配布 ・講読テキストに関する概説(物語の内容、関連テキストなど) <p>第2回-9回：テキスト講読：Telapattajaataka(油鉢本生譚)</p> <p>第10回-14回：テキスト講読：Anusaasikajaataka(アヌサーシカ本生譚)</p> <p>学期末テスト</p> <p>第15回：フィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輪読形式を基本とする。文法事項等、テキストの理解に必要な事柄は、必要に応じて解説を加える。 ・授業の進度は、受講生の理解度に応じて変更する場合がある。 					
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----					

仏教学(演習)(2)

【履修要件】

初級程度のサンスクリット語読解力があること。

【成績評価の方法・観点】

平常点（テキスト読解力、あるいは内容理解への積極性：50点）と学期末テスト（50点）による。
（ 学期末テストは初見テキストを問題とし、辞書・文法書などの持ち込みは可とする。 ）

【教科書】

プリント配布

【参考書等】

（参考書）

Wilhelm Geiger 『A Pali Grammar』（The Pali Text Society）ISBN:0 86013 318 4

水野 弘元 『パーリ語文法』（山喜房佛書林）ISBN:4-7963-0010-4

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・テキスト講読は輪読形式で行うため、原則として予習をして臨むこと。
- ・初学者はできる範囲で予習し、復習に重点をおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学70

科目ナンバリング		G-LET14 71841 SJ36			
授業科目名 <英訳>	仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 芳原 綾子	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アルダマーガディー入門				
[授業の概要・目的]					
<p>現在もインド国内で教団が存続しているジャイナ教の起源は、仏教の成立と同時代であり、両教には類似点もある。ジャイナ教白衣派の聖典で使用されるアルダマーガディー(Amg)は、中期インド語の一つでありパーリ語とも類似性を持つ。Amgで書かれたテキストを実際に読み、必要な参考書を使い、音韻変化等になれる。</p>					
[到達目標]					
<p>アルダマーガディー(Amg)で書かれたテキストを読み、サンスクリットとは異なる、音韻変化や文法をもつ中期インド語の特徴を理解する。単語の意味や語形を調べるために必要な参考書類を使うようになる。『ウヴァヴァーイヤ』の撰文の読解を通して、Amgで書かれた経典を保持してきたジャイナ教の基本的な思想に触れる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>1回目:アルダマーガディーに関する概説と辞書・参考書、および、Amgのテキストを伝承してきたジャイナ教白衣派の紹介 2回目:母音と子音の音韻変化 3回目:名詞変化 4回目:代名詞の変化 5回目:a語幹動詞、e語幹動詞の活用(現在形、未来形) 6回目:過去時制、分詞etc. 7回目~14回目:散文で書かれた経典である『ウヴァヴァーイヤ』からの抜粋の読解。散文経典の形式になれ、ジャイナ教の基本的な教義を理解する。 7~9回目:苦行について(§30) 10~11回目:修行者について(§§23-29) 12~14回目:マハーヴィーラの説法(§§56-57) 15回目:まとめ</p>					
<p>テキストの読解に際しては、出席者のサンスクリットの知識を考慮して進める予定である。</p>					
[履修要件]					
<p>初級サンスクリット文法を履修していることが望ましい。</p>					
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----					

仏教学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点：授業内での発言（和訳等含む）

[教科書]

コピーを配布する

渡辺研二 「アルダ・マーガディー語文法入門(1)--(3)」 『ジャイナ教研究』 第14-16号, 2008--2010.

F. van den Bossche. A Reference Manual of Middle Prakrit Grammar. Gent. 1999.

Ernst Leumann (Ed.), Das Aupapatika Sutra, erstes Upanga der Jaina. Leipzig, 1883.

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：サンスクリット語文法の既習者は、同じ文法事項についてサンスクリット語の場合を確認する。

復習：各回、文法事項の確認

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学71

科目ナンバリング		G-LET14 71841 SJ36			
授業科目名 <英訳>	仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	京都産業大学 文化学部 教授 志賀 浄邦	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	シャーンタラクシタ作『真実集成』及びカマラシーラ作『真実集成細注』を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>8世紀インドおよびチベットにおいて活躍した学僧シャーンタラクシタによる著作『真実集成(Tattvasamgraha)』とその弟子カマラシーラによる『真実集成細注(Tattvasamgrahapanjika)』第9章「業とその報いの関係の考察」を講読する。本著作『真実集成』は独立作品でありながら、ダルマキールティの認識論・論理学の注釈書的な側面も合わせ持っている。本授業では、上記のテキストを精読することを通して、仏教徒の因果論・刹那滅論・業報論に対して、対論者からどのような批判が投げかけられたか、また仏教徒とインド哲学諸派の論争の争点はいかなるものであったかといった問題について考察することを目的とする。当該テキストには、対論者の見解が他の論書等から忠実に引用されている場合も少なくないため、テキストの読解と同時にサンスクリット断片の収集・精査も合わせて行いたい。</p> <p>また本著作には様々な学派の見解が引用・紹介されていることから、このテキストを読み解くことを通して7～8世紀インドの思想状況を概観することができる。『真実集成』の他の章(特に第8章「存続する存在の考察」)の記述とも比較しながら、本著作のインド思想史上における位置づけも試みたい。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・サンスクリットおよびチベット語で書かれたテキストを正確に読解することができるようになる。 ・テキスト上の問題点に気づき、それを発見・指摘し的確に修正できるようになる。 ・先行研究を批判的に検討した上で、独自の意見・見解を打ち出せるようになる。 ・電子データをはじめとする周辺資料を駆使することにより、チベット訳テキストをサンスクリット断片と同定できるようになる。 ・テキストを読解する過程で遭遇した問題に対して適切に問いを設定し、立論と論証によりそれを解決することができるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>授業では『真実集成』及び『真実集成細注』第9章「業とその報いの関係の考察」を講読する。担当者が作成した校訂テキストを元に、先行研究等を参考にしながら、批判的に精読する。</p> <p>第1～2回 仏教認識論・論理学(特に刹那滅論と因果論)についての概説</p> <p>第3～5回 『真実集成』及び『真実集成細注』に関する概説</p> <p>第6～14回 『真実集成』及び『真実集成細注』第9章の講読と解説(受講生による輪読形式)</p> <p>第15回 フィードバック</p> <p>受講生と議論を交わしながら原典テキストを読み進めるという授業の性格上、授業各回の進度は仏教学(演習)(2)へ続く</p>					

仏教学(演習)(2)

異なる。

[履修要件]

サンスクリット，チベット語，英語の基本的な読解能力を必要とする。

[成績評価の方法・観点]

平常点による。（毎時間の発表が100％）

[教科書]

授業中に指示する
その他，授業中に適宜プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・ 講読するテキストを事前に配布するので，その回に読む箇所を事前に精読しておくこと。
- ・ テキスト上の問題点等について，指摘・質問できるよう準備しておくこと。
- ・ その回に読んだ箇所について再度読み直し，授業で議論された問題点等を再度確認しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

質問等は授業の前後に受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学72

科目ナンバリング	G-LET14 71851 LJ36				
授業科目名 <英訳>	仏教学(講読Ⅰ) Buddhist Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定講師 Tao PAN		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木3	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	German Reading in Indology and Buddhology				
[授業の概要・目的]					
<p>We will read representative pieces of the German academic writing in the fields of Indology and Buddhology, in order to help the students develop abilities to read and understand academic German on their own. The purposes of the course include: (1) to introduce students into the disciplines of German Indology and Buddhology by means of the renowned academic works; (2) to familiarise them with the main stylistics of academic writings in German and with the features of German translations from Sanskrit; (3) to develop the students' abilities to read and understand German academic writings on their own.</p>					
[到達目標]					
Students will develop abilities to read and understand German academic writings on their own.					
[授業計画と内容]					
<p>Part I Background Knowledge (2 weeks) Week #01 Tools & Tips 1.1. Lexika, Handbooks, Tools 1.2. Abbreviations (German, Latin, Bibliographic) 1.3. Conventions (Citation of Texts), Stylistics and Tones (e.g. wohl, vielleicht, nicht sicher) Reference: PW, pw, SWTF, EWAia, Goto 1987; Bechert 1990 Abkürzungsverzeichnis zum buddhistischen Literatur;</p> <p>Week #02 Introduction to German Indology 2.1. Vedic Studies, Indic Linguistics 2.2. Buddhist Studies 2.3. Jaina Studies Reference: Bechert & von Simson 1993 Einführung in die Indologie; Windisch Geschichte der Sanskrit-Philologie und Indischen Altertumskunde; Vorwort in SWTF; Veröffentlichungen der Helmuth von Glasenapp-Stiftung Website: https://www.harrassowitz-verlag.de/reihenwerk_249.ahtml ; https://whowaswho-indology.info ;</p> <p>Part II History of Scholarship (4 weeks) Week #03 Indology in German 3.1. Important Scholars 3.2. Representative Works 3.3. Reading Exercise Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen; Website: https://whowaswho-indology.info ;</p> <p>Week #04 Indology in German</p>					
----- 仏教学(講読Ⅰ)(2)へ続く -----					

仏教学(講読Ⅰ)(2)

4.1. Important Scholars

4.2. Representative Works

4.3. Reading Exercise

Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen;

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #05 Indic Linguistics in German

5.1. Important Scholars

5.2. Representative Works

5.3. Reading Exercise

Reference: EWAia

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #06 Buddhist Studies in German

6.1. Important Scholars

6.2. Representative Works

6.3. Reading Exercise

Reference: SWTF

Part III Reading Materials from Students (8 weeks)

Week #07 to #14 Read, Exercise & Analyse

The choice of texts depends on the participants' interest and specialisation. Various periods and styles of German Indological and Buddhological literature will be read, from essays to excerpts from monographs.

Week #15

Feedback

【履修要件】

Basic knowledge of German (e.g. completion of College German) is required.

【成績評価の方法・観点】

Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

仏教学(講読Ⅰ)(3)へ続く

仏教学(講読Ⅰ)(3)

[授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学73

科目ナンバリング	G-LET14 71851 LJ36				
授業科目名 <英訳>	仏教学(講読Ⅰ) Buddhist Studies (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定講師 Tao PAN	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木3	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	German Reading in Indology and Buddhology				
[授業の概要・目的]					
<p>We will read representative pieces of the German academic writing in the fields of Indology and Buddhology, in order to help the students develop abilities to read and understand academic German on their own. The purposes of the course include: (1) to introduce students into the disciplines of German Indology and Buddhology by means of the renowned academic works; (2) to familiarise them with the main stylistics of academic writings in German and with the features of German translations from Sanskrit; (3) to develop the students' abilities to read and understand German academic writings on their own.</p>					
[到達目標]					
Students will develop abilities to read and understand German academic writings on their own.					
[授業計画と内容]					
<p>Part I Background Knowledge (2 weeks) Week #01 Tools & Tips 1.1. Lexika, Handbooks, Tools 1.2. Abbreviations (German, Latin, Bibliographic) 1.3. Conventions (Citation of Texts), Stylistics and Tones (e.g. wohl, vielleicht, nicht sicher) Reference: PW, pw, SWTF, EWAia, Goto 1987; Bechert 1990 Abkürzungsverzeichnis zum buddhistischen Literatur;</p> <p>Week #02 Introduction to German Indology 2.1. Vedic Studies, Indic Linguistics 2.2. Buddhist Studies 2.3. Jaina Studies Reference: Bechert & von Simson 1993 Einführung in die Indologie; Windisch Geschichte der Sanskrit-Philologie und Indischen Altertumskunde; Vorwort in SWTF; Veröffentlichungen der Helmut von Glasenapp-Stiftung Website: https://www.harrassowitz-verlag.de/reihenwerk_249.ahtml ; https://whowaswho-indology.info ;</p> <p>Part II History of Scholarship (4 weeks) Week #03 Indology in German 3.1. Important Scholars 3.2. Representative Works 3.3. Reading Exercise Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen; Website: https://whowaswho-indology.info ;</p>					
----- 仏教学(講読Ⅰ)(2)へ続く -----					

仏教学(講読Ⅰ)(2)

Week #04 Indology in German

4.1. Important Scholars

4.2. Representative Works

4.3. Reading Exercise

Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen;

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #05 Indic Linguistics in German

5.1. Important Scholars

5.2. Representative Works

5.3. Reading Exercise

Reference: EWAia

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #06 Buddhist Studies in German

6.1. Important Scholars

6.2. Representative Works

6.3. Reading Exercise

Reference: SWTF

Part III Reading Materials from Students (8 weeks)

Week #07 to #14 Read, Exercise & Analyse

The choice of texts depends on the participants' interest and specialisation. Various periods and styles of German Indological and Buddhological literature will be read, from essays to excerpts from monographs.

Week #15

Feedback

【履修要件】

Basic knowledge of German (e.g. completion of College German) is required.

【成績評価の方法・観点】

Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

仏教学(講読Ⅰ)(3)へ続く

仏教学(講読Ⅰ)(3)

[授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学74

科目ナンバリング	G-LET49 89628 LJ48				
授業科目名 <英訳>	チベット語（初級）(語学) Tibetan	担当者所属・ 職名・氏名	愛知県立大学 外国語学部 教授 高橋 慶治		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月1	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	チベット語初級				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、とくに現代チベット文語の資料をもとにチベット語の初級文法を学ぶ。これによって、現代口語を理解することができるとともに、古典文法への橋渡しともなる。</p> <p>チベット語は日本語と類似した特徴もあり、日本人にとっては学びやすい言語であると言える。しかし、文字体系は複雑であり、また、動詞の屈折や助動詞の使い方には学習に困難な面もある。</p> <p>1年間の授業で簡単な読み物が読める程度の文法知識を身につけることを目標とする。</p>					
[到達目標]					
前期はチベット文字およびその読み方を習得し、チベット語の名詞の構造、文での使い方を理解する。					
[授業計画と内容]					
<p>授業の際に配布するプリントに従って、おおよそ以下の順序で文法を解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション（1週） 2. 文字と発音（4週） 3. 名詞（4週） 4. 形容詞（1週） 5. 助動詞（3週） 6. まとめ（1週） 7. フィードバック（1週） <p>「概要・目的」欄に書いたように、日本語話者にとってチベット語はとくに難しい言語ではない。授業は、文字の習得から始め、日本語と異なる特徴を示す点についてはできる限り丁寧に説明を加えながら、段階的に文法の複雑なレベルに進む。</p> <p>受講生は、理解できない点を積極的に質問することが期待される。</p>					
チベット語（初級）(語学)(2)へ続く					

チベット語（初級）(語学)(2)

【履修要件】

特にないが、後期のチベット語（初級）をあわせて受講することが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

成績は、学期末に行う試験（100％）によって決定する。
チベット語の文法事項を十分に理解していることが期待される。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

語学の授業であるので、受講生は予習・復習を行わなければ授業についていけなくなる。とくに、前期ではチベット文字、後期では動詞の屈折について何度も繰り返し復習する必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学75

科目ナンバリング	G-LET49 89629 LJ48				
授業科目名 <英訳>	チベット語（初級）（語学） Tibetan	担当者所属・ 職名・氏名	愛知県立大学 外国語学部 教授 高橋 慶治		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月1	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	チベット語初級				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、とくに現代チベット文語の資料をもとにチベット語の初級文法を学ぶ。これによって、現代口語を理解することができるとともに、古典文法への橋渡しともなる。</p> <p>チベット語は日本語と類似した特徴もあり、日本人にとっては学びやすい言語であると言える。しかし、文字体系は複雑であり、また、動詞の屈折や助動詞の使い方には学習に困難な面もある。</p> <p>1年間の授業で簡単な読み物が読める程度の文法知識を身につけることを目標とする。</p>					
[到達目標]					
後期は動詞の屈折を中心として学び、文の構造を理解する。					
[授業計画と内容]					
<p>前期のチベット語（初級）に引き続き、チベット語初級文法を解説する。授業の際に配布するプリントに従って、おおよそ以下の順序で文法を解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 動詞（5週） 2. 複文他（5週） 3. チベット語テキスト演習（4週） 4. フィードバック（1週） <p>基本的な文法の解説を終えた後は、性格の異なる短い文章をできる限り読み、実践的なチベット語の習得を目指す。</p>					
[履修要件]					
前期のチベット語（初級）を受講していることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
成績は、学期末に行う試験（100％）によって決定する。 チベット語の文法事項を十分に理解していることが期待される。					
[教科書]					
プリントを配布する。					
----- チベット語（初級）（語学）(2)へ続く -----					

チベット語（初級）(語学)(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

語学の授業であるので、受講生は予習・復習を行わなければ授業についていけなくなる。とくに、前期ではチベット文字、後期では動詞の屈折について何度も繰り返し復習する必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学76

科目ナンバリング		G-LET49 89630 LJ48			
授業科目名 <英訳>	チベット語（中級）(語学) Tibetan	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 宮崎 泉		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水1	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	チベット語（中級）				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業は、チベット語初級を学んだ学生がチベット語文献を読解しながら、チベット語文法に対する理解をさらに深め、チベット語文献の読解能力を高めることを目的とする。本年度は仏教文献を取り上げるが、仏教文献の中で使われるチベット語も多様であるため、なるべく多くの分野の仏教文献を取り上げることで、広い分野の仏教文献に対処できる基礎的な能力を身につけることを目指す。</p>					
[到達目標]					
チベット語文法に対する理解を深め、多様なチベット語文献を読解する能力を習得することを目的とする。					
[授業計画と内容]					
<p>この授業では、時代によるチベット語自体の違いや、翻訳文献の中でも経典や注釈といったスタイルの違いも網羅するために、以下のような文献を順に取り上げる予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 古チベット語を含むチベット撰述仏教文献 2. サンスクリット経典からの翻訳文献 3. サンスクリット注釈からの翻訳文献 <p>それぞれの文献の読解にあたり、そこに現れるチベット語の特徴を解説し、読解に必要な内容の説明を行う。その後各文献を四から五週程度かけて輪読する。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 チベット語テキストの輪読 第15回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
チベット語初級文法を終えていること。読解に必要な仏教の知識は授業の中で説明するので、仏教に関する知識は前提としない。後期のチベット語（中級）をあわせて受講することが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点。授業中の発表により評価する。					
[教科書]					
授業中にプリントを配布する。					
----- チベット語（中級）(語学)(2)へ続く -----					

チベット語（中級）(語学)(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

それぞれのチベット語文献の性格に注意しながら予習し、問題点を整理しておくことが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学77

科目ナンバリング		G-LET49 89630 LJ48			
授業科目名 <英訳>	チベット語（中級）(語学) Tibetan	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 宮崎 泉		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水1	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	チベット語（中級）				
[授業の概要・目的]					
この授業は、チベット語初級を学んだ学生がチベット語文献を読解しながら、チベット語文法に対する理解をさらに深め、チベット語文献の読解能力を高めることを目的とする。本年度は仏教文献を取り上げるが、仏教文献の中で使われるチベット語も多様であるため、なるべく多くの分野の仏教文献を取り上げることで、広い分野の仏教文献に対処できる基礎的な能力を身につけることを目指す。					
[到達目標]					
チベット語文法に対する理解を深め、多様なチベット語文献を読解する能力を習得することを目的とする。					
[授業計画と内容]					
この授業では、独立した論書と他の論書に対する注釈といった翻訳文献中のスタイルの違いや、翻訳文献とチベット撰述文献の相違に対する理解を深めるため、以下のような文献を順に取り上げる予定である。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. サンスクリット論書からの翻訳文献 2. サンスクリット注釈からの翻訳文献 3. チベット撰述古典チベット語文献 					
それぞれの文献の読解にあたり、そこに現れるチベット語の特徴を解説し、読解に必要な内容の説明を行う。その後各文献を四から五週程度かけて輪読する。					
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 チベット語テキストの輪読 第15回 フィードバック					
[履修要件]					
チベット語初級文法を終えていること。読解に必要な仏教の知識は授業の中で説明するので、仏教に関する知識は前提としない。前期のチベット語（中級）を受講していることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点。授業中の発表により評価する。					
[教科書]					
授業中にプリントを配布する。					
----- チベット語（中級）(語学)(2)へ続く -----					

チベット語（中級）(語学)(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

それぞれのチベット語文献の性格に注意しながら予習し、問題点を整理しておくことが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学78

科目ナンバリング	G-LET15 63131 LJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋古典学（特殊講義） Greek and Latin Classics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 河島 思朗		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	ホラーティウス『カルミナ』精読I				
[授業の概要・目的]					
<p>古代ローマの詩人ホラーティウスの抒情詩『カルミナ』を精読する。ラテン語テキストの読解力を高めるとともに、ホラーティウスの詩作の工夫を読み解くことを目的とする。また関連する文献など受講者の関心に合わせて適宜講読する。</p> <p>授業では、毎週担当を決めてテキストの精読をおこなう。その該当箇所についてコメントリーなどを参考にしながら、履修者全員で議論する。</p>					
[到達目標]					
<p>ラテン語原典の読解力を身につける。</p> <p>古代ローマの社会・文化を理解する。</p> <p>作品の性質を理解し、作品の意図を考察できるようになる。</p> <p>テキストの内容について議論する能力を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>ホラーティウスの『カルミナ』はラテン文学における抒情詩を代表する作品のひとつである。ギリシアから受け継いだ韻律を用い、巧みなラテン語の技法を駆使して編まれた作品を読解する。授業では毎回数歌ずつ読み進め、履修者相互で議論しながらラテン詩の理解を深める。したがって、議論の発展次第で進路は予定より早くまたは遅くなる可能性がある。具体的な講読箇所は最初の授業で指示する。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回～13回：『カルミナ』精読 第14回：全体のまとめ 第15回：フィードバック フィードバックの方法については授業中に指示する。</p>					
[履修要件]					
ラテン語文法を修得していること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点で評価する。					
----- 西洋古典学（特殊講義）(2)へ続く -----					

西洋古典学（特殊講義）(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の授業の前には、テキストや注釈を熟読すること。
また授業後には、授業中に出された議論を整理し、疑問点について解決をおこなうこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学79

科目ナンバリング	G-LET15 63131 LJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋古典学（特殊講義） Greek and Latin Classics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 河島 思朗		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	ホラーティウス『カルミナ』精読II				
[授業の概要・目的]					
<p>古代ローマの詩人ホラーティウスの抒情詩『カルミナ』を精読する。ラテン語テキストの読解力を高めるとともに、ホラーティウスの詩作の工夫を読み解くことを目的とする。また関連する文献など受講者の関心に合わせて適宜講読する。</p> <p>授業では、毎週担当を決めてテキストの精読をおこなう。その該当箇所についてコメントリーなどを参考にしながら、履修者全員で議論する。</p>					
[到達目標]					
<p>ラテン語原典の読解力を身につける。</p> <p>古代ローマの社会・文化を理解する。</p> <p>作品の性質を理解し、作品の意図を考察できるようになる。</p> <p>テキストの内容について議論する能力を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>ホラーティウスの『カルミナ』はラテン文学における抒情詩を代表する作品のひとつである。ギリシアから受け継いだ韻律を用い、巧みなラテン語の技法を駆使して編まれた作品を読解する。授業では毎回数歌ずつ読み進め、履修者相互で議論しながらラテン詩の理解を深める。したがって、議論の発展次第で進路は予定より早くまたは遅くなる可能性がある。前期の続きから読み始めるため、具体的な講読箇所は最初の授業で指示する。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回～13回：『カルミナ』精読 第14回：全体のまとめ 第15回：フィードバック フィードバックの方法については授業中に指示する。</p>					
[履修要件]					
ラテン語文法を修得していること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点で評価する。					
----- 西洋古典学（特殊講義）(2)へ続く -----					

西洋古典学（特殊講義）(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の授業の前には、テキストや注釈を熟読すること。
また授業後には、授業中に出された議論を整理し、疑問点について解決をおこなうこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学80

科目ナンバリング	G-LET15 63131 LJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋古典学（特殊講義） Greek and Latin Classics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 河島 思朗		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	オウィディウス『変身物語』精読I				
[授業の概要・目的]					
<p>古代ローマの詩人オウィディウスの『変身物語』を精読し、ラテン語読解能力を高めるとともに、神話や古代ローマの文化の理解を深めることを目的とする。</p> <p>授業では、毎週担当を決めてテキストの精読をおこなう。その該当箇所についてコメントリーなどを参考にしながら、履修者全員で議論する。</p>					
[到達目標]					
<p>ラテン語原典の読解力を身につける。</p> <p>古代ローマの文化や神話を理解する。</p> <p>叙事詩という性質を理解し、作品の意図を考察できるようになる。</p> <p>テキストの内容について議論する能力を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>オウィディウスは恋愛詩人として活躍していたが、叙事詩『変身物語』を創作した。この作品は、様々な神話を内包する叙事詩である。授業では毎回数節ずつ読み進め、履修者相互で議論しながら文学意図や物語の理解を深める。したがって、議論の発展次第で進路は予定より早くまたは遅くなる可能性がある。具体的な講読箇所は最初の授業で指示する。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回～13回：『変身物語』精読 第14回：全体のまとめ 第15回：フィードバック フィードバックの方法については授業中に指示する。</p>					
[履修要件]					
ラテン語文法を修得していること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点で評価する。					
[教科書]					
プリントを配布する。					
----- 西洋古典学（特殊講義）(2)へ続く -----					

西洋古典学（特殊講義）(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の授業の前には、テキストや注釈を熟読すること。
また授業後には、授業中に出された議論を整理し、疑問点について解決をおこなうこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学81

科目ナンバリング		G-LET15 63131 LJ36			
授業科目名 <英訳>	西洋古典学（特殊講義） Greek and Latin Classics (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 河島 思朗	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	オウィディウス『変身物語』精読II				
[授業の概要・目的]					
<p>古代ローマの詩人オウィディウスの『変身物語』を精読し、ラテン語読解能力を高めるとともに、神話や古代ローマの文化の理解を深めることを目的とする。</p> <p>授業では、毎週担当を決めてテキストの精読をおこなう。その該当箇所についてコメントリーなどを参考にしながら、履修者全員で議論する。</p>					
[到達目標]					
<p>ラテン語原典の読解力を身につける。</p> <p>古代ローマの文化や神話を理解する。</p> <p>叙事詩という性質を理解し、作品の意図を考察できるようになる。</p> <p>テキストの内容について議論する能力を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>オウィディウスは恋愛詩人として活躍していたが、叙事詩『変身物語』を創作した。この作品は、様々な神話を内包する叙事詩である。授業では毎回数節ずつ読み進め、履修者相互で議論しながら文学意図や物語の理解を深める。したがって、議論の発展次第で進路は予定より早くまたは遅くなる可能性がある。具体的な講読箇所は最初の授業で指示する。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回～13回：『変身物語』精読 第14回：全体のまとめ 第15回：フィードバック フィードバックの方法については授業中に指示する。</p>					
[履修要件]					
ラテン語文法を修得していること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点で評価する。					
[教科書]					
プリントを配布する。					
----- 西洋古典学（特殊講義）(2)へ続く -----					

西洋古典学（特殊講義）(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の授業の前には、テキストや注釈を熟読すること。
また授業後には、授業中に出された議論を整理し、疑問点について解決をおこなうこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET15 63131 LJ36			
授業科目名 <英訳>	西洋古典学（特殊講義） Greek and Latin Classics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 堀尾 耕一		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	アリストテレス『弁論術』の構想				
【授業の概要・目的】					
<p>古典期のアテナイでは、発言権の平等（isonomia）および言論の自由（parrhêsia）のもと、ひろく政治や司法など社会生活の全般において弁論の力が意思決定を左右し、公の場において他者を説得する技術、すなわち弁論術（technê rhêtorikê）がひとつの自覚的な営みとして定着する。多数者の賛同を目指すこうした言説のあり方を強く批判したプラトンは、これを斥けるかたちで問答法（dialektikê）の意義を強調したが、アリストテレスは弁論術を問答法と一対をなす技術と位置づけ、その役割を再定義する。本講義では、アテナイの弁論文化を概観したうえで、哲学者アリストテレスがその活動の円熟期に弁論術講義を構想するに至った道筋をたどる。</p>					
【到達目標】					
<p>先行学説等ではなく、可能なかぎり原典資料そのものの検討から出発し、そこから読み取ることのできる思索と対峙すること。またそれを自らの問題関心と接続していくこと。こうした訓練の契機となれば幸いである。</p>					
【授業計画と内容】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに：「哲学」対「弁論術」その抗争の歴史 2. アテナイにおける弁論家の活動（アンティフォン、リュシ阿斯、イソクラテス） 3. プラトンによるレトリック批判（『ゴルギアス』、『パイドロス』、『メネクセノス』） 4. アリストテレス『弁論術』序論の検討 5. 論理学の一形態として（『トピカ』、『ソフィスト的論駁』、『分析論』） 6. 政治学＝倫理学の派生部門として（『政治学』、『ニコマコス倫理学』） 7. 『弁論術』第1・2巻の構想 8. 弁論術的説得の本体としてのピスティス（証し立て）：言論・人柄・感情 9. 弁論術的推論＝エンテュメーマ（想到法）をめぐって 10. 弁論術的命題＝ありそうなこと（蓋然性）について 11. 「修辞学」＝言語表現の美質について 12. 『弁論術』全3巻の構想 13. 『弁論術』の後代への影響 i：教養学課（ars liberalis）としてのレトリック 14. 『弁論術』の後代への影響 ii：ホップズ、ニーチェほか 15. まとめ：弁論術の可能性について 					
----- 西洋古典学（特殊講義）(2)へ続く -----					

西洋古典学（特殊講義）(2)

【履修要件】

古典ギリシア語の知識を有することが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

数回ごとに簡単な感想文を提出してもらい、これを平常点として加味したうえで（30%）、最終レポート（4,000字程度）により成績を評価する。

【教科書】

事前に資料集（ギリシア語原典の抜粋およびその和訳）を作成し、配布する予定である。

【参考書等】

（参考書）

堀尾耕一 訳 『アリストテレス「弁論術」（新版アリストテレス全集 18）』（岩波書店 2017年）

ISBN:978-4000927888

浅野梢英 『論証のレトリック - 古代ギリシアの言論の技術』（ちくま学芸文庫 2018年）ISBN:978-4480098603

廣川洋一 『イソクラテスの修辞学校』（講談社学術文庫 2005年）ISBN:978-4061597181

（関連URL）

<https://www.humaniores.org/>（【東京古典学会】）

【授業外学修（予習・復習）等】

配布予定の資料集、また上記の参考文献等にあらかじめ目を通しておくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

参加者の積極的な質問、発言、問題提起を歓迎する。

問い合わせは次のメールアドレスまで：horio@zephyr.dti.ne.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学83

科目ナンバリング	G-LET15 73141 SJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 助教 竹下 哲文		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	テオプラストス『人さまざま』講読				
【授業の概要・目的】					
この授業では、ギリシア語文法を学んだ人を対象として、テオプラストス『人さまざま』の講読を行なう。「皮肉屋」や「噂好き」といった性格類型を簡潔ながら活々と描き出した本作を精読することで、ギリシア語の読解能力を高めるとともに、彼の同時代人で弟子であったとも言われるメナンドロスの「写実主義」との関係についても理解を深める。また、最近刊行された注釈書を用いつつ、解釈上および本文批判上の問題についても検討する。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 原典の精読を通してギリシア語を読む力を高める ・ 辞書や注釈書を実際に数多く用いてその利用法に習熟する 					
【授業計画と内容】					
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進捗によっては15回を講読に充てる場合もあります。					
【履修要件】					
ギリシア語文法を修得していること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
(参考書)					
J. Diggle (ed.) 『Theophrastus: Characters』 (Cambridge University Press, 2022) ISBN:9781108831284					
【授業外学修(予習・復習)等】					
テキストと注釈を読み、予習と復習を行うこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学84

科目ナンバリング		G-LET15 73141 SJ36			
授業科目名 <英訳>	西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	大阪大学大学院人文学研究科 平山 晃司 教授	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ルーキアーノス小品講読				
【授業の概要・目的】					
<p>哲学的対話の形式に喜劇やサテュロス劇の滑稽さ、イアンボス詩の痛罵と嘲笑、強烈な皮肉や辛辣な揶揄をユーモアで包み込む犬儒派的エスプリなどの様々な要素を盛り込み、独自の作風を確立したルーキアーノス(120頃~180以降)の多彩な作品群の中から、比較的短いものを幾つか選んで精読する。</p>					
【到達目標】					
ギリシア語の読解力を向上させる。					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 導入 第2回~第15回 訳読</p>					
【履修要件】					
ギリシア語文法を修得済みであること。					
【成績評価の方法・観点】					
出席状況、訳読の出来の良否などを勘案し、平常点によって評価する。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
毎回の授業に備えて指定された範囲のテキストと注釈を丁寧に読んでおくこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学85

科目ナンバリング	G-LET15 73141 SJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 助教 竹下 哲文		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	メナンドロス『人間嫌い』講読				
[授業の概要・目的]					
この授業では、ギリシア語文法を学んだ人を対象として、メナンドロス『人間嫌い』の講読を行なう。ギリシア新喜劇の代表的作家であるメナンドロスの『人間嫌い』を精読することで、その性格描写を鑑賞するとともに、彼の作風を特徴づけるとされる「写実主義」について理解を深める。また、注釈書や校訂本を比較しつつ、解釈上および本文批判上の問題についても検討する。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・原典の精読を通してギリシア語を読む力を高める ・辞書や注釈書を実際に数多く用いてその利用法に習熟する ・ギリシア喜劇の韻律や構成についての知識を深める 					
[授業計画と内容]					
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進度によっては15回を講読に充てる場合もあります。					
[履修要件]					
ギリシア語文法を修得していること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点。					
[教科書]					
授業中に指示する					
[参考書等]					
(参考書)					
E.W. Handley (ed.) 『The Dyskolos of Menander』 (Bristol Classical Press, 1965) ISBN:1853991872					
[授業外学修(予習・復習)等]					
テキストと注釈を読み、予習と復習を行うこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学86

科目ナンバリング	G-LET15 73141 SJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 助教 竹下 哲文		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ヘーシオドス『仕事と日』精読				
【授業の概要・目的】					
ギリシア語文法を学んだ人を対象として、ヘーシオドス『仕事と日』を精読する。農耕や航海の技術に加えて種々の説話を交えつつ、正義(dike)と繁栄(arete)の道を模索する本作の講読を通して、叙事詩の韻律や文体に習熟することを目指すと共に、注釈書を用いて本文や解釈上の問題についても検討する。					
【到達目標】					
ギリシア語原典(韻文)の読解力を高める。 古典作品の伝承と受容について知識を深める。					
【授業計画と内容】					
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 テクストの精読 第15回 フィードバック 授業の進捗によっては15回を講読に充てる場合もあります。					
【履修要件】					
ギリシア語文法を修得していること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点で評価する。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
原典と注釈を熟読すること。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学87

科目ナンバリング		G-LET15 73141 SJ36			
授業科目名 <英訳>	西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 助教 竹下 哲文	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ヘーシオドス『仕事と日』精読				
【授業の概要・目的】					
ギリシア語文法を学んだ人を対象として、ヘーシオドス『仕事と日』を精読する。農耕や航海の技術に加えて種々の説話を交えつつ、正義(dike)と繁栄(arete)の道を模索する本作の講読を通して、叙事詩の韻律や文体に習熟することを目指すと共に、注釈書を用いて本文や解釈上の問題についても検討する。					
【到達目標】					
ギリシア語原典(韻文)の読解力を高める。 古典作品の伝承と受容について知識を深める。					
【授業計画と内容】					
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 テクストの精読 第15回 フィードバック 授業の進捗によっては15回を講読に充てる場合もあります。					
【履修要件】					
ギリシア語文法を修得していること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点で評価する。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
原典と注釈を熟読すること。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング		G-LET15 73141 SJ36			
授業科目名 <英訳>	西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 河島 思朗	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西洋古典学演習I				
[授業の概要・目的]					
西洋古典学に関する専門知識を得るとともに、受講者が自身の研究テーマに即して報告をおこない、参加者全員で討論する。研究報告と討論を通じて研究テーマに関する理解を深めるとともに、研究を進める上での問題点を認識し、研究を発展させることを目標とする。					
[到達目標]					
この授業の到達目標は以下の通り。 <ul style="list-style-type: none"> ・西洋古典学に関する専門知識を修得することができる。 ・自らの研究テーマを設定し発展させることができる。 ・独自性を追求できる能力を身につける。 					
[授業計画と内容]					
参加者は自身の研究テーマについて複数回の発表をおこなう。研究課題の設定、先行研究の収集と批判的検討、研究方法の吟味、テキストの精読が必要となる。また討論に積極的に参加し、研究の協働をおこなうことが求められる。					
第1回：イントロダクション 論文の書き方や研究の進め方について 第2回～14回：担当者による発表と全体討論 第15回：フィードバック					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
研究報告や討論への参加などの平常点および学期末のレポート					
[教科書]					
使用しない					
----- 西洋古典学(演習) (2)へ続く -----					

西洋古典学(演習) (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

先行研究の収集と批判的検討、研究方法の吟味、テキストの精読など研究の基礎となる作業に加えて、発表の準備や討論を経て明らかになった問題点について再検討する必要がある。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET15 73141 SJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 河島 思朗		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西洋古典学演習II				
[授業の概要・目的]					
西洋古典学に関する専門知識を得るとともに、受講者が自身の研究テーマに即して報告をおこない、参加者全員で討論する。研究報告と討論を通じて研究テーマに関する理解を深めるとともに、研究を進める上での問題点を認識し、研究を発展させることを目標とする。					
[到達目標]					
この授業の到達目標は以下の通り。 <ul style="list-style-type: none"> ・西洋古典学に関する専門知識を修得することができる。 ・自らの研究テーマを設定し発展させることができる。 ・独自性を追求できる能力を身につける。 					
[授業計画と内容]					
参加者は自身の研究テーマについて複数回の発表をおこなう。研究課題の設定、先行研究の収集と批判的検討、研究方法の吟味、テキストの精読が必要となる。また討論に積極的に参加し、研究の協働をおこなうことが求められる。					
第1回：イントロダクション 論文の書き方や研究の進め方について 第2回～14回：担当者による発表と全体討論 第15回：フィードバック					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
研究報告や討論への参加などの平常点および学期末のレポート					
[教科書]					
使用しない					
----- 西洋古典学(演習) (2)へ続く -----					

西洋古典学(演習) (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

先行研究の収集と批判的検討、研究方法の吟味、テキストの精読など研究の基礎となる作業に加えて、発表の準備や討論を経て明らかになった問題点について再検討する必要がある。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET15 73141 SJ36			
授業科目名 <英訳>	西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	兵庫県立大学環境人間学研究所 西村 洋平 准教授		
配当学年	全回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	プラトン『カルミデス』を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>プラトン(427-347 BC)の『カルミデス』の原典を精読する。いわゆる「ソクラテ斯的対話篇」の一つとされる本著作では、「ソープロシュネー(節制)」とは何かをめぐって議論が交わされる。「もの静かさ」や「恥」といった一般的規定から、「自己自身を知ること」や「知の知」といった知的要素を含んだ定義が示されるが、いずれもソクラテスによって批判的に吟味され、不十分とされる。</p> <p>「ソープロシュネー」は、プラトンの主著『国家』はもちろんのこと、古代ギリシア思想全体をみても重要な徳であるだけでなく、ソクラテスの「無知の知」とも密接に関わる。また、ソクラテスの対話相手が、三十人政権のメンバーともなるクリティアスやカルミデスであることから、その歴史的背景やプラトンの政治思想との関連を指摘する論者も多い。本授業では、『カルミデス』の精読を通して、本対話篇がはらむ多岐にわたる問題群に複眼的視点を持って向き合いながら、プラトン哲学の理解の深化を目指す。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典ギリシア語で書かれた文献を正確に読むことができるようになる。 ・ 注釈書・研究書を批判的に読み、また自らの訳・注を作成することによって、文献学的研究の基礎能力を身につけることができる。 ・ 文献解釈に関わる論文作成において、テキストにもとづいた議論を展開することができるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション 最初に『カルミデス』の内容および思想史的位置づけについて説明を行う。次に演習参加に当たって参照すべき注釈書や研究書を紹介し、授業形式について詳しい説明を行う。</p> <p>第2回～第14回 プラトン『カルミデス』精読 『カルミデス』を冒頭から精読していく。毎回参加者全員が少しずつ訳読する形式を採用し、教科書として挙げた Oxford Classical Text の2ページを目安に読み進める。</p> <p>第15回 まとめ 前期に読んだテキストの内容および授業期間中に提起された議論を振り返りながら、参加者全員で議論を行う。きりのよいところまで読み進められなかった場合は、この回も精読に当てることがある。</p>					
----- 西洋古典学(演習)(2)へ続く -----					

西洋古典学(演習)(2)

[履修要件]

古典ギリシア語の初級文法を習得していること。

[成績評価の方法・観点]

成績は、授業での取り組み（80点）と、議論への積極的な参加（20点）によって算出する。「授業での取り組み」は、毎回範囲となる箇所のため、注釈書や文法書にあたって準備できているか、また哲学的な議論の理解のために注釈等に参照して予習ができているのかを評価する。

[教科書]

J. Burnet 『Platonis Opera III (Oxford Classical Text)』 (Oxford, 1903)
使用するテキストのコピーは授業で配布する。

[参考書等]

(参考書)

Tsouna, Voula 『Plato's Charmides. An Interpretative Commentary』 (Cambridge U.P., 2022) ISBN:978-1-316-51111-4

Wolf, Raphael 『Plato's Charmides』 (Cambridge U.P. 2023) ISBN:978-1-009-30819-9

Tuozzo, Thomas M. 『Plato's Charmides. Positive Elenchus in a "Socratic" Dialogue』 (Cambridge U.P. 2011)

そのほか授業でも紹介する。

毎回読んでくるコメントリーや参照すべき諸外国語訳等の資料のコピーは授業で配布する。

[授業外学修（予習・復習）等]

授業前に古典ギリシア語で書かれたテキストを読んで準備する必要がある。授業中にその場で訳読できるように準備する必要があり、能力によって個人差はあるが5時間程度かかるだろう。どのような準備を具体的にすべきかについては、初回のイントロダクションで説明する。

(その他（オフィスアワー等）)

演習の課題の都合上、きりのよいところまで読み進めるために、授業時間を延長することがある。延長時間における参加は成績評価にさいして考慮せず、正規の授業終了時間に退席しても問題ないが、授業でなされる議論の詳細を知るためには延長時間も参加する必要がある。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET15 73141 SJ36			
授業科目名 <英訳>	西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	兵庫県立大学環境人間学研究所 西村 洋平 准教授	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	プラトン『カルミデス』を読む				
【授業の概要・目的】					
<p>プラトン(427-347 BC)の『カルミデス』の原典を精読する。いわゆる「ソクラテ斯的対話篇」の一つとされる本著作では、「ソープロシュネー(節制)」とは何かをめぐって議論が交わされる。「もの静かさ」や「恥」といった一般的規定から、「自己自身を知ること」や「知の知」といった知的要素を含んだ定義が示されるが、いずれもソクラテスによって批判的に吟味され、不十分とされる。</p> <p>「ソープロシュネー」は、プラトンの主著『国家』はもちろんのこと、古代ギリシア思想全体をみても重要な徳であるだけでなく、ソクラテスの「無知の知」とも密接に関わる。また、ソクラテスの対話相手が、三十人政権のメンバーともなるクリティアスやカルミデスであることから、その歴史的背景やプラトンの政治思想との関連を指摘する論者も多い。本授業では、『カルミデス』の精読を通して、本対話篇がはらむ多岐にわたる問題群に複眼的視点を持って向き合いながら、プラトン哲学の理解の深化を目指す。</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典ギリシア語で書かれた文献を正確に読むことができるようになる。 ・ 注釈書・研究書を批判的に読み、また自らの訳・注を作成することによって、文献学的研究の基礎能力を身につけることができる。 ・ 文献解釈に関わる論文作成において、テキストにもとづいた議論を展開することができるようになる。 					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 イン트로ダクション 最初に前期まで読んだ『カルミデス』の内容について復習・おさらい、論点の整理などを行う。次に演習参加に当たって参照すべき注釈書や研究書を再度紹介し、授業形式について詳しい説明を行う。</p> <p>第2回～第14回 プラトン『カルミデス』精読 『カルミデス』を前期に続けて精読していく。毎回参加者全員が少しずつ訳読する形式を採用し、教科書として挙げた Oxford Classical Text の2ページを目安に読み進める。</p> <p>第15回 まとめ 後期に読んだテキストの内容および授業期間中に提起された議論を振り返りながら、参加者全員で議論を行う。きりのよいところまで読み進められなかった場合は、この回も精読に当てることがある。</p>					
----- 西洋古典学(演習) (2)へ続く -----					

西洋古典学(演習) (2)

[履修要件]

古典ギリシア語の初級文法を習得していること。

[成績評価の方法・観点]

成績は、授業での取り組み（80点）と、議論への積極的な参加（20点）によって算出する。「授業での取り組み」は、毎回範囲となる箇所の訳のために、注釈書や文法書にあたって準備できているか、また哲学的な議論の理解のために注釈等に参照して予習ができているのかを評価する。

[教科書]

J. Burnet 『Platonis Opera III (Oxford Classical Text)』 (Oxford, 1903)
使用するテキストのコピーは授業で配布する。

[参考書等]

(参考書)

Tsouna, Voula 『Plato's Charmides. An Interpretative Commentary』 (Cambridge U.P., 2022) ISBN:978-1-316-51111-4

Wolf, Raphael 『Plato's Charmides』 (Cambridge U.P. 2023) ISBN:978-1-009-30819-9

Tuozzo, Thomas M. 『Plato's Charmides. Positive Elenchus in a "Socratic" Dialogue』 (Cambridge U.P. 2011)

そのほか授業でも紹介する。

毎回読んでくるコメントリーや参照すべき諸外国語訳等の資料のコピーは授業で配布する。

[授業外学修（予習・復習）等]

授業前に古典ギリシア語で書かれたテキストを読んで準備する必要がある。授業中にその場で訳読できるように準備する必要があり、能力によって個人差はあるが5時間程度かかるだろう。どのような準備を具体的にすべきかについては、初回のイントロダクションで説明する。

(その他（オフィスアワー等）)

演習の課題の都合上、きりのよいところまで読み進めるために、授業時間を延長することがある。延長時間における参加は成績評価にさいして考慮せず、正規の授業終了時間に退席しても問題ないが、授業でなされる議論の詳細を知るためには延長時間も参加する必要がある。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学92

科目ナンバリング		G-LET15 73151 LJ36			
授業科目名 <英訳>	西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 助教 竹下 哲文	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火4	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ラテン語中級講読				
[授業の概要・目的]					
ラテン語の初級文法を学んだ人を対象として、前年度に引き続き、サルスティウス『カティリーナの陰謀』(およびキケロー『カティリーナ弾劾演説』, 『カエリウス弁護演説』)を教材に講読を行う。					
[到達目標]					
ラテン語散文に親しみ、基本的な感覚を身につける 語彙を増やし、複雑な文章にも対応できる力をつける 古代ローマの文化や歴史を理解する 辞書や注釈など工具書の扱いに習熟する					
[授業計画と内容]					
初級文法で学んだ内容を適宜振り返りつつ、実際の古典ラテン語原文の読解を進めていきます。熟語や類義語に注意を払いながら、辞書や注釈をどのように見ていくかといった点についても少しずつ習熟していくことを目指します。 第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進度によっては15回を講読に充てる場合もあります。					
[履修要件]					
ラテン語初級文法を既習得であること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点。					
[教科書]					
プリントを配布。					
----- 西洋古典学(講読)(2)へ続く -----					

西洋古典学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)

Hans H. Ørberg 『Catilina ex C. Sallustii Crispi De Catilinae coniuratione libro et M. Tullii Ciceronis orationibus in Catilinam』 (Edizioni Accademia Vivarium Novum 2019 (orig. 1999)) ISBN: 9788895611259

[授業外学修(予習・復習)等]

テキストと注釈を読み，予習と復習を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学93

科目ナンバリング		G-LET15 73151 LJ36			
授業科目名 <英訳>	西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 助教 竹下 哲文	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火4	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ラテン語中級講読				
[授業の概要・目的]					
ラテン語の初級文法を学んだ人を対象として、前期に引き続き、サルスティウス『カティリーナの陰謀』(およびキケロー『カティリーナ弾劾演説』, 『カエリウス弁護演説』)を教材に講読を行う。					
[到達目標]					
ラテン語散文に親しみ、基本的な感覚を身につける 語彙を増やし、複雑な文章にも対応できる力をつける 古代ローマの文化や歴史を理解する 辞書や注釈など工具書の扱いに習熟する					
[授業計画と内容]					
初級文法で学んだ内容を適宜振り返りつつ、実際の古典ラテン語原文の読解を進めていきます。熟語や類義語に注意を払いながら、辞書や注釈をどのように見ていくかといった点についても少しずつ習熟していくことを目指します。 第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進度によっては15回を講読に充てる場合もあります。					
[履修要件]					
ラテン語初級文法を既習得であること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点。					
[教科書]					
プリントを配布。					
----- 西洋古典学(講読)(2)へ続く -----					

西洋古典学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)

Hans H. Ørberg 『Catilina ex C. Sallustii Crispi De Catilinae coniuratione libro et M. Tullii Ciceronis orationibus in Catilinam』 (Edizioni Accademia Vivarium Novum 2019 (orig. 1999)) ISBN: 9788895611259

[授業外学修(予習・復習)等]

テキストと注釈を読み、予習と復習を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学94

科目ナンバリング		G-LET15 73151 LJ36			
授業科目名 <英訳>	西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 山下 修一	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火2	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	古典ギリシア語中級講読				
[授業の概要・目的]					
古典ギリシア語の初級文法を学習した者を対象に、クセノポーン『アナバシス』の精読を通して、古典ギリシア語の基礎力を養成する。					
[到達目標]					
既習のギリシア語文法を確認しながら、辞書・文法書・注釈書を用いて、平易なギリシア語散文を読む力を養う。					
[授業計画と内容]					
クセノポーンの平明な散文を読むことで、今後の原典講読に必要とされる古典ギリシア語の読解力を養成することを目指す。そのために、テキストに沿って文法事項の復習をおこなう一方、辞書・文法書・注釈書の活用法の習得と語彙の増強を図りながら、原文を精読する。 授業は、出席者に訳読をしてもらう形式で進める。毎回2～3ページを読み進める予定である。参加者には、予習はもちろん、毎回の授業の復習が求められる。 初回の授業では、授業の進め方や履修にあたっての注意点を説明する。また、テキストや注釈書の使用方法を説明する。第2回の授業から読解を進めていく。					
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 読解 第15回 フィードバック(まとめ)					
[履修要件]					
古典ギリシア語の初級文法を既習のこと。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点評価。(必要に応じて学期末テストを行う予定である。)					
[教科書]					
E. C. Marchant (ed.) 『Xenophontis Opera Omnia, Expeditio Cyri』 (Oxford University Press) ISBN: 9780198145547 (テキスト) コピーを配布する。					
[参考書等]					
(参考書) Maurice W. Mather, Joseph Hewitt 『Xenophon's Anabasis: Book 1-4』 (University of Oklahoma Press) ISBN:9780806113470					
----- 西洋古典学(講読)(2)へ続く -----					

西洋古典学(講読)(2)

コピーを配布する。

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の授業には、指定された範囲を予習した上で受講すること。

（その他（オフィスアワー等））

この授業はzoomを利用したオンラインでの双方向授業となります。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学95

科目ナンバリング		G-LET15 73151 LJ36			
授業科目名 <英訳>	西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 山下 修一	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火2	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	古典ギリシア語中級講読				
[授業の概要・目的]					
古典ギリシア語の初級文法を学習した者を対象に、ヘロドトスの『歴史』の精読を通して、古典ギリシア語の基礎力を養成する。					
[到達目標]					
既習のギリシア語文法を確認しながら、辞書・文法書・注釈書を用いて、平易なギリシア語散文を読む力を養う。					
[授業計画と内容]					
<p>ヘロドトスの平明な散文を読むことで、今後の原典講読に必要とされる古典ギリシア語の読解力を養成することを目指す。そのために、テキストに沿って文法事項の復習をおこなう一方、辞書・文法書・注釈書の活用法の習得と語彙の増強を図りながら、原文を精読する。</p> <p>授業は、出席者に訳読をしてもらう形式で進める。毎回2～3ページを読み進める予定である。参加者には、予習はもちろん、毎回の授業の復習が求められる。</p> <p>初回の授業では、授業の進め方や履修にあたっての注意点を説明する。また、テキストや注釈書の使用方法を説明する。第2回の授業から読解を進めていく。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 読解 第15回 フィードバック(まとめ)</p>					
[履修要件]					
古典ギリシア語の初級文法を既習のこと。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点評価。(必要に応じて学期末テストを行う予定である。)					
[教科書]					
N. G. Wilson (ed.) 『Herodoti Historiae - 』(Oxford University Press) ISBN:9780199560707 (テキスト) コピーを配布する。					
[参考書等]					
(参考書) Asheri, David, Alan Lloyd, and Aldo Corcella. 『A commentary on Herodotus』(Oxford University Press) ISBN:9780199639366					
----- 西洋古典学(講読)(2)へ続く -----					

西洋古典学(講読)(2)

コピーを配布する。

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の授業には、指定された範囲を予習した上で受講すること。

（その他（オフィスアワー等））

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学96

科目ナンバリング		G-LET16 63231 LJ36			
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中村 唯史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ロシアの文芸批評を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>前期に引き続き、ボリス・エイヘンバウム()の評論集『文学を貫いて』から、詩や小説、劇に関する論考を講読、考察していきます。エイヘンバウムはロシア・フォルマリズムの代表的な批評家のひとりですが、この論集には象徴主義の影響が強かった時代の論考と、フォルマリズム色が濃厚な論考がともに収録されています。どちらの傾向の論考も取り上げていきます。</p>					
[到達目標]					
<p>1) ロシア語の文学論文を読解する語学力と方法と知識を習得する。 2) 銀の時代 とロシア・フォルマリズムに対する知識と理解を深める。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション テキストとその著者について紹介します。</p> <p>第2回～第14回 『文学を貫いて』からいくつかの論考を講読し、考察します。</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>フィードバックについては授業中に指示します。</p>					
[履修要件]					
ロシア語の基本文法を習得していること。独習でも構いません。					
[成績評価の方法・観点]					
授業への取り組み80%、期末レポート20%で評価します。					
[教科書]					
テキストはプリントを配付します。					
----- スラブ語学スラブ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

スラブ語学スラブ文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に適宜紹介します。

[授業外学修(予習・復習)等]

事前に下調べをしてください。

(その他(オフィスアワー等))

詳細は最初の授業のときに話し合ったうえで指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学97

科目ナンバリング	G-LET16 63231 LJ36				
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中村 唯史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ロシアの文芸批評を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>ボリス・エイヘンバウム()の評論集『文学を貫いて』から、詩や小説、劇に関する論考を講読、考察していきます。エイヘンバウムはロシア・フォルマリズムの代表的な批評家のひとりですが、この論集には象徴主義の影響が強かった時代の論考と、フォルマリズム色が濃厚な論考がともに収録されています。どちらの傾向の論考も取り上げていきます。</p>					
[到達目標]					
<p>1) ロシア語の文学論文を読解する語学力と方法と知識を習得する。 2) 銀の時代 とロシア・フォルマリズムに対する知識と理解を深める。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション テキストとその著者について紹介します。</p> <p>第2回～第14回 『文学を貫いて』からいくつかの論考を講読し、考察します。</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>フィードバックについては授業中に指示します。</p>					
[履修要件]					
ロシア語の基本文法を習得していること。独習でも構いません。					
[成績評価の方法・観点]					
授業への取り組み80%、期末レポート20%で評価します。					
[教科書]					
テキストはプリントを配付します。					
----- スラブ語学スラブ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

スラブ語学スラブ文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に適宜紹介します。

[授業外学修(予習・復習)等]

事前に下調べをしてください。

(その他(オフィスアワー等))

詳細は最初の授業のときに話し合ったうえで指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学98

科目ナンバリング		G-LET16 73241 SJ36			
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 中野 悠希		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ロシア語作文				
【授業の概要・目的】					
<p>この授業では、これまでに身に付けたロシア語の語彙や文法の知識を活用してロシア語で文章を書く力を養う。また毎回構文ごとの訳し方の典型的なパターンを学習し、ただ単語を単語に訳すだけでなく、構文を構文に訳す技術を磨く。さらに追加の課題として新聞、学術書、小説、メール、レシピ等からテーマ別に抜粋した日本語の文章をロシア語に訳すことで、知識の定着を図るとともに語彙力の向上を目指す。こうした練習を積み重ねることで、ロシア語の運用能力を総合的に高めることが授業の狙いである。</p>					
【到達目標】					
<p>(1) ロシア語でよく使われる表現を知り、日本語の表現との対応関係を把握する。 (2) 学んだ表現を活用・応用してロシア語で自己表現をする能力を養う。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 ガイダンス 第2回 繋辞文(「～は...だ」など) 第3回 繋辞文(「～のは...だ」など) 第4回 動作様態の表現(「～し始める」など) 第5回 動作様態の表現(「～しかけた」など) 第6回 使役・奉仕の表現 第7回 叙法の表現(「～かもしれない」など) 第8回 叙法の表現(「～できる」など) 第9回 叙法の表現(「～しなければならない」など) 第10回 受け身の表現 第11回 並列接続詞を使った表現 第12回 目的の表現 第13回 比較級・最上級の表現 第14回 譲歩・容認の表現 第15回 まとめ</p>					
【履修要件】					
<p>中級程度のロシア語の知識があることが望ましい。</p>					
-----スラブ語学スラブ文学(演習)(2)へ続く-----					

スラブ語学スラブ文学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（出席・毎回の作文課題）30%、期末レポート（和文露訳）70%

[教科書]

磯谷孝 『ロシア語作文教程』（三省堂、1973年）

適宜プリントを配布するため、教科書を各自で入手する必要はない。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

母語であれ外国語であれ、文章力は、能動的・実践的な試行錯誤を経なくては涵養されない。したがって毎回の配布プリントを熟読し、欠かさず和文露訳の予習課題に取り組むことが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

質問等は授業時間内および授業後の休憩時間に受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学99

科目ナンバリング	G-LET16 73241 SJ36				
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中村 唯史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ソ連期のロシア語文学の短編を読む				
【授業の概要・目的】					
ロシア語の初級文法を習得した、あるいはそれ以上の語学力を持つ学生を対象として、ソ連期のロシア語作家(ナギービン、トリーフォノフ、カザコフ等)の短編を読んでいます。ロシア語の文法事項を確認しつつ、ロシア語を適切な日本語に翻訳していく訓練を行います。また文学作品の考察や分析を行い、時代背景についての知識も深めます。					
【到達目標】					
1) ロシア文学を読解する語学力と方法と知識を習得する。 2) ロシア語文学テキストを日本語に翻訳するコツを身につける。					
【授業計画と内容】					
第1回 インTRODクシヨン ロシア語文学の概要とその研究の基本文献について説明します。					
第2回～第14回 上記の短編を精読していきます。					
第15回 本授業中で読んだ内容をまとめ、議論します。					
フィードバックについては授業中に指示します。					
【履修要件】					
ロシア語の初級文法を修めていること。独習でも構いません。					
【成績評価の方法・観点】					
授業への取り組み80%、期末レポート20%で評価します。					
【教科書】					
テキストはプリントを配付します。					
----- スラブ語学スラブ文学(演習)(2)へ続く -----					

スラブ語学スラブ文学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)

授業中に適宜紹介します。

[授業外学修(予習・復習)等]

次回に授業で読む箇所事前に自分で目を通し、知らない単語を調べ、テキストが描いている情景や登場人物の心理を想像してみてください。また、理解できない部分については、何が分からないかを整理しておいてください。

(その他(オフィスアワー等))

詳細は最初の授業のときに話し合ったうえで指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学100

科目ナンバリング		G-LET16 73241 SJ36			
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 中野 悠希		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ロシア語作文				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、これまでに身に付けたロシア語の語彙や文法の知識を活用してロシア語で文章を書く力を養う。また毎回構文ごとの訳し方の典型的なパターンを学習し、ただ単語を単語に訳すだけでなく、構文を構文に訳す技術を磨く。さらに追加の課題として新聞、学術書、小説、メール、レシピ等からテーマ別に抜粋した文章をロシア語に訳すことで、知識の定着を図るとともに語彙力の向上を目指す。こうした練習を積み重ねることで、ロシア語の運用能力を総合的に高めることが授業の狙いである。</p>					
[到達目標]					
<p>(1) ロシア語でよく使われる表現を知り、日本語の表現との対応関係を把握する。 (2) 学んだ表現を活用・応用してロシア語で自己表現をする能力を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 ガイダンス 第2回 時間の表現(「～する時」など) 第3回 時間の表現(「～する前に」など) 第4回 条件の表現(「～なら」など) 第5回 条件の表現(「たとえ～でも」など) 第6回 原因・理由の表現 第7回 結果の表現 第8回 疑問詞を使った表現 第9回 否定小詞を使った表現 第10回 比喩・様式の表現 第11回 程度の表現 第12回 主語的な名詞節を使った表現 第13回 補語的な名詞節を使った表現 第14回 関係節を使った表現 第15回 まとめ</p>					
[履修要件]					
<p>中級程度のロシア語の知識があることが望ましい。</p>					
-----スラブ語学スラブ文学(演習)(2)へ続く-----					

スラブ語学スラブ文学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（出席・毎回の作文課題）30%、期末レポート（和文露訳）70%

[教科書]

磯谷孝 『ロシア語作文教程』（三省堂、1973年）

適宜プリントを配布するため、教科書を各自で入手する必要はない。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

母語であれ外国語であれ、文章力は、能動的・実践的な試行錯誤を経なくては涵養されない。したがって毎回の配布プリントを熟読し、欠かさず和文露訳の予習課題に取り組むことが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

質問等は授業時間内および授業後の休憩時間に受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学101

科目ナンバリング					
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学（講読） Slavic Languages and Literatures (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	大阪大学人文学研究科 准教授 北井 聡子	
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水2,3	授業形態	講読（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	ロシア革命と性				
【授業の概要・目的】					
<p>ロシア語の初級文法を習得した、あるいはそれ以上の語学力をもつ学生を対象とした授業です。ロシア革命において、重要な問題として議論された家族や性について考察します。2限は講義、3限は受講者によるテキスト講読という構成で進めていきます。</p> <p>講義では、歴史的な流れを確認しながら、文学作品、政治文書、映画等の具体的なテキストに描かれた性の表象を取り上げ、20年代のラディカルでリベラルな議論が、30年代半ばに保守化する過程を解説します。</p> <p>講読では、性の問題を赤裸々に取り上げたセルゲイ・トレチャコフの戯曲『子供が欲しい!』（1926）を、受講者で輪読し、ロシア語テキスト読解能力と日本語への翻訳能力の向上を目指すと共に、当時の時代背景に照らし合わせ、この作品の持つ意味や位置づけを考察します。</p>					
【到達目標】					
<ol style="list-style-type: none"> 1) ロシア語の読解能力を習得する 2) テキストの精読を通じ、批判的に現象を分析できる 3) セクシュアリティと政治の関わりについて考察できる 					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 イン트로ダクション 全体計画の説明と作品紹介</p> <p>第2回 - 第14回 2限は講義、3限はテキスト購読</p> <p>第15回 全体のまとめと議論</p>					
【履修要件】					
ロシア語の初級文法を修めていること。独習でもかまわない。					
----- スラブ語学スラブ文学（講読）(2)へ続く -----					

スラブ語学スラブ文学（講読）(2)

【成績評価の方法・観点】

授業への取り組み 80%、期末レポート20%

【教科書】

テキストは、講師が準備します。初日で扱うものは、学期開始前に、参加者にデータで配布します。（メール/KULASISを通じて）

【参考書等】

（参考書）

桑野隆 桑野隆「未上演の討論劇『子どもがほしい!』」『The Art Times 特集:新レフ 最後のロシア・アヴァンギャルド』第3号、2008年、9-12頁。

伊藤愉「現実を解剖せよ 討論劇『子どもが欲しい』再考」『メイエルホリドとブレヒトの演劇』玉川大学出版部、2016年、247-280頁。

その他の参考文献は、授業中に適宜紹介/配布します

【授業外学修（予習・復習）等】

事前に必ずテキストに目をとおり、日本語に訳せるようにしておいてください。また、作品に関連したことで、他の文献を当たるなどして、興味深い情報があれば、授業中にぜひ共有してください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学102

科目ナンバリング	G-LET16 73251 LJ36				
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中村 唯史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水2	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ロシア文学の短編を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>ロシア語の初級文法を習得した、あるいはそれ以上の語学力を持つ学生を対象として、20世紀初頭の象徴派の作家ブリューソフの短編数編を読んでいます。ロシア語の文法事項を確認しつつ、ロシア語を適切な日本語に翻訳していく訓練を行います。また文学作品の考察や分析を行い、時代背景についての知識も深めます。</p>					
[到達目標]					
<p>1) ロシア文学を読解する語学力と方法と知識を習得する。 2) ロシア語文学テキストを日本語に翻訳するコツを身につける。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション ロシア語文学の概要とその研究の基本文献について説明します。</p> <p>第2回～第14回 上記の短編を精読していきます。</p> <p>第15回 本授業中で読んだ内容をまとめ、議論します。</p> <p>フィードバックについては授業中に指示します。</p>					
[履修要件]					
ロシア語の初級文法を修めていること。独習でも構いません。					
[成績評価の方法・観点]					
授業への取り組み80%、期末レポート20%で評価します。					
[教科書]					
テキストはプリントを配付します。					
----- スラブ語学スラブ文学(講読)(2)へ続く -----					

スラブ語学スラブ文学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)

授業中に適宜紹介します。

[授業外学修(予習・復習)等]

次回に授業で読む箇所事前に自分で目を通し、知らない単語を調べ、テキストが描いている情景や登場人物の心理を想像してみてください。また、理解できない部分については、何が分からないかを整理しておいてください。

(その他(オフィスアワー等))

詳細は最初の授業のときに話し合ったうえで指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学103

科目ナンバリング	G-LET16 73251 LJ36				
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures(Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 教授 帯谷 知可		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金4	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ロシア語論文講読				
[授業の概要・目的]					
ロシア語の読解・運用能力を向上させ、合わせてロシア語による論文の作法・スタイル・表現などに習熟する目的で、人文社会系分野のロシア語学術論文の講読を行う。					
[到達目標]					
ロシア語の人文社会系分野の学術論文を辞書・参考書などを利用しながら読み、その内容を理解し、重要なポイントをまとめられるようになる。					
[授業計画と内容]					
各回とも授業担当教員の指定する論文につき、パートごとに担当者を決め、輪読する形式とする。					
第1回～第5回 ロシア文化に関する論文を講読する 第6回～第10回 歴史学関連の論文を講読する 第11回～第15回 民族学・文化人類学関連の論文を講読する					
[履修要件]					
ロシア語の基本文法を習得済みであること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点50%、期末レポート50%で評価する。					
[教科書]					
使用しない 教材となる論文をプリントで配布する。					
[参考書等]					
(参考書) 各自必要な辞書等を持参・利用すること。					
[授業外学修(予習・復習)等]					
当該回に読み進めるパートについて、あらかじめ辞書等を用いて一通り目を通し、内容を理解し、翻訳ができるようにしておくこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
連絡先 obiya[AT]cseas.kyoto-u.ac.jp					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学104

科目ナンバリング		G-LET16 73251 LJ36			
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures(Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 小山 哲		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火4	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ポーランド書講読				
[授業の概要・目的]					
ポーランド語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、ポーランド語の読解力の向上を図るとともに、ポーランドにおける歴史認識や歴史研究の現状について理解を深めることを目標とする。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学の研究で用いられるポーランド語の語彙や語法を習得する。 ・ポーランドとその周辺地域の歴史について、ポーランド語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。 					
[授業計画と内容]					
この授業では、次の本のなかから、いくつかの章を講読する。					
Marcin Kula, Historia w tera ⁿⁱ iejszo ^{ści} , tera ⁿⁱ iejszo ^{ści} w historii, Gda ^{ńsk} 2022.					
本書はポーランド現代史の研究者が、コロナ感染の拡大やウクライナでの戦争をはじめとする同時代の問題をふまえながら、歴史と現代の関係について考察した論集である。					
授業は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。ポーランド語の歴史叙述で用いられる語彙に親しむとともに、今日の歴史認識をめぐる論点についての理解を深めることを目指す。					
第1回 オリエンテーション 第2～14回 訳読と解説 第15回 フィードバック					
[履修要件]					
ポーランド語の初級文法を習得していることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(授業中の訳読の実績)によって評価する。					
-----スラブ語学スラブ文学(講読)(2)へ続く-----					

スラブ語学スラブ文学(講読)(2)

[教科書]

授業でテキストを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
- ・授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておく、さらにポーランド語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

(その他(オフィスアワー等))

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学105

科目ナンバリング		G-LET16 73251 LJ36			
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 小山 哲		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火4	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ポーランド書講読				
[授業の概要・目的]					
ポーランド語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、ポーランド語の読解力の向上を図るとともに、ポーランドにおける歴史認識や歴史研究の現状について理解を深めることを目標とする。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学の研究で用いられるポーランド語の語彙や語法を習得する。 ・ポーランドとその周辺地域の歴史について、ポーランド語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。 					
[授業計画と内容]					
この授業では、次の本のなかから、近世の歴史にかんする章を講読する。					
Dzieje polskiego parlamentaryzmu, redakcja naukowa: Dariusz Kupisz, Warszawa 2022.					
本書は最新のポーランド議会史の通史である。全体は15世紀から現代までを扱っているが、そのなかから近世(1569~1793年)にかかわる章を読む。					
授業は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。ポーランド語の歴史叙述で用いられる語彙に親しむとともに、ポーランド近世史・国制史をめぐる論点についての理解を深めることを目指す。					
第1回 オリエンテーション 第2~14回 訳読と解説 第15回 フィードバック					
[履修要件]					
ポーランド語の初級文法を習得していることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(授業中の訳読の実績)によって評価する。					
-----スラブ語学スラブ文学(講読)(2)へ続く-----					

スラブ語学スラブ文学(講読)(2)

[教科書]

授業でテキストを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
- ・授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておく、さらにポーランド語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

(その他(オフィスアワー等))

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET49 89642 LJ48			
授業科目名 <英訳>	ポーランド語（中級II）(語学) Polish	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 Bogna Sasaki		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木5	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	ポーランド語中級				
[授業の概要・目的]					
初級レベルよりやや高度な文法を学びつつ、語彙力を伸ばします。					
[到達目標]					
この授業を通して、より複雑な文章構造を理解する力、自分の意見などをある程度伝え表現する力を身につけていきます。					
[授業計画と内容]					
受講生の興味や要求を聞き、詳しい授業形態を決めます。特に希望がなければ受講生のレベルに応じたテキストを読み、翻訳や文章構造の説明、文法的な解説などを行いたいと思います。テキストの詳細については出席者と相談のうえで決めます。ポーランドの文化に関連した、易しい文章を使う予定です。					
授業計画：					
1．ポーランド語の知識の確認、教材の相談、短い記事の解説【1週】					
2．テキストI-翻訳と解説【3週間】					
3．テキストII-翻訳と解説【3週間】					
4．テキストIII-翻訳と解説【3週間】					
5．テキストIV-翻訳と解説【3週間】					
6．総復習とまとめ【1週】					
7．定期試験【1週】					
8．フィードバック【1週】					
[履修要件]					
ポーランド語の文法の基礎知識、1年間以上の学習歴が要求されます。					
[成績評価の方法・観点]					
基本的に定期試験（筆記）（90％）での評価となります。授業へのぞむ姿勢（10％）も考慮します。定期試験の具体的な内容は、教材を決めてから判断します。					
[教科書]					
授業中に受講生と話し合っ決めて資料を用意し配布します。					
----- ポーランド語（中級II）(語学)(2)へ続く -----					

ポーランド語（中級II）(語学)(2)

[参考書等]

（参考書）

木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-08974-3（絶版となっていた辞典は、2023年6月に復刊されました。）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学107

科目ナンバリング		G-LET49 89642 LJ48			
授業科目名 <英訳>	ポーランド語（中級II）(語学) Polish	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 Bogna Sasaki		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木5	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	ポーランド語中級				
[授業の概要・目的]					
初級レベルよりやや高度な文法を学びつつ、語彙力を伸ばします。					
[到達目標]					
この授業を通して、より複雑な文章構造を理解する力、自分の意見などをある程度伝え表現する力を身につけていきます。					
[授業計画と内容]					
受講生の興味や要求を聞き、詳しい授業形態を決めます。特に希望がなければ受講生のレベルに応じたテキストを読み、翻訳や文章構造の説明、文法的な解説などを行いたいと思います。テキストの詳細については出席者と相談のうえで決めます。ポーランドの文化に関連した、易しい文章を使う予定です。					
授業計画：					
1．ポーランド語の知識の確認、教材の相談、短い記事の解説【1週】					
2．テキストI－翻訳と解説【3週間】					
3．テキストII－翻訳と解説【3週間】					
4．テキストIII－翻訳と解説【3週間】					
5．テキストIV－翻訳と解説【3週間】					
6．総復習とまとめ【1週】					
7．定期試験【1週】					
8．フィードバック【1週】					
[履修要件]					
ポーランド語の文法の基礎知識、1年間以上の学習歴が要求されます。					
[成績評価の方法・観点]					
基本的に定期試験（筆記）（90％）での評価となります。授業へのぞむ姿勢（10％）も考慮します。定期試験の具体的な内容は、教材を決めてから判断します。					
[教科書]					
授業中に受講生と話し合って決めた資料を用意し配布します。					
----- ポーランド語（中級II）(語学)(2)へ続く -----					

ポーランド語（中級II）(語学)(2)

[参考書等]

（参考書）

木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-08974-3（絶版となっていた辞典は、2023年6月に復刊されました。）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET49 69646 LJ48			
授業科目名 <英訳>	ロシア語（初級） Russian I	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 田中 大		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水2	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	ロシア語の基礎				
[授業の概要・目的]					
<p>ロシア語やロシア文化に関心のある学生を対象として、ロシア語を一から勉強していきます。日本ではあまりなじみのない文字の書き方と発音から始めて、意外に日本語との類推が利く基本的な文法と構文、語彙を学習していきます。</p>					
[到達目標]					
<p>1) ロシア語で使用されているキリル文字とその発音を習得する。 2) ロシア語の基礎的な文法を習得する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>授業は配付プリントに沿って進みます。各単元の例文と文法事項はおおむね以下の通りです。</p> <p>第1回 ロシア語の文字：字形 第2回 ロシア語の文字とその読み方（1）：文字のシステム 第3回 ロシア語の文字とその読み方（2）：アクセントと同化 第4回 「新しい雑誌・古い地図」：名詞の性・複数形・形容詞の一致 第5回 「鳥たちが歌っていました」：人称代名詞・動詞の過去形 第6回 「彼のかばん・私の本」：所有代名詞 第7回 「昨日彼女は指輪を買いました」：名詞の格・単数対格・単数生格 第8回 「彼は技師ではなくて医師です」：導入文・否定 第9回 「けさ彼は図書館にいました」：名詞の単数前置格 第10回 「昨夜私はイワンに電話しました」：名詞の単数与格・単数造格 第11回 「私はテレビを持っていません」：所有表現・人称代名詞と疑問詞の対格・前置格 第12回 「彼女は図書館で働いています」：動詞の現在形（第1変化・第2変化） 第13回 「彼は毎日図書館に通っています」：動詞の未来形・移動の動詞 第14回 「昨日アンナは遅刻しました」：第4回～第6回の復習 第15回 「昨日ここでパーティーがありました」：第7回～第11回の復習</p> <p>フィードバックについては授業中に指示します。</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- ロシア語（初級）(2)へ続く -----					

ロシア語（初級）（2）

【成績評価の方法・観点】

平常点30%、試験70%で評価します。

【教科書】

プリントを配付します。

【参考書等】

（参考書）

開講時および授業中に紹介します。

【授業外学修（予習・復習）等】

配付されたプリントを事前に下見して、授業後は単語や構文をしっかり復習してマスターしてください。

（その他（オフィスアワー等））

詳細は開講時に指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET49 69647 LJ48			
授業科目名 <英訳>	ロシア語（中級） Russian II	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 田中 大		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水2	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	ロシア語の基礎				
[授業の概要・目的]					
ロシア語の初級を前年度に履修したか、それと同程度の基礎運用能力を習得している学生を対象として、ロシア語の基本文法の完成をめざします。					
[到達目標]					
1) ロシア語の基礎文法を完成させる。 2) 辞書を引けば、平易なロシア語を読めるようになる。					
[授業計画と内容]					
授業は、前年度初級に引き続き、配付プリントに沿って進みます。各単元の例文と文法事項はおおむね以下の通りです。					
第1課 名詞の複数変化(1) 与格・造格・前置格 第2課 名詞の複数変化(2) 生格・対格 第3課 形容詞の格変化 第4課 形容詞短語尾形と副詞 第5課 関係代名詞(1) 第6課 関係代名詞(2) 第7課 形容詞の比較級・最上級 第8課 動詞 第9課 分詞(1) 能動現在分詞 第10課 分詞(2) 能動過去分詞・分詞(3) 受動現在分詞 第11課 分詞(4) 受動過去分詞 第12課 不定人称文					
文法事項の確認を兼ねて、平易なロシア語の文章を読みます。（第13回～第14回）					
第15回 まとめ					
フィードバックについては授業中に指示します。					
[履修要件]					
ロシア語（初級）を前年度に履修したか、それと同程度のロシア語能力を有していること。					
----- ロシア語（中級）(2)へ続く -----					

ロシア語（中級）(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点30%、試験70%で評価します。

[教科書]

プリントを配付します。

[参考書等]

（参考書）

開講時および授業中に紹介します。

[授業外学修（予習・復習）等]

配付されたプリントを事前に下見して、授業後は単語や構文をしっかり復習してマスターしてください。

（その他（オフィスアワー等））

詳細は開講時に指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET49 69661 LJ48			
授業科目名 <英訳>	ポーランド語（初級I） Polishnbsp (Lectures)nbsp		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 Bogna Sasaki	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木4	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	ポーランド語初級I				
[授業の概要・目的]					
ポーランド語の初級文法を習得する。					
[到達目標]					
<p>ポーランド語を初めて学ぶ受講生は、前期と後期を合わせて一年間の学習を終えてから、辞書を使って簡単な文章が読めるように、この言語の構造や基本的な文法を身につけます。</p> <p>前期では、名詞と動詞の活用を学ぶとともに、ポーランド語になれていきます。一年間で『ニューエクスプレス ポーランド語+』一冊をおおよそやり通す学習内容としますが、前期ではその前半分を学習します。</p> <p>期末に映画も鑑賞し、ポーランドの文化に触れます。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1．ポーランド語の基礎知識（文字、アクセント、語尾変化、発音など）【1週】 2．基本的な構文、格の基礎知識、名詞の主格、挨拶や自己紹介に関する語彙【1週】 3．基本動詞bycの変化、名詞の性の見極め方と性による形容詞の変化【1週】 4．ここまでの内容の確認と練習【1週】 5．名詞と形容詞の単数複数造格、日本語の「～である」に相当する主格と造格の使い分け【1週】 6．名詞の単数生格、panとpaniの用法【1週】 7．名詞と形容詞の複数主格、「あなたがた、皆さん」の言い方【1週】 8．ここまでの総復習、基本的な構文や語彙の確認【1週】 9．名詞の単数複数対格、動詞の第1変化（-m,-sz型）【1週】 10．動詞の第2変化（-e,-isz型）、名詞の単数複数与格、「知っている」に当たる表現【1週】 11．動詞の第3変化（-e,-esz型）、現在形の動詞変化のまとめ、名詞の単数複数前置格【1週】 12．sie動詞、ktoとcoの格変化、名詞の複数生格、数量を表す言葉【1週】 13．前期の総復習、格の使い分けや、基本的な構文の確認、語彙の復習【1週】 14．映画を鑑賞し、ポーランドの文化に触れる【1週】 15．定期試験【1週】 16．フィードバック【1週】 					
[履修要件]					
特になし					
----- ポーランド語（初級I）(2)へ続く -----					

ポーランド語（初級I）(2)

[成績評価の方法・観点]

教科書の内容に基づいた定期試験（筆記）の成績で評価します。

[教科書]

石井哲士朗・三井レナータ・阿部優子 『ニューエクスプレス ポーランド語+』（白水社）ISBN: 978-4-560-08849-4

2019年に新しく出版された『ニューエクスプレス+（プラス）ポーランド語』を使いたいと思いますが、その前の『ニューエクスプレス ポーランド語』をすでに手に入れている受講生は、『ニューエクスプレス ポーランド語』を使っても問題ありません。

授業中にプリントも配布します。

[参考書等]

（参考書）

木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-08974-3（絶版となっていた辞典は、2023年6月に復刊されました。）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET49 69662 LJ48			
授業科目名 <英訳>	ポーランド語（初級I） Polish (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 Bogna Sasaki	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木4	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	ポーランド語初級I				
[授業の概要・目的]					
ポーランド語の初級文法を習得する。					
[到達目標]					
<p>ポーランド語を初めて学ぶ受講生は、前期と後期を合わせて一年間の学習を終えてから、辞書を使って簡単な文章が読めるように、この言語の構造や基本的な文法を身につけます。</p> <p>後期では、動詞の時制や、ポーランド語における様々な構文を学びます。一年間で『ニューエクスプレス ポーランド語+』一冊をおおよそやり通す学習内容としますが、後期ではその後半分を学習します。</p> <p>期末に映画の鑑賞などをして、ポーランドの文化に触れます。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1．否定生格という現象、呼格、基本的な助動詞の使い方【1週】 2．動詞の過去形、非人称文の過去時制、人称代名詞と再帰代名詞の格変化【1週】 3．動詞bycと一般動詞の合成未来形、時刻に関する表現、非人称文の未来時制、nie maの過去形と未来形【1週】 4．動詞のアスペクト、命令法、数詞と名詞の総合規則【1週】 5．命令法の続き、仮定法、miecの助動詞的な用法【1週】 6．移動の動詞isc/chodzic, jechac/jezdzicの用法、場所と移動の起点を表す前置詞【1週】 7．関係代名詞ktoryの用法【1週】 8．ここまでの総復習、動詞の時制などの学習内容の確認【1週】 9．仮定法の用法の続き、関係副詞による複文の作り方、能動形容分詞、非人称動詞【1週】 10．sieによる非人称構文、形容詞と副詞の比較変化【1週】 11．副分詞の作り方と用法、受動形容分詞と受動構文【1週】 12．非人称能動過去形と完了体動詞の副分詞、年月日の言い方【1週】 13．一年間の総復習、分かりにくかった点などを確認する【1週】 14．ポーランドの文化に触れる【1週】 15．定期試験【1週】 16．フィードバック【1週】 					
[履修要件]					
前期のポーランド語（初級I）の受講など、ポーランド語の基礎知識が要求されます。					
----- ポーランド語（初級I）(2)へ続く -----					

ポーランド語（初級I）(2)

[成績評価の方法・観点]

教科書の内容に基づいた定期試験（筆記）の成績で評価します。

[教科書]

石井哲士朗・三井レナータ・阿部優子 『ニューエクスプレス ポーランド語+』（白水社）ISBN: 978-4-560-08849-4

2019年に新しく出版された『ニューエクスプレス+（プラス）ポーランド語』を使いたいと思いますが、その前の『ニューエクスプレス ポーランド語』をすでに手に入れている受講生は、『ニューエクスプレス ポーランド語』を使っても問題ありません。

授業中にプリントも配布します。

[参考書等]

（参考書）

木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-08974-3（絶版となっていた辞典は、2023年6月に復刊されました。）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET17 63331 LJ36			
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 川島 隆		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ドイツの児童文学				
[授業の概要・目的]					
<p>ヨーロッパでは、17世紀から18世紀にかけて「子どもの発見」がなされて以来、子どものあるべき姿やあるべき教育方法をめぐって膨大な言説が積み重ねられてきた。それと同時に、子どもが読むにふさわしい本とはどのようなものか、という問題についても膨大な議論が交わされてきた。児童文学とは、そうした議論を反映して、あるいはそうした議論に応答する形で生まれてきたものである。本授業では、ドイツ語圏の児童文学作品の内容と、作品が生み出された背景を総合的に理解することをめざす。余裕があれば、作品の映像化バージョン(映画やアニメ)の問題も視野に入れる。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. ドイツの児童文学史について基礎的知識を得る 2. 各児童文学作品の背景(政治的・社会的・文化的な時代状況、作者の生い立ちや思想的なバックグラウンド、先行する作品など)を理解する 3. 両者の関係を考察することを通じ、文学が社会の中で果たす役割をイメージする 					
[授業計画と内容]					
<p>取り上げる予定のテーマは以下の通り(ただし、授業の進行速度や受講者の興味などを勘案して予定変更する場合がある)。毎回、講師による情報提供のあと、受講者参加型のディスカッションを行う。</p>					
第1回	イントロダクション	「子ども」の理念の形成			
第2回	カンペ『新ロビンソン』	啓蒙主義的な教育と子どもの自主性			
第3回	グリム兄弟『子どもと家庭のメルヘン』	「メルヘン」が「童話」になるまで			
第4回	ホフマン『もじゃもじゃペーター』	恐怖と教訓			
第5回	シュピーリ『ハイジ』	リアリズム児童文学			
第6回	ボンゼルス『みつばちマーヤの冒険』	生物学的世界観がもたらしたもの			
第7回	ザルテン『バンビ』	鹿の成長物語			
第8回	ケストナー(1)『エミールと探偵たち』	都市文学としての児童文学			
第9回	ケストナー(2)『ふたりのロツテ』	児童文学に描かれた家族像			
第10回	フランク『アンネの日記』	ホロコースト児童文学			
第11回	リヒター『あのころはフリードリヒがいた』	ホロコースト児童文学			
第12回	プロイスラ『クラバート』	故郷喪失と郷土文学			
第13回	ヘルトリング『ヒルベルという子がいた』	社会問題を描く児童文学			
第14回	エンデ『モモ』	ファンタジー児童文学			
第15回	パウゼヴァング『みえない雲』	反戦、反核、反原発			
-----ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く-----					

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業中の小課題にもとづく平常点（50％）および期末レポート（50％）で評価する。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業で扱ったものに限らず、できるだけ多くの文学作品を実際に手に取って読んでみてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET17 63331 LJ36			
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 籠 碧		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	狂気とドイツ語文学				
[授業の概要・目的]					
<p>社会のアウトサイダーとしての「狂人」は、文学がいつも好んできたモチーフというわけではありません。そもそも「狂気」のモチーフを文学の中に登場させることを詩学的に否定していた時代も、ドイツ語文学史上にはあります。またその具体的な描かれ方も、時代によってさまざまです。この授業では、「狂気」モチーフと関わりのある代表的なドイツ語文学を紹介します。そのことを通して、広くマイノリティの表象のあり方についても考察したいと考えています。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを時代的・文化的背景と結びつけて読む作法を身につけること。 ・T4作戦やその前後の出来事、社会的背景について知識を得ること。 ・精神の障害や病の表象を軸にしてドイツ語文学を時代順に眺めることで、おおまかな文学史や文化史を把握すること。 					
[授業計画と内容]					
<p>各回のテーマは次の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：「狂気・異常」をめぐる論点・フーコー『狂気の歴史』について(1) 2 オリエンテーション：「狂気・異常」をめぐる論点・フーコー『狂気の歴史』について(2) 3 シラー『群盗』(1781) 4 ゲーテ『ファウスト第1部』(1808) 5 ホフマン『砂男』(1816) 6 ビューヒナー『ヴォイツェク』(1835頃) 7 ビューヒナー『レンツ』(1835頃) 8 変質論、福祉国家と優生思想、「T4作戦」 9 ヘルツフェルデ『精神患者の倫理』(1914) 10 デーブリン『たんぼぼ殺し』(1910)、『ベルリン・アレクサンダー広場』(1929) 11 シュニッツラー『闇への逃走』(1931) 12 ツヴァイク『チェス奇譚』(1942) 13 グラス『ブリキの太鼓』(1959) 14 エリザベート・ツェラー『アントン 命の重さ』(2004) 15 おわりに <p>予定を変更する可能性があります。</p>					
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く					

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

ドイツ語の知識は必要としない。

【成績評価の方法・観点】

授業時のコメントペーパー（50％）と期末レポート（50％）によって評価します。
期末レポートは、到達目標の達成度にもとづいて評価します。

【教科書】

資料はLMSで配布します。分量が多いので、教室にパソコン、タブレット等を持参し、授業中に参照できるようにしておくことをおすすめします。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業で取り上げる作品を、できるだけ自分で読んでみてください。また各々が知っている作品についてコメントペーパーなどを通して教員に教えてください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学114

科目ナンバリング		G-LET17 63331 LJ36			
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 河崎 靖		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	言語学・ゲルマン語学 入門				
[授業の概要・目的]					
研究発表(ゼミ形式)による。ことばの普遍性・体系性を明らかにすることを目標とする。言語学の諸分野(音論、形態論、統語論等の諸領域)を対象に、言語体系の普遍的な法則性を探るべく、通時的考究を進める。言語体系の法則性・言語変化のメカニズムを探り、そのあり方を解明することを通して、言語の本質に迫る。					
[到達目標]					
今日の言語学の手法と併せて、言語の史的考察による種々の成果を踏まえ、言語学の方法論上の問題について考究する力が身に付くようにする。個別言語にとどまらず、言語一般の体系性が把握できることを目指す。					
[授業計画と内容]					
ゲルマン語学の諸分野(音論・形態論・統語論・意味論などの領域)を対象に、言語体系の普遍的な法則性を探るべく考究を進める。言語の理論的アプローチによる種々の成果を踏まえ、言語学の方法論上の問題についても考察する。					
第1回～第10回 研究発表(ゼミ形式)院生による。 第11回～第13回 研究発表(ゼミ形式)学部生による 第14回～第15回 まとめ					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
主に研究発表の形式をとる。発表など平常点を主に成績評価を行う。					
[教科書]					
授業中に指示する					
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

河崎 靖 『ゲルマン語学への誘い』(現代書館)

河崎 靖 『ゲルマン語基礎語彙集』(大学書林)

[授業外学修(予習・復習)等]

こちらで用意する教材に関し、授業の前後(予習・復習)に課題を課し、授業時に発表できる準備をしてもらう。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学115

科目ナンバリング	G-LET17 63331 LJ36				
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 外国人教師 TRAUDEN, Dieter		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	ドイツ語
題目	Expressionistische Literatur (I)				
[授業の概要・目的]					
In diesem Kurs sprechen wir über die deutschsprachige Literatur des Expressionismus von ihren Anfängen um 1910 bis zum Ende des Ersten Weltkriegs.					
[到達目標]					
Der literarische Expressionismus war die wichtigste neue Literaturrichtung zu Beginn des 20. Jahrhunderts. Im ersten Teil des Kurses sprechen wir darüber, wie sich der Expressionismus in seiner Frühphase von vorangegangenen und gleichzeitigen anderen Literaturrichtungen abzugrenzen versuchte und was seine stilistischen wie inhaltlichen Zielsetzungen waren. Wir lesen expressionistische Manifeste, Gedichte sowie Auszüge aus Romanen und Dramen.					
[授業計画と内容]					
Jede Woche wird ein Textbeispiel eines wichtigen Autors des frühen Expressionismus vorgestellt und vor dem historischen und kulturellen Hintergrund der Zeit interpretiert. Die Studenten erhalten alle notwendigen Informationen, mit deren Hilfe sie die Textanalyse selbst vornehmen können. 1. Woche: Vorstellung des Themas. 2. Woche: Einführung in die historischen Grundlagen des frühen Expressionismus. 3.-14. Woche: Vorstellung und Interpretation typischer Werke der Epoche (auch nach Absprache mit den Studenten). 15. Woche: "Feedback" -- Zusammenfassung des in diesem Semester Erlernten.					
[履修要件]					
Die Studenten benötigen ausreichende Kenntnisse in der deutschen Sprache, um auch komplexere Texte lesen und verstehen zu können. Es wird erwartet, dass sie die jeweils zu besprechenden Texte gut vorbereiten.					
[成績評価の方法・観点]					
Die Bewertung erfolgt auf der Grundlage der Unterrichtsbeteiligung (100 %).					
[教科書]					
Die Anschaffung eines Textbuches ist nicht erforderlich. Alle nötigen Materialien werden den Studenten auf der PandA-Website zur Verfügung gestellt.					
[参考書等]					
(参考書) Die Studenten sollten sich Wörterbücher (auch elektronischer) bedienen, im Zweifelsfall eine Übersicht über die deutsche Grammatik benutzen und literaturgeschichtliche Werke zu Rate ziehen.					
ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く					

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Es wird empfohlen, dass die Studenten ihre während des Unterrichts gemachten Notizen noch einmal durchsehen und systematisieren.

(その他 (オフィスアワー等))

Für Fragen der Studenten steht der Dozent nach dem Unterricht sowie nach Absprache in einer Sprechstunde zur Verfügung.

Kontakt: dtrauden@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学116

科目ナンバリング	G-LET17 63331 LJ36				
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 外国人教師 TRAUDEN, Dieter		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	ドイツ語
題目	Expressionistische Literatur (II)				
[授業の概要・目的]					
In diesem Kurs sprechen wir über die Entwicklung der expressionistischen Literatur ab der Zeit der Weimarer Republik und behandeln auch die Diskussion über diese Literaturrichtung, die darauf folgte.					
[到達目標]					
Zu Beginn der Weimarer Republik war der Expressionismus bereits eine etablierte Literaturrichtung. Im zweiten Teil des Kurses sprechen wir über die Entwicklungen expressionistischer Literatur bis etwa 1925, die Gründe für seine Ablösung durch andere Literaturrichtungen, die sog. "Expressionismusdebatte" sowie das Nachleben des expressionistischen Stils nach dem Zweiten Weltkrieg. Wir lesen Gedichte, Auszüge aus Romanen und Dramen sowie theoretische Texte, die sich mit dem Expressionismus auseinandersetzen.					
[授業計画と内容]					
Jede Woche wird ein Textbeispiel eines wichtigen expressionistischen Autors der Zeit oder eine theoretische Auseinandersetzung mit diesem Stil vorgestellt und vor dem historischen und kulturellen Hintergrund interpretiert. Die Studenten erhalten alle notwendigen Informationen, mit deren Hilfe sie die Textanalyse selbst vornehmen können.					
1. Woche: Vorstellung des Themas.					
2. Woche: Überblick über die historischen Entwicklungslinien.					
3.-14. Woche: Vorstellung und Interpretation typischer Werke der Epoche (auch nach Absprache mit den Studenten).					
15. Woche: "Feedback" -- Zusammenfassung des in diesem Semester Erlernen.					
[履修要件]					
Die Studenten benötigen ausreichende Kenntnisse in der deutschen Sprache, um auch komplexere Texte lesen und verstehen zu können. Es wird erwartet, dass sie die jeweils zu besprechenden Texte gut vorbereiten.					
[成績評価の方法・観点]					
Die Bewertung erfolgt auf der Grundlage der Unterrichtsbeteiligung (100 %).					
[教科書]					
Die Anschaffung eines Textbuches ist nicht erforderlich. Alle nötigen Materialien werden den Studenten auf der Panda-Website zur Verfügung gestellt.					
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く					

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

Die Studenten sollten sich Wörterbücher (auch elektronischer) bedienen, im Zweifelsfall eine Übersicht über die deutsche Grammatik benutzen und literaturgeschichtliche Werke zu Rate ziehen.

[授業外学修(予習・復習)等]

Es wird empfohlen, dass die Studenten ihre während des Unterrichts gemachten Notizen noch einmal durchsehen und systematisieren.

(その他(オフィスアワー等))

Für Fragen der Studenten steht der Dozent nach dem Unterricht sowie nach Absprache in einer Sprechstunde zur Verfügung.

Kontakt: dtrauden@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学117

科目ナンバリング		G-LET17 63331 LJ36			
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 岡田 暁生		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	20世紀音楽とは何だったか				
[授業の概要・目的]					
<p>21世紀が始まって既に四半世紀。かつて同時代(=私が生きている時代)だった20世紀は今やほぼ完全に「前世紀」になりつつある。この授業では、20世紀が「私が確かに生きた時代」であった世代の立場から、「あの世紀とは何であったか」を批判的に、しかしある種ノスタルジーも込めて考える。前期は20世紀前半の音楽潮流を、19世紀との対比で理解する。20世紀がいまだ完全に「前の時代」にはなっていないのと同様、20世紀は19世紀からの連続性と亀裂という視点抜きには理解しえない。</p>					
[到達目標]					
個別事例を越えて受講者が内容を自身の「問題」として理解することを期待する					
[授業計画と内容]					
<p>1・2回：クラシック音楽とは何か：19世紀から理解する 3回：音楽は誰に奉納されてきたか：神・王・市民・大衆 4回：19世紀ヨーロッパが「音楽に国境はない」イデオロギーを作った 5・6回：第一次大戦の音楽史的意味 7・8回：芸術は未来を予言する？ 9・10回：第一次大戦のあと：1920年代と「大家」の消滅 10 - 13回：「ジャズ・エイジ」は大正童謡の同時代現象 14 - 15回：映画音楽とミュージカルはクラシックから生まれた</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
レポートによる。評価は到達目標の達成度に基づく。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。単なる既知情報のまとめではなく、各自の明快な問題意識およびその展開を最重視する。					
[教科書]					
使用しない					
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く					

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

岡田暁生 『西洋音楽史』 (中公新書)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で扱う音楽についてYoutubeなどで適宜実際に聴くこと

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学118

科目ナンバリング		G-LET17 63331 LJ36			
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 岡田 暁生		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	20世紀音楽とは何だったか 2				
【授業の概要・目的】					
21世紀が始まって既に四半世紀。かつて同時代(=私が生きている時代)だった20世紀は今やほぼ完全に「前世紀」になりつつある。この授業では、20世紀が「私が確かに生きた時代」であった世代の立場から、「あの世紀とは何であったか」を批判的に、しかしある種ノスタルジーも込めて考える。後期は20世紀前半の音楽潮流を、21世紀との対比で理解する。20世紀が私たちにとっていまだ完全に「前の世紀」にはなっていない。					
【到達目標】					
個別事例を越えて受講者が内容を自身の「問題」として理解することを期待する					
【授業計画と内容】					
1・2回：冷戦時代の音楽史構図について 3回：前衛音楽の過激化と世界観 4回：「自由」の探求とケージ 5 - 7回：前衛音楽の全盛期はポップスの全盛期 8・9回：モダン・ジャズとは何か 10 - 12回：1970年代とポストモダンの始まり 13 - 15回：癒しとテクノロジー					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
レポートによる。評価は到達目標の達成度に基づく。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。単なる既知情報のまとめではなく、各自の明快な問題意識およびその展開を最重視する。					
【教科書】					
使用しない					
【参考書等】					
(参考書) 岡田暁生『西洋音楽史』(中公新書)					
【授業外学修(予習・復習)等】					
授業で扱う音楽についてYoutubeなどで適宜実際に聴くこと (その他(オフィスアワー等)) オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学119

科目ナンバリング		G-LET17 73345 SJ36			
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(演習III) German Language and Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 川島 隆 文学研究科 准教授 籠 碧	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ドイツ語学ドイツ文学の諸問題(1)				
【授業の概要・目的】					
受講者の研究発表と、それにもとづく出席者全員による討論を中心にして授業を進める。卒業論文、修士論文、博士論文の中間発表の場であると同時に、受講者が互いの研究テーマを共有し、議論を通じて問題意識を広げ、深めてゆくための場となることを期待している。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語学ドイツ文学研究のさまざまなテーマや方法にかんする知識と理解を深める。 ・研究発表とディスカッションの技法を身につける。 					
【授業計画と内容】					
受講者の人数や研究の進捗状況によって変更することもあるが、大まかな授業計画は次の通り。					
第1回	はじめに： 研究発表の要領を説明し、前期の発表日程について協議する。				
第2回～第3回	博士後期課程1回生による研究発表： 前年度に提出した修士論文の内容の報告。				
第4回～第6回	修士課程1回生による研究発表： 前年度に提出した卒業論文の内容の報告。				
第7回～第9回	博士後期課程2・3回生による研究発表： 博士論文作成に向けての中間報告。				
第10回～第15回	修士課程2回生による研究発表： 修士論文作成に向けての中間報告。				
【履修要件】					
ドイツ語学ドイツ文学専修の学生は、できるだけ出席すること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点により、授業への積極的参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価する。					
【教科書】					
発表者が、ハンドアウトを作成して配布する。					
【参考書等】					
(参考書) 発表者が、ハンドアウトを作成して配布する。					
【授業外学修(予習・復習)等】					
発表者は事前に予告編を作成して受講者に配布し、受講者はそれを読んで討論の準備をしておくこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学120

科目ナンバリング		G-LET17 73345 SJ36			
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(演習III) German Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 文学研究科	准教授 准教授	川島 隆 籠 碧
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ドイツ語学ドイツ文学の諸問題(2)				
[授業の概要・目的]					
受講者の研究発表と、それにもとづく出席者全員による討論を中心にして授業を進める。卒業論文、修士論文、博士論文の中間発表の場であると同時に、受講者が互いの研究テーマを共有し、議論を通じて問題意識を広げ、深めてゆくための場となることを期待している。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語学ドイツ文学研究のさまざまなテーマや方法にかんする知識と理解を深める。 ・研究発表とディスカッションの技法を身につける。 					
[授業計画と内容]					
受講者の人数や研究の進捗状況によって変更することもあるが、大まかな授業計画は次の通り。					
第1回～第6回 修士課程2回生による研究発表： 修士論文の中間報告。					
第7回～第9回 学部4回生による研究発表： 卒業論文の中間報告。					
第10回～第12回 博士後期課程学生による研究発表： 博士論文作成に向けての中間報告。					
第13回～第14回 修士課程1回生による研究発表： 修士論文作成に向けての中間報告。					
第15回 学部3回生による研究発表： 卒業論文作成に向けての中間報告					
[履修要件]					
ドイツ語学ドイツ文学専修の学生は、できるだけ出席すること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点により、授業への積極的参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価する。					
[教科書]					
発表者が、ハンドアウトを作成して配布する。					
[参考書等]					
(参考書) 発表者が、必要に応じて紹介する。					
----- ドイツ語学ドイツ文学(演習III)(2)へ続く -----					

ドイツ語学ドイツ文学(演習Ⅲ)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

発表者は事前に予告編を作成して受講者に配布し、受講者はそれを読んで討論の準備をしておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET17 6M181 LJ36			
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学（特殊講義） German Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 細見 和之		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火5	授業形態	特殊講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	ベンヤミンの『ドイツ悲劇の根源』第1部「悲哀劇と悲劇」第3章におけるメランコリーについて				
【授業の概要・目的】					
この講義では、ベンヤミンの『ドイツ悲劇の根源』第1部「悲哀劇と悲劇」第3章をドイツ語の原文で精読することで、ベンヤミンにおけるメランコリーという概念を理解することを目的とする。また、ドイツ語の原文を精読することで、受講者が高度なドイツ語の読解能力を身に付けることも目指す。					
【到達目標】					
受講生は、この講義をつうじて、ベンヤミンのメランコリーという概念を学ぶとともに、広く20世紀という時代のなかで思想家がどのように生きてきたかについて、ゆたかな知識を得ることができる。また、高度なドイツ語の読解能力を身に付けることができる。					
【授業計画と内容】					
第1回 イン트로ダクション ベンヤミンの思想の大枠と、そのなかでの『ドイツ悲劇の根源』第1部「悲哀劇と悲劇」における第3章の位置、またその内容について、概略を説明する。 第2回から第14回 ドイツ語原文の精読 『ドイツの悲劇の根源』第1部「悲哀劇と悲劇」第3章をドイツ語原文で精読する。 第15回 まとめ ベンヤミンのメランコリーという概念をめぐって受講者が討論することを主たる内容とする。					
【履修要件】					
ドイツ語の最低限の読解能力を有すること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点（90点）、討論参加（10点）を基本にして、総合的に判定する。					
【教科書】					
授業中に指示する					
----- ドイツ語学ドイツ文学（特殊講義）(2)へ続く					

ドイツ語学ドイツ文学（特殊講義）(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

ドイツ語原文の精読が基本になりますので、必ず予習をして臨んでください。背景的な知識がかなり必要になりますが、授業中に指示する参考文献も併読して、ベンヤミンの思想を軸に、ホロコーストをあいだに挟んだ20世紀の思想の展開に対して強い関心をもっていただきたいと思います。

（その他（オフィスアワー等））

毎週、火曜日、水曜日の昼休みには、原則として研究室にいますので、お気軽にお訪ねください。それ以外の時間帯での相談はメールでアポイントを取っていただければと思います。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学122

科目ナンバリング	G-LET17 7M183 SJ36				
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(演習) German Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 籠 碧		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Schnitzler: Der blinde Geronimo und sein Bruder (1)				
【授業の概要・目的】					
この授業では、世紀末ウィーンを代表する作家アルトゥル・シュニッツラーの小説『盲目のジェロニモとその弟』(1900)を読みます。「同情」というキーワードに注目して精読したいと思います。					
【到達目標】					
・ドイツ語文学の作品の読解力を高める。					
【授業計画と内容】					
第1回 はじめに： シュニッツラーの生涯と作品について解説する。 第2回～第14回 テキスト講読： テキストの前半部を精読する。 第15回 まとめ： これまでの授業内容を総括する。					
【履修要件】					
ドイツ語中級以上の語学力があること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点により、授業への積極的参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価します。					
【教科書】					
プリント配布。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしたうえで出席してください。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学123

科目ナンバリング	G-LET17 7M183 SJ36				
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(演習) German Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 籠 碧		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Schnitzler: Der blinde Geronimo und sein Bruder (2)				
【授業の概要・目的】					
この授業では、世紀末ウィーンを代表する作家アルトゥル・シュニッツラーの小説『盲目のジェロニモとその弟』(1900)を読みます。「同情」というキーワードに注目して精読したいと思います。					
【到達目標】					
・ドイツ語文学の作品の読解力を高める。					
【授業計画と内容】					
第1回 はじめに： シュニッツラーの生涯と作品について解説する。 第2回～第14回 テキスト講読： テキストの後半部を精読する。 第15回 まとめ： これまでの授業内容を総括する。					
【履修要件】					
ドイツ語中級以上の語学力があること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点により、授業への積極的参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価します。					
【教科書】					
プリント配布。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしたうえで出席してください。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学124

科目ナンバリング	G-LET17 7M183 SJ36				
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(演習) German Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 川島 隆		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ドイツのリアリズム文学				
【授業の概要・目的】					
ドイツ語圏のリアリズム文学は英仏のそれに比べて広がりには欠け、社会批判的な方向性が弱かったとされる。同時代の文芸評論においても、文学は人間の営みの醜い部分をあばくよりも、美しいものを描くべきだとの主張も数多くなされた。ゆえに、ドイツのリアリズム文学は「詩的リアリズム」と呼ばれる。また、英仏のリアリズム文学がパリやロンドンといった大都市の発展を前提とした都市文学であったのに対し、都市化や市民層の形成が遅れたドイツ語圏にあっては、リアリズム文学はもっぱら農村部に立脚しながら展開した。以上のような差異から実際の文学にどのような特徴が生まれるのかに留意しながら、具体的に個々の作家の事例を見ていく。					
【到達目標】					
当該分野の研究動向を把握し、先行研究を批判的に読み、自分自身の視点を打ち出すことができるようになる。					
【授業計画と内容】					
基本的に輪読形式でドイツ語の研究論文を読む予定であるが、必要に応じて個々の文学作品も視野に入れる。授業の進行予定は以下のとおり。					
第1回 授業テーマの解説 第2～14回 テキスト輪読と討論 第15回 まとめ					
【履修要件】					
中級以上のドイツ語の読解能力があること					
【成績評価の方法・観点】					
平常点のみで評価。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
次回読む範囲を、ドイツ語辞書を用いて予め読んでおくこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学125

科目ナンバリング	G-LET17 7M183 SJ36				
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(演習) German Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 川島 隆		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ドイツのリアリズム文学				
【授業の概要・目的】					
ドイツ語圏のリアリズム文学は英仏のそれに比べて広がりには欠け、社会批判的な方向性が弱かったとされる。同時代の文芸評論においても、文学は人間の営みの醜い部分をあばくよりも、美しいものを描くべきだとの主張も数多くなされた。ゆえに、ドイツのリアリズム文学は「詩的リアリズム」と呼ばれる。また、英仏のリアリズム文学がパリやロンドンといった大都市の発展を前提とした都市文学であったのに対し、都市化や市民層の形成が遅れたドイツ語圏にあっては、リアリズム文学はもっぱら農村部に立脚しながら展開した。以上のような差異から実際の文学にどのような特徴が生まれるのかに留意しながら、具体的に個々の作家の事例を見ていく。					
【到達目標】					
当該分野の研究動向を把握し、先行研究を批判的に読み、自分自身の視点を打ち出すことができるようになる。					
【授業計画と内容】					
前期に引き続き、基本的に輪読形式でドイツ語の研究論文を読む。 取り上げるテーマとテキストについては、受講者の希望を考慮しつつ決定する。					
第1回 前期の復習と今期の課題の設定 第2～14回 テキスト輪読と討論 第15回 まとめ					
【履修要件】					
中級以上のドイツ語の読解能力があること					
【成績評価の方法・観点】					
平常点のみで評価					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
次回読む範囲を、ドイツ語辞書を用いて予め読んでおくこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング		G-LET17 7M183 SJ36			
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(演習) German Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 細見 和之		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ベンヤミン『ドイツ悲劇の根源』第2部「悲哀劇と悲劇」におけるアレゴリーについて。				
[授業の概要・目的]					
この演習では、ベンヤミンの『ドイツ悲劇の根源』の第2部「アレゴリーと悲哀劇」をドイツ語の原文で読み解くことで、ベンヤミンのアレゴリーという概念について理解するとともに、受講者が高度なドイツ語の読解能力を身に付けることを目指す。あわせて、受講者自身の研究発表の機会を授業のなかに組み込むことで、受講者が研究者として発信する力を身に付けることも目指す。					
[到達目標]					
受講生は、この演習をつうじて、ベンヤミンのアレゴリーという概念について学ぶとともに、広く20世紀という時代のなかで思想家がどのように生きてきたかについて、ゆたかな知識を得ることができる。また、高度なドイツ語の読解能力を身に付けることができる。さらに、自分自身の発表の機会をつうじて、研究者として自らの研究内容を発信する力を身に付けることができる。					
[授業計画と内容]					
第1回 イン트로ダクション ベンヤミンの思想全体のなかでの『ドイツ悲劇の根源』の第2部「アレゴリーと悲哀劇」の位置について、また彼のアレゴリーという概念について、概略的な解説をくわえる。 第2回から第14回 ドイツ語テキストの精読と受講者の発表 『ドイツ悲劇の根源』の第2部「アレゴリーと悲哀劇」をドイツ語の原文で精読するとともに、受講生による発表の時間を組み込む。 第15回 まとめ ベンヤミンのアレゴリーという概念について、受講者で討論することを主たる内容とする。					
[履修要件]					
ドイツ語の最低限の読解能力を有すること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(70点)、発表(20点)、討論参加(10点)を基本にして、総合的に判定する。					
[教科書]					
授業中に指示する					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に紹介する					
----- ドイツ語学ドイツ文学(演習)(2)へ続く -----					

ドイツ語学ドイツ文学(演習)(2)

[授業外学修(予習・復習)等]

ドイツ語論文の精読が基本になりますので、必ず予習をして臨んでください。背景的な知識がかなり必要になりますが、授業中に指示する参考文献も併読して、ホロコーストをあいだに挟んだ20世紀の思想の展開に対して強い関心をもっていただきたいと思います。また、自分の発表に際しては、それぞれの研究テーマに引き寄せて、積極的に取り組んでください。

(その他(オフィスアワー等))

毎週、火曜日、水曜日の昼休みには、原則として研究室にいますようにしていますので、お気軽にお訪ねください。それ以外の時間帯の場合、メールでアポイントを取っていただくとありがたいです。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学127

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 廣田 篤彦		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代英国演劇における多文化主義とその問題				
[授業の概要・目的]					
現代英国演劇、とりわけ旧植民地の背景を有する作家による作品の講読を通じて英国(UK)における多文化主義とその問題を考察する。具体的には、ジャマイカ出身の両親を有するLenny Henry作の一人芝居August in England (2023)を取り上げ、そこに見られるWest Indiesと英国との交流の歴史、ならびに英国社会の文化的多様性を検討し、そこから他者との相互交流の可能性について考察する。異文化体験について英語で討論することによって、多様な文化のあり方を実践的に理解する。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> 世界の文化の多様性や、異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解する 多様な文化的背景を持った人々との交流を通じて、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的に理解する 英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する 					
[授業計画と内容]					
<p>本授業は</p> <p>a) 戯曲テキストの講読</p> <p>b) 講読する内容と連動した、指定のトピックに関するプレゼンテーション(担当者を指名する)</p> <p>c) テキスト並びに関連文献の講読を通じて学んだ多文化主義の歴史と現状に基づく異文化体験に関するプレゼンテーション</p> <p>の3つから構成される。下に示すのは扱われる全体像であり、受講者の数、英語力、経験により毎回の内容は前後することがある。</p> <p>第1週 【序論】授業の進め方の解説 / 戯曲テキストの読み方とAugust in England の概略</p> <p>第2週 講読: August in England scene 1 / プレゼンテーション・トピック: Windrush</p> <p>第3週 scene 2 / カリブ海地域の植民地化の歴史と現状</p> <p>第4週 scene 3 / 英国におけるfootballとcricket</p> <p>第5週 scene 4 / Notting Hill Carnivalとカリブ海地域の音楽、食文化</p> <p>第6週 scene 5 (a long scene: 講読のみ)</p> <p>第7週 scene 6 / 現在の英国政治における移民問題</p> <p>第8週 scene 7 / 英国における南アジア系移民の歴史と現状</p> <p>第9週 scene 8 / 英国における地域格差</p> <p>第10週 scene 9 (a long scene: 講読のみ)</p> <p>第11週 scene 10 (同上)</p> <p>第12週 scene 11 / Windrush Scandal</p> <p>第13週 英国における多文化主義、異文化交流の歴史と文学</p> <p>第14週: 【異文化体験についてのプレゼンテーション】授業で学んできた知見を活かして、自らの異文化体験を英語で述べ、ディスカッションをする</p>					
英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く					

英語学英米文学(特殊講義)(2)

第15週【総論】人種・民族・種族等、様々な社会文化的側面において多様な在り方がせめぎ合う場としての現代英文学を包括的に理解する

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

a) テクストの講読 40%、b) 指定トピックに関するプレゼンテーション 30%、c) 異文化体験に関するプレゼンテーション 30%により評価する。正当な理由なく2回以上欠席した場合は単位を認めない。

【教科書】

Lenny Henry 『August in England』 (Faber, 2023) ISBN:978-0571386437

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回十分に予習をしてから授業に臨むこと。授業後は、授業中の解説を理解したうえで要点を整理し、異文化理解の観点から戯曲の理解に努めること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 南谷 奉良		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	新しい時代の異文化理解のための「文学研究と生成AI」				
[授業の概要・目的]					
<p>社会や世界との関わりの中で、他者とのコミュニケーションを行う力を育成する観点から、外国語やその背景にある文化の多様性及び異文化コミュニケーションの現状と課題について学ぶ。あわせて、英語が使われている国や地域の文化を通じて、英語による表現力への理解を深め、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する知見を身に付ける。この際、昨今注目を浴びている生成AIのリテラシーと精読・翻訳の作業を言語理解に合流させることで、生成AIの利用が当たり前になる世代に対するコミュニケーションと教育方法を模索する。この目的のため、異文化性や固有の歴史性が埋め込まれた文学テキストの読解を中心に授業を進め、最終的に受講者には、生成AIによってより豊かな解釈可能性をもつAI-Augmented Textを提出してもらう。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解している。 2) 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解している。 3) 英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解している。 4) 異文化コミュニケーションにとっての文学の重要性を理解している。 5) 生成AIのリテラシーを習得し、その適正な利用方法を理解している。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 Introduction：新しい時代の異文化理解のための「文学研究と生成AI」</p> <p>第2回 異文化理解の架橋と断絶 生成AIが異文化コミュニケーションにとってもちうる可能性と限界を検討する。</p> <p>第3回 「テキスト共同体」(Brian Stock)と「解釈共同体」(Stanley Fish) 異質な思考や文化的背景をもつ他者とコミュニケーションが可能な場を構想する。</p> <p>第4回 文学作品の原文精読(1) AIによる生成結果を信用しすぎないようにするための方法として、Oxford English Dictionaryを用いて、英語で書かれた短編作品を丹念に読解し、close-readingの方法に習熟する。</p> <p>第5回 文学作品への注釈付け(2) 前回扱った作品に注釈を施し、多様な歴史的、社会的、文化的意味によって織りなされたテキストであることの意味を深める。</p> <p>第6回 文学作品の翻訳(1) 異文化間コミュニケーションにおける翻訳の重要性を理解するために、グループ間で翻訳の実践を行う。</p> <p>第7回 文学作品の翻訳(2) 前回の翻訳に対して既存の複数の翻訳を比較し、翻訳の諸問題を理解する。</p> <p>第8回 ChatGPTを用いた文学作品の読解の試み 生成AIを通じて文学作品を読解・翻訳し、解釈や訳語の不自然さや妥当性を検討する。</p> <p>第9回 ChatGPTを用いた文学作品の「続編」作成の試み 生成AIを通じて文学作品を創造的に拡張し、原文テキストに埋め込まれた歴史的、社会的、文化的意味がどのようにして拡張され、ある</p>					
英語学英米文学(特殊講義) (2)へ続く					

英語学英米文学(特殊講義) (2)

いは変容を受けるのかを考察する。

第10回 文学作品とテキスト生成、音声生成 提出課題となるAI-Augmented Textの準備作業を行い、生成物に埋め込まれた「異文化性」を理解する。

第11回 文学作品と画像生成 前週と同様にAI-Augmented Textの作成作業を行う。文学作品の情景描写文から生成AIによる挿絵の作成の試みると同時に、AIによるハルシネーションや過剰/過少生成を見破るリテラシーを手に入れる。

第12回 AI-Augmented Text作成の試み(1) 発表グループ1

第13回 AI-Augmented Text作成の試み(2) 発表グループ2

第14回 講評とグループディスカッション 12,13回で発表されたAI-Augmented Textに対して講評を行い、その後グループに分かれて討議を行う。

第15回 まとめと質疑応答

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業への参加状況・提出物・口頭発表(60%)と学期末に提出する課題(40%)によって評価する。

【教科書】

授業中に指示する

テキストはこちらで配布する。

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業中に指定する配布物を事前に予習しておくこと。復習としては、当該授業回で扱った範囲や学習内容を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは水曜13:30~15:00。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET20 6M191 LJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 森 慎一郎		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Fitzgerald, The Great Gatsbyを読む				
[授業の概要・目的]					
F. Scott Fitzgeraldの代表作The Great Gatsby (1925)を精読しながら、文体、語りの形式、時代背景、ジェンダー/セクシュアリティ、人種、階級など、さまざまな見地から作品を検討する。あわせて作品の映画化(アダプテーション)についても考える。					
[到達目標]					
文学テキストを精確に読み、おもしろい疑問を持てるようになること。小説The Great Gatsbyおよびその作者Fitzgeraldについて理解を深めること。文学作品へのさまざまなアプローチの仕方に親しむこと。加えて、小説を通じて英語圏の文化への理解を深め、文学的な英語表現の機微に親しむことも本授業の目標となる。					
[授業計画と内容]					
授業は基本的に発表形式で行う。各回につき数名の担当者を指名し、その回の範囲について、レジュメを準備したうえで発表してもらおう。その発表をもとに参加者全員でディスカッションを行う。					
進行予定は下記のとおり。					
第1回	イントロダクション				
第2回	Chapter 1を読む				
第3回	Chapter 2を読む				
第4回	Chapter 3を読む				
第5回	The Great Gatsbyとアダプテーション				
第6回	Chapter 4を読む				
第7回	Chapter 5を読む				
第8回	Chapter 6を読む				
第9回	The Great Gatsbyとアダプテーション				
第10回	Chapter 7を読む				
第11回	Chapter 8を読む				
第12回	Chapter 9を読む				
第13回	The Great Gatsbyとアダプテーション				
第14回	総論とまとめ				
第15回	フィードバック				
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（60％）と期末レポート（40％）を合わせて評価する。平常点は、発表の質やディスカッションへ参加度など、学期を通じた授業への貢献度を評価する。

[教科書]

F. Scott Fitzgerald 『The Great Gatsby』（Penguin）ISBN:978-0141182636

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

発表担当者以外の者も含め、全員が各回の範囲を原文で徹底的に精読してくることを求められる。また、有名な作品で翻訳も多数あるので、開講前にざっとでも一度通読しておくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学130

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小林 久美子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アメリカ現代文学における病の表象について The Gifts of the Bodyを読む				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業は、Rebecca BrownのThe Gifts of the Body (1994)を読みます。エイズ患者のホームケア・ワーカーを語り手に据えた本作は、「病」によってもたらされる種々の二分法(患者と健常者、寿命と病死、家族と他者)について省察を呼びかけるものです。現代アメリカではどのように「病」が小説で描かれるのか、本作の精読によって学ぶことを目的とします。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・英語で書かれた文学作品の解釈を学ぶ ・現代アメリカ文学における「病」の表象を学ぶ ・英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する 					
[授業計画と内容]					
<p>注意：授業スケジュールはあくまでも暫定的なものです。必ず初回授業にて配布するスケジュール表をご参照ください。</p> <p>第1回：【序論】Rebecca Brownと1990年代におけるエイズについて 第2回：The Gift of Sweatを読む 第3回：The Gift of Wholenessを読む 第4回：The Gift of Tearsを読む 第5回：The Gift of Skinを読む 第6回：The Gift of Hungerを読む 第7回：The Gift of Deathを読む 第8回：The Gift of Speechを読む 第9回：The Gift of Sightを読む 第10回：The Gift of Hopeを読む 第11回：The Gift of Mourningを読む 第12回：The Gifts of the Body全体を振り返る1 第13回：The Gifts of the Body全体を振り返る2 第14回：レポートワークショップ 第15回：【総論】The Gifts of the Bodyと小説ジャンルについて</p>					
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

毎授業後のメールでのコメントシートの提出（20％）・発表（40％：予定回数は2回）・期末レポート（40％）にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表は担当するテキストに関するもので、25分から30分ほどの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。期末レポートは授業内で取りあげたテキストに関するものとする。

【教科書】

Brown, Rebecca 『The Gifts of the Body』 (Harper Perennial, 1995) ISBN: 9780060926533 (授業中、随時参照するため、必ずこの版を入手すること)

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

受講者は、翻訳で構わないので、第2回目授業までに一通り作品全体を読んでおくこと

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学大学院言語教育情報研究科 滝沢 直宏 教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英語語法文法研究				
[授業の概要・目的]					
<p>英語の語法文法の研究をする際には、まずもって英語の一次資料を分析的な目で常に読み、聞き、見る癖をつけることが大切である。受講生には、語彙・語法・文法・表現・言語理論の観点はもとより文化的視点、文体的・修辭的視点など幅広い観点から英語を観察し、興味深い例を発見することを求める。その上で、受講生各自が一週間の間に発見した例のうち、特に興味深いと思われる数例をMailing Listで紹介し合い、それを全員で検討しながら、英語の語法文法に関する理解を深める。</p> <p>収集した各例には、その例を特徴づける分類タグをできるだけ多く付与することが求められる。付与した分類タグの分だけ、一つの例を多角的に見たことになる。分類タグには、関連する言語学上の専門用語を正確に用いることも重要になってくるので、言語学関係の用語辞典を頻繁に参照することも必要となる。同時に、Quirk et al. (1985)、Huddleston & Pullum (2002)、Biber et al. (1999)など、既存の文法書を随時参照することも重視される。</p>					
[到達目標]					
日常的に触れている何気ない英文を分析的・複眼的に見る目が培われると同時に、言語学的な概念が習得される。					
[授業計画と内容]					
<p>1回：英語語法文法研究とは 2回：英語語法文法研究に資する例文データベースの構築方法 3回：例文データベースに対する分類タグ付けの方法 4回：生成文法と語法文法研究1 5回：生成文法と語法文法研究2 6回：動的な文法理論と語法文法研究1 7回：動的な文法理論と語法文法研究2 8回：認知言語学と語法文法研究1 9回：認知言語学と語法文法研究2 10回：談話の構成と語法文法研究 11回：英語史と語法文法研究1 12回：英語史と語法文法研究2 13回：コーパスと語法文法研究1 14回：コーパスと語法文法研究2 15回：まとめ</p>					
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

日頃の課題提出を含む平常点。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

Quirk et al. 『A Comprehensive Grammar of the English Language』 (Longman, 1985) (20世紀最大の英文法書)

Huddleston and Pullum 『The Cambridge Grammar of the English Language』 (Cambridge University Press, 2002)

Biber et al. 『A Longman Grammar of Spoken and Written English』 (Pearson Education, 1999)

他にも参照すべき語法書、文法書は多い。適宜、授業で紹介する。

【授業外学修(予習・復習)等】

多くの英文を日常的に読み、英語語法文法の観点、言語学的観点から例文を収集し、全員が加入するMailing Listに投稿することを求める。不断の努力を怠らないこと。

(その他(オフィスアワー等))

用事・質問がある場合には、メールでご連絡ください。必要に応じて、Zoomで面談します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学大学院言語教育情報研究科 滝沢 直宏 教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英語語法文法研究				
[授業の概要・目的]					
<p>英語の語法文法の研究をする際には、まずもって英語の一次資料を分析的な目で常に読み、聞き、見る癖をつけることが大切である。受講生には、語彙・語法・文法・表現・言語理論の観点はもとより文化的視点、文体的・修辭的視点など幅広い観点から英語を観察し、興味深い例を発見することを求める。その上で、受講生各自が一週間の間に発見した例のうち、特に興味深いと思われる数例をMailing Listで紹介し合い、それを全員で検討しながら、英語の語法文法に関する理解を深める。</p> <p>収集した各例には、その例を特徴づける分類タグをできるだけ多く付与することが求められる。付与した分類タグの分だけ、一つの例を多角的に見たことになる。分類タグには、関連する言語学上の専門用語を正確に用いることも重要になってくるので、言語学関係の用語辞典を頻繁に参照することも必要となる。同時に、Quirk et al. (1985)、Huddleston & Pullum (2002)、Biber et al. (1999)など、既存の文法書を随時参照することも重視される。</p>					
[到達目標]					
日常的に触れている何気ない英文を分析的・複眼的に見る目が培われると同時に、言語学的な概念が習得される。					
[授業計画と内容]					
<p>1回：英語語法文法研究とは 2回：英語語法文法研究に資する例文データベースの構築方法 3回：例文データベースに対する分類タグ付けの方法 4回：生成文法と語法文法研究1 5回：生成文法と語法文法研究2 6回：動的な文法理論と語法文法研究1 7回：動的な文法理論と語法文法研究2 8回：認知言語学と語法文法研究1 9回：認知言語学と語法文法研究2 10回：談話の構成と語法文法研究 11回：英語史と語法文法研究1 12回：英語史と語法文法研究2 13回：コーパスと語法文法研究1 14回：コーパスと語法文法研究2 15回：まとめ</p>					
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

日頃の課題提出を含む平常点。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

Quirk et al. 『A Comprehensive Grammar of the English Language』 (Longman, 1985) (20世紀最大の英文法書)

Huddleston and Pullum 『The Cambridge Grammar of the English Language』 (Cambridge University Press, 2002)

Biber et al. 『A Longman Grammar of Spoken and Written English』 (Pearson Education, 1999)

他にも参照すべき語法書、文法書は多い。適宜、授業で紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

多くの英文を日常的に読み、英語語法文法の観点、言語学的観点から例文を収集し、全員が加入するMailing Listに投稿することを求める。不断の努力を怠らないこと。

(その他(オフィスアワー等))

用事・質問がある場合には、メールでご連絡ください。必要に応じて、Zoomで面談します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学133

科目ナンバリング	G-LET20 6M191 LJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学 文学部 教授 出口 菜摘		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Margaret Atwoodの詩の読解と翻訳				
[授業の概要・目的]					
この授業では、カナダの詩人・作家であるマーガレット・アトウッドが、1968年に発表した第2詩集『あの国の動物たち』(The Animals in That Country, 1968)の読解と翻訳を行う。人間と動物、人間と環境の関係性や境界を問い直す本詩集は、動物倫理や環境問題といった今日的な問題へ接続できるだろう。また、アトウッドの評論『サバイバル』(Survival, 1972)を参照し、比較文化的視座から動物表象について考える。					
[到達目標]					
この授業を通じ、詩の読解能力を養うとともに、文芸翻訳に取り組む。また、比較文化的視座から動物表象について考察することにより、人間が動物を描くことの意味について理解する。					
[授業計画と内容]					
1.Introduction 2.The animals in that country 3.Attitudes towards the mainland 4.The green man 5.At the tourist centre in Boston 6.A night in the Royal Ontario Museum 7.River 8.What happened 9.Roominghouse, winter 10.It is dangerous to read newspaper 11.Progressive insanities of a pioneer (1) 12.Progressive insanities of a pioneer (2) 13.Speeches for Dr Frankenstein (1) 14.Speeches for Dr Frankenstein (2) 15.Speeches for Dr Frankenstein (3)					
[履修要件]					
特になし					
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点50%(コメントやディスカッション等)と期末レポート50%で判断する。レポートの内容については授業時に指示する。

[教科書]

使用しない
初回授業でプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

作品を精読したうえで、テーマに関して問題意識を明確にして授業に臨むこと。また、関連する先行研究や関連資料にも目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

教員の連絡先は以下の通り。n_deguchi@kpu.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学134

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学 文学部 准教授 後藤 篤		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ポストモダン・アメリカ小説研究 Jhumpa Lahiriを読む				
[授業の概要・目的]					
<p>Jhumpa Lahiri (1967-) の第二短篇集Unaccustomed Earth (2008) および先行研究・批評等の関連資料を取り上げる。毎回の授業では、現代アメリカ文学・文化に関する解説もまじえながら、受講者による発表とディスカッションをもとに、インド(ベンガル)系アメリカ移民である作者自身の出自を反映した同書の収録作品を講読する。</p>					
[到達目標]					
<p>比較的難易度の高いテキストの解釈に取り組むことにより、文章の一語一句に込められた微妙なニュアンスが読み取れるような英文解釈のセンスに磨きをかける。同時に、批評理論・文化理論や関連する欧米の文化事象についての知識と理解を深めるなかで、作品のテキスト/コンテクストを読み解く批評眼を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イントロダクション 第2回 “Unaccustomed Earth”(1) 第3回 “Unaccustomed Earth”(2) 第4回 “Hell-Heaven” 第5回 “A Choice of Accommodations”(1) 第6回 “A Choice of Accommodations”(2) 第7回 “Only Goodness”(1) 第8回 “Only Goodness”(2) 第9回 “Nobody's Business”(1) 第10回 “Nobody's Business”(2) 第11回 “Once in a Lifetime” 第12回 “Year's End” 第13回 “Going Ashore” 第14回 エッセイ・インタビューおよび先行研究の概観 第15回 授業のまとめ・フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポート50%と発表課題30%、平常点20%（毎回の授業中の発言やディスカッションへの貢献、授業後のコメント提出）を総合的に判断する。

[教科書]

Jhumpa Lahiri 『Unaccustomed Earth』（Vintage Books, 2009）ISBN:978-0-307-27825-8

[参考書等]

（参考書）

Peter Barry 『Beginning Theory: An Introduction to Literary and Cultural Theory』（Manchester UP, 2017）

三原芳秋・渡邊英理・鶴戸聡編 『クリティカル・ワード 文学理論 読み方を学び文学と出会いなおす』（フィルムアート社、2020）

[授業外学修（予習・復習）等]

辞書・辞典類、アメリカ言語文化および批評理論・文化理論、現代思想に関する文献資料あるいはインターネット資料を積極的に参照し、毎回の範囲を丁寧に予習した上で授業に臨むこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学135

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	佛教大学文学部英米学科 准教授 メドロック 麻弥	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Vladimir Nabokov _The Luzhin Defense_ 研究				
[授業の概要・目的]					
<p>Vladimir Nabokov (1899-1977)の小説_The Luzhin Defense_ (1963)を精読する。1930年に出版された、チェス名人を主人公とするロシア語小説_Zashichita Luzhina_の英語版である本作は、ナボコフの「ロシア語小説のうち、もっとも『ぬくもり』のある」作品であると自身が認めるものである。その「ぬくもり」や、散りばめられたさまざまなモチーフ、テーマ(とりわけ「音楽」のテーマ)を感じながら読み進める。</p>					
[到達目標]					
<p>技巧的な散文を読み解く想像力と論理的思考力を習得する Nabokovの世界観を説明することができる 文学作品の緻密な読み方を習得する</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イントロダクション 第2回 Chapter 1 輪読 第3回 Chapter 2 輪読 第4回 Chapter 3 輪読 第5回 Chapter 4 輪読 第6回 Chapter 5 輪読 第7回 Chapter 6 輪読 第8回 Chapter 7 輪読 第9回 Chapter 8 輪読 第10回 Chapter 9 輪読 第11回 Chapter 10 輪読 第12回 Chapter 11 輪読 第13回 Chapter 12 輪読 第14回 Chapter 13 輪読 第15回 Chapter 14 輪読</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>平常点70点+学期末レポート30点として評価する。 平常点としては、予習の状況、授業への貢献を評価する。 レポートでは、作品の基本的な理解度や、精読を通して得られた問題点について論理的に分析して</p>					
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(特殊講義)(2)

いるか、といった点を評価する。

[教科書]

Vladimir Nabokov 『The Luzhin Defense』 (Penguin, 2000) ISBN:ISBN-10: 0141185988

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

一回の授業で、できれば1章ぶんの輪読をします。自分なりの日本語訳ができるように、毎回予習して授業にのぞんでください。日本語訳だけでなく、問題点、気になる点などもまとめてきてください。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーはありません。質問、連絡等は電子メールで受け付けます。
maya-m@bukkyo-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸大学 大学院国際文化学研究科 教授 西谷 拓哉		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	19世紀アメリカ文学に見る白人と黒人の交流				
[授業の概要・目的]					
この授業では、19世紀のアメリカ文学における人種表象を読み解きながら、アメリカ合衆国において白人文化と黒人文化の接触によってハイブリッドな文化が生まれてきたプロセスを考察することを目的とする。扱う作品は、ポー、メルヴィル、ストウ、トウェインの小説のほか、奴隷体験記、黒人霊歌等も含む。					
[到達目標]					
1. 19世紀のアメリカにおける白人と黒人の文化的交流について基本的な知識を得る。 2. 文学作品の読解を通して、南北戦争前後における人種関係の多様性と多義性を理解する。					
[授業計画と内容]					
前半では、植民地時代から19世紀前半において白人と黒人が接触し、相互交流してきた歴史を概観するとともに、主として19世紀前半のアメリカ文学において描かれた黒人像をたどる。ここでは、白人と黒人の政治的関係を背景として踏まえつつ、19世紀アメリカ文学における人種観の形成とその変容を検討する。後半では、南北戦争以後の白人と黒人の交流史を概観しながら、アメリカ文学において描かれた黒人像の変遷をたどり、19世紀後半における人種表象のあり方や人種の境界線上にある人々の自己意識を検討する。					
第1回	イントロダクション：アメリカにおける黒人の歴史				
第2回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像(1)：ポーの諸作品(1)				
第3回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像(1)：ポーの諸作品(2)				
第3回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像(3)：メルヴィル『白鯨』				
第4回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像(4)：メルヴィル「ベニート・セレーノ」(1)				
第5回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像(5)：メルヴィル「ベニート・セレーノ」(2)				
第6回	反奴隷制の文学(1)：奴隷体験記、黒人霊歌				
第7回	反奴隷制の文学(2)：ストウ『アンクル・トム的小屋』(1)				
第8回	反奴隷制の文学(3)：ストウ『アンクル・トム的小屋』(2)				
第9回	南北戦争の文学的表象				
第10回	マーク・トウェインの描く黒人像(1)：『トム・ソーヤーの冒険』、				
第11回	マーク・トウェインの描く黒人像(2)：『ハックルベリー・フィンの冒険』ほか(1)				
第12回	マーク・トウェインの描く黒人像(3)：『ハックルベリー・フィンの冒険』ほか(2)				
第13回	パッシング小説と映画の系譜(1)				
第14回	パッシング小説と映画の系譜(2)				
第15回	現代黒人文学への接続				
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

アメリカにおける白人文化と黒人文化の交流の流れを理解できているか、人種関係を理解できているか、アメリカ文学の作品読解がきちんとできているかといった観点から評価する。

平常の活動(40%)、中間レポート(30%)、最終レポート(30%)を総合して評価する。

平常の活動は毎回のコメントシート、小レポートによって評価する。

中間レポート、最終レポートは独創性・着眼点(50%)、文章構成(30%)、資料の活用度(20%)により評価する。

【教科書】

KULASISよりプリントを配布します。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

事前に作品からの引用を読んでおくことが求められます。

(その他(オフィスアワー等))

授業前後の相談、メールでの問い合わせを受けつけます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学 文学部 准教授 西谷 茉莉子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	抒情詩の語り手について考えるーW. B. イェイツの中後期の詩作品を中心に				
[授業の概要・目的]					
<p>抒情詩における語り手をテーマに据えながら、1920年代から30年代にかけて書かれた円熟期のイェイツの詩作品を精読する。"Meditations in Time of Civil War," "Among School Children," "Leda and the Swan," "Crazy Jane poems," "Man and the Echo," "The Curse of Cromwell"などを予定している。</p> <p>批評家Jonathan Cullerによると、近代以降の抒情詩には、語り手の思考プロセスの模倣ではなく、それを表現したものが描かれるという。そのような指摘をふまえ、本講義では、イェイツの中後期の詩作品において語り手の思考プロセスがどのように表現されているか考える。さらに、講義の後半では同時代に発表された他の詩人の作品を併せて読み、比較対象としたい。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 英詩を精読することによって、テキストを読み解く力を向上させる。 2. 口頭発表、ディスカッション、コメントシート作成などの作業を通して、論理的思考や表現力を身に付ける。 3. 注釈の参照、文献検索、批評的な文章の読解など、リサーチに必要な技能を錬成する。 					
[授業計画と内容]					
第1回	イントロダクション、授業の進め方についての説明				
第2回	W. B. イェイツ "Meditations in Time of Civil War"				
第3回	W. B. イェイツ "Meditations in Time of Civil War"				
第4回	W. B. イェイツ "Leda and the Swan"				
第5回	W. B. イェイツ "Among School Children"				
第6回	W. B. イェイツ Crazy Jane poems				
第7回	W. B. イェイツ Crazy Jane poems				
第8回	W. B. イェイツ "Man and the Echo"				
第9回	W. B. イェイツ "The Curse of Cromwell"				
第10回	T. S. エリオットの詩を読む				
第11回	T. S. エリオットの詩を読む				
第12回	W. H. オーデンの詩を読む				
第13回	W. H. オーデンの詩を読む				
第14回	まとめ				
第15回	フィードバック				
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業参加度(20点)、発表(30点)、レポート(50点)で総合的に評価する。

[教科書]

プリントを配布します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回、一編、あるいは二編の詩を扱う予定です。担当者は、訳を作成して、前日までに西谷まで提出してください。
口頭発表の担当ではない場合も、作品を読んで十分に準備し、授業内でのディスカッションに備えること。活発な議論を期待しています。
授業で紹介する作品や参考文献を読み、自主的にリサーチを行い、期末レポートの執筆に役立ててください。

(その他(オフィスアワー等))

連絡先は授業時にお伝えします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	同志社女子大学表象文化学部 木島 菜菜子 准教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Charlotte Brontë, *Jane Eyre*を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>シャーロット・ブロンテの『ジェイン・エア』は、時代を超えて愛読され、映画化され、批評されてきた。有名な作品のため、あらすじなどは簡単に手に入るが、本授業では改めて原書を丁寧に読み進めながら、自分の感性を出発点に文学作品を論じる楽しさを味わう。ヴィクトリア朝という作品の時代背景についても知識を増やし、これまでの先行研究で議論されてきた点、他の作家への影響、小説を論じる際の基本的な概念もおさえつつ、作品の読みどころの再発見と更なる解釈の可能性を探る。</p>					
[到達目標]					
<p>辞書を引きながら原書を楽しんで読むことができる。 小説読解のための英語力を身につけている。 小説を論じるための基礎的な概念や知識を身につけており、自分の言葉で作品の読みどころを論じることができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション(授業の進め方の説明など) 第2回 *Jane Eyre* Chapter 1~2と小説の書き出しについて 第3回 *Jane Eyre* Chapter 3~4 第4回 *Jane Eyre* 映画鑑賞(Chapter 5~10) 第5回 *Jane Eyre* Chapter 11~13 第6回 *Jane Eyre* Chapter 14~16 第7回 *Jane Eyre* Chapter 17~19 第8回 *Jane Eyre* Chapter 20~23 第9回 *Jane Eyre* Chapter 24~26 第10回 *Jane Eyre* Chapter 27~28 第11回 *Jane Eyre* Chapter 29~32 第12回 *Jane Eyre* Chapter 33~35 第13回 *Jane Eyre* Chapter 36~38 第14回 先行研究と語り直しについて 第15回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
<p>特になし。英語で小説を読むことが好きな学生の受講を希望する。</p>					
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（各回のコメントペーパー）：50%
期末レポート：50%

[教科書]

Charlotte Brontë 『Jane Eyre』（Penguin）ISBN:9780141441146

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎週、該当する章を読み、コメントペーパーを提出する。

（その他（オフィスアワー等））

授業は原則として日本語でおこなう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸学院大学 准教授 WROBETZ, Kevin Reay		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Academic Writing 1: Linguistics, Game Theory, and Social Interaction				
[授業の概要・目的]					
<p>This course will introduce students to the concepts of linguistics and game theory through the context of social interaction. Specifically, this course will help students understand how the English language underpins social interaction on a global scale and how the rules of social interaction directly affect the use of language. Throughout the course, students will actively participate in games which highlight different contexts of social interaction in the English language as well as discuss how game rules may be modified to achieve different contexts of social interaction in English. As this is a content-focused course taught through the medium of English, students will be expected to read a substantial amount of authentic academic materials in English, to summarize in their own words what they have read, and to engage in in-depth classroom discussion of the content. Much of the content of the course discussions and course materials will relate how the principles of linguistics and game theory may be applied to achieve a deeper understanding of intercultural communication in specific contexts.</p>					
[到達目標]					
<p>This course will increase students' knowledge and understanding of the various roles that the English language plays in the world today, the sociocultural context of intercultural communication, and the inner mechanics of various games which influence how communication plays out. The active participation in games, group discussions, and presentations will develop students' oral communication skills and turn them into more confident English speakers, while the course materials will broaden students' vocabulary skills and general knowledge of the goals of intercultural communication, linguistics, game theory, and the significance of the context of intercultural communication.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Students will be given weekly reading assignments to prepare before each class. Classroom sessions will involve active participation in various games, short lectures to clarify relevant concepts, and group discussions to help students think critically about the main topics of the course. The course will evaluate students through the use of in-class comprehension activities and comprehension worksheets. Additionally, students will submit and present the content of a research essay to evaluate the students' ability to express in writing their understanding of and opinions regarding the course content.</p> <p>Week 1: Course Introduction Week 2: Competition and the Spread of Disinformation A: Game Introduction Week 3: Competition and the Spread of Disinformation B: Informed Majority Vs. Uninformed Minority Week 4: Competition and the Spread of Disinformation C: Language of Deception Week 5: Competition and the Spread of Disinformation D: Class Discussion of Competitive Games Week 6: Competition and the Spread of Disinformation E: Competition and Conspiracy (Us Vs. Them) Week 7: Competition and the Spread of Disinformation F: The Prisoner's Dilemma and the Erosion of Trust Week 8: Cooperation and Global Climate Change Coalitions A: Game Introduction</p>					
英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く					

英語学英米文学(特殊講義)(2)

Week 9: Cooperation and Global Climate Change Coalitions B: From Each According to Their Ability
Week 10: Cooperation and Global Climate Change Coalitions C: Language of Teamwork
Week 11: Cooperation and Global Climate Change Coalitions D: Class Discussion of Cooperative Games
Week 12: Cooperation and Global Climate Change Coalitions E: Climate Change Coalition
Week 13: Cooperation and Global Climate Change Coalitions F: The Shapley Value and the Building of Trust
Week 14: Student Presentations on Essays
Week 15: Make-Up Lesson

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Comprehension Worksheets: 10%
Essay: 20%
Oral Presentation: 20%
Class Participation: 60%

【教科書】

All reading material and instructional media will be provided by the course instructor. Some of the reading material will focus on cooperative and competitive game theory (Von Neumann & Morgenstern).

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修(予習・復習)等】

Weekly reading preparation for class discussion. Submission of comprehension worksheets based on the content of weekly readings, in-course instructional material, and lecture content. Research essay and final presentation will also be prepared outside of class.

【その他(オフィスアワー等)】

If students have any questions regarding this course, they are encouraged to contact the instructor at krwrobotz@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学140

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸学院大学 准教授 WROBETZ, Kevin Reay		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Academic Writing 2: Linguistics, Game Theory, and Social Interaction				
[授業の概要・目的]					
<p>This course will introduce students to the concepts of linguistics and game theory through the context of social interaction. Specifically, this course will help students understand how the English language underpins social interaction on a global scale and how the rules of social interaction directly affect the use of language. Throughout the course, students will actively participate in games which highlight different contexts of social interaction in the English language as well as discuss how game rules may be modified to achieve different contexts of social interaction in English. As this is a content-focused course taught through the medium of English, students will be expected to read a substantial amount of authentic academic materials in English, to summarize in their own words what they have read, and to engage in in-depth classroom discussion of the content. Much of the content of the course discussions and course materials will relate how the principles of linguistics and game theory may be applied to achieve a deeper understanding of intercultural communication in specific contexts.</p>					
[到達目標]					
<p>This course will increase students' knowledge and understanding of the various roles that the English language plays in the world today, the sociocultural context of intercultural communication, and the inner mechanics of various games which influence how communication plays out. The active participation in games, group discussions, and presentations will develop students' oral communication skills and turn them into more confident English speakers, while the course materials will broaden students' vocabulary skills and general knowledge of the goals of intercultural communication, linguistics, game theory, and the significance of the context of intercultural communication.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Students will be given weekly reading assignments to prepare before each class. Classroom sessions will involve active participation in various games, short lectures to clarify relevant concepts, and group discussions to help students think critically about the main topics of the course. The course will evaluate students through the use of in-class comprehension activities and comprehension worksheets. Additionally, students will submit and present the content of a research essay to evaluate the students' ability to express in writing their understanding of and opinions regarding the course content.</p> <p>Week 1: Course Introduction Week 2: Intercultural Communication During Disaster A: Game Introduction Week 3: Intercultural Communication During Disaster B: The Interconnectedness of the Globe Week 4: Intercultural Communication During Disaster C: The Role of Communication Week 5: Intercultural Communication During Disaster D: Class Discussion on the Global Response to Pandemics Week 6: Intercultural Communication During Disaster E: Abstraction of Complexity (Learning From Past Mistakes)</p>					
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(特殊講義)(2)

Week 7: Intercultural Communication During Disaster F: Parallels to Real Life
Week 8: What Housing Crisis? Japan Vs. the West A: Game Introduction
Week 9: What Housing Crisis? Japan Vs. the West B: Play by the Rules (Zoning Ordinances)
Week 10: What Housing Crisis? Japan Vs. the West C: Don't Play by the Rules (Changing Zoning Ordinances)
Week 11: What Housing Crisis? Japan Vs. the West D: Class Discussion on the Housing Crisis in the West
Week 12: What Housing Crisis? Japan Vs. the West E: Comparing Japanese and Western Housing Markets
Week 13: What Housing Crisis? Japan Vs. the West F: Different Rules, Different Outcomes
Week 14: Student Presentations on Essays
Week 15: Make-Up Lesson

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Comprehension Worksheets: 10%
Essay: 20%
Oral Presentation: 10%
Class Participation: 60%

【教科書】

All reading material and instructional media will be provided by the course instructor. Some of the reading will focus on group actions in repeated games (Farrell & Maskin) and the cross-cultural legislative implementation of zoning ordinances (Durning).

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修(予習・復習)等】

Weekly reading preparation for class discussion. Submission of comprehension worksheets based on the content of wweekly readings, in-course instructional material, and lecture contnet. Research essay and final presentation will also be prepared outside of class.

(その他(オフィスアワー等))

If students have any questions regarding this course, they are encouraged to contact the instructor at krwrobetz@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学（特殊講義） English and American Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学 文学部 准教授 西谷 茉莉子	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	シェイマス・ヒーニーの初期の詩を精読する				
[授業の概要・目的]					
<p>北アイルランドのデリー州出身のシェイマス・ヒーニー（1939-2013）は、アイルランドのみならず英語圏で広く親しまれている現代詩人のひとりである。本講義では、ヒーニーの第一詩集Death of a Naturalist(1966)、第二詩集Door into the Dark(1969)、第三詩集Wintering Out(1972)所収の作品を精読する。これらの詩では、少年時代の回想、田舎暮らしや自然、詩の創作、アイルランドの政治的状況などのテーマが扱われる。</p> <p>授業では、原書のテキストに向き合う姿勢を身に付け、詩を読むために必要な知識を学ぶことによって、作品を読み解く鍛錬を行う。それとともに、適宜、英語の注釈、伝記的批評、詩論などの文献を併せて読み、その知識を関連させて作品を考察する。</p> <p>毎回の授業は作品の朗読、および口頭発表とディスカッションを中心に進める。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 英詩を精読することによって、テキストを読み解く力を向上させる。 2. 口頭発表、ディスカッション、コメントシート作成などの作業を通して、論理的思考や表現力を身に付ける。 3. 注釈の参照、文献検索、批評的な文章の読解など、リサーチに必要な技能を錬成する。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イントロダクション：シェイマス・ヒーニーについて、および作品と関連する社会的文脈、伝記的知識、文学史上重要な出来事などを説明する。授業の進め方や準備の仕方について周知し、発表の担当を決める。</p> <p>第2回 Death of a Naturalistの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第3回 Death of a Naturalistの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第4回 Death of a Naturalistの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第5回 Death of a Naturalistの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第6回 Door into the Darkの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第7回 Door into the Darkの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第8回 Door into the Darkの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第9回 Door into the Darkの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第10回 Wintering Outの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第11回 Wintering Outの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第12回 Wintering Outの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第13回 Wintering Outの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第14回 まとめ</p> <p>第15回 フィードバック</p>					
----- 英語学英米文学（特殊講義）(2)へ続く -----					

英語学英米文学（特殊講義）(2)

授業計画は、状況によって変更することがあります。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業参加度(20点)、発表(30点)、レポート(50点)で総合的に評価する。

【教科書】

テキストや注釈等については、授業内でプリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

授業内で紹介する文献は積極的に手にとってください。

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回、一編、あるいは二編の詩を扱う予定です。担当者は、訳を作成して、前日までに西谷まで提出してください。担当者以外の履修者も、作品を読んでディスカッションに備えてくること。授業で紹介する作品や参考文献を読み、自主的にリサーチを行い、期末レポートの執筆に役立ててください。

（その他（オフィスアワー等））

連絡先等は初回の授業でお伝えします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	北海道大学大学院文学研究院 竹内 康浩 教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	エドガー・アラン・ポーとその影響				
[授業の概要・目的]					
<p>探偵小説の始祖とされる19世紀米国作家エドガー・アラン・ポーの短編小説を読みながら、作家がいかに登場人物の混迷を描き、さらに読者を煙に巻くか、すなわち彼の創作原理を考察します。その原理とは、物理的な鍵のようなもので、謎をロックするときにもアンロックするときにも使えます。また応用編として、その原理を使ってポー以外の作家による作品も読み解いてみたいと思います。</p>					
[到達目標]					
<p>エドガー・アラン・ポーの作品を読むことで、彼の創作原理を理解し、その原理を使用して、ひろく文学作品を考察することができるようになります。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下はあくまでも予定です。受講生の人数などによって適宜調整します。</p>					
1日目					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1回、2回：“Thou Art the Man”(「お前が犯人だ」)を読む(講義) ・ 3回：受講生による発表&ディスカッション(演習) 					
2日目					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 4回、5回：“A Tale of the Ragged Mountains”(「鋸山綺譚」)を読む(講義) ・ 6回：受講生による発表&ディスカッション(演習) 					
3日目					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 7回、8回：“The Murders in the Rue Morgue”(「モルグ街の殺人」)を読む(講義) ・ 9回：受講生による発表&ディスカッション(演習) 					
4日目					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 10回、11回：“The Purloined Letter”(「盗まれた手紙」)を読む(講義) ・ 12回：受講生による発表&ディスカッション(演習) 					
5日目					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 13回、14回：“The Black Cat”(「黒猫」)を読む(講義) ・ 15回：受講生による発表&ディスカッション(演習) 					
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

発表（４０％）、授業での質疑応答（２０％）、レポート（４０％）で総合的に評価する。

【教科書】

エドガー・アラン・ポーの作品（英語）は以下のサイトで全て読むことができます。

<https://www.eapoe.org/works/mabbott/tominfo.htm>

授業では、上記のマボット版を使用します。（ページ数に言及する際、この版のページを用います）。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

受講までに「授業計画」で挙げた諸作品を以下のサイトで熟読しておいて下さい。<https://www.eapoe.org/works/mabbott/tominfo.htm>

余裕のある人は"The Fall of the House of Usher"と"The Sphinx"も読んでみて下さい。

（その他（オフィスアワー等））

連絡はメールで行います。メールアドレスは、qze11357@gmail.com です。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 家入 葉子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
題目	Investigating constructional alternations in recent English				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業は、主に客員教授のEva Zehentner先生(チューリッヒ大学)が担当しますが家入が補助します。Zehentner先生の来日スケジュールに変更が生じた場合は、講義内容および使用言語等に変更が生じることがあります。</p> <p>Syntactic alternations most basically refer to cases where “two or more ways of saying the same thing” (Labov 1972: 271) are available, i.e. where two formally distinct patterns express equivalent or similar meanings. For example, in the well-known English dative alternation, a nominal pattern (give the student a book) is more or less interchangeable with a prepositional pattern (give a book to the student). Such alternations have featured centrally in most, if not all, theoretical approaches to syntax (see e.g. Pijpops 2020). Typical issues that have been raised in their regard are to determine the precise relation between the members of an alternation and its theoretical modelling, with e.g. one pattern postulated to underlie the other in deep structure, or both patterns being represented as largely independent from each other (e.g. Goldberg 1995; Rappaport Hovav & Levin 2008; and many others, on the English dative alternation). Furthermore, the factors impacting the choice between alternating variants have received ample attention, investigating the effect of language-internal properties like semantic or pragmatic differences or processing-related features, but also sociolinguistic, external predictors such as variety or genre (e.g. Grafmiller & Szmrecsanyi 2018). In Construction Grammar specifically, alternations were disregarded for some time (e.g. Goldberg 1995, 2006), but have been met with renewed interest ever since Cappelle’s (2006) seminal work on ‘allostructions’ and discussions on ‘horizontal’ links (also Perek 2012, 2015; Ungerer forthc.; for a recent overview of relevant developments see Zehentner 2023).</p> <p>The seminar will introduce relevant concepts and theoretical questions regarding syntactic alternations in Construction Grammar, and will use large standard corpora of contemporary and recent historical English to allow students to carry out research projects on selected alternation phenomena. Specifically, we will use corpora from the Mark Davies family available at www.english-corpora.org, such as COCA (Corpus of Contemporary American English), COHA (Corpus of Historical American English) and the BNC (British National Corpus), among others, which cover a wide range of genres and different timeframes. On the basis of few selected alternation phenomena, students will be guided in their research process, learning how to find topics, formulate specific questions, retrieve and annotate data, as well as analyse and interpret their findings. This will be done in a step-by-step, accessible, and hands-on way, with students receiving specific input on methodological and theoretical aspects of alternation studies.</p>					
[到達目標]					
<p>The goal of the course is to introduce students to syntactic alternations from a Construction Grammar perspective, discussing (i) theoretical questions that arise when dealing with variation between formally or functionally overlapping constructions, and (ii) providing a hands-on introduction to investigating</p>					
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(特殊講義)(2)

alternations with corpus data in contemporary and recent historical English. On the basis of representative phenomena such as the English dative alternation (gave them a book vs gave a book to them), the genitive alternation (the book 's pages vs the pages of the book), the particle alternation (take your shoes off vs take off your shoes), and the comparative adjective alternation (easier vs more easy), students will be familiarised with the history of alternation research in Construction Grammar, and will learn how to set up a small corpus research project on the alternations in question: This will include practical guidance on how to retrieve relevant data from corpora, how to operationalise factors that may impact the alternations, and how to interpret findings in a constructionist framework.

【授業計画と内容】

1. Introduction to the basics of Construction Grammar
2. Syntactic alternations and their treatment in Construction Grammar
3. Case studies: 4 (in)famous alternations in English
4. Research design I: topics and research questions
5. Research design II: dependent and independent variables
6. Corpus linguistics: standard corpora of English and their use
7. Retrieving alternations from corpora
8. Annotating and analysing alternation data (1)
9. Annotating and analysing alternation data (2)
10. Descriptive statistics (summing up results, observing frequency trends)
11. Inferential statistics (using Excel and R to run statistical tests and models)
12. Hands-on practice of descriptive and inferential statistical analysis
13. Interpreting results
14. Discussion of theoretical implications of empirical findings
15. Wrap-up on data analysis and constructionist approaches

【履修要件】

Active participation in discussions, data retrieval and analysis.

【成績評価の方法・観点】

attendance/class contribution 20%,
data analyses 30%,
report (write-up of findings) 50%

【教科書】

授業中に指示する

Course materials (PDFs) will be provided ahead of the seminar.

【参考書等】

(参考書)

Corpora

英語学英米文学(特殊講義)(3)へ続く

英語学英米文学(特殊講義)(3)

BNC = Davies, Mark. 2004. British National Corpus (from Oxford University Press). <https://www.english-corpora.org/bnc/>.

COCA = Davies, Mark. 2008-. The Corpus of Contemporary American English (COCA). <https://www.english-corpora.org/coca/>.

COHA = Davies, Mark. 2010. The Corpus of Historical American English (COHA). <https://www.english-corpora.org/coha/>.

References

Cappelle, Bert. 2006. Particle placement and the case for “allostructions”. *Constructions* 1. 1-28. <https://doi.org/10.24338/cons-381>.

Goldberg, Adele. 1995. *Constructions. A Construction Grammar Approach to Argument Structure*. Chicago: Chicago University Press.

Goldberg, Adele. 2006. *Constructions at work: The nature of generalization in language*. Oxford: Oxford University Press. <https://doi.org/10.1093/acprof:oso/9780199268511.001.0001>.

Grafmiller, Jason & Benedikt Szmrecsanyi. 2018. Mapping out particle placement in Englishes around the world. A case study in comparative sociolinguistic analysis. *Language Variation and Change* 30(03). 385-412. <https://doi.org/10.1017/S0954394518000170>.

Labov, William. 1972. *Sociolinguistic patterns*. Philadelphia, PA: University of Pennsylvania Press.

Perek, Florent. 2012. Alternation-based generalizations are stored in the mental grammar: Evidence from a sorting task experiment. *Cognitive Linguistics* 23(3). 601-635. <https://doi.org/10.1515/cog-2012-0018>.

Perek, Florent. 2015. Argument structure in usage-based Construction Grammar: Experimental and corpus-based perspectives. Amsterdam: Benjamins. <https://doi.org/10.1075/cal.17>.

Pijpops, Dirk. 2020. What is an alternation? Six answers. *Belgian Journal of Linguistics* 34. 283-294.

Ungerer, Tobias. forthc. Vertical and horizontal links in constructional networks: Two sides of the same coin? *Constructions and Frames*.

Zehentner 2023 Allostructions revisited. *Constructions* 15(1). 1-20. [Special Issue: 35 Years of *Constructions*]. <https://doi.org/10.24338/cons-569>.

[授業外学修（予習・復習）等]

Assigned reading

（その他（オフィスアワー等））

必要な場合は、<https://iyeyri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学146

科目ナンバリング		G-LET20 7M193 SJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学（演習） English and American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 家入 葉子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火5	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	英語史研究の方法				
[授業の概要・目的]					
具体的な研究を通じて、英語史研究の方法を学びます。また、授業を通して、資料収集の方法、データ整理の方法、論文の作成方法など、研究に必要な手法を習得します。					
[到達目標]					
研究論文の多読を通じて、英語史全般についての体系的な知識を身につけます。同時に、その知識を自らの研究テーマを発展させるために多面的に利用する力を身につけます。					
[授業計画と内容]					
1回目 イン트로ダクション					
2回目～15回目 授業は、以下のような作業の組み合わせにより行います。					
<ul style="list-style-type: none"> ・参考図書として指定したMinna Palander-Collin, Tanja Saily, and Terttu Nevalainen (eds.), Patterns of Change in 18th-century English: A Sociolinguistic Approach（図書館の電子図書を利用）を講読する。 ・実際に学術雑誌に公刊された研究論文を読み、その問題点を指摘するとともに、学術的にどのような貢献がなされているかを議論する。（否定的な批判をするだけでなく、自分が同じテーマで論文を書く場合を想定した建設的な議論を行う。） ・参考図書や論文の中で取り上げられたテーマの中からトピックを選び、ミニリサーチを行う。 ・それぞれの研究テーマにしたがって、研究計画を作成し、その計画に沿って研究を進める。 ・参加者の専門分野によっては、古英語・中英語の講読を行うこともある。 					
[履修要件]					
最初の授業でガイダンスを行いますので、受講者は必ず出席するようにしてください。出席できない場合は、事前に連絡を取ってください。					
[成績評価の方法・観点]					
授業への貢献度(70%)およびレポート(30%)により総合的に評価します。					
[教科書]					
授業中に指示する					
----- 英語学英米文学（演習）(2)へ続く -----					

英語学英米文学（演習）(2)

[参考書等]

（参考書）

Minna Palander-Collin, Tanja Saily, and Terttu Nevalainen (eds.) 『Patterns of Change in 18th-century English: A Sociolinguistic Approach』 (John Benjamins)

（関連URL）

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

[授業外学修（予習・復習）等]

事前に指定された資料や論文を読み議論を行う際には、予習を行って議論に参加できるようにしておいてください。詳細は、授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

必要な場合は、<https://iyeiri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学147

科目ナンバリング	G-LET20 7M193 SJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学（演習） English and American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 家入 葉子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火5	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	英語史研究の方法				
[授業の概要・目的]					
具体的な研究を通じて、英語史研究の方法を学びます。また、授業を通して、資料収集の方法、データ整理の方法、論文の作成方法など、研究に必要な手法を習得します。					
[到達目標]					
研究論文の多読を通じて、英語史全般についての体系的な知識を身につけます。同時に、その知識を自らの研究テーマを発展させるために多面的に利用する力を身につけます。					
[授業計画と内容]					
1回目 イン트로ダクション					
2回目～15回目 授業は、以下のような作業の組み合わせにより行います。					
<ul style="list-style-type: none"> ・参考図書として指定したMinna Palander-Collin, Tanja Saily, and Terttu Nevalainen (eds.), Patterns of Change in 18th-century English: A Sociolinguistic Approach（図書館の電子図書を利用）を講読する。 ・実際に学術雑誌に公刊された研究論文を読み、その問題点を指摘するとともに、学術的にどのような貢献がなされているかを議論する。（否定的な批判をするだけでなく、自分が同じテーマで論文を書く場合を想定した建設的な議論を行う。） ・参考図書や論文の中で取り上げられたテーマの中からトピックを選び、ミニリサーチを行う。 ・それぞれの研究テーマにしたがって、研究計画を作成し、その計画に沿って研究を進める。 ・参加者の専門分野によっては、古英語・中英語の講読を行うこともある。 					
[履修要件]					
最初の授業でガイダンスを行いますので、受講者は必ず出席するようにしてください。出席できない場合は、事前に連絡を取ってください。					
[成績評価の方法・観点]					
授業への貢献度(70%)およびレポート(30%)により総合的に評価します。					
[教科書]					
授業中に指示する					
----- 英語学英米文学（演習）(2)へ続く -----					

英語学英米文学（演習）(2)

[参考書等]

（参考書）

Minna Palander-Collin, Tanja Saily, and Terttu Nevalainen (eds.) 『Patterns of Change in 18th-century English: A Sociolinguistic Approach』 (John BenjaminsJohn B)

（関連URL）

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

[授業外学修（予習・復習）等]

事前に指定された資料や論文を読み議論を行う際には、予習を行って議論に参加できるようにしておいてください。詳細は、授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

必要な場合は、<https://iyeiri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET20 7M193 SJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(演習) English and American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 廣田 篤彦		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	The Jew of Malta 演習1				
[授業の概要・目的]					
Christopher Marlowe, The Jew of Maltaの精読を通じて、この作家の文体、語彙に関する基本的な知識を習得し、その内容について考察する。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・Oxford English Dictionary等の辞書の使い方を身につけ、これらを参照しながら、初期近代イギリスの戯曲テキストを自力で読めるようになる。 ・初期近代イギリス文学に関する基本的知識を身につけ、自ら論文のテーマを見つけられるようになる。 					
[授業計画と内容]					
第1回 イン트로ダクション					
第2-15回 テキストの精読 各受講者に予め担当を割り振る方式によってテキストを精読し、内容について討論する。					
場面毎の難易度の違いによって、また、受講者の習熟度によって進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことは出来ないが、概ね一人あたり100行を目途に担当してもらう。					
一学期の授業では読み終わらないと思われるので後期に継続する。					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(担当箇所の解釈50%、テキスト全体の理解度50%)にて評価する。					
[教科書]					
Christopher Marlowe 『The Jew of Malta』(Bloomsbury, 2021) ISBN:9781904271758 (Arden Early Modern Drama. Ed. William H. Sherman and Chroë Preedy)					
----- 英語学英米文学(演習)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予めOxford English Dictionary等の辞書を丹念に参照して、一語一語についてその意味を検討した上で授業に臨むこと。授業後は作品中での当該箇所の意味について考察をすること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 7M193 SJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(演習) English and American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 廣田 篤彦		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	The Jew of Malts 演習2				
[授業の概要・目的]					
前期の演習1に引き続き、Christopher Marlowe, The Jew of Maltaの精読を通じて、この作家の文体、語彙に関する基本的な知識を習得し、その内容について考察する。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・Oxford English Dictionary等の辞書の使い方を身につけ、これらを参照しながら、初期近代イギリスの戯曲テキストを自力で読めるようになる。 ・初期近代イギリス文学に関する基本的知識を身につけ、自ら論文のテーマを見つけられるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1-15回 テキストの精読 各受講者に予め担当を割り振る方式によってテキストを精読し、内容について討論する。 前期終了箇所から読み始める。</p> <p>場面毎の難易度の違いによって、また、受講者の習熟度によって進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことは出来ないが、概ね一人あたり100行を目途に担当してもらう。</p>					
[履修要件]					
前期の演習1からの継続受講を原則とする。後期からの受講を希望する者は初回に担当者に申し出ること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(担当箇所の解釈50%、テキスト全体の理解度50%)にて評価する。					
[教科書]					
Christopher Marlowe 『The Jew of Malta』 (Bloomsbury, 2021) ISBN:9781904271758 (Arden Early Modern Drama. Ed. William H. Sherman and Chroe Preedy)					
----- 英語学英米文学(演習)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予めOxford English Dictionary等の辞書を丹念に参照して、一語一語についてその意味を検討した上で授業に臨むこと。授業後は作品中での当該箇所の意味について考察をすること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学150

科目ナンバリング	G-LET20 7M193 SJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(演習) English and American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 南谷 奉良		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Ulysses 演習1				
[授業の概要・目的]					
James JoyceのUlysses (1922) は2022年に出版100周年を迎え、モダニズム文学の金字塔として今後さらなる注目を集める見込みがある。授業では第1~6挿話を読んだあとに、実験的な文体がはじめて試みられる第7挿話を精読する。下記の項目に習熟することを目的する。					
<ul style="list-style-type: none"> (1) 英文学における修辭的技法の理解 (2) 自由間接話法と意識の流れの技法の理解 (3) 文学テキストの精読(close-reading)の方法 (4) 歴史的・文化的背景を踏まえた解釈と関連する資料収集の方法 					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> (1) 文学テキストの言葉を文化や歴史と関連づけて理解し、それを自身の知と結びつけて説得的に説明することができる。 (2) 文学テキストの読解を通じて各自の興味・関心を発展させ、有益で適切な学術的資料・文献を見つけることができる。 (3) 先行研究と自身の関心をもとに文学テキストの読解を行うなかで、ものの見方を変える視点をもつことができる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション 作者と作品についての解説と、時代背景の概説、関連文献の紹介を行い、今後の演習の進め方について説明する。</p> <p>第2-15回 テキストの精読 担当部分を割り振り、受講者の発表を通じてディスカッションを行う。第2~6回で第1~6挿話を読み終わり、残り第7回~14回で第7挿話を読み終わる予定。</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 英語学英米文学(演習)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業参加・口頭発表（60％）とレポート（40％）で総合的に評価する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、一語一語の意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に興味をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは水曜13:30から15:00までとする。研究室を訪れる場合は、あらかじめメールで連絡してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学151

科目ナンバリング	G-LET20 7M193 SJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(演習) English and American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 南谷 奉良		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Ulysses 演習1				
[授業の概要・目的]					
James JoyceのUlysses (1922) は2022年に出版100周年を迎え、モダニズム文学の金字塔として今後さらなる注目を集める見込みがある。授業では第8~10挿話を読んだあとに、きわめて実験的な文体が試みられる第11挿話を精読する。下記の項目に習熟することを目的する。					
<ul style="list-style-type: none"> (1) 英文学における修辭的技法の理解 (2) 自由間接話法と意識の流れの技法の理解 (3) 文学テキストの精読(close-reading)の方法 (4) 歴史的・文化的背景を踏まえた解釈と関連する資料収集の方法 					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> (1) 文学テキストの言葉を文化や歴史と関連づけて理解し、それを自身の知と結びつけて説得的に説明することができる。 (2) 文学テキストの読解を通じて各自の興味・関心を発展させ、有益で適切な学術的資料・文献を見つけることができる。 (3) 先行研究と自身の関心をもとに文学テキストの読解を行うなかで、ものの見方を変える視点をもつことができる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション 作者と作品についての解説と、時代背景の概説、関連文献の紹介を行い、今後の演習の進め方について説明する。</p> <p>第2-15回 テキストの精読 担当部分を割り振り、受講者の発表を通じてディスカッションを行う。第2~6回で第8~10挿話を読み終わり、残り第7回~14回で第11挿話を読み終わる予定。</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 英語学英米文学(演習)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業参加・口頭発表（60％）とレポート（40％）で総合的に評価する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、一語一語の意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に興味をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは水曜13:30から15:00までとする。研究室を訪れる場合は、あらかじめメールで連絡してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学152

科目ナンバリング	G-LET20 7M193 SJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(演習) English and American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 森 慎一郎		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Edith Wharton, The Age of Innocenceを読む(1)				
【授業の概要・目的】					
Edith Wharton (1862-1937) の代表作の一つThe Age of Innocence (1920)を精読する。小説の精緻な読解に取り組むことで、文学研究の地力を養う。					
【到達目標】					
文学テキスト読解の精度を高めること。細部をおろそかにせず小説を丁寧に読む姿勢を養うこと。					
【授業計画と内容】					
<p>授業では基本的に輪読形式でテキストを丁寧に読んでいく。この形で読み切れない範囲については、受講者の当番制でその内容、問題点等について簡単に報告してもらい、それをもとに参加者全員で話し合うことで理解を確かめる。</p> <p>授業スケジュールは以下のとおり。</p> <p>第1週：イントロダクション 第2～14週：テキスト講読 第15週：まとめとフィードバック</p> <p>前期はテキストのおおよそ半ばまで読み進む予定。</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点100%で評価する。					
【教科書】					
Edith Wharton 『The Age of Innocence』 (Penguin) ISBN:978-0140189704					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
各回の授業で読み進む範囲の綿密な予習は必須。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学153

科目ナンバリング	G-LET20 7M193 SJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(演習) English and American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 森 慎一郎		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Edith Wharton, The Age of Innocenceを読む(2)				
【授業の概要・目的】					
Edith Wharton (1862-1937) の代表作の一つThe Age of Innocence (1920)を精読する。小説の精緻な読解に取り組むことで、文学研究の地力を養う。					
【到達目標】					
文学テキスト読解の精度を高めること。細部をおろそかにせず小説を丁寧に読む姿勢を養うこと。					
【授業計画と内容】					
<p>授業では基本的に輪読形式でテキストを丁寧に読んでいく。この形で読み切れない範囲については、受講者の当番制でその内容、問題点等について簡単に報告してもらい、それをもとに参加者全員で話し合うことで理解を確かめる。</p> <p>授業スケジュールは以下のとおり。</p> <p>第1週：イントロダクション 第2～14週：テキスト講読 第15週：まとめとフィードバック</p> <p>後期はテキストの後半部を読み進む予定。</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点(70%)と学期末の英語レポート(30%)で評価する。					
【教科書】					
Edith Wharton 『The Age of Innocence』(Penguin) ISBN:978-0140189704					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
各回の授業で読み進む範囲の綿密な予習は必須。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学154

科目ナンバリング	G-LET20 7M193 SJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(演習) English and American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小林 久美子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Franny and Zooeyを読む				
【授業の概要・目的】					
J. D. Salingerの『Franny and Zooey』を丁寧に読むことで、Salingerの文体の特徴、小説世界について把握する。					
【到達目標】					
20世紀ユダヤ系文学における主要作品を自分なりに解釈する勇気と胆力を養う。 作品理解に必要な歴史的事象について綿密に調べる。					
【授業計画と内容】					
本授業は受講者による発表・ディスカッションが主体となる。 第1回 インTRODダクシヨN 第2回から第15回 受講者による発表・ディスカッション					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
発表(60%)およびディスカッションでの貢献(40%)によって評価する。 (教科書)					
【教科書】					
Salinger, J. D. 『Franny and Zooey』(Penguin) ISBN:9780141049267(授業中、常時参照するので ならずこの版を購入すること)					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
参考文献として竹内康浩・朴 舜起『謎ときサリンジャー』(新潮選書)に目を通すことをおすすめ めします。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学155

科目ナンバリング	G-LET20 7M193 SJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(演習) English and American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小林 久美子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	The Naturalを読む				
[授業の概要・目的]					
Barnard MalamudのThe Naturalを丁寧に読むことで、Malamudの文体の特徴、小説世界について把握する。					
[到達目標]					
ユダヤ系文学における主要作品を自分なりに解釈する勇気と胆力を養う。 作品理解に必要な歴史的事象について綿密に調べる。 アメリカ文学における野球の表象を学ぶ。					
[授業計画と内容]					
本授業は受講者による発表・ディスカッションが主体となる。 第1回 インTRODクシヨン 第2回から第15回 受講者による発表・ディスカッション					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
発表(60%)およびディスカッションでの貢献(40%)によって評価する。 (教科書)					
[教科書]					
Malamud, Barnard 『The Natural』(Farrar, Straus and Giroux) ISBN:9780374502003(授業中、常時参照するのでかならずこの版を購入すること)					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に紹介する					
[授業外学修(予習・復習)等]					
本授業は議論主体のため、入念な予習が求められます。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学156

科目ナンバリング					
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(外国語実習) English and American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学法学部 教授 JACKSON, Lachlan Rigby		
配当学年	全回生	単位数	1	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水4	授業形態	実習(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Language & Society: Sociolinguistics I				
[授業の概要・目的]					
<p>What is the relationship between language and society? Why do people use languages in the ways that they do? Questions such as these are the concern of sociolinguists. This course is a content-based English course that will provide students with an introduction to fundamental sociolinguistics concepts. This content will be particularly useful to students aspiring to teach English in junior high schools and high schools in Japan.</p>					
[到達目標]					
<p>This is an interactive and communitive-orientated class aimed at developing the four macro skills (listening, speaking, reading, and writing). Students will be required to reflect on short weekly readings, draw on their own language learning experiences, and share their opinions on a range of sociolinguistics-related topics. Course content will challenge students to think about language teaching and learning from sociolinguistics-informed perspectives, and in so doing, help them to develop as future language teachers.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Week Description</p> <p>1 Introduction to the Course: “ What is Sociolinguistics? ” Why do people use language in the ways they do?</p> <p>2 Module 1 #8211 Language Variation: (1) Language & Gender</p> <p>3 (2) Language & Region (Accent and Dialects)</p> <p>4 (3) Language & Social Class</p> <p>5 (4) Language & Age</p> <p>6 Module 2 #8211 Language & Culture: (1) Language & Identity</p> <p>7 (2) The Status of English in Japan</p> <p>8 (3) Is Japan a multilingual society?</p> <p>9 (4) Who/what is a “ native-speaker ” ?</p> <p>10 Module 3 #8211 Language & Change (1) Endangered Languages & Language Death</p> <p>11 (2) Neologisms</p> <p>12 (3) Language and Globalization</p> <p>13 (4) Global Englishes</p> <p>14 Presentation Workshop & Final Test</p> <p>15 Student Presentations and Feedback</p>					
----- 英語学英米文学(外国語実習)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(外国語実習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Presentation 20%
Short Module Quizzes (3 x 10%) 30%
Final Test 20%
Reflective Journal (3 x 5%) 15%
Classwork 15%

【教科書】

使用しない

There is no set text for this course. The instructor will provide students with worksheets and short weekly readings.

【参考書等】

(参考書)

Edwards, J. 『Sociolinguistics: A Very Short Introduction』 (2013) ISBN:978-0199858613

(関連URL)

languageonthemove.com (A great resource with many very short articles on issues relating to sociolinguistics)

【授業外学修(予習・復習)等】

Students are expected to prepare for each class by completing the assigned short weekly reading tasks.

(その他(オフィスアワー等))

Full participation and interaction with other class members is very important in this course. Students will be required to engage in group and pair work during each class. As a part-time teacher, I do not have a contact hour. I am available just before, during, and after class if you wish to speak to me. You can also email me at this address: lockie@law.ritsumeai.ac.jp.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学157

科目ナンバリング					
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(外国語実習) English and American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学法学部 教授 JACKSON, Lachlan Rigby		
配当学年	全回生	単位数	1	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水4	授業形態	実習(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Langue & Society: Sociolinguistics II				
[授業の概要・目的]					
<p>What is the relationship between language and society? Why do people use languages in the ways that they do? Questions such as these are the concern of sociolinguists. This course is a content-based English course that will provide students with an introduction to fundamental sociolinguistics concepts. This content will be particularly useful to students aspiring to teach English in Junior high schools and high schools in Japan.</p>					
[到達目標]					
<p>This is an interactive and communitive-orientated class aimed at developing the four macro skills (listening, speaking, reading, and writing). Students will be required to reflect on short weekly readings, draw on their own language learning experiences, and share their opinions on a range of sociolinguistics-related topics. Course content will challenge students to think about language teaching and learning from sociolinguistics-informed perspectives, and in so doing, help them develop as future language teachers.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Week Description</p> <p>1 Introduction to the Course: Why Study Sociolinguistics?</p> <p>2 Module 1 #8211 Language, Technology and the Media (1) Language Study and AI</p> <p>3 (2) Social Media, Texting Apps, & Communication</p> <p>4 (3) Are we losing the ability to communicate with one another?</p> <p>5 (4) ' Fake News ' and ' Information Overload '</p> <p>6 Module 2 #8211 Language Policy & Planning: (1) Attitudes and Ideologies</p> <p>7 (2) Official Languages</p> <p>8 (3) Revitalizing Endangered Languages & Language Rights</p> <p>9 (4) Language Landscapes</p> <p>10 Module 3 #8211 Language & Education (1) Discourses about Japanese Language Learners</p> <p>11 (2) Bilingual Education</p> <p>12 (3) Recent Directions in Language Education</p> <p>13 (4) The Future of Language Learning</p> <p>14 Presentation Workshop & Final Test</p> <p>15 Student Presentations and Feedback</p>					
----- 英語学英米文学(外国語実習)(2)へ続く -----					

英語学英米文学(外国語実習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Presentation 20%
Short Module Quizzes (3 x 10%) 30%
Final Test 20%
Reflective Journal (3 x 5%) 15%
Classwork 15%

【教科書】

使用しない

There is no set text for this course. The instructor will provide students with worksheets and short weekly readings.

【参考書等】

(参考書)

Edwards, J. 『Sociolinguistics: A Very Short Introduction』 (2013) ISBN:978-0199858613

(関連URL)

languageonthemove.com (A great resource with many very short articles on issues relating to sociolinguistics)

【授業外学修(予習・復習)等】

Students are expected to prepare for each class by completing the assigned short weekly reading tasks.

(その他(オフィスアワー等))

Full participation and interaction with other class members is very important in this course. Students will be required to engage in group and pair work during each class. As a part-time teacher, I do not have a contact hour. I am available just before, during, and after class if you wish to speak to me. You can also email me at this address: lockie@law.ritsumeai.ac.jp.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET21 63631 LJ36			
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 永盛 克也		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	モンテーニュ研究				
[授業の概要・目的]					
<p>宗教戦争に揺れる16世紀後半のフランスに生きた貴族モンテーニュ (Michel de Montaigne, 1533-1592) が残した著作『エッセー』(Essais, 1580-1595) は、西洋古典文学の幅広い読書で培われた人文主義的教養を土台としながら、様々な主題について自由かつ重厚な思索を展開した精神の記録である。授業ではこの長大な著作からいくつかの章を選び、主要なトピックについて説明を加えながら読解を試みる。モンテーニュの依って立つ思想的背景を踏まえつつ、彼の思索と文体の特徴を把握することを目指す。</p>					
[到達目標]					
<p>フランス16世紀における人文主義について理解する。 西洋古典文学の受容と近代ヨーロッパ文学の成立との深い関連について理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。 ただし講義の進みぐあいに対応して順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <p>第1回-第2回 イン트로ダクション モンテーニュとその時代 第3回-第4回 『エッセー』の執筆と出版の経緯 第5回-第6回 『エッセー』の構成と主題 第7回-第14回 『エッセー』の読解 第15回 まとめ</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
授業での発表(20%)および期末レポート(80%)					
[教科書]					
プリント等を配布する					
[参考書等]					
(参考書)					
モンテーニュ 『エッセー』(白水社, 2005-2016) ISBN:9784560025741 (宮下志朗訳, 全7巻)					
モンテーニュ 『随想録』(白水社, 1995) ISBN:4560048770 (関根秀雄訳, 全訳縮刷版)					
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

モンテーニュ 『エッセー』 (岩波文庫, 1965-1967) ISBN:9784002002927 (原二郎訳, 全6巻)

Montaigne 『Les Essais』 (Gallimard, 2007) ISBN:9782070115051

Montaigne 『Les Essais』 (Le Livre de Poche, 2001) ISBN:9782253132608 (ISBN-10:2253132608)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で扱うテキストは十分に予習しておくこと。また、授業中で読むことのできなかつた部分は各自で読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET21 63631 LJ36			
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 森本 淳生		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	フランス象徴主義概論				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、19世紀後半に隆盛したフランス象徴主義について概観します。象徴主義は一般に、資本主義経済が発展しつつあった同時代の社会を子細に描写・分析するリアリズムや自然主義に対する反動として、内面性や、夢、理想、死といったテーマを中心に展開された運動であると理解されてきました。こうした理解は決して間違っていないが、象徴主義は決してたんなる「反動」ではなく、同時代の社会状況や最新のテクノロジーにも目配りをしながら展開されており、また当時の最新の文学思潮として鋭敏な批評意識を備えたものでもありました。授業ではいくつかのテーマ系に即して、こうした象徴主義の内実を腑分けしつつ、それが私たち自身が生きる現代とどう切り結んでいるのかを考えたいと思います。(なお、フランス語の知識は前提としません。)</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 19世紀のフランス文学史について、個々の作家や作品の知識を獲得し、具体的なイメージを得る。 ・ 文学事象と社会事象の関係について具体的に理解する。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1-2回 イン트로ダクション：象徴主義を知るためのいくつかの視角 第3-4回 詩法：韻文の危機と自由詩 第5-6回 象徴主義と唯物論／科学 第7回 「テスト氏との一夜」と象徴主義小説 第8回 中間まとめ 第9-10回 マイナー詩人のメディア戦略 第11-12回 象徴主義と政治／宗教 第13-14回 象徴主義と現代思想 第15回 まとめ</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点50%、レポート50%					
[教科書]					
授業中に指示する					
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に取り上げる作品については、翻訳で構いませんのでいくつか実際に通読することをお勧めします。

(その他(オフィスアワー等))

KULASISの「オフィスアワー機能」を参照。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学160

科目ナンバリング	G-LET21 63631 LJ36				
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	フランス語
題目	Molière philogyne				
[授業の概要・目的]					
<p>Molière a 400 ans. Pourtant, son répertoire, qui se compose à la fois de farces, de grandes comédies et même de comédies métathéâtrales, continue de s'illustrer par son ingéniosité formelle autant que par la saisissante galerie des personnages qui y figurent. Dans ses pièces, les ingénues, les coquettes et les prudes côtoient les atrabilaires amoureux, les barbons jaloux et les marquis pédants. Miroir des vices et des vertus de son temps, la comédie de Molière est également une chambre d'écho des préoccupations contemporaines. Les quatre pièces au programme ont en commun de faire la part belle aux personnages féminins, notamment à la figure de la précieuse, qui fait l'objet de la satire. Ces pièces portent sur la scène la question de l'éducation des femmes et de leur rapport aux savoirs, de la galanterie et du mariage, ou encore du langage précieux. L'objectif de ce cours sera de mieux connaître les ressorts dramaturgiques de l'écriture de Molière et le contexte socio-historique de création de ses pièces, afin d'examiner quelle représentation il donne des femmes dans ses comédies. Dans quelle mesure les pièces de Molière peuvent-elles être qualifiées de "philogyne" ? Autrement dit, manifestent-elles une reconnaissance de l'égalité entre les genres féminin et masculin, et sont-elles un espace de défense des droits et des intérêts des femmes de son temps ?</p>					
[到達目標]					
<p>Ce cours permettra aux étudiants et aux étudiantes de développer leur connaissance du théâtre de Molière. Plus généralement, il vise à enrichir leur connaissance de la littérature, de la pensée et de la littérature française du XVIIe siècle. Il leur permet enfin de se familiariser avec les méthodes de recherche dans les études littéraires françaises, en particulier à l'utilisation de l'analyse littéraire (explication de texte et stylistique) et au croisement avec les études de genre.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Histoire littéraire, étude de genre, étude comparée de mises en scène, étude de la réception au XXe et XXIe siècles, analyse d'images.</p>					
[履修要件]					
<p>Ce cours est ouvert à tous les étudiants et à toutes les étudiantes qui désirent approfondir leur connaissance de la culture française. Le cours sera dispensé intégralement en français.</p>					
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学(特殊講義) (2)

【成績評価の方法・観点】

Les connaissances seront évaluées par un QCM hebdomadaire qui accompagne le programme de lecture et par un dossier à rédiger en français. La note finale tiendra compte de l'assiduité des étudiants et de leur participation lors des séances.

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

Molière 『L'Ecole des femmes - L'Ecole des maris - La Critique de l'Ecole des femmes - L'Impromptu de Versailles』 (Folio classique, 2019) ISBN:978-2072870521 (Jean Serroy (ed.), 352 p.)

【授業外学修(予習・復習)等】

Le séminaire s'appuie sur un travail de lecture en français très régulier et sur une participation active pendant les cours.

(その他(オフィスアワー等))

Les étudiants sont invités à prendre directement contact avec l'enseignante pour fixer un rendez-vous. オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学161

科目ナンバリング		G-LET21 63631 LJ36			
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	フランス語
題目	Madeleine de Scudéry : éthique chrétienne et esthétique galante au Grand Siècle				
[授業の概要・目的]					
<p>Madeleine de Scudéry (1607-1701), figure majeure des salons mondains et intellectuels du siècle de Louis XIV, surnommée "Sappho" comme la sulfureuse poétesse grecque de Lesbos, est une des plus grandes romancières de son époque (Artamène ; Clélie). Elle est également l'autrice de traités de morale rédigés sous forme de "conversations" (1680-1692). À travers ces traités, elle illustre en France l'art de la "galanterie", qui est alors le critère socio-esthétique du bon goût et de la distinction. Ses traités offrent de plus une synthèse remarquable des débats philosophiques et moraux du XVIIe siècle, en particulier en ce qui concerne la connaissance du cœur et des relations sociales : comment faire bon usage de ses émotions ? comment se comporter en société ? comment réguler les relations entre femmes et hommes ? Ils ont enfin la particularité de faire une place majeure au point de vue féminin : les personnages qui dialoguent sur ces questions savantes et morales sont en grande partie des femmes, soucieuses de s'arrêter sur des questions et des exemples qui les concernent au premier chef. Si Madeleine de Scudéry s'attache à défendre l'éducation des femmes et critique vigoureusement l'institution du mariage, ces œuvres ne peuvent certes pas pour autant é qualifiées de "féministes". Néanmoins ne manifestent-elles pas une tentative d'inventer un ethos de moraliste au féminin, en tenant compte des contraintes sociales qui lui incombent en contexte chrétien et nobiliaire ?</p> <p>Ce séminaire sur les conversations morales de Madeleine de Scudéry visera donc à la fois à mettre en évidence une anthropologie chrétienne et mondaine représentative du XVIIe siècle et à questionner la capacité de son œuvre à enrichir la philosophie antique et moderne par un point de vue féminin.</p>					
[到達目標]					
Ce cours permettra aux étudiants et aux étudiantes de développer leur connaissance du contexte littéraire, philosophique et anthropologique de la France du XVIIe siècle. Il leur permet également de se familiariser avec les méthodes de recherche dans les études littéraires françaises, en particulier à l'utilisation de l'analyse littéraire (explication de texte et stylistique) et au croisement avec les études de genre.					
[授業計画と内容]					
Histoire littéraire, étude de genre, histoire de la philosophie.					
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

Ce cours est ouvert à tous les étudiants et à toutes les étudiantes qui désirent approfondir leur connaissance de la culture française. Le cours sera dispensé intégralement en français.

【成績評価の方法・観点】

Les connaissances seront évaluées par un QCM hebdomadaire qui accompagne le programme de lecture et par un dossier à rédiger en français. La note finale tiendra compte de l'assiduité des étudiants et de leur participation lors des séances.

【教科書】

使用しない

L'enseignante fournira tous les textes étudiés.

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

Le cours s'appuie sur un travail de lecture très régulier et en français d'œuvres théâtrales. Environ 15 à 20 pages seront données à la lecture chaque semaine.

(その他(オフィスアワー等))

Les étudiants sont invités à prendre directement contact avec l'enseignante pour fixer un rendez-vous.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET21 63631 LJ36			
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 鳥山 定嗣		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ヴィクトル・ユゴーの詩作品研究				
[授業の概要・目的]					
<p>フランス・ロマン主義を代表するヴィクトル・ユゴー (Victor Hugo, 1802-1885) は、『レ・ミゼラブル』の作家、古典派に対するロマン派の勝利を画した「エルナニ合戦」の主導者、あるいはまたナポレオン3世を批判して亡命生活を送った共和政と自由の体現者として知られるが、この国民的英雄にして世界的文豪は、詩、戯曲、小説、評論、旅行記などあらゆるジャンルにわたって歴大かつ多彩な作品を生み出し、詩作品にかぎっても死後刊行されたものを含めて20冊あまりにおよぶ詩集を残した。</p> <p>本授業ではユゴーの詩作品の全体像を把握するために、その詩業を亡命前、亡命中(1851-1870)、亡命後に大別したうえで、各詩集の序文や代表的詩篇を取り上げてその特徴を考察するとともに、古典派からロマン派へ、ロマン派から高踏派(パルナス)へと移行するフランス詩の歴史的変遷を踏まえつつ、ユゴー自身の詩風の変容について検討する。</p> <p>本学期では主に亡命前から亡命中にかけての作品を扱う。</p> <p>なお、ユゴーは文学作品だけでなく、デッサン、淡彩画、水彩画なども数多く手がけている。また、フランツ・リスト(1811-1886)、カミーユ・サン＝サーンス(1835-1921)、ジョルジュ・ビゼー(1838-1875)、ガブリエル・フォーレ(1845-1924)、レイナルド・アーン(1874-1947)をはじめ数多くの作曲家がユゴーの詩に音楽をつけている。授業ではこうしたユゴー自身の絵画作品やユゴーの詩に基づくフランス歌曲もあわせて紹介する。</p>					
[到達目標]					
<p>ユゴーの詩作品の全体像を把握する。</p> <p>亡命前、亡命中、亡命後に大別されるユゴーの詩の作風の変化を、古典派からロマン派を経て高踏派へと移行するフランス詩の歴史的変遷を踏まえて理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2~7回 亡命前の詩集</p> <p>第2回 『オードとバラッド』</p> <p>第3回 『東方詩集』</p> <p>第4回 『秋の木の葉』</p> <p>第5回 『薄明の歌』</p> <p>第6回 『内なる声』</p> <p>第7回 『光と影』</p> <p>第8~13回 亡命中の詩集</p> <p>第8~9回 『懲罰詩集』</p> <p>第10~12回 『静観詩集』</p> <p>第13回 『街と森の歌』</p> <p>第14回 まとめ ユゴーの詩作品の変遷</p>					
フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く					

フランス語学フランス文学(特殊講義) (2)

第15回 フィードバック 授業中に指示

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業での発表（30％）および期末レポート（70％）

[教科書]

プリント等を配布する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で扱うテキストは十分に予習しておくこと。また、授業中で読むことのできなかつた部分は各自で読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET21 63631 LJ36			
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 鳥山 定嗣		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ヴィクトル・ユゴーの詩作品研究				
[授業の概要・目的]					
<p>フランス・ロマン主義を代表するヴィクトル・ユゴー（Victor Hugo, 1802-1885）は、『レ・ミゼラブル』の作家、古典派に対するロマン派の勝利を画した「エルナニ合戦」の主導者、あるいはまたナポレオン3世を批判して亡命生活を送った共和政と自由の体現者として知られるが、この国民的英雄にして世界的文豪は、詩、戯曲、小説、評論、旅行記などあらゆるジャンルにわたって歴大かつ多彩な作品を生み出し、詩作品にかぎっても死後刊行されたものを含めて20冊あまりにおよぶ詩集を残した。</p> <p>本授業ではユゴーの詩作品の全体像を把握するために、その詩業を亡命前、亡命中（1851-1870）、亡命後に大別したうえで、各詩集の序文や代表的詩篇を取り上げてその特徴を考察するとともに、古典派からロマン派へ、ロマン派から高踏派（パルナス）へと移行するフランス詩の歴史の変遷を踏まえつつ、ユゴー自身の詩風の変容について検討する。</p> <p>本学期では主に亡命中から亡命後にかけての作品および死後刊行された作品を扱う。</p> <p>なお、ユゴーは文学作品だけでなく、デッサン、淡彩画、水彩画なども数多く手がけている。また、フランツ・リスト（1811-1886）、カミーユ・サン＝サーンス（1835-1921）、ジョルジュ・ビゼー（1838-1875）、ガブリエル・フォーレ（1845-1924）、レイナルド・アーン（1874-1947）をはじめ数多くの作曲家がユゴーの詩に音楽をつけている。授業ではこうしたユゴー自身の絵画作品や、ユゴーの詩に基づくフランス歌曲もあわせて紹介する。</p>					
[到達目標]					
<p>ユゴーの詩作品の全体像を把握する。</p> <p>亡命前、亡命中、亡命後に大別されるユゴーの詩の作風の変化を、古典派からロマン派を経て高踏派へと移行するフランス詩の歴史の変遷を踏まえて理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2～7回 亡命中・亡命後の詩集</p> <p>第2回 『諸世紀の伝説』第一集</p> <p>第3回 『諸世紀の伝説』第二集</p> <p>第4回 『諸世紀の伝説』第三集</p> <p>第5回 『恐るべき年』</p> <p>第6回 『よいおじいちゃんぶり』</p> <p>第7回 『精神の四方の風』</p> <p>第8～13回 死後刊行の詩集</p> <p>第8回 『サタンの終わり』</p> <p>第9回 『神』</p> <p>第10回 『豎琴の音をつくして』第一集・第二集</p> <p>第11回 『不吉な歳月』</p> <p>第12回 『最後の詩の束』</p>					
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学(特殊講義) (2)

第13回 『大洋』
第14回 まとめ ユゴーの詩作品の変遷
第15回 フィードバック 授業中に指示

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業での発表（30%）および期末レポート（70%）

【教科書】

プリント等を配布する

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業で扱うテキストは十分に予習しておくこと。また、授業中で読むことのできなかつた部分は各自で読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET21 63631 LJ36			
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 村上 祐二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	プルースト『75枚の原稿』(1908)を読む				
【授業の概要・目的】					
<p>マルセル・プルースト(1871-1922)が1908年に執筆した「75枚の原稿(Soixante-quinze Feuilletes)」は、小説『失われた時を求めて』の原型をなす重要文献である。一部がベルナール・ド・ファロワ版『サント＝ブーヴに反論する』(1954)に収録されて以来、長らくその所在が不明であったが、ファロワの死後発見され、2021年、関連する草稿群とともに『75枚の原稿とその他の未刊行草稿(Les Soixante-quinze Feuilletes et autres manuscrits inédits)』と題され、ガリマール社より完全版が刊行された。本授業ではこの原稿の成り立ち、プルースト作品における位置等を解説したあと、着想源、生成過程、文体等に注目しながら多角的に読解することで、プルーストに特有の小説技法を浮かび上がらせる。</p>					
【到達目標】					
<p>文学作品を、草稿資料にさかのぼったうえで、複数の文脈に即して読み解くことにより、文学研究に必要な批判的読解能力を身につける。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>授業は以下のプランに即して進められる。 第1回 『75枚の原稿』の概要、生成過程を解説。 第2回～第15回 『75枚の原稿』を講読形式でフランス語原典により精読し、適宜プルーストの初期作品や書簡、草稿資料、同時代の他の作品や新聞雑誌等の文献と照合しながら解説を加える。</p>					
【履修要件】					
<p>フランス語文献を読む能力が必要とされる。</p>					
【成績評価の方法・観点】					
<p>レポート(一回、100点満点、60点以上で合格) 到達目標の達成度に基づき評価するが、独自の見解が見られるものについては、高い点を与える。</p>					
【教科書】					
<p>授業中にプリント等を配布する。</p>					
【参考書等】					
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>					
【授業外学修(予習・復習)等】					
<p>授業中に別途指示する。</p>					
(その他(オフィスアワー等))					
<p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>					

科目ナンバリング		G-LET21 63631 LJ36			
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 村上 祐二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	作家たちのドレフュス事件				
[授業の概要・目的]					
<p>フランス第三共和政を揺るがしたドレフュス事件(1894-1906)は、フランス文学においても、第一次世界大戦に先立ち20世紀の起点になった出来事として今日にいたるまで活発な議論・研究の対象になっている。本授業ではこの事件に政治参加した作家たちを取り上げ、彼らの作品に現れた事件およびその爪痕を、政治参加、歴史記述、ユダヤ問題、ナショナリズム、記憶、ジェンダー等の観点から分析する。マルセル・ブルーストを中心として、エミール・ゾラ、アナトール・フランス、シャルル・ペギー、ロマン・ロラン、ジュリアン・バンダ、アラン、ナショナリスト・反ユダヤ主義の作家たち、ユダヤ人作家たちの作品を、政治的コンテクスト、イデオロギー、作品の生成過程、文体、ジャンル等に注目しながら多角的に読解することで、文学作品と社会・歴史との関係を考察する。</p>					
[到達目標]					
<p>文学作品を、複数の歴史的文脈にしたがって読み解くことにより、文学研究に必要な批判的読解能力を身につける。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>授業は講義形式と講読形式を組み合わせで行う。講読パートではテキストをフランス語原典により精読し、適宜他の作品や書簡、草稿資料、同時代の他の作品等の文献と照合しながら解説を加える。</p> <p>以下のプランにしたがって進める。</p> <p>第1・2回 イントロダクション(ドレフュス事件の歴史、ドレフュス派および反ドレフュス派の代表的な作家たち、ドレフュス事件を扱った代表的文学作品について解説)</p> <p>第3回 シャールル・ペギーとドレフュス事件</p> <p>第4回 ロマン・ロラン、ジュリアン・バンダ、アランとドレフュス事件</p> <p>第5回 ユダヤ人作家とドレフュス事件、シオニズム(ベルナルル・ラザール、ジャン＝リシャール・ブロック、アルマン・リュネル等)</p> <p>第6回 ナショナリスト、反ユダヤ主義の作家たち(モーリス・バレス、エドゥアール・ドリュモン、アクション・フランセーズ等)</p> <p>第7回~15回 ブルーストとドレフュス事件(『ジャン・サントウイユ』から『失われた時を求めて』まで)</p>					
[履修要件]					
<p>フランス語文献を読む能力が必要とされる。</p>					
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポート(一回、100点満点、60点以上で合格)到達目標の達成度に基づき評価するが、独自の見解が見られるものについては、高い点を与える。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に別途指示する。

(その他(オフィスアワー等))

KULASISの「オフィスアワー機能」を参照。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET21 63631 LJ36			
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	同志社大学グローバル地域文化学部 伊藤 玄吾 准教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	フランス16世紀詩研究				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義はフランス16世紀の詩を専門的に扱うものであるが、同時に広くフランス語詩に関心をもつ人、そしてまたフランス語による宗教文学に関心を持つ人にも開かれている。</p> <p>16世紀はフランス詩の大きな変革の時代であり、sonnet(ソネ)やode(オード)といった、イタリアや古代ギリシア・ローマの詩から導入された形式や題材を用いて多くの作品が作られた。その一方で、この時代が聖書を中心とした宗教テキストの原典からの翻訳が最も盛んに行われた時代であり、とりわけ旧約聖書の詩篇Psaumesのテキストの翻訳・翻案の黄金時代であったことも忘れてはならない。宗教改革が進展する中で、改革派側そしてカトリック側の優れた詩人たちが詩篇の翻訳や翻案に取り組んだ。その多くは、当時の古典語学や聖書文献学の研究の最新の知見を取り入れながら、また当時の神学的潮流に配慮しながら、フランス語詩が作り上げてきた叙情性・音楽性と旧約聖書世界の聖性を可能な限り融合させようとする試みであった。</p> <p>16世紀の前期から中期にかけて詩人クレマン・マロとテオドール・ド・ベーズによってなされた詩篇訳は、カルヴァン派を代表する詩篇集としてしばしば楽譜を付して出版され広く歌われたし、中期以降はジャン＝アントワヌ・ド・バイフ、フィリップ・デポルト、ブレイズ・ド・ヴィジュネールといった詩人たちによって多彩な韻律形式が試みられて独自の翻訳・翻案が進められただけでなく、作曲家たちとの共同制作も盛んに行われた。本講義では、この16世紀フランス詩篇翻訳・翻案の豊かな世界を、具体的なテキストを精読しながら、詩篇をめぐる文献学的・神学的論争、さらには詩論・音楽論に関する当時の資料を適宜参照しつつ論じていきたい。</p>					
[到達目標]					
<p>16世紀フランス詩についての知見を深め、その文学史的意義を理解するとともに、それを後の時代のフランス詩、また同時代の他のヨーロッパ諸語の詩と比較して考察することができるようになる。フランス詩法の基礎的な知識、現代フランス語とは異なる16世紀のフランス語の語彙と文法に関する基礎知識、さらにテキストをより正確に読み解く上で有用な各種参考文献の活用の仕方を学び、個々の詩作品をより正確にそしてより深く読み込む力を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
第1回	フランス16世紀詩についてのイントロダクション				
第2回	フランスにおける旧約聖書詩篇の翻訳：古典学と聖書文献学				
第3回	クレマン・マロとベーズの詩篇訳(1)				
第4回	クレマン・マロとベーズの詩篇訳(2)				
第5回	クレマン・マロとベーズの詩篇訳(3)				
第6回	改革派の詩篇と音楽				
第7回	バイフの詩篇訳(1)				
第8回	バイフの詩篇訳(2)				
第9回	バイフの詩篇訳(3)				
第10回	フィリップ・デポルトの詩篇訳(1)				
フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く					

フランス語学フランス文学(特殊講義) (2)

- 第11回 フィリップ・デポルトの詩篇訳 (2)
第12回 ヴィジュネールの詩篇訳 (1)
第13回 ヴィジュネールの詩篇訳 (2)
第14回 ヴィジュネールの詩篇訳 (3)
第15回 新たな時代の詩篇へ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点 (40%) と学期末のレポート (60%) で、成績を評価する。
授業で学ぶテキスト読解上の基本事項を踏まえているか、またその上で自分なりの解釈を説得的に示しているかを評価する。

【教科書】

教材プリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修 (予習・復習) 等】

学習対象のテキストについて予習し、あらかじめ各自が解釈についての見解を準備すること

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET21 63631 LJ36			
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 菅原 百合絵		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ルソー『孤独な散歩者の夢想』における自己表象				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義においては、ジャン＝ジャック・ルソー(1712-1778)の最晩年の作品として知られる『孤独な散歩者の夢想』を精読する。『夢想』はルソーのいわゆる自伝三部作のひとつだが、わたしたちが通常思い浮かべる「自伝」とは異なり、時系列的に自己の生涯を物語るといった形態をとっていない。それでは、「第一の散歩」から「第十の散歩」までの断片的なこのテキスト群で、彼は自分のことをどのように読者に提示しようとしているのだろうか。本講義では、必要に応じて『告白』や『対話』といったルソーのほかの自伝的作品を参照しつつ、また『夢想』のなかでひととき印象的に描かれる他者との関わり(の挫折)といった主題に注目しつつ、この自己表象の問題を考察する。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・18世紀のフランス語、および当時の社会的・政治的背景に馴染む。 ・フランスにおける自伝の歴史について理解する。 					
[授業計画と内容]					
第1回	イントロダクション(1): 授業の概要、『夢想』の説明、今後の進め方				
第2回	イントロダクション(2): ルソーおよび自伝作品についてのレクチャー				
第3回	『夢想』読解(1): 第一の散歩				
第4回	『夢想』読解(2): 第二の散歩				
第5回	『夢想』読解(3): 第三の散歩 前半				
第6回	『夢想』読解(4): 第三の散歩 後半				
第7回	『夢想』読解(5): 第四の散歩 前半				
第8回	『夢想』読解(6): 第四の散歩 後半				
第9回	『夢想』読解(7): 第五の散歩				
第10回	『夢想』読解(8): 第六の散歩				
第11回	『夢想』読解(9): 第七の散歩 前半				
第12回	『夢想』読解(10): 第七の散歩 後半				
第13回	『夢想』読解(11): 第八の散歩				
第14回	『夢想』読解(12): 第九の散歩				
第15回	『夢想』読解(13): 第十の散歩				
[履修要件]					
特になし					
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

講義での発表（40％）および期末レポート（60％）によって評価する

[教科書]

授業中に指示する
開講時に指示する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

* 第3回以降の精読パートからは、事前に訳読担当者を決めておき、講義の前に1 - 2頁の訳稿を提出してもらうという方式になります。講義では受講者の皆さんと全員でその訳稿を検討しながら、随時解説などを加えていきます。

（その他（オフィスアワー等））

不明な点や要望などがあれば、メール等でご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET21 63631 LJ36			
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 菅原 百合絵		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ディドロ『俳優についての逆説』を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義においては、ドゥニ・ディドロ(1713-1784)の著した演劇論として名高い『俳優についての逆説』を精読する。『百科全書』の編纂者として知られるディドロだが、彼は哲学者であるのみならず、演劇人としての顔も持っており、ブルジョワ演劇という新たな演劇ジャンルを創始した人物でもあった。さらに、ドラマトゥルグというよりもさらに広い意味で、彼は対話体一般の名手でもあった。『俳優についての逆説』のみならず、『ラモーの甥』『ブーガンヴィル航海記補遺』『ダランベールの夢』など、彼の名作のなかには対話体形式をとるものが多い。軽妙洒脱な会話のなかで二人の人物が議論を戦わせるこのスタイルは、彼の思考の運びをよく示しているものでもある。講義では、この対話のダイナミズムに注意を向けながらテキストを丹念に読んでいきたい。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・18世紀のフランス語に馴染む。 ・ディドロのテキストの特質、とりわけ対話体というスタイルに賭けられていたものについて理解を深める。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イントロダクション(1) : 授業の概要、『俳優についての逆説』の説明、今後の進め方 第2回 イントロダクション(2) : ディドロおよび彼の諸作品についてのミニレクチャー 第3回-第15回 『俳優についての逆説』読解 文庫(GF Flammarion)版でおよそ70ページほどの短いテキストなので、なるべく学期内に読み切ることを目指して進める。</p>					
[履修要件]					
<ul style="list-style-type: none"> ・フランス語文法をひと通り習得していること。 ・中級程度のフランス語読解力があることが望ましい。 					
[成績評価の方法・観点]					
講義での発表(40%)および期末レポート(60%)によって評価する。					
[教科書]					
テキストはプリントして配布する。					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に紹介する					
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

* 第3回以降の精読パートからは、事前に訳読担当者を決めておき、講義の前に1 - 2頁の訳稿を提出してもらうという方式になります。講義では受講者の皆さんと全員でその訳稿を検討しながら、随時解説などを加えていきます。

（その他（オフィスアワー等））

不明な点や要望などがあれば、メール等でご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学169

科目ナンバリング	G-LET21 73645 SJ36				
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(演習) French Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	フランス語
題目	Expression, culture and society in French				
[授業の概要・目的]					
<p>(1) This course aims to introduce students to French contemporary society and culture and to enhance their conversational ability in the French language. It will address cultural, social, and political issues. Course materials will include articles, movies, documentaries, etc. Particular emphasis will be placed on interactional skills, and debates and other speaking exercises will be conducted during classes.</p> <p>(2) This course is partially built on a project-based pedagogy. The class will undertake an intercultural mediation project.</p>					
[到達目標]					
<p>This course is designed to help students:</p> <ul style="list-style-type: none"> - develop a deeper understanding of French contemporary society and culture - explore intercultural issues - engage in critical thinking and debate with others - improve their argumentation skills - gain confidence and experience in public speaking 					
[授業計画と内容]					
<p>After an introductory lecture (Week 1) presenting the course goals and constituent exercises, we will debate on various themes (i.e., social and political issues in French culture and society, French cinema, and French contemporary literature) using written and visual materials (Weeks 2-14). This class requires active oral participation.</p> <p>Total: 14 classes and 1 feedback session (Week 15).</p>					
[履修要件]					
<p>The course is open to all students who can speak and understand enough French to read the materials and participate in discussions.</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<p>Attendance and participation are essential for this course. Students are expected to fully and actively participate by expressing their thoughts while also listening carefully to others and asking questions. The final grade largely depends on active class participation as well as on individual investment in the class project.</p>					
[教科書]					
<p>使用しない</p> <p>The instructor will provide all the reading materials. However, students are expected to bring a notebook to take notes during lectures, as well as a portfolio to collect and store all documents.</p>					
----- フランス語学フランス文学(演習) (2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学(演習) (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Occasionally, students may be required to complete homework, such as reading, watching a movie, or completing an assignment for assessment.

(その他(オフィスアワー等))

Please arrange appointments directly with the lecturer.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学170

科目ナンバリング	G-LET21 73645 SJ36				
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(演習) French Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	フランス語
題目	Expression, culture and society in French				
[授業の概要・目的]					
<p>(1) This course aims to introduce students to French contemporary society and culture while increasing their conversation ability. It will address cultural, social and political issues. Various documents will be used, such as articles, movies, documentaries, etc. Particular emphasis will be placed on interactional skills and class time will be spent engaging in debates and other speaking exercises.</p> <p>(2) This course is partially built on project-based pedagogy. The class conducts an intercultural mediation project.</p>					
[到達目標]					
<p>This course is designed to help students:</p> <ul style="list-style-type: none"> - develop a deeper understanding of French contemporary society and culture - explore intercultural issues - engage in critical thinking and debate with others - improve their argumentative skills - gain confidence and experience in public speaking 					
[授業計画と内容]					
<p>After an introductory lecture (week 1) presenting the goals and exercises of the course, we will debate on various themes (i.e. social and political issues in French culture and society, French cinema, French contemporary literature), through written and visual documents (weeks 2-14). This class requires active oral participation.</p> <p>Total : 14 classes and 1 feedback (week 15)</p>					
[履修要件]					
<p>The course is open to all students as soon as they can speak and understand enough French to read the documents and participate in a discussion.</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<p>Attendance and participation are essential for this course. Students are expected to fully and actively participate by expressing their own thoughts, but also listening carefully to others and asking questions. The final grade mostly depends on this active participation during class and it also depends on the individual investment in the class project.</p>					
[教科書]					
<p>使用しない</p> <p>The instructor will provide all the reading material. However, students are expected to bring a notebook to</p> <p style="text-align: right;">フランス語学フランス文学(演習)(2)へ続く</p>					

フランス語学フランス文学(演習)(2)

take notes during each lecture, as well as a portfolio to collect the documents.

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Occasionally, some homework may be required, such as preparing a reading, watching a movie or achieving an assessment.

(その他(オフィスアワー等))

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET21 7M203 SJ36				
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(演習) French Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	フランス語
題目	Théories et méthodes académiques dans les études littéraires				
[授業の概要・目的]					
<p>Au premier semestre 2024, ce séminaire tentera d'éclairer la question suivante : la biographie de l'écrivain est-elle un outil pertinent pour analyser son œuvre dans les études littéraires ?</p> <p>En France, Charles Mauron imagine une méthode dite "psychocritique" pour analyser les œuvres de Mallarmé, puis de Racine. Alors que celui-ci s'appuie sur la psychanalyse, le théoricien marxiste Lucien Goldmann invite quant à lui à plutôt considérer les facteurs structurels et sociologiques : il met au point une méthode sociocritique. Toutefois, depuis la publication posthume de l'essai Contre Sainte-Beuve de Marcel Proust (1954), les approches académiques qui entendent éclairer l'œuvre littéraire à la lumière de la vie personnelle de l'auteur font l'objet d'une suspicion, au point que Roland Barthes proclame la "mort de l'auteur"(1967), tandis que Michel Foucault réduit l'auteur à une "fonction"(1969). Mais aujourd'hui, les approches en études de genre conduisent à rouvrir ce dossier, en particulier pour les auteurs encore vivants et reconnus coupables de violence à l'égard des femmes. Alors peut-on et faut-il dissocier l'œuvre de l'auteur ?</p>					
[到達目標]					
Ce séminaire a pour but d'initier les étudiants aux méthodes académiques dans le champ littéraire en France. Il a également pour objectif d'accompagner les étudiants dans la préparation de leur mémoire de recherche.					
[授業計画と内容]					
<p>Chaque séance commence par un temps de discussion ouverte sur l'avancement des mémoires : les étudiants peuvent librement poser des questions, demander des conseils, faire part des obstacles qu'ils rencontrent.</p> <p>Le séminaire prend ensuite la forme d'un atelier de lecture de textes théoriques en français. Chaque semaine, les étudiants arrivent en ayant lu un chapitre d'un essai ou un article. L'objectif de la séance est d'en faire émerger les principaux arguments et d'en discuter ensemble la pertinence et les limites. Le séminaire s'appuie sur la discussion collective et bienveillante qui permet à chacun d'apprendre l'un de l'autre.</p>					
[履修要件]					
Ce cours est ouvert à tous les étudiants et à toutes les étudiantes qui souhaitent trouver un espace pour discuter de leurs recherches et qui souhaitent développer leur connaissance du champ académique français. Le cours sera dispensé intégralement en français.					
[成績評価の方法・観点]					
<p>Chaque étudiant rédigera un compte-rendu en français d'un article ou d'un essai du champ académique japonais en lien avec le thème du séminaire, dans lequel il résumera les arguments et les confrontera aux</p> <p style="text-align: right;">----- フランス語学フランス文学(演習)(2)へ続く -----</p>					

フランス語学フランス文学(演習)(2)

textes vus pendant le semestre.

【教科書】

使用しない

Un livret sera fourni au début du semestre par la professeure.

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

Le cours s'appuie sur un travail de lecture très régulier et en français d'œuvres théâtrales. Environ 8 à 15 pages seront données à la lecture chaque semaine.

(その他(オフィスアワー等))

Rendez-vous possible sur demande.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学172

科目ナンバリング		G-LET21 7M203 SJ36			
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(演習) French Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	フランス語
題目	Théories et méthodes académiques dans les études littéraires				
[授業の概要・目的]					
<p>Au deuxième semestre 2024, ce séminaire visera à initier les étudiants à la méthode académique française de la dissertation. Exercice aussi canonisé que redouté, la dissertation fait en France, dans les études littéraires, l'objet d'un long apprentissage qui commence dès le lycée et se poursuit jusqu'à l'agrégation. D'abord, nous découvrirons les étapes préparatoires qui demandent une connaissance d'extraits de textes. Puis nous verrons comment développer un sujet d'examen avec arguments structurés et exemples. Au cours du semestre, nous commencerons par traiter des sujets simples et progressivement nous étudierons des sujets plus exigeants.</p>					
[到達目標]					
<p>Ce séminaire a pour but d'initier les étudiants aux méthodes académiques dans le champ littéraire en France. Il a également pour objectif d'accompagner les étudiants dans la préparation de leur mémoire de recherche.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Chaque séance commence par un temps de discussion ouverte sur l'avancement des mémoires : les étudiants peuvent librement poser des questions, demander des conseils, faire part des obstacles qu'ils rencontrent.</p> <p>Puis la séance se poursuit par l'examen d'un sujet de dissertation, la lecture de textes préparatoires ou l'entraînement à la rédaction académique en français.</p>					
[履修要件]					
<p>Ce cours est ouvert à tous les étudiants et à toutes les étudiantes qui souhaitent trouver un espace pour discuter de leurs recherches et qui souhaitent développer leur connaissance du champ académique français. Le cours sera dispensé intégralement en français.</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<p>Chaque étudiant rédigera une dissertation, qui pourra être choisie parmi les sujets abordés en classe.</p>					
----- フランス語学フランス文学(演習)(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学(演習)(2)

[教科書]

使用しない

Un livret sera distribué en début de semestre par la professeure.

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Le cours s'appuie sur un travail de lecture très régulier et en français d'œuvres théâtrales.

(その他(オフィスアワー等))

Rendez-vous possible sur demande.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学173

科目ナンバリング	G-LET22 63731 LJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 村瀬 有司		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Torquato TassoのDialoghi				
[授業の概要・目的]					
16世紀のイタリアを代表する詩人トルクァート・タッソは、愛や美や徳や友情、あるいはアルテやインプレーザといったさまざまなトピックを対話形式で論じています。今年度の前期は、前年度に引きつづいてタッソの対話作品の一つ『使者』“ Il messaggiero ”を精読しながら、天上の存在と地上の事物、精霊の役割、愛の性質などについてのタッソの見解と、彼の散文の論理的構成を検証します。					
[到達目標]					
イタリア語散文を正確に読解する力を身につける。 16世紀のイタリア文化について理解を深める。					
[授業計画と内容]					
以下の予定で授業を進めていきます。					
初回：イントロダクション。					
第2回～14回：“ Il messaggiero ”の読解と考察					
第15回 フィードバック					
[履修要件]					
イタリア語文法を学んでいること。					
[成績評価の方法・観点]					
毎回提示する簡単な和訳問題をもとに評価します。					
[教科書]					
プリント配布。					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に紹介します。					
[授業外学修(予習・復習)等]					
原典の精読に基づく授業なので、自分なりに内容を理解できるまで予習をしましょう。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学174

科目ナンバリング	G-LET22 63731 LJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 村瀬 有司		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Torquato TassoのDialoghi				
【授業の概要・目的】					
16世紀のイタリアを代表する詩人トルクアート・タッソは、愛や美や徳や友情、あるいはアルテやインプレーザといったさまざまなトピックを対話形式で論じています。後期の授業では、前期にひきつづいて“ Il messaggiero ”を精読しながら、16世紀のイタリアのオーソドックスな世界観とタッソの散文の論理性を検証します。					
【到達目標】					
ルネサンス期のイタリア語散文を正確に読解する力を身につける。 16世紀のイタリア文化について理解を深める。					
【授業計画と内容】					
以下の予定で授業を進めていきます。					
初回：イントロダクション。					
第2回～14回：“ Il messaggiero ”の読解と考察					
第15回 フィードバック					
【履修要件】					
イタリア語文法を学んでいること。					
【成績評価の方法・観点】					
毎回提示する簡単な和訳問題をもとに評価します。					
【教科書】					
プリント配布。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介します。					
【授業外学修(予習・復習)等】					
原典の精読に基づく授業なので、自分なりにテキストの内容を把握できるまで予習をしましょう。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学175

科目ナンバリング		G-LET22 63731 LJ36			
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Ida Duretto		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	イタリア語
題目	Letteratura italiana. "Io nel pensier mi fingo": immaginazione e poesia nell'opera di Giacomo Leopardi				
【授業の概要・目的】					
<p>Il corso di Letteratura italiana di quest'anno sarà inaugurato da un modulo monografico su Giacomo Leopardi. Dopo una breve introduzione al contesto storico-culturale ottocentesco, il seminario prenderà in esame la biografia e l'opera dell'autore. Leggeremo e commenteremo alcuni dei più importanti "Canti", con una particolare attenzione alle fonti, antiche e moderne, della poesia leopardiana. Esamineremo inoltre passi particolarmente significativi delle "Operette morali" e dello "Zibaldone". Sarà così possibile indagare il rapporto tra poesia e fantasia, imitazione e immaginazione, studiando uno dei grandi classici della letteratura italiana e quello che, con una felice definizione critica, è stato descritto come un 'pensiero poetante'.</p>					
【到達目標】					
<p>Gli studenti analizzeranno la biografia e le opere di uno dei maggiori poeti italiani, Giacomo Leopardi, e sapranno contestualizzarle nell'ambito della letteratura dell'Ottocento. Leggeranno e studieranno i Canti, mettendo a confronto i diversi commenti editi. Conosceranno gli elementi centrali del pensiero leopardiano e della sua speculazione filosofica. Dimostreranno queste competenze con una loro presentazione orale durante il corso. Maggiori dettagli su questa presentazione verranno forniti a lezione.</p>					
【授業計画と内容】					
<p>Letteratura italiana. "Io nel pensier mi fingo": immaginazione e poesia nell'opera di Giacomo Leopardi</p> <p>1: Introduzione e contesto storico-culturale.</p> <p>2-15: Giacomo Leopardi, analisi di brani scelti da: "Canti", "Operette morali" e "Zibaldone".</p> <p>Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.</p>					
【履修要件】					
<p>E' richiesto un buon livello di italiano.</p>					
【成績評価の方法・観点】					
<p>La valutazione sarà basata sulla partecipazione alle lezioni. La modalità seminariale presuppone un coinvolgimento attivo degli studenti.</p>					
【教科書】					
<p>La bibliografia indicata in "References" costituisce un primo riferimento generale. I testi da leggere e studiare verranno sempre distribuiti in forma di dispensa durante il corso, insieme ad altre indicazioni bibliografiche di approfondimento.</p>					
----- イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

G. Leopardi, Poesie e Prose, a cura di R. Damiani e M. A. Rigoni, Milano, Mondadori, 2003.

G. Leopardi, Zibaldone di pensieri, a cura di R. Damiani, Milano, Mondadori, 2014.

Lessico leopardiano, a cura di N. Belluci, F. D'Intino, S. Gensini, Roma, Sapienza Universita' Editrice, 2014-2020 (consultabile online).

L. Blasucci, Leopardi e i segnali dell'infinito, Bologna, Il Mulino, 2001.

A. Prete, Il pensiero poetante: saggio su Leopardi, Milano, Feltrinelli, 2021.

[授業外学修(予習・復習)等]

Dopo ogni lezione potranno essere assegnate letture da svolgere a casa.

(その他(オフィスアワー等))

L'orario di ricevimento verra'comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET22 63731 LJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Ida Duretto		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	イタリア語
題目	Letteratura italiana. Inseguendo Angelica: percorsi attraverso l'"Orlando furioso"				
[授業の概要・目的]					
<p>Il corso di Letteratura italiana del secondo semestre vertera' sul poema epico di Ludovico Ariosto: l'"Orlando furioso". Dopo una introduzione e una contestualizzazione storica e biografica, il seminario prendera' in esame alcuni passi significativi, che verranno letti e commentati in classe. Una parte del corso sara' dedicata alla fortuna, letteraria e iconografica, del "Furioso" attraverso i secoli.</p>					
[到達目標]					
<p>Gli studenti leggeranno e commenteranno alcuni dei passi piu' memorabili dell'"Orlando furioso". Acquisiranno un ' autonoma capacita' di analisi del testo poetico italiano, con particolare attenzione agli aspetti metrico-stilistici. Rifletteranno sulla fortuna del poema in un ' ottica transnazionale e interdisciplinare.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Letteratura italiana (II semestre). Inseguendo Angelica: percorsi attraverso l'"Orlando furioso".</p> <p>1-2: Introduzione e contestualizzazione. 3-10: L'"Orlando furioso". Analisi e commento di testi rappresentativi. 11-15: Sulla fortuna, letteraria e artistica, del poema ariostesco.</p> <p>Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.</p>					
[履修要件]					
E' richiesto un buon livello di italiano.					
[成績評価の方法・観点]					
La valutazione sara' basata sulla partecipazione alle lezioni. La modalita' seminariale presuppone un coinvolgimento attivo degli studenti.					
[教科書]					
La bibliografia indicata in " References " costituisce un primo riferimento generale. I testi da leggere verranno sempre distribuiti in forma di dispensa durante il corso, insieme ad altre indicazioni bibliografiche di approfondimento.					
----- イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

L. Ariosto, Orlando furioso, a cura di C. Segre, Milano, Mondadori, 2022.

Galassia Ariosto. Il modello editoriale dell'Orlando furioso dal libro illustrato al web, a cura di L. Bolzoni, Roma, Donzelli, 2017.

[授業外学修(予習・復習)等]

Dopo ogni lezione potranno essere assegnate letture da svolgere a casa.

(その他(オフィスアワー等))

L'orario di ricevimento verrà comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET22 63731 LJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Ida Duretto		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	イタリア語
題目	"Nel solco dell'emergenza". La poesia in tempo di guerra				
[授業の概要・目的]					
<p>Il corso di Letteratura italiana contemporanea del primo semestre prendera' in esame le opere di alcuni dei piu' importanti poeti italiani dal Novecento a oggi, con particolare attenzione al tema chiave: la poesia in tempo di guerra. Dopo una contestualizzazione storica e un' introduzione sui caratteri distintivi e i modelli della poesia del XX e XXI secolo, si procedera' a una lettura dei testi poetici. Di ciascun autore verra' fornito un essenziale profilo biografico, preliminare all' analisi dell' opera. Verranno dunque commentati alcuni dei componimenti piu' significativi, con un' attenzione rivolta tanto al riconoscimento dei riferimenti culturali e delle fonti, quanto agli usi lessicali, alle figure retoriche e metriche. Ascoltando alcune delle voci piu' intense della letteratura italiana contemporanea, sara' possibile riflettere sul rapporto tra letteratura e conflitto nell' eta' contemporanea e acquisire gli strumenti per una autonoma lettura e analisi tematico-stilistica dei testi.</p>					
[到達目標]					
<p>Gli studenti impareranno a conoscere la letteratura italiana contemporanea e il suo contesto storico-culturale. Leggeranno e commenteranno le opere di alcuni degli autori fondamentali di questa stagione letteraria. Acquisiranno una buona capacita' di analisi del testo poetico, padroneggiando le piu' importanti figure metriche e retoriche.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Letteratura italiana contemporanea (I semestre). Nel solco dell'emergenza. La poesia in tempo di guerra.</p> <p>1-2: La poesia in tempo di guerra: introduzione.</p> <p>3-15: Lettura e commento di testi poetici rappresentativi.</p> <p>Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.</p>					
[履修要件]					
E' richiesto un buon livello di italiano.					
[成績評価の方法・観点]					
La valutazione sara' basata sulla partecipazione alle lezioni. La modalita' seminariale presuppone un coinvolgimento attivo degli studenti.					
[教科書]					
La bibliografia indicata in "References" costituisce un primo riferimento generale. I testi da leggere e studiare verranno sempre distribuiti in forma di dispensa durante il corso, insieme ad altre indicazioni bibliografiche di approfondimento.					
----- イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

Poeti italiani del Novecento, a cura di P.V. Mengaldo, Milano, Mondadori, 2021.

Dopo la lirica, Poeti italiani 1960-2000, a cura di E. Testa, Torino, Einaudi, 2013.

P.G. Beltrami, Gli strumenti della poesia. Guida alla metrica italiana, Bologna, Il Mulino, 2012.

G. Mazzoni, Sulla poesia moderna, Bologna, Il Mulino, 2021.

[授業外学修(予習・復習)等]

Dopo ogni lezione potranno essere assegnate letture da svolgere a casa.

(その他(オフィスアワー等))

L'orario di ricevimento verrà comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学178

科目ナンバリング		G-LET22 63731 LJ36			
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Ida Duretto		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	イタリア語
題目	Letteratura italiana contemporanea. Eugenio Montale e la poesia italiana del secondo dopoguerra				
[授業の概要・目的]					
<p>Dopo la ricognizione sulla poesia italiana contemporanea avviata nel primo semestre, il corso si concentrerà ora su uno dei massimi esponenti di questa stagione letteraria: il premio Nobel Eugenio Montale. Dopo un breve profilo biografico, il seminario prevede l'analisi di alcuni importanti testi di Montale, con specifico riferimento al "verso" della sua opera poetica, da "Satura" ad "Altri versi". Nella sua varietà tematico-stilistica, la produzione montaliana rappresenta un caso di studio particolarmente interessante e stimolante per concludere il corso annuale sulla poesia italiana del Novecento.</p>					
[到達目標]					
<p>Gli studenti analizzeranno la biografia e l'opera di uno dei classici del Novecento italiano. Esamineranno una selezione di testi tratti dalle raccolte poetiche montaliane, analizzandone opportunamente temi e stile. Familiarizzeranno con l'edizione critica dell'"Opera in versi", esempio straordinario nel panorama della filologia del Novecento, di collaborazione tra l'autore vivente e i suoi editori, e con i principali commenti alle raccolte. Impareranno a interpretare il testo poetico, chiarendone i riferimenti culturali, individuandone le fonti, studiandone gli usi linguistici e metrico-stilistici.</p>					
[授業計画と内容]					
Letteratura italiana contemporanea (II semestre). Eugenio Montale e la poesia italiana del secondo dopoguerra					
1-2: Introduzione e profilo biografico di Eugenio Montale					
3-15: L'Opera in versi. Lettura e commento dei testi					
Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.					
[履修要件]					
E' richiesto un buon livello di italiano.					
[成績評価の方法・観点]					
La valutazione sarà basata sulla partecipazione alle lezioni. La modalità seminariale presuppone un coinvolgimento attivo degli studenti.					
[教科書]					
授業中に指示する					
La bibliografia indicata in "References" costituisce un primo riferimento generale. I testi da leggere e studiare verranno sempre distribuiti in forma di dispensa durante il corso, insieme ad altre indicazioni					
イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)へ続く					

イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)

bibliografiche di approfondimento.

[参考書等]

(参考書)

E. Montale, L ' opera in versi, a cura di R. Bettarini e G. Contini, Torino, Einaudi, 1980.

E. Montale, Tutte le poesie, a cura di G. Zampa, Milano, Mondadori, 2021.

E. Montale, Antologia da " Altri versi " , Prefazione di A. Casadei, Introduzione, selezione e commento a cura di I. Duretto, Pisa, ETS, 2017.

L. Blasucci, Gli oggetti di Montale, Milano, Ledizioni, 2010.

P.V. Mengaldo, L ' opera in versi di Eugenio Montale, in La tradizione del Novecento, IV serie, Torino, Bollati-Boringhieri, 2000, pp. 66-113.

[授業外学修 (予習 ・ 復習) 等]

Dopo le lezioni potranno essere assegnate delle letture da svolgere a casa.

(その他 (オフィスアワー 等))

L ' orario di ricevimento verra' comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学179

科目ナンバリング	G-LET22 73741 SJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 村瀬 有司		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ペトラルカの抒情詩				
【授業の概要・目的】					
イタリアの抒情詩の源泉であるフランチェスコ・ペトラルカの詩集を精読します。個々の作品の内容だけではなく形式的な特色にも注意を向けながら、トスカーナ語抒情詩の伝統について理解を深めることが授業の目的となります。					
【到達目標】					
詩文を正確に読解する力を身につける。 韻文の形式美について理解を深める。					
【授業計画と内容】					
以下の予定で授業を進めます。					
初回：イントロダクション					
第2回～第14回：『カンツォニエーレ』の読解と考察 脚韻や詩行内のアクセントの位置といった形式的特徴を音読によって確認したうえで、作品の内容を検討していきます。					
第15回：フィードバック					
【履修要件】					
イタリア語文法を修得していること。					
【成績評価の方法・観点】					
毎回提示する簡単な和訳問題をもとに評価します。					
【教科書】					
プリント配布。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介します。					
【授業外学修(予習・復習)等】					
原文を音読してイタリア語の韻文のリズムに親しみましょう。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学180

科目ナンバリング	G-LET22 73741 SJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 村瀬 有司		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ペトラルカの抒情詩				
【授業の概要・目的】					
前期につづいて、フランチェスコ・ペトラルカの抒情詩を精読します。個々の作品の内容だけではなく形式的な特色にも注意を向けながら、トスカーナ語抒情詩の伝統について理解を深めることが授業の目的となります。					
【到達目標】					
詩文を正確に読解する力を身につける。 韻文の形式美について理解を深める。					
【授業計画と内容】					
以下の予定で授業を進めます。					
初回：イントロダクション					
第2回～第14回：『カンツォニエーレ』の読解と考察。 脚韻や詩行内のアクセントの位置といった形式的特徴を音読によって確認しながら、作品の内容を検討していきます。必要に応じてヴァチカン収蔵写本の表記を確かめながらテキストの校訂作業についても検証します。					
第15回：フィードバック					
【履修要件】					
イタリア語文法を修得していること。					
【成績評価の方法・観点】					
毎回提示する簡単な和訳問題をもとに評価します。					
【教科書】					
プリント配布。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介します。					
【授業外学修(予習・復習)等】					
原文を音読してイタリア語の韻文のリズムに親しみましょう。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学181

科目ナンバリング	G-LET22 73741 SJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	京都産業大学 外国語学部 准教授 内田 健一		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	19-20世紀のイタリア詩				
【授業の概要・目的】					
20世紀のイタリア詩の方向性を決めた2人の詩人、パスコリとダンヌンツィオの作品を中心に読みます。彼らが参照した19世紀の詩人(例えばレオパルディやカルドゥッチなど)の影響を確認しながら、19-20世紀のイタリア詩の大きな流れを把握します。					
【到達目標】					
19-20世紀のイタリア詩を正確に読み、文学史の中に位置づけながら学術的に評価できるようになること。					
【授業計画と内容】					
第1回：イントロダクション					
第2-14回：前期は叙情詩的な、パスコリ『カステルヴェッキオの歌』(1903年)、ダンヌンツィオ『アルキュオネー』(1903年)を中心に、19-20世紀のイタリア詩を読みます。					
第15回：フィードバック					
【履修要件】					
イタリア語の文法を一通り理解していること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点(授業への参加度、小テスト、小レポート)					
【教科書】					
プリントを配布します。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介します。					
【授業外学修(予習・復習)等】					
自分なりの解釈や分析を準備して、授業に臨んでください。					
(その他(オフィスアワー等))					
質問は授業の前後に受け付けます。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学182

科目ナンバリング	G-LET22 73741 SJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	京都産業大学 外国語学部 准教授 内田 健一		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	19-20世紀のイタリア詩				
【授業の概要・目的】					
20世紀のイタリア詩の方向性を決めた2人の詩人、パスコリとダンヌンツィオの作品を中心に読みます。彼らが参照した19世紀の詩人(例えばレオパルディやカルドゥッチなど)の影響を確認しながら、19-20世紀のイタリア詩の大きな流れを把握します。					
【到達目標】					
19-20世紀のイタリア詩を正確に読み、文学史の中に位置づけながら学術的に評価できるようになること。					
【授業計画と内容】					
第1回：イントロダクション					
第2-14回：後期は叙事詩的な、パスコリ『饗宴詩篇集』(1904年)、ダンヌンツィオ『マイア』(1903年)を中心に、19-20世紀のイタリア詩を読みます。					
第15回：フィードバック					
【履修要件】					
イタリア語の文法を一通り理解していること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点(授業への参加度、小テスト、小レポート)					
【教科書】					
プリントを配布します。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介します。					
【授業外学修(予習・復習)等】					
自分なりの解釈や分析を準備して、授業に臨んでください。					
(その他(オフィスアワー等))					
質問は授業の前後に受け付けます。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング		G-LET22 73741 SJ36			
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 文学研究科	准教授 村瀬 有司 特定准教授 Ida Duretto	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	木2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語およびイタリア語
題目	論文演習				
[授業の概要・目的]					
研究論文作成をサポートする授業です。問題の設定、論証の進め方、論述の方法、また参考文献リストの表記や註・引用の仕方まで、実際の作業に即して学术论文の在り方を学びます。					
[到達目標]					
修士論文提出年度に当たる参加者にとっては、これを完成させることが授業の目標となります。修士1回生は、この授業を通じて修士論文のテーマを絞り込むことが課題となります。また博士後期課程の参加者は、研究テーマの考察を深めて一年に一本のペースで論文にまとめること、博士論文の構想を固めること、これを完成に導くことが授業の目標となります。					
[授業計画と内容]					
初回 ガイダンス：研究発表の手順について説明を行い、おおよそのスケジュールを確認します。					
2-3回 前年度の修士論文・卒業論文提出者の報告。					
4-14回 大学院生及び卒業論文提出予定者の研究報告。 論文の計画段階から各自の研究テーマについて順次発表をします。他の参加者には、積極的に意見を述べることで発表者の論文作成を支援することが求められます。発表の合間に、註・参考文献・引用方法など学术论文の形式・体裁についても再確認します。また必要に応じて学術雑誌に掲載された論文を講読しながら、論文執筆の技術と注意事項を紹介する予定です。学会発表などを予定している参加者は、その予行演習として授業の場を活用することもできます。					
15回 フィードバック					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点：発表の内容、授業内での発言などに基づく。					
----- イタリア語学イタリア文学(演習)(2)へ続く -----					

イタリア語学イタリア文学(演習)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

発表者は事前に、レジュメ・資料などを研究室メンバー宛てにメール送信しておきましょう。

(その他(オフィスアワー等))

原則的には隔週開講の授業ですが、希望があればこれに限定されることなく発表の場を設定します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学184

科目ナンバリング		U-LET12 11502 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(中国哲学史)(講義) History of Chinese Philosophy (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 宇佐美 文理		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金4	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国哲学史講義()				
[授業の概要・目的]					
中国哲学の特徴的な考え方や、「気」や「理」などの中国哲学の基本概念を講義し、中国哲学ならびに中国文化への理解を深める。					
[到達目標]					
中国哲学における「気」、「性」、「道」、「理」などの基本的諸概念の持つ意味を理解することにより、中国文化のみならず、人類の文化全体を考えるための基礎的な知識を身につける。					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1 中国哲学とは何か 2 中国哲学の特徴的な考え方について 3 「気」について 一 気思想概観(前編) 4 「気」について 二 気思想概観(後編) 5 「気」について 三 気の死生観(前編) 6 「気」について 四 気の死生観(後編) 7 「理」について 一 理思想概観 8 「理」について 二 太極図について 9 「性」について 一 孟子と荀子の性説 10 「性」について 二 朱子の性説 11 「道」について 一 儒家の考える道 12 「道」について 二 道家の考える道 13 「無」について 14 ふたたび「中国哲学とは何か」 15 試験及びフィードバック(詳細は授業時に解説) 					
[履修要件]					
同一科目コードの講義科目を複数回履修しても、成績の良いもののみが単位認定されるので注意すること。					
[成績評価の方法・観点]					
学期末試験による(100パーセント)					
-----系共通科目(中国哲学史)(講義)(2)へ続く-----					

系共通科目(中国哲学史)(講義)(2)

[教科書]

使用しない
漢文資料などは授業時に適宜コピーして配布します。

[参考書等]

(参考書)
島田虔次『朱子学と陽明学(岩波新書)』(岩波書店) ISBN:4004120284
その他は授業中に紹介します。

[授業外学修(予習・復習)等]

ひろく中国の古典に親しんでください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET12 11504 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(中国哲学史)(講義) History of Chinese Philosophy (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 宇佐美 文理		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金4	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国哲学史講義()				
[授業の概要・目的]					
中国の目録学について概要を示すことから始めて、中国哲学史上の重要な書物について、経部と子部の書物を中心にそれぞれの内容について解説し、その書物が学問全体においてもつ位置についての知識を深める。					
[到達目標]					
目録学の概要を学ぶことにより、目録学が持つ「学術史」としての意味、目録学の存在意義を理解するとともに、中国の経部書(儒教の経書に関わる書物群)、子部書(諸子百家と、いわゆる技術書とされるもの)といった、中国哲学が主に扱う分野の書物について、それぞれの書物がどういう経緯で作られ、いったい何が書かれているか、さらには、学術全体の中でその書物がどのような位置にあるのかなどを知り、中国学を学ぶ上で基礎的な知識を獲得する。					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1 目録学とは何か 2 目録の歴史 一 焚書と学術の分類 3 目録の歴史 二 漢書藝文志について(前編) 4 目録の歴史 三 漢書藝文志について(後編) 5 子部の分類の概観 6 子部という分類が持つ特徴について 7 類書の概要とその問題点 8 道家類と釈家類について 9 経部の分類の概観 10 易 11 書と詩 12 礼 13 春秋 14 四書と小学書 15 フィードバック(詳細は授業時に解説する) 					
[履修要件]					
同一科目コードの講義科目を複数回履修しても、成績の良いもののみが単位認定されるので注意すること。					
-----系共通科目(中国哲学史)(講義)(2)へ続く-----					

系共通科目(中国哲学史)(講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期末試験（100パーセント）

[教科書]

使用しない
資料はプリントして配布します。

[参考書等]

（参考書）
野間文史『五経入門 中国古典の世界(研文選書)』（研文出版）ISBN:4876363749
その他は授業中に紹介します。

[授業外学修（予習・復習）等]

ひろく中国の古典に親しんでください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET12 21550 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国哲学史(講読) History of Chinese Philosophy (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 池田 恭哉		
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	火2	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	「孟子」の思想を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業の最大の目的は、漢文を読むための基礎的な知識を習得し、それらを活用して実際の漢文を読み、その読解力を身につけることである。そのため前期の中盤までは、漢文とその読み方について概説をする。</p> <p>概説の後には、実際の漢文読解の段階に進む。今年度はテキストに「孟子」の代表的な注釈書である清・焦循『孟子正義』を用いる。孟子については性善説など高校の授業でその思想に触れたことのある人も多いだろう。本授業では、原典を自分で読むことを通じて、孟子の思想と向き合ってみたい。その際、清朝の焦循が著した孟子の代表的な注釈書である『孟子正義』に導かれつつ読む。中国古典の読解に欠かせない「注釈」の意義を実感し、またその形式に慣れてもらうためである。</p> <p>この授業では、原典の読解を通して、色々な読解の可能性を出席者同士で討議することを特に重視する。漢文読解の基礎は前期を中心に概説し、また原典の読解も、履修者のペースに合わせて進めるので、漢文読解の経験、専攻分野を問わず、様々な興味関心から多くの学生の参加を期待する。</p>					
[到達目標]					
<p>目標は下記の5点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、漢文を読むための基礎的な知識を習得する。 2、漢文読解における注釈の意義を理解できる。 3、注釈を活用しつつ、自ら出典を調べ、漢文を正確に読める。 4、出典を調べる際に活用する工具書、あたるべきテキストなどを整理できる。 5、自らの読解内容を、根拠を持って他者に提示しつつ議論することで、自らの読解を深める。 					
[授業計画と内容]					
<p>最初のうちは講義形式で進める。時にその内容の定着を見る問いを発し、それに出席者に答えてもらう場合もある。</p> <p>焦循『孟子正義』を読む段階に入ってから、毎回の担当者を決め、訳注稿を作成してきてもらい、それについて出席者全員で討議する形式をとる。その際には、担当者以外の出席者の積極的な参画、発言を望む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 漢籍に触れる：漢籍の歴史、形態について 3・4 漢文の読み方：直読、訓読、現代語訳について 5・6 漢文の読み方：典故について 7・8 漢文の読み方：注釈について 9 『孟子』とその注釈：その成立と趙岐、朱熹、焦循らによる注釈について 10~30 『孟子正義』の読解と討議(梁恵王章句上) 					
----- 中国哲学史(講読)(2)へ続く -----					

中国哲学史(講読)(2)

フィードバックの方法は授業時に指示する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点による（教員の発問に対する積極的な回答、訳注稿に基づく発表、その修正稿の提出、自身の予習に基づく討議への参加、前期末・後期末に課すレポート課題などを総合的に判断する）。

【教科書】

授業中に指示する
テキストはコピーして配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

何より学生が主役であるため、他者が作成した訳注稿に対して自身の意見を言うためには、相応の予習が必要となる。また自身が作成した訳注稿は、復習として後日修正稿を提出してもらう。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 11602 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義) History of Sanskrit Literature (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 天野 恭子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	サンスクリット文献史(ヴェーダ文献)				
[授業の概要・目的]					
<p>ヴェーダからウパニシャッドに至るヴェーダ聖典に触れ、古代インドの宗教・思想の展開、古代インド文化・社会のあり方について、学び、考える。古代インドの宗教や歴史について詳しく解説を行うが、それらの知識を得ることだけでなく、当時の宗教文献に向き合い、作者の宗教体験や世界観に迫る体験を、参加者と共に味わいたい。原典の日本語訳を精読し、まず最低限必要な解説をするが、その後は個人個人が文献と向き合う時間を取り、授業の最後にレポートとして提出してもらう。次の授業でそれらのレポートを基にして、様々な視点での解釈を互いに学びつつ、文献への理解を深めていく。古代インドの宗教や歴史を学ぶことを目的の一つとするが、それを広く古代インドを超えて世界を理解することに生かせる視点を養うことが、この授業の重要な目的である。</p>					
[到達目標]					
<p>ヴェーダ文献およびその思想、社会的背景についての基本的な知識を得、古代文献の研究における様々な課題、難題について、理解する。思想や社会を研究する上で、様々な視点を持って研究対象を見ること、自分なりの問いを立てることを学ぶ。文献に書かれたことから思想や文化・社会を読み解く力、さらにその上に想像力を発揮する力も養いたい。古代インドに見られる様々な思想的、社会的事象を普遍的に捉え、古代インドを超えて広く世界全体を見る視点として生かすことを学ぶ。</p>					
[授業計画と内容]					
第1回	古代インドの歴史と言語				
第2回	インド・アリア人とヴェーダの宗教				
第3回	リグヴェーダにおける自然神への崇拜				
第4回	社会生活を反映したリグヴェーダの讃歌				
第5回	ヴェーダ期社会の「異文化的要素」とアタルヴァヴェーダ				
第6回	アタルヴァヴェーダの呪術(1)				
第7回	アタルヴァヴェーダの呪術(2)				
第8回	ヤジュルヴェーダと儀礼の発展				
第9回	ヤジュルヴェーダの呪術的儀礼				
第10回	アタルヴァヴェーダの哲学的讃歌(1)				
第11回	アタルヴァヴェーダの哲学的讃歌(2)				
第12回	ウパニシャッド哲学：輪廻と梵我一如(1)				
第13回	ウパニシャッド哲学：輪廻と梵我一如(2)				
第14回	マヌ法典に見られる哲学思想				
第15回	古代インドの宗教・哲学思想の発展と社会の変化について：まとめ				
系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義)(2)へ続く					

系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

毎回授業の際に書く短いレポートを、総合して評価する。

【教科書】

必要な資料は授業中に配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

予習は特に必要ない。毎回の授業で、その日の題材について考えを深め、それを短いレポートに書いて提出する。

(その他(オフィスアワー等))

サンスクリット文献全般について学ぶために、サンスクリット文献史(叙事詩以降)も受講することが望ましい。また、インド思想のその後の展開を知るためには、インド哲学史を受講することをすすめる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 11604 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義) History of Sanskrit Literature (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 横地 優子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	サンスクリット文献史(叙事詩以降)				
【授業の概要・目的】					
本授業では、インド二大叙事詩『マハーバーラタ』(「偉大なるバラタ族の物語」)と『ラーマヤナ』(「ラーマの勲」)以降に作られたサンスクリット文献について、分野別とその歴史的背景と内容を多角的な視点をもって概説する。これを通じて、インド古代・中世の思想、文化、社会の基本的枠組みを学び、理解することを授業の目的とする。					
【到達目標】					
インド古代・中世の思想、文化、社会を形づくる基本的枠組みを学び、理解することにより、関心ある主題に関して自学する能力が育まれることが期待される。					
【授業計画と内容】					
第1回 サンスクリット文献全般と授業で扱う分野の概説					
第2回 二大叙事詩の内容と特徴					
第3回 二大叙事詩の成立過程					
第4回 叙事詩成立の歴史的背景					
第5回 叙事詩における基本的な世界観					
第6回 ダルマと人生の四大目的(法、実利、愛、解脱)					
第7回 法典文献と政治学文献					
第8回 ヒンドゥー教の形成：一神教信仰の成立とヒンドゥー神話					
第9回 古伝承文献(プラーナ)の内容概観・形成史					
第10回 プラーナの世界観・時間観					
第11回 インドにおける説話：動物寓話と大説話					
第12回 サンスクリット美文学(カーヴィヤ)のジャンル・内容概観					
第13回 サンスクリット詩の諸特徴					
第14回 演劇と美的体験の理論					
第15回 全体の総括					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点(70%)と期末レポート(30%)により評価する。					
【教科書】					
教科書は特に使用しない。参照すべき資料は、授業内容に合わせて適宜紹介され、PandAにアップロードされる。叙事詩と説話、カーヴィヤについては、世界歴史大系「南アジア史1：先史・古代					
系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義)(2)へ続く					

系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義)(2)

(山崎元一・小西正捷編) 山川出版社 (2007年) の「第9章：文学史の流れ」を主たる教材とする。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

各ジャンルごとの参考文献リストをPandAにアップロードする。

[授業外学修(予習・復習)等]

予習は必要ない。授業中に配布する資料などを使って、講義内容の復習をすること。また、平常点評価と授業の双方向性を保つために、ほぼ毎回授業のポイントや質問などをPandAの課題にアップロードしてもらう(要半時間から1時間程度)。

(その他(オフィスアワー等))

サンスクリット文献全般について学ぶためには、サンスクリット文献史(ヴェーダ文献)、インド哲学史(前期と後期)も合わせて受講することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 11702 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(インド哲学史)(講義) History of Indian Philosophy (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授	VASUDEVA, Somdev	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水4	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
題目	History of Indian Philosophy A				
[授業の概要・目的]					
<p>This class aims to give an overview of the most influential traditions of Indian philosophical thought and to present brief summaries of the main doctrines as presented in original sources. We will study the historical development and the main debates that shaped these traditions.</p> <p>本講義では、インドの哲学的思想において最も影響力をもっていた哲学諸派を概観します。授業では、それぞれの学派が伝承してきた主な原典を参照しつつ、それぞれの教義について見ていきます。それによって、それらの諸伝統を形成している思想の歴史的発展と、諸伝統の間で交わされた主要な議論について考えていきます。授業ではサンスクリット語によって書かれた原典を参照しますが、サンスクリット語の知識が必須というわけではありません。また、本講義は英語で進められますが、TA(ティーチング・アシスト)による日本語の簡単な解説も同時に行われます。</p>					
[到達目標]					
<p>1) Students will learn about the principal themes and problems discussed in Indian philosophical thought. 2) Students will become familiar with the historical development of these themes. 3) Students will study the main arguments and positions upheld by competing traditions. 4) Students will study the most important intra-system debates that shaped the development of these traditions. 5) Students will compare the main concepts and methods of Indian philosophical thought with the beliefs of other philosophical traditions.</p> <p>1) インドの哲学思想で論じられている主要なテーマや問題について学ぶ。 2) これらのテーマの歴史的発展を知る。 3) インド思想の諸伝統によって支持されている主な議論や思想的立場を学ぶ。 4) これらの伝統の発展に寄与した重要な議論について学ぶ。 5) インド哲学思想の主な概念や思考方法を、他の哲学的伝統の考え方と比較する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Week 1. Introduction. Is philosophy the same as tradition, darsana or tarka? How do we study it? Can we compare it to other traditions?</p> <p>Week 2. The Vedas and Upanishads as the source. The argument of infallible tradition. The counter-argument of omniscient founders.</p> <p>Week 3. The grammarians and the language of philosophy. The style and content of Patanjali's Great Commentary. The Vakyapadiya and linguistic monism.</p>					
----- 系共通科目(インド哲学史)(講義)(2)へ続く -----					

系共通科目(インド哲学史)(講義)(2)

Week 4. Abhidharma and the conceptual vocabulary of Buddhist thought.

Week 5. Yogachara idealism. Phenomenological and ontological emptiness.

Week 6. Nyaya. Knowledge and realism. Liberation through knowledge.

Week 7. Vaisesika categorization. Prasastapada.

Week 8. Samkhya dualism. The Samkhyakarika and the Yuktidipika.

Week 9. Yoga analysis of mental processes. The Yogasutra and its commentaries.

Week 10. Mimamsa hermeneutics. Kumarila and Prabhakara.

Week 11. Advaita Vedanta. Shankara and his followers

Week 12. Visistadvaita and Dvaita Vedanta. Theistic interpretations. Ramanujan and Madhva.

Week 13. Shaiva Siddhanta and Isvarapratyabhijna. Shaiva dualism and non-dualism

Week 14. Navya Nyaya. The Tattvacintamani and its influence on all schools of thought.

Week 15. Review.

第1週：序章。インド「哲学」は、インド思想における「ダルシャナ」や「タルカ」といった伝統と同じか？また、どのようにしてそれを学ぶのか？あるいは、他の伝統と比較することは可能なのか？

第2週：インド思想の資料としてのヴェーダとウパニシャッドについて。「無謬」についての伝統的な議論について。全知者としての創造者に対する反論。

第3週：文法学者と哲学の言語について。パタンジャリの『大注解』の文体と内容。バルトリハリの『ヴァーキャパディーヤ』と言語的一元論について。

第4週：アビダルマ思想および仏教の思想に見られる概念的な語彙について。

第5週：ヨーガーチャラ（瑜伽行）派の観念論（唯心論）。現象学のおよび存在論的な「空」の思想について。

第6週：ニヤーヤ学派の知識論と実在論。彼らの考える「知識による解脱」とは。

第7週：ヴァイシェシカ学派のカテゴリー論について。プラシャスタパーダによる著作を中心に。

第8週：サーンキヤ学派の二元論について。『サーンキヤ・カーリカー』と『ユクティ・ディーピカー』を中心に。

第9週：精神的なプロセスについてのヨーガ学派の考え方について。『ヨーガ・スートラ』とその注釈書を中心に。

第10週：ミーマーンサー学派の聖典解釈学について。クマーリラとプラバーカラの思想について。

第11週：アドヴァイタ・ヴェーダント（ヴェーダント学派の不二一元論）について。シャンカラとその弟子たちの思想的伝統について。

第12週：ヴィシシュタ・アドヴァイタ（ヴェーダント学派の限定（制限）不二一元論）とドヴァイタ・ヴェーダント（ヴェーダント学派の二元論）について。有神論的な解釈について。ラーマヌジャとマドゥヴァの思想。

系共通科目(インド哲学史)(講義)(3)

第13週：シャイヴァ・シッターンタ（シヴァ教の伝統）と『イーシュヴァラ・プラティヤビジュニャー』について。シヴァ教の二元論と一元論。

第14週：ナヴィヤ・ニヤーヤ（新ニヤーヤ学派）について。『タットヴァ・チンターマニ』の内容と、その思想が他のすべての諸学派へ与えた影響について。

第15週：まとめ。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Class work 60%. Final paper to be submitted in week 15: 40%.

【教科書】

Garfield, Jay 『Treatise on the Three Natures (Trisvabhavanirdesa)』 (Oxford University Press) (pp. 35-45 in William Edelglass and Jay Garfield (eds.), Buddhist Philosophy: Essential Readings. 2009)

Franco, Eli 『On the Periodization and Historiography of Indian Philosophy.』 (Publications of the De Nobili Research Library) (Periodization and Historiography of Indian Philosophy. Vienna 2013.)

Halbfass, Wilhelm 『The Sanskrit Doxographies and the Structure of Hindu Traditionalism』 (: State University of New York Press) (India and Europe: An Essay in Understanding. Albany, 1988)

Materials distributed in class.

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

Details provided in class.

【授業外学修（予習・復習）等】

Preparation consists of reading short articles and text passages in advance for the next week.

（その他（オフィスアワー等））

It is desirable to continue with Indian Philosophy B in the next semester to study the content of the Indian Philosophical traditions in relation to specific themes, especially ontology and epistemology.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 11704 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(インド哲学史)(講義) History of Indian Philosophy (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授	VASUDEVA, Somdev	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水4	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
題目	History of Indian Philosophy B				
[授業の概要・目的]					
<p>This class aims to give an overview of the most influential themes and problems debated in the Indian philosophical traditions as presented in original sources. We will study the historical development and the main debates that shaped these traditions.</p> <p>本講義は、インドの哲学的伝統において最も影響力のあったテーマや、諸伝統の間で長年議論されてきた諸問題について概観します。授業では、原典の資料を紹介しながらそれぞれのテーマについて見ていきます。授業ではサンスクリット語によって書かれた原典を参照しますが、サンスクリット語の知識が必須というわけではありません。また、本講義は英語で進められますが、TA(ティーチング・アシスト)による日本語の簡単な解説も同時に行われます。</p>					
[到達目標]					
<p>1) Students will learn about the principal themes and problems discussed in Indian philosophical thought. 2) Students will become familiar with the historical development of these themes. 3) Students will study the main arguments and positions upheld by competing traditions. 4) Students will study the most important intra-system debates that shaped the development of these traditions. 5) Students will compare the main concepts and methods of Indian philosophical thought with the beliefs of other philosophical traditions.</p> <p>1) インドの哲学思想で論じられている主要なテーマや問題について学ぶ。 2) これらのテーマの歴史的発展を知る。 3) インド思想の諸伝統によって支持されている主な議論や立場を学ぶ。 4) これらの伝統の発展に寄与した重要な議論について学ぶ。 5) インド哲学思想の主な概念や思考方法を、他の哲学的伝統の考え方と比較する。</p>					
[授業計画と内容]					
Week 1. Introduction. Metaphysics, Ontology, Epistemology and Cosmology.					
Week 2. Pramana Epistemology. What is an instrument of knowing? How many instruments are there?					
Week 3. Perception					
Week 4. Error and Doubt. What is error? How many types of doubt are there?					
Week 5. Inference. How can vyapti be established?					
----- 系共通科目(インド哲学史)(講義)(2)へ続く -----					

系共通科目(インド哲学史)(講義)(2)

Week 6. Verbal cognition. The relationship between word and meaning. What is a referent?

Week 7. Analogy. Is analogy reliable?

Week 8. Other means of knowledge.

Week 9. Competing ontologies. Elements, categories, or phenomena? Substances, qualities and relations.

Week 10. Theories of Causation.

Week 11. Transformatio, evolution, agency and action.

Week 12. The nature and qualities of the self.

Week 13. Non-existence.

Week 14. Theories of Time.

Week 15. Review.

- 第1週：序章。インド思想における重要なテーマ、形而上学、存在論、認識論、宇宙論について。
第2週：プラマーナ（認識論）について。正しく知るための道具とは何か？それはいくつあるのか？
第3週：正しい認識方法1。直接知覚について。
第4週：誤謬と疑いについて。認識における誤謬（誤り）とは何か？疑いにはどのような種類があるのか？
第5週：正しい認識方法2。推論について。推論における遍充関係はどのようにして確立されるのか？
第6週：正しい認識方法3。ことばによる認識について。ことばと意味の関係とは。ことばの指し示す対象とは何か？
第7週：正しい認識方法4。類推について。類推による認識は、正しい認識根拠として信頼できるのか？
第8週：その他の知識の手段について。
第9週：インド思想において論争される存在論について。存在は要素なのか、カテゴリーなのか、または現象なのか？物質と、性質、そしてそれらを結びつける諸関係について。
第10週：因果関係に関する理論。
第11週：物事の変様と展開について。行為の主体と行為について。
第12週：自己の本質と性質について。
第13週：非存在について。
第14週：インド思想における時間の理論について。
第15週：まとめ。

【履修要件】

特になし

系共通科目(インド哲学史)(講義)(3)へ続く

系共通科目(インド哲学史)(講義)(3)

[成績評価の方法・観点]

Class work 60%. Final paper to be submitted in week 15: 40%.

[教科書]

Details provided in class.

[参考書等]

(参考書)

Taber, John 『A Hindu Critique of Buddhist Epistemology: Kumarila on Perception』 (Routledge) (London and New York:, 2005.)

Westerhoff, Jan 『The Dispeller of Disputes: Nagarjuna ' s Vignahavyavartani. 』 (Oxford University Press) (2010)

Dravid, N. S. 『A Bouquet of Flowers of Reasoning (Nayakusumanjali)』 (Indian Council of Philosophical Research) (New Delhi 1996)

Details provided in class.

[授業外学修(予習・復習)等]

Preparation consists of reading short articles and text passages in advance for the next week.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学191

科目ナンバリング		U-LET14 11802 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(仏教学)(講義) Buddhist Studies (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 宮崎 泉	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	インド・チベット仏教思想史				
[授業の概要・目的]					
インド・チベット仏教思想史のうち、インドで大乗仏教が興るまでの思想史の流れを概説する。仏教誕生の背景から仏教教義が体系化されていく様子を初期仏教、部派仏教の順に追う。					
[到達目標]					
大乗仏教興起以前のインド仏教の特徴的な思想について、基本的な事項を理解した上で、全体の流れを把握できるようになる。					
[授業計画と内容]					
毎回の授業内容は、おおよそ以下の通りである。					
<p>第1回 序論：仏教と仏教学</p> <p>第2回 仏教誕生の背景</p> <p>第3回 仏陀の生涯</p> <p>第4回 初期仏教：基本的な教説</p> <p>第5回 初期仏教：教説の特徴</p> <p>第6回 初期仏教：教団の発展</p> <p>第7回 部派仏教：アショーカ王と教団の分裂</p> <p>第8回 部派仏教：阿含(アーガマ)と論(アビダルマ)</p> <p>第9回 説一切有部の思想：概説</p> <p>第10回 説一切有部の思想：その世界観</p> <p>第11回 説一切有部の思想：五位七十五法の成立</p> <p>第12回 説一切有部の思想：五位七十五法</p> <p>第13回 説一切有部の思想：因果説と縁起解釈</p> <p>第14回 説一切有部の思想：実践と聖者の階位</p> <p>第15回 フィードバック</p>					
フィードバック方法は授業中に説明する。					
[履修要件]					
特にないが、後期の仏教学講義をあわせて受講することが望ましい。					
----- 系共通科目(仏教学)(講義)(2)へ続く -----					

系共通科目(仏教学)(講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業期間中の十回程度の課題（50％）と筆記試験（50％）を行い、インド仏教の思想の流れと、個々の思想に対する理解にしたがって評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習の必要がある時は、授業中に指示する。
授業内容に馴染みがないことが多いと思われるので、毎回の授業後に復習が必要である。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 11804 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(仏教学)(講義) Buddhist Studies (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 宮崎 泉	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	インド・チベット仏教思想史				
[授業の概要・目的]					
インド・チベット仏教思想史のうち、経量部の思想を含め、インドで大乗仏教が興って以降の思想史の流れを概説する。大乗仏教の興起とその展開を、大乗経典、中観学派、唯識学派、密教の順に追う。さらにチベット仏教について、国家仏教としての色彩の濃い前伝期の仏教と、宗派仏教の性格を持つ後伝期に現れる諸宗派の特徴的な思想を概説する。					
[到達目標]					
インド・チベットにおける大乗仏教興起以降の特徴的な思想について、基本的な事項を理解し、全体の流れも把握できるようになる。					
[授業計画と内容]					
毎回の授業内容は、おおよそ以下の通りである。					
<p>第1回 経量部の思想：概説</p> <p>第2回 経量部の思想：三世実有説批判と五位七十五法の整理</p> <p>第3回 大乗運動と大乗経典：概説</p> <p>第4回 大乗運動と大乗経典：空性と慈悲</p> <p>第5回 中観学派の思想：概説</p> <p>第6回 中観学派の思想：『中論』に説かれる縁起と空</p> <p>第7回 唯識学派の思想：概説とアーラヤ識</p> <p>第8回 唯識学派の思想：三性説と空性理解</p> <p>第9回 仏教論理学派</p> <p>第10回 中期中観派</p> <p>第11回 後期インド仏教と密教</p> <p>第12回 前伝期のチベット仏教</p> <p>第13回 後伝期の仏教諸派の思想1(カダム派、サキャ派、カギユ派)</p> <p>第14回 後伝期の仏教諸派の思想2(ニンマ派、ジョナン派、ゲルク派)、宗派折衷運動、ボン教の歴史と思想</p> <p>第15回 フィードバック</p>					
フィードバック方法は授業中に説明する。					
-----系共通科目(仏教学)(講義)(2)へ続く-----					

系共通科目(仏教学)(講義)(2)

[履修要件]

特にないが、後期の授業は前期の内容を引き継ぐものなので、前期の仏教学講義を受講していることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

授業期間中の十回程度の課題（50％）と筆記試験（50％）を行い、インド仏教とチベット仏教の思想の流れと、個々の思想に対する理解にしたがって評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習の必要がある時は、授業中に指示する。
授業内容に馴染みがないことが多いと思われるので、毎回の授業後に復習が必要である。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学193

科目ナンバリング		U-LET15 13100 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(西洋古典学)(講義) Greek and Latin Classics (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 河島 思朗	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ギリシア・ローマ神話：神話が息づく文化				
[授業の概要・目的]					
<p>この講義は、ヨーロッパの基礎である古代ギリシア・ローマの文化における神話を学ぶことを目的としています。神話はたんなる過去の御伽噺ではなく、時代や地域を超えて、現代の我々にまで影響を及ぼすものです。とりわけヨーロッパ文化のなかでは深く根付き、様々な形で用いられてきました。文学、美術、彫刻、哲学、天文学など、多様な媒体のなかで神話は表現され、比喩として用いられ、教養として継承されています。</p> <p>毎回の授業では、ギリシア・ローマ神話の主要な題材を扱いながら、神話の見方を学びます。それぞれの題材が意味するポイントを解説し、それと関連する美術や社会などについて確認します。この授業では神話を通して、古代の文化を知るとともに、神話とは何か、ということを考えていきます。</p>					
[到達目標]					
<p>この講義は、古代ギリシア・ローマの神話を多様な観点から知るとともに、古代の社会・文化を理解することを目標としている。具体的な全体の到達目標は以下の通り。</p> <p>(1) 神話を描く文学作品や美術作品を正確に読解することができる。</p> <p>(2) 社会的・文化的な意味を分析することができる。</p> <p>(3) 古代の知識をもとに、現代について考えることができる。</p> <p>(4) 古代ギリシア・ローマの文化を理解できる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>おおむね以下のスケジュールにしたがって授業を進める。ただし授業内で提示された疑問や議論の方向性などによっては、順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <p>第1回 イントロダクション：神話とは何か</p> <p>第2回 世界の始まり：創造神話(1)</p> <p>第3回 世界の始まり：創造神話(2)</p> <p>第4回 神々の系譜(1)</p> <p>第5回 神々の系譜(2)</p> <p>第6回 神話と信仰</p> <p>第7回 プロメテウス神話(1)</p> <p>第8回 プロメテウス神話(2)</p> <p>第9回 オリュンポスの神々(1)</p> <p>第10回 オリュンポスの神々(2)</p> <p>第11回 オリュンポスの神々(3)</p> <p>第12回 オリュンポスの神々(4)</p> <p>第13回 英雄伝説</p> <p>第14回 全体のまとめ</p>					
系共通科目(西洋古典学)(講義)(2)へ続く					

系共通科目(西洋古典学)(講義)(2)

第15回 フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

- ・授業内で毎回課すコメントペーパーで授業の理解度を確認するとともに、自らの考えを表現する(40%)
- ・学期終盤にレポートを課す(60%)

【教科書】

パワーポイント使用。プリント配布。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回の授業前に指定された参考文献や文学作品を読み、基礎知識を得ておく必要がある。また、授業後にコメントペーパーを課し、授業で扱った事柄についての考えをまとめる。また知識の体系化をはかるために、全体の復習を必要とする。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET15 13102 LJ36				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(西洋古典学)(講義) Greek and Latin Classics (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 助教 竹下 哲文		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金5	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	初期ラテン文学概論				
[授業の概要・目的]					
<p>長い歴史を持つラテン文学のうち、その草創期に重点を置きつつ、代表的な作家の作品を取り扱う講義です。</p> <p>しばしば「とっつきにくい」と言われるラテン文学ですが、ギリシア文学からの継承や同時代の状況を解説することで、それぞれの作品がどういった主題設定や問題意識のもとに展開されているかを解説しながら、鑑賞のポイントを紹介していきます。</p> <p>中心的に扱うのは共和政期の作家たちまでですが、そこに後の時代へつながるどのような発展の萌芽があるかにも触れることで、ラテン文学全体についても知識を深めることを目指します。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・初期ラテン語ラテン文学の歴史について、その全体像を把握する ・個々の作品の歴史的・文化的背景について理解を深める 					
[授業計画と内容]					
<p>講義はおおむね以下のプログラムにしたがって進めますが、テーマや回数配分を状況に応じて変える場合があります。</p> <p>第1回 イントロダクション：ラテン語とラテン文学の歴史概観 第2回 リーウィウス・アンドロニクスとホメーロスの「翻訳」 第3回 エンニウス『年代記』 第4回 ローマの演劇とその背景 第5回 ローマ喜劇：プラウトゥス1 第6回 ローマ喜劇：プラウトゥス2 第7回 ローマ喜劇：テレンティウス1 第8回 ローマ喜劇：テレンティウス2 第9回 古代の農業論：大カトー『農業論』，ウァッロー『農事論』 第10回 古代のラテン語論：ウァッロー『ラテン語について』 第11回 ルクレティウス『事物の本性について』1 第12回 ルクレティウス『事物の本性について』2 第13回 ルクレティウス『事物の本性について』3 第14回 ローマにおける弁論・修辞学の伝統 第15回 全体のまとめ</p>					
----- 系共通科目(西洋古典学)(講義)(2)へ続く -----					

系共通科目(西洋古典学)(講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（40％）

学期末レポート（60％）

【教科書】

授業内で資料を配布

【参考書等】

（参考書）

逸身喜一郎 『ギリシャ・ラテン文学 韻文の系譜をたどる15章』（研究社，2018年）

松本仁助, 岡道男, 中務哲郎編 『ラテン文学を学ぶ人のために』（世界思想社, 1992年）

【授業外学修（予習・復習）等】

・ 配布資料を読んで授業の復習を行うこと

・ 授業内では原典の翻訳をはじめとして色々な文献を紹介するので，それらを実際に手に取って読んでみることに

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学195

科目ナンバリング		U-LET49 29615 LJ48			
授業科目名 <英訳>	ギリシア語 (4 時間コース) (語学) Greek(4H)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 広川 直幸		
配当学年	2回生以上	単位数	8	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	月1,木1	授業形態	語学 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ギリシア語 (4 時間コース)				
[授業の概要・目的]					
<p>ギリシア語 (正確にはギリシャ語) はヨーロッパで最も歴史の長い言語である。線文字 B 文書を別にすれば、紀元前 8 世紀後半から現在に至るまで文献が残っている。その長い歴史の中で便宜上「古典ギリシア語」と呼ばれる期間のギリシア語の基礎を習得するのがこの授業の目的である。教科書では紀元前 5 ~ 4 世紀頃のアッティカ方言を中心に学ぶ。アッティカ方言は、標準語を持たなかった古典ギリシア語の中で最も豊富に文献を残しており、比較的よく実態が解明されている方言である。それゆえ、アッティカ方言の学習は、同時代の他の方言で書かれた文献を読むためにも、またそれ以前の文献 (例えばホメロス) やそれ以後の文献 (例えば『新約』) を読むためにも必須である。この授業では、教科書により基礎的文法と最小限の語彙を習得することを目指すのはもちろんのこと、教科書終了後、平易なテキストを講読することにより、教科書で得られる知識と本格的な原典講読のために必要な知識との間にある非常に大きな隔たりをできるだけ小さくし、スムーズに原典講読に移行できるようになることを目指す。</p>					
[到達目標]					
<p>古典ギリシア語アッティカ方言の基礎を習得することにより、辞書、文法書等を活用して各自が望むギリシア語原典 (紀元前 8 世紀の叙事詩から紀元後 4 世紀頃の擬古文まで) の読解に取りかかることができるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>まずは全 36 課の教科書を原則として一回に一課ずつ学習する。授業は教科書の構成に添って進めるが、それだけでは習得に必要な反復練習や知識のネットワーク化ができないので、必要に応じて何度でも既習事項の確認・復習や関連付けを行いながら進める。特に文法に関して、何よりもまず習得すべきは屈折 (いわゆる語形変化) なので、毎回授業開始時に前回学習した屈折を覚えているかを確認し、さらに教科書の練習問題を解いてもらう度にランダムに屈折の口頭練習を行うことにより知識の早期定着を図る。</p> <p>教科書終了後は、できるだけ受講者の希望を考慮に入れてテキストを決定し講読を行う。</p> <p>前期</p> <p>第 1 回 イントロダクション、第 1 課「文字と発音」の解説 第 2 回 第 1 課の練習問題、第 2 課「アクセント」の解説 第 3 回 第 1 課と第 2 課の復習 第 4 回 第 3 課の解説 第 5 回 第 3 課の屈折表の暗記の確認および練習問題、第 4 課の解説 第 6 回 ~ 第 30 回 第 5 回と同様に授業の前半に前回指定した屈折表の暗記の確認と練習問題を行い、後半に次の課の解説を行う。</p> <p>後期</p>					
ギリシア語 (4 時間コース) (語学) (2) へ続く					

ギリシア語（4時間コース）(語学)(2)

第31回～第38回 前期と同様に教科書の続きを学ぶ。
第39回～第60回 平易なテキストを講読する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（課題遂行状況、疑問点を積極的に質問する受講態度）に基づいて評価する。必要な場合、年度末に試験を行う。
出席数が全授業数の4分の3に満たない者には、理由の如何を問わず、単位を認定しない。

【教科書】

水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）ISBN:4000008293

【参考書等】

（参考書）

夏季休暇の前に後期の講読までに揃えるべき辞書類を記した文献表を配布し詳しく解説する。

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回、十分に復習と予習をしたうえで出席すること。一コマにつき1時間や2時間程度の予習復習では到底受講継続はできないと心得よ。また、他人から入手した練習問題の解答を写すことは手直しを加えていようと予習ではない。必ず自力で予習を行わなければならない。予習・復習の具体的な方法は、授業中に詳しく指示する。

（その他（オフィスアワー等））

分からないことについては、授業中であれ授業後であれ遠慮をせずに積極的に質問することを期待する。

授業の初めに前回学習したパラダイムの暗記の確認を行うので遅刻をしないこと。

遅刻は3回につき欠席1回とみなす。また、30分以上の遅刻は欠席とみなす。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 29645 LJ48			
授業科目名 <英訳>	ラテン語(4時間コース)(語学) Latin(4H)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 佐藤 義尚		
配当学年	2回生以上	単位数	8	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	月2,金2	授業形態	語学(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ラテン語(4時間コース)				
【授業の概要・目的】					
<p>ラテン語の初歩を学ぶことを目的とする。一年間、週に二回の授業を行う。 古代ローマから近世にいたるまで哲学、文学は言うに及ばず、法律、自然科学の書物もラテン語で書かれている。ラテン語は長期にわたって西欧文化の表現手段であった。西欧の諸言語、文化はラテン語という母胎から産み落とされてきたという事実はもう少し知られてもいいたろう。ラテン語を知らずして西欧の理解はありえない。</p>					
【到達目標】					
<p>古代、中世、近世にラテン語で書かれた文献が読解できるようになることを目標とする。 フランス語、イタリア語などの近代語を生み出した言語を学ぶことで、これらの言語の仕組みがより深く理解できるようになることを目標とする。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>授業は教科書にそってすすむ。各課の文法事項を説明し、ラテン語和訳の練習問題を読む。動詞、名詞、形容詞の語形変化はプリントを配布して詳述する。一回の授業で二課ぐらいの進捗ですすむ。ラテン語は単語の変化がすべてとも言える言語なので、変化の練習を繰り返し行い習熟を目指す。前期は文字、発音、アクセントから始まって、動詞、名詞の基本的な変化を中心に学び、後期は分詞、接続法などを学習する。後期のなかばで教科書を終え、簡単なラテン語を読んでいく。</p> <p>前期 第1回；ラテン語の仕組み。関連ウェブサイトの紹介。 第2回～第29回；一回に二課ぐらいの進捗ですすむ。 第30回；学習到達度の評価</p> <p>後期 第1回～第15回；教科書を二課ずつすすみ、学習し終える。 第16回～第30回；平易なラテン語作品を文法事項を確認しながら読む。 後期定期試験。</p>					
【履修要件】					
特になし					
----- ラテン語(4時間コース)(語学)(2)へ続く -----					

ラテン語（4時間コース）(語学)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点60点，試験40点で評価する．

[教科書]

松平千秋・国原吉之助 『新ラテン文法』（東洋出版）ISBN:4-8096-4301-8

教科書だけではわかりにくいので，解説資料を配布する．

教科書巻末に語彙集がついているので、最初の段階では辞書不要．

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で次回にやる練習問題を指示するのでそれを予習してくること．

（その他（オフィスアワー等））

ギリシア語既習であればラテン語学習はかなり容易．逆にラテン語を勉強すれば将来のギリシア語学習は容易になる．

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 29664 LJ48				
授業科目名 <英訳>	ギリシア語（初級I）（語学） Greek	担当者所属・ 職名・氏名	兵庫県立大学環境人間学研究所 西村 洋平 准教授		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金4	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	古典ギリシア語を学ぶ				
[授業の概要・目的]					
<p>古典ギリシア語（アッティカ方言）の基礎を学ぶ。基本語彙や活用・語形変化を覚え、初級文法を習得することを目指す。辞書や文法書を片手に、古典ギリシア語で書かれた文献を自力で読むための基礎力を身に付けることが目的である。</p> <p>哲学、歴史、文学、数学、弁論、法律など、あらゆる学問の古典はギリシア語で書かれている。これらの古典を専門とする学生にとって古典ギリシア語の習得は必須である。西洋古代を専門としない学生にとっても、自らの専門の根源を知り、その研究を深めるために、古典ギリシア語は重要なツールとなるであろう。</p>					
[到達目標]					
<p>古典ギリシア語の基礎文法を理解する。 簡単な文章を読み、語形や構文の説明ができるようになる。 古典ギリシア語で書かれた文献の自主的な読解や、講読・演習などに取り組む語学力を習得する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション、ギリシア文字の読み方・書き方 第2回から第14回 古典ギリシア語初歩の解説 教科書の第3課から第17課までを解説する。毎回、文法事項の説明を45分、宿題の答え合わせ・解説を45分行う。また活用・変化を覚えてもらうために小テストを2・3回実施する。 期末試験 第15回 フィードバック（試験の解説、前期の復習）</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
練習問題への取り組み（30%）、小テスト（20%）、試験（50%）で評価する。					
[教科書]					
水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）					
[参考書等]					
（参考書） 授業中に紹介する					
----- ギリシア語（初級I）（語学）(2)へ続く -----					

ギリシア語（初級I）（語学）（2）

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回課される練習問題に取り組み、活用・変化を覚えるために繰り返し自習することが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 29665 LJ48			
授業科目名 <英訳>	ギリシア語（初級II）（語学） Greek	担当者所属・ 職名・氏名	兵庫県立大学環境人間学研究所 西村 洋平 准教授		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金4	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	古典ギリシア語を学ぶ				
[授業の概要・目的]					
<p>古典ギリシア語（アッティカ方言）の基礎を学ぶ。基本語彙や活用・語形変化を覚え、初級文法を習得することを目指す。辞書や文法書を片手に、古典ギリシア語で書かれた文献を自力で読むための基礎力を身に付けることが目的である。</p> <p>哲学、歴史、文学、数学、弁論、法律など、あらゆる学問の古典はギリシア語で書かれている。これらの古典を専門とする学生にとって古典ギリシア語の習得は必須である。西洋古代を専門としない学生にとっても、自らの専門の根源を知り、その研究を深めるために、古典ギリシア語は重要なツールとなるであろう。</p>					
[到達目標]					
<p>古典ギリシア語の基礎文法を理解する。</p> <p>簡単な文章を読み、語形や構文の説明ができるようになる。</p> <p>古典ギリシア語で書かれた文献の自主的な読解や、講読・演習などに取り組む語学力を習得する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回から第15回 古典ギリシア語初歩の解説</p> <p>教科書の第18課から第36課までを解説する。毎回、文法事項の説明を45分、宿題の答え合わせ・解説を45分行う。また最後の3回は哲学・文学・歴史など履修者の関心に合わせて、短いテキストを講読する。</p>					
[履修要件]					
<p>前期の「ギリシア語（初級I）」を履修しているか、それに相当する文法知識を持っていること。</p> <p>詳しくは初回のイントロダクションの際に相談すること。</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<p>練習問題・講読への取り組みで評価する。また履修者数や学習状況によっては、授業内試験を実施する。</p>					
[教科書]					
水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）					
----- ギリシア語（初級II）（語学）(2)へ続く -----					

ギリシア語（初級II）（語学）(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回課される練習問題に取り組み、語形変化・活用を覚えるための自習を行い、講読のために予習してこること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 29666 LJ48				
授業科目名 <英訳>	ラテン語（初級I）（語学） Latin	担当者所属・ 職名・氏名	京都大学文学部 非常勤講師 勝又 泰洋		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水2	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	ラテン語文法				
【授業の概要・目的】					
ラテン語は、古代ローマ世界で使用されていた言語である。また、中世から近世にかけては、学術公用語としても用いられていた。イタリア語・スペイン語・フランス語など、いわゆる「ロマンス語」の源となっているのもこの言語である。本授業では、ヨーロッパ文化においてきわめて重要なこのラテン語の基礎文法を学ぶ。語形変化のシステムや基本語彙など記憶すべきことを逐一確実に記憶し、辞書などを参考にしながら実際の文章を読んでいくための準備を整えたい。					
【到達目標】					
ラテン語の文化的価値など、その概略を知ったうえで、語形変化のシステムと基本語彙を覚え、それらのある程度運用できるようになる。					
【授業計画と内容】					
下記教科書（全19課・82節（+付録分の2節））の前半部の内容を扱う。ラテン語の習得には多様な語形変化への習熟が不可欠である。あらゆる局面で徹底的な暗記と練習が求められることを覚悟して履修してもらいたい。					
第1回～第14回：教科書第1節～第42節 定期試験 第15回：試験フィードバック					
毎回の授業では、文法事項の解説を聞くことが中心となり、演習として、わずかながらではあるが、教科書にある練習問題を解いてもらう（この練習問題は、宿題とすることもある）。なお、授業で説明した事項の習熟度を確認するため、毎回小テストを実施する。					
【履修要件】					
後期開講の「ラテン語（初級II）」とセットで受講することが望ましい。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点（30%）・毎回の小テストの得点（30%）・定期試験の得点（40%）の合算による。5回以上欠席した場合、もしくは定期試験不受験の場合、いかなる理由があろうとも「不可」とする。					
----- ラテン語（初級I）（語学）(2)へ続く -----					

ラテン語（初級I）（語学）(2)

[教科書]

中山恒夫 『標準ラテン文法』（白水社、1987年）ISBN:9784560017616

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習は特に必要ないが、毎回の小テストと定期試験のために相応の復習が必要である。

（その他（オフィスアワー等））

第1回の冒頭で簡単なイントロダクション（上記内容の詳細と成績評価について）を行うので、履修者は必ず出席すること。また、同じく第1回から具体的な学習を進めるので、事前に必ず教科書を用意しておくこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学200

科目ナンバリング	U-LET49 29667 LJ48				
授業科目名 <英訳>	ラテン語（初級II）（語学） Latin	担当者所属・ 職名・氏名	京都大学文学部 非常勤講師 勝又 泰洋		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水2	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	ラテン語文法				
【授業の概要・目的】					
ラテン語は、古代ローマ世界で使用されていた言語である。また、中世から近世にかけては、学術公用語としても用いられていた。イタリア語・スペイン語・フランス語など、いわゆる「ロマンス語」の源となっているのもこの言語である。本授業では、ヨーロッパ文化においてきわめて重要なこのラテン語の基礎文法を学ぶ。語形変化のシステムや基本語彙など記憶すべきことを逐一確実に記憶し、辞書などを参考にしながら実際の文章を読んでいくための準備を整えたい。					
【到達目標】					
ラテン語の文化的価値など、その概略を知ったうえで、語形変化のシステムと基本語彙を覚え、それらのある程度運用できるようになる。					
【授業計画と内容】					
下記教科書（全19課・82節（+付録分の2節））の後半部の内容を扱う。ラテン語の習得には多様な語形変化への習熟が不可欠である。あらゆる局面で徹底的な暗記と練習が求められることを覚悟して履修してもらいたい。					
第1回～第14回：教科書第43節～第82節 定期試験 第15回：試験フィードバック					
毎回の授業では、文法事項の解説を聞くことが中心となり、演習として、わずかながらではあるが、教科書にある練習問題を解いてもらう（この練習問題は、宿題とすることもある）。なお、授業で説明した事項の習熟度を確認するため、毎回小テストを実施する。					
【履修要件】					
前期開講の「ラテン語（初級I）」とセットで受講することが望ましい。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点（30%）・毎回の小テストの得点（30%）・定期試験の得点（40%）の合算による。5回以上欠席した場合、もしくは定期試験不受験の場合、いかなる理由があろうとも「不可」とする。					
----- ラテン語（初級II）（語学）(2)へ続く -----					

ラテン語（初級II）（語学）(2)

[教科書]

中山恒夫 『標準ラテン文法』（白水社、1987年）ISBN:9784560017616

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習は特に必要ないが、毎回の小テストと定期試験のために相応の復習が必要である。

（その他（オフィスアワー等））

第1回の冒頭で簡単なイントロダクション（上記内容の詳細と成績評価について）を行うので、履修者は必ず出席すること。また、同じく第1回から具体的な学習を進めるので、事前に必ず教科書を用意しておくこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学201

科目ナンバリング		U-LET16 13202 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(スラブ語学スラブ文学)(講義) Slavic Languages and Literatures (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中村 唯史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近現代ロシア文化概説				
[授業の概要・目的]					
<p>ロシアの文学・思想は、近代日本の文学や思想に多大な影響を与えてきました。チャーホフの戯曲の上演回数は、ロシア本国に次いで世界第二位であり、トルストイやドストエフスキーは大正から昭和にかけて、もっとも読まれた作家に属していました。その人気は現代にまで続いています。しかし、ロシアの文学や思想が、どのような文化伝統の中で形成され、どのような状況の中で発展してきたのかについては、必ずしも十分に理解されてきたわけではありません。主要な幾つかのトピックに重点を置いて、18世紀末の近代ロシア文学の形成から1880年頃までのロシア文学・思想・絵画の流れを、できるだけ体系的に概観していきます。</p>					
[到達目標]					
<p>1) 近代ロシアの文学・思想・絵画についての知識と理解を得る。 2) 欧米文化共通の特徴である作品・ジャンル・国の枠を超えた交差を理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
第1回：はじめに					
第2 - 3回：近代以前のロシア文化の流れ 東方正教、コサック・古儀式派の発生、ペテルブルグ建設など					
第4 - 13回：以下の2つの系譜を軸に、時代を追って19世紀ロシア文学・思想を概観します。					
<p>1) 自己意識の鏡としてのペテルブルグ神話の系譜： プーシキン『青銅の騎士』、ゴーゴリ『外套』『鼻』、ドストエフスキーのペテルブルグほか</p> <p>2 「ロシア的自然」の系譜： プーシキン、レールモントフの詩、ツルゲーネフ『獵人日記』、トルストイ『戦争と平和』『安娜・カレーニナ』、移動派の絵画ほか</p>					
第14回：農奴解放令以後の文学と社会状況					
第15回：まとめ					
<p>授業の進度が予定と若干ずれる可能性があります。 フィードバックの方法は授業の中で指示します。</p>					
系共通科目(スラブ語学スラブ文学)(講義)(2)へ続く					

系共通科目(スラブ語学スラブ文学)(講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

毎回配付する質問票への記入30%、期末レポート70%で評価します。

【教科書】

適宜プリントを配付します。

【参考書等】

(参考書)

中村唯史・坂庭淳史・小椋彩(編著)『ロシア文学からの旅:交錯する人と言葉』(ミネルヴァ書房、2022年)ISBN:978-4-623-09400-4

その他にも、開講時ほか授業中に適宜指示します。

【授業外学修(予習・復習)等】

授業中に紹介する本や論考を、できるだけ自分でも読んでみてください。

(その他(オフィスアワー等))

ロシア語の知識はかならずしも必要としません。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学202

科目ナンバリング		U-LET16 13204 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(スラブ語学スラブ文学)(講義) Slavic Languages and Literatures (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中村 唯史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近現代ロシア文化概説				
[授業の概要・目的]					
<p>ロシアの文学・思想は、近代日本の文学や思想に多大な影響を与えてきました。チェーホフの戯曲の上演回数は、ロシア本国に次いで世界第二位であり、トルストイやドストエフスキーは大正から昭和にかけて、もっとも読まれた作家に属していました。その人気は現代にまで続いています。しかし、そのようなロシア文学への関心は、おおむね19世紀末までに留まり、20世紀の文学や文化がどのように展開してきたのかは、日本ではほとんど知られていないと言っても過言ではありません。</p> <p>この講義では、19世紀末から20世紀に入り、ソ連期を経て、その崩壊後の文化状況までを概観します。</p>					
[到達目標]					
<p>1) 19世紀末から20世紀のロシア(ソ連)の文学・思想・映画・絵画についての知識と理解を深める。</p> <p>2) 芸術作品や文化現象を分析・考察するための枠組みと方法を身に付ける。</p>					
[授業計画と内容]					
第1回：はじめに					
第2 - 5回：19世紀末から20世紀初頭の文学・絵画・思想 象徴主義(フェート、イヴァノフ、ソログープほか)、リアリズム文学(ゴーリキー、チェーホフほか)、近代ロシア絵画の展開(クインジー、レヴィタン、ヴルーベリ、シャガールほか)					
第6 - 8回：「ロシア・アヴァンギャルド」の季節 ロシア・フォルマリズム(「異化」とその通時的展開)、未来派の文学と絵画(超意味言語詩、マレーヴィチの無対象絵画)、映画の展開(エイゼンシテイン、ジガ・ヴェルトフ、モンタージュほか)					
第9 - 13回：ソ連期の文学・思想・文化 文学：アフマトワ、ザミャーチン、バーベリ、ブルガーコフ、グロスマンほか 思想：全一性の詩学、規範としての社会主義リアリズムとその溶融 映画：エイゼンシテイン『イワン雷帝』の問題					
第14回：ソ連崩壊後の文化状況(ペレーヴィン、ソローキン、ウリツカヤほか)					
第15回：まとめ					
<p>授業の進度が予定と若干ずれる可能性があります。 フィードバックの方法は授業の中で指示します。</p>					
系共通科目(スラブ語学スラブ文学)講義(2)へ続く					

系共通科目(スラブ語学スラブ文学)(講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

毎回配付する質問票への記入30%、期末レポート70%で評価します。

[教科書]

適宜プリントを配付します。

[参考書等]

(参考書)

中村唯史・坂庭淳史・小椋彩(編著)『ロシア文学からの旅：交錯する人と言葉』(ミネルヴァ書房、2022年) ISBN:978-4-623-09400-4

その他にも、開講時ほか授業中に適宜指示します。

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介する本や論考を、できるだけ自分でも読んでみてください。

(その他(オフィスアワー等))

ロシア語の知識はかならずしも必要としません。
後期からの履修も認めます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学203

科目ナンバリング	U-LET16 23251 LJ36				
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 伊藤 順二		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火3	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	露書講読 1				
【授業の概要・目的】					
19世紀の思想家の文章の読解を通じて、ロシア語の一般的能力、および歴史的・批評的文書に対する読解力を向上させる。					
【到達目標】					
ロシア語で書かれた現代の研究論文、および19世紀の一般的な文章を、辞書等を参照しつつ自力で読解できる。					
【授業計画と内容】					
以下の文書をテキストとする。					
(1857)					
【ゲルツェン「エカチェリーナ・ロマーノヴナ・ダーシコワ公爵夫人」】					
ただし、受講者の希望によってテキストを変更する可能性もある。					
第1回：イントロダクション 第2回～第15回：講読(日本語訳、文法的説明、背景説明)					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
期末テストはおこなわない。 毎回の講読における平常点(予習の精度)によって評価する。					
【教科書】					
使用しない プリントを配布する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
予習として自分でテキストを訳しておくことが必須となる。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーは、火曜4限とする。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学204

科目ナンバリング	U-LET16 23251 LJ36				
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 伊藤 順二		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火3	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	露書講読 1				
[授業の概要・目的]					
19世紀の思想家の文章の読解を通じて、ロシア語の一般的能力、および歴史的・批評的文書に対する読解力を向上させる。					
[到達目標]					
ロシア語で書かれた現代の研究論文、および19世紀の一般的な文章を、辞書等を参照しつつ自力で読解できる。					
[授業計画と内容]					
前期に引き続き、以下の文書をテキストとする。					
(1857)					
[ゲルツェン「エカチェリーナ・ロマーノヴナ・ダーシコワ公爵夫人」]					
初回授業で前期の要約を配布し、後期のみの受講者にも不便のないよう配慮する。 また、受講者の希望によってテキストを変更する可能性もある。					
第1回：イントロダクション 第2回～第15回：講読(日本語訳、文法的説明、背景説明)					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
期末テストはおこなわない。 毎回の講読における平常点(予習の精度)によって評価する。					
[教科書]					
使用しない プリントを配布する。					
----- スラブ語学スラブ文学(講読)(2)へ続く -----					

スラブ語学スラブ文学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習として自分でテキストを訳しておくことが必須となる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは、火曜4限とする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学205

科目ナンバリング		U-LET18 13402 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(英語学)(講義A) English Language (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 家入 葉子	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英語史A				
[授業の概要・目的]					
<p>アングロ・サクソン人がブリテン島に移住してから現在に至るまでの英語の歴史の変遷を包括的に学びます。また、古英語・中英語等の文献を講読し、過去の英語を具体的に体験しながら、国際共通語としての現代英語の背景について学びます。</p>					
[到達目標]					
<p>英語の史的变化への一般的な理解を深め、時代の異なる英語を、翻訳等の助けを借りながら読む力を身につけることを目標とします。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回： 授業についての説明ほか 第2回： インド・ヨーロッパ語としての英語 第3回： 英語の外面史と内面史(導入) 第4回： 借用語(ラテン語を中心に) 第5回： 借用語(スカンディナヴィア語を中心に) 第6回： 借用語(フランス語を中心に) 第7回： 語形成、およびその歴史の変遷 第8回： 意味の歴史の変遷 第9回： ルーン文字とアルファベット、および綴り字の歴史の変遷 第10回： 発音の歴史の変遷 第11回： 人称代名詞の形態全般 第12回： 人称代名詞の数と格、およびその歴史の変遷 第13回： 指示代名詞の歴史の変遷 第14回： 関係代名詞の歴史の変遷 第15回： 総括、国際共通語としての英語の実態とその理解</p> <p>授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、授業の最初または終わりに、古英語・中英語等の講読の時間を取ります。また、授業の進行状況により、予定が多少変更になることがあります。</p>					
[履修要件]					
<p>英語学英文学専修・アメリカ文学専修では、関連の授業として、特殊講義(家入葉子・Eva Zehentner)、特殊講義(Kevin Wrobetz)、外国語実習(Lachlan Rigby Jackson)も提供(予定)しています。英語の多様性への理解には、英語の歴史についての知識とともに、現代英語の実際に触れることが欠かせませんので、要件ではありませんが、余裕がある人はこれらの授業も受講してください。特殊講義では、英文法に関する内容を取り上げます。外国語実習のJackson先生も、社会言語学をはじめとする言語研究を専門領域としておられます。Wrobetz先生も、言語や文学の多様な</p>					
-----系共通科目(英語学)(講義A)(2)へ続く-----					

系共通科目(英語学)(講義A)(2)

側面に焦点を当てた授業をされる予定です。

[成績評価の方法・観点]

授業への貢献度(30%)およびレポート(70%)によって評価を行います。

[教科書]

家入葉子『ベーシック英語史』(ひつじ書房)

[参考書等]

(参考書)

堀田隆一『英語史で解きほぐす英語の誤解』(中央大学出版)

R. Hogg & D. Denison『A History of the English Language』(CUP)

寺澤盾『英語の歴史 過去から未来への物語』(中公新書)

<https://iyeyri.com/569>にも参考情報あります。

(関連URL)

<https://iyeyri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

[授業外学修(予習・復習)等]

指定された教科書に目を通しておいってください。授業中に指定する課題の担当をお願いすることがあります。

(その他(オフィスアワー等))

<https://iyeyri.com/contact>に連絡フォームがあります。必要な場合は、メールでご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学206

科目ナンバリング		U-LET18 13404 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(英語学)(講義B) English Language (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 家入 葉子	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英語史B				
[授業の概要・目的]					
<p>アングロ・サクソン人がブリテン島に移住してから現在に至るまでの英語の歴史の変遷を包括的に学びます。また、古英語・中英語等の文献を講読し、過去の英語を具体的に体験しながら、国際共通語としての現代英語との実践的な比較を行います。</p>					
[到達目標]					
<p>英語の史的变化への一般的な理解を深め、時代の異なる英語を、翻訳等の助けを借りながら読む力を身につけることを目標とします。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回： 授業についての説明ほか 第2回： 語形変化の実際 第3回： 語順の歴史の変遷と前置詞の使用の拡大 第4回： 主節と従属節の歴史の変遷 第5回： 不規則変化動詞とその歴史の変遷 第6回： 直説法と仮定法の歴史の変遷 第7回： 非人称動詞および過去現在動詞の歴史の変遷 第8回： 法助動詞の歴史の変遷 第9回： be動詞の歴史の変遷 第10回： 進行形と受動態の歴史の変遷 第11回： 完了形の歴史の変遷 第12回： 不定詞と動名詞の歴史の変遷 第13回： 否定構文の歴史の変遷 第14回： 助動詞doの歴史の変遷 第15回： 総括、国際共通語としての英語の実態とその理解(言語の揺れを中心に)</p> <p>授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、授業の最初または終わりに、古英語・中英語等の講読の時間を取ります。また、授業の進行状況により、予定が多少変更になることがあります。</p>					
[履修要件]					
<p>内容が英語史Aの続きとなっていますので、できるだけ英語史Aを受講した上で、本講義を受講するようにしてください。やむを得ない事情で英語史Bからの受講になる場合は、『ベーシック英語史』の前半部分を自習してから受講してください。</p> <p>なお、英語学英文学専修・アメリカ文学専修では、関連の授業として、特殊講義(家入葉子・Eva Zehentner)、特殊講義(Kevin Wrobetz)、外国語実習(Lachlan Rigby Jackson)も提供(予定)し</p>					
-----系共通科目(英語学)(講義B)(2)へ続く-----					

系共通科目(英語学)(講義B)(2)

ています。英語の多様性への理解には、英語の歴史についての知識とともに、現代英語の実際に触れることが欠かせませんので、要件ではありませんが、余裕がある人はこれらの授業も受講してください。特殊講義では、英文法に関する内容を取り上げます。外国語実習のJackson先生も、社会言語学をはじめとする言語研究を専門領域としておられます。Wrobetz先生も、言語や文学の多様な側面に焦点を当てた授業をされる予定です。

【成績評価の方法・観点】

授業への貢献度（30％）およびレポート（70％）によって評価を行います。

【教科書】

家入葉子 『ベーシック英語史』（ひつじ書房）

【参考書等】

（参考書）

堀田隆一 『英語史で解きほぐす英語の誤解』（中央大学出版）

R. Hogg & D. Denison 『A History of the English Language』（CUP）

寺澤盾 『英語の歴史 過去から未来への物語』（中公新書）

<https://iyeiri.com/569>にも参考情報があります。

（関連URL）

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

【授業外学修（予習・復習）等】

指定された教科書に目を通しておいってください。授業中に指定する課題の担当をお願いすることがあります。

（その他（オフィスアワー等））

<https://iyeiri.com/contact>に連絡フォームがあります。必要な場合は、メールでご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学207

科目ナンバリング	U-LET18 13406 LJ36				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(英文学)(講義A) English Literature (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 廣田 篤彦		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英文学史概説(中世 18世紀の風刺文学)				
[授業の概要・目的]					
<p>英文学史上の代表的な作品を紹介しながら、英文学の歴史の変遷について包括的に考える。前期は中世から18世紀前半までを扱う。風刺文学の歴史を取り上げ、ここから見えてくるこの時代の英文学全体、また、英国社会の一般的な状況を概観する。</p>					
[到達目標]					
<p>中世から18世紀の風刺文学を代表的なテキストに即しながら概観することを通じて、以下についての理解が深まることを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中世から18世紀の英文学に使われている様々な英語表現の変遷 2. 形式と内容の関係 3. 中世から近代にいたる、イングランドの社会と文学との関係 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回：英文学の範囲、特徴、歴史一般と文学史の関係についての解説 第2回：西洋文学における風刺文学の伝統についての解説 第3回：中世風刺文学の解説 第4回：講読(William Langland, Piers Plowman) 第5回：同(Geoffrey Chaucer, The Canterbury Tales, 'General Prologue') 第6回：16世紀風刺文学の解説 第7回：講読(John Donne, Satires) 第8回：同(William Shakespeare, Merry Wives of Windsor) 第9回：17世紀風刺文学の解説 第10回：講読(Ben Jonson, Bartholomew Fair) 第11回：同(John Dryden, Absalom and Achitophel) 第12回：18世紀風詩文学の解説 第13回：講読(Alexander Pope, The Rape of the Lock) 第14回：同(Jonathan Swift, Gulliver's Travels) 第15回：Review/Feedback 定期試験は行わない(成績評価は中間レポートと期末レポートによる)</p>					
[履修要件]					
後期に開講される英文学講義Bと今年度中に合わせて履修することが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
<p>中間、学期末レポート各50%、両方を提出していなければ成績評価の対象にならない。それぞれの題目、長さ、提出期限等詳細については授業中に口頭で指示をする。レポートの提出はPandAによる</p>					
系共通科目(英文学)(講義A)(2)へ続く					

系共通科目(英文学)(講義A)(2)

るものとする。

[教科書]

授業資料は予めPandA上に掲載する。終了後一定時間が経った時点で消去するので注意すること。

[参考書等]

(参考書)

Dinah Birch, Katy Hooper 『The Concise Oxford Companion to English Literature』 (Oxford UP) ISBN: 978-0199608218

[授業外学修(予習・復習)等]

辞書を丹念に引いて扱うテキストの内容を理解した上で授業に臨むこと。授業後は扱われた作品の文学史における位置づけについて考察すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学208

科目ナンバリング	U-LET18 13408 LJ36				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(英文学)(講義B) English Literature (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 南谷 奉良		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月5	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英文学史概説(小説・散文)				
[授業の概要・目的]					
<p>英文学史上の著名な小説・散文を紹介しながら、英文学における主題と文体の歴史的変遷を学ぶ。文学史は古いところから説き起こすのが常だが、この講義では新しい時代から遡る形で講義を進行し、「現代」ではなくなっていく変化を、個々の作品が生まれた時代背景とともに考察する。</p>					
[到達目標]					
<p>英国小説についての一般的な基礎知識を身につけ、時代的な背景とともに特定の作家がどのような特性をもつかを理解できるようになる。また、作家の言葉に対する態度と「表現すること」、「物語ること」の変化を考察しながら、自らが関心をもった作家についてリサーチを進めることができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 Introduction 第2回 Ian McEwan(1948-) 第3回 Kazuo Ishiguro(1954-) 第4回 Samuel Beckett(1906-1989) 第5回 George Orwell(1903-1950), E.M.Forster(1879-1970) 第6回 James Joyce (1882-1941), Virginia Woolf(1882-1941) 第7回 D.H.Lawrence(1885-1930), Joseph Conrad(1857-1924) 第8回 Thomas Hardy(1840-1928), George Eliot(1819-1880) 第9回 Charles Dickens(1812-1870), Elizabeth Gaskell (1810-1865) 第10回 Emily Brontë(1818-1848) 第11回 Jane Austen(1775-1817) 第12回 Mary Wollstonecraft Godwin Shelley(1797-1851) 第13回 Laurence Sterne (1713-1768) 第14回 イギリス文学史総覧+レポートの書き方 第15回 フィードバック(研究室にて授業内容に関連する質問に答える)</p>					
[履修要件]					
<p>前期の英文学講義と今年度中に合わせて履修するのが望ましい。</p>					
系共通科目(英文学)(講義B)(2)へ続く					

系共通科目(英文学)(講義B)(2)

[成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づき、リアクションペーパー（60%）および学期末に提出してもらうレポート（40%）によって評価する。

[教科書]

使用しない
プリントを適宜配布する。

[参考書等]

（参考書）

Dinah Birch 『The Concise Oxford Companion to English Literature 4th Edition』（OUP）ISBN:978-0199608218

[授業外学修（予習・復習）等]

予習として、授業中に指定する資料を読んでおくこと。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは火曜13：00～14：30。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学209

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 廣田 篤彦		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代英国演劇における多文化主義とその問題				
[授業の概要・目的]					
<p>現代英国演劇、とりわけ旧植民地の背景を有する作家による作品の講読を通じて英国(UK)における多文化主義とその問題を考察する。具体的には、ジャマイカ出身の両親を有するLenny Henry作の一人芝居August in England (2023)を取り上げ、そこに見られるWest Indiesと英国との交流の歴史、ならびに英国社会の文化的多様性を検討し、そこから他者との相互交流の可能性について考察する。異文化体験について英語で討論することによって、多様な文化のあり方を実践的に理解する。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> 世界の文化の多様性や、異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解する 多様な文化的背景を持った人々との交流を通じて、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的に理解する 英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する 					
[授業計画と内容]					
<p>本授業は</p> <p>a) 戯曲テキストの講読</p> <p>b) 講読する内容と連動した、指定のトピックに関するプレゼンテーション(担当者を指名する)</p> <p>c) テキスト並びに関連文献の講読を通じて学んだ多文化主義の歴史と現状に基づく異文化体験に関するプレゼンテーション</p> <p>の3つから構成される。下に示すのは扱われる全体像であり、受講者の数、英語力、経験により毎回の内容は前後することがある。</p>					
<p>第1週 【序論】授業の進め方の解説 / 戯曲テキストの読み方とAugust in England の概略</p> <p>第2週 講読: August in England scene 1 / プレゼンテーション・トピック: Windrush</p> <p>第3週 scene 2 / カリブ海地域の植民地化の歴史と現状</p> <p>第4週 scene 3 / 英国におけるfootballとcricket</p> <p>第5週 scene 4 / Notting Hill Carnivalとカリブ海地域の音楽、食文化</p> <p>第6週 scene 5 (a long scene: 講読のみ)</p> <p>第7週 scene 6 / 現在の英国政治における移民問題</p> <p>第8週 scene 7 / 英国における南アジア系移民の歴史と現状</p> <p>第9週 scene 8 / 英国における地域格差</p> <p>第10週 scene 9 (a long scene: 講読のみ)</p> <p>第11週 scene 10 (同上)</p> <p>第12週 scene 11 / Windrush Scandal</p> <p>第13週 英国における多文化主義、異文化交流の歴史と文学</p> <p>第14週: 【異文化体験についてのプレゼンテーション】授業で学んできた知見を活かして、自らの異文化体験を英語で述べ、ディスカッションをする</p>					
英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く					

英語学英文学(特殊講義)(2)

第15週【総論】人種・民族・種族等、様々な社会文化的側面において多様な在り方がせめぎ合う場としての現代英文学を包括的に理解する

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

a) テクストの講読 40%、b) 指定トピックに関するプレゼンテーション 30%、c) 異文化体験に関するプレゼンテーション 30%により評価する。正当な理由なく2回以上欠席した場合は単位を認めない。

【教科書】

Lenny Henry 『August in England』 (Faber, 2023) ISBN:978-0571386437

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回十分に予習をしてから授業に臨むこと。授業後は、授業中の解説を理解したうえで要点を整理し、異文化理解の観点から戯曲の理解に努めること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学210

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 南谷 奉良		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	George OrwellのKeep the Aspidistra Flying (1936)を読む				
[授業の概要・目的]					
George OrwellのKeep the Aspidistra Flying (1936)の読解を通じて、その作家の語彙や文体、表現技法に習熟しながら、テキストの記述を支えている歴史的・文化的背景を考察する。オーウェルが社会問題として捉えていた拝金主義や商業主義の問題、芸術の衰退、貧困や低賃金労働、知的階級や中産階級、下層中流階級等がキーワードになる。サブテキストとして、John CareyのThe Intellectuals and the Masses: Pride and Prejudice Among the Literary Intelligentsia 1880-1939も参照予定である。					
[到達目標]					
<p>(1) 文学テキストの言葉を文化や歴史と関連づけて理解し、それを自身の知と結びつけて説得的に説明することができる。</p> <p>(2) 文学テキストの読解を通じて各自の興味・関心を発展させ、有益で適切な学術的資料・文献を見つけることができる。</p> <p>(3) 先行研究と自身の関心をもとに文学テキストの読解を行うなかで、ものの見方を変える視点をもつことができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 Introduction</p> <p>第2回 pp.1-22 (ch. 1)</p> <p>第3回 pp.23-38 (ch. 2)</p> <p>第4回 pp.39-66 (ch. 3)</p> <p>第5回 pp.67-86 (ch. 4)</p> <p>第6回 pp.87-112 (ch. 5)</p> <p>第7回 pp.113-135 (ch. 6)</p> <p>第8回 pp.136-168 (ch. 7)</p> <p>第10回 pp.169-197 (ch. 8)</p> <p>第11回 pp.198-226 (ch. 9)</p> <p>第12回 pp.227-247 (ch. 10)</p> <p>第13回 pp.248-269 (ch. 11)</p> <p>第14回 pp.270-277 (ch. 12)</p> <p>第15回 まとめ・質疑応答</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業への参加状況・口頭発表（60％）と学期末レポート（40％）によって評価する。

[教科書]

授業中に指示する
テキストはこちらで配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、一語一語の意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に興味をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは水曜13：30～15：00。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学211

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 森 慎一郎		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Fitzgerald, The Great Gatsbyを読む				
[授業の概要・目的]					
F. Scott Fitzgeraldの代表作The Great Gatsby (1925)を精読しながら、文体、語りの形式、時代背景、ジェンダー/セクシュアリティ、人種、階級など、さまざまな見地から作品を検討する。あわせて作品の映画化(アダプテーション)についても考える。					
[到達目標]					
文学テキストを精確に読み、おもしろい疑問を持てるようになること。小説The Great Gatsbyおよびその作者Fitzgeraldについて理解を深めること。文学作品へのさまざまなアプローチの仕方に親しむこと。加えて、小説を通じて英語圏の文化への理解を深め、文学的な英語表現の機微に親しむことも本授業の目標となる。					
[授業計画と内容]					
授業は基本的に発表形式で行う。各回につき数名の担当者を指名し、その回の範囲について、レジュメを準備したうえで発表してもらおう。その発表をもとに参加者全員でディスカッションを行う。					
進行予定は下記のとおり。					
第1回	イントロダクション				
第2回	Chapter 1を読む				
第3回	Chapter 2を読む				
第4回	Chapter 3を読む				
第5回	The Great Gatsbyとアダプテーション				
第6回	Chapter 4を読む				
第7回	Chapter 5を読む				
第8回	Chapter 6を読む				
第9回	The Great Gatsbyとアダプテーション				
第10回	Chapter 7を読む				
第11回	Chapter 8を読む				
第12回	Chapter 9を読む				
第13回	The Great Gatsbyとアダプテーション				
第14回	総論とまとめ				
第15回	フィードバック				
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（60％）と期末レポート（40％）を合わせて評価する。平常点は、発表の質やディスカッションへ参加度など、学期を通じた授業への貢献度を評価する。

【教科書】

F. Scott Fitzgerald 『The Great Gatsby』（Penguin）ISBN:978-0141182636

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

発表担当者以外の者も含め、全員が各回の範囲を原文で徹底的に精読してくることを求められる。また、有名な作品で翻訳も多数あるので、開講前にざっとでも一度通読しておくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学212

科目ナンバリング	U-LET18 23431 LJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小林 久美子		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アメリカ現代文学における病の表象について The Gifts of the Bodyを読む				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業は、Rebecca BrownのThe Gifts of the Body (1994)を読みます。エイズ患者のホームケア・ワーカーを語り手に据えた本作は、「病」によってもたらされる種々の二分法(患者と健常者、寿命と病死、家族と他者)について省察を呼びかけるものです。現代アメリカではどのように「病」が小説で描かれるのか、本作の精読によって学ぶことを目的とします。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・英語で書かれた文学作品の解釈を学ぶ ・現代アメリカ文学における「病」の表象を学ぶ ・英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する 					
[授業計画と内容]					
<p>注意：授業スケジュールはあくまでも暫定的なものです。必ず初回授業にて配布するスケジュール表をご参照ください。</p> <p>第1回：【序論】Rebecca Brownと1990年代におけるエイズについて 第2回：The Gift of Sweatを読む 第3回：The Gift of Wholenessを読む 第4回：The Gift of Tearsを読む 第5回：The Gift of Skinを読む 第6回：The Gift of Hungerを読む 第7回：The Gift of Deathを読む 第8回：The Gift of Speechを読む 第9回：The Gift of Sightを読む 第10回：The Gift of Hopeを読む 第11回：The Gift of Mourningを読む 第12回：The Gifts of the Body全体を振り返る1 第13回：The Gifts of the Body全体を振り返る2 第14回：レポートワークショップ 第15回：【総論】The Gifts of the Bodyと小説ジャンルについて</p>					
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

毎授業後のメールでのコメントシートの提出（20％）・発表（40％：予定回数は2回）・期末レポート（40％）にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表は担当するテキストに関するもので、25分から30分ほどの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。期末レポートは授業内で取りあげたテキストに関するものとする。

【教科書】

Brown, Rebecca 『The Gifts of the Body』（Harper Perennial, 1995）ISBN: 9780060926533（授業中、随時参照するため、必ずこの版を入手すること）

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

受講者は、翻訳で構わないので、第2回目授業までに一通り作品全体を読んでおくこと

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学大学院言語教育情報研究科 滝沢 直宏 教授	
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英語語法文法研究				
[授業の概要・目的]					
<p>英語の語法文法の研究をする際には、まずもって英語の一次資料を分析的な目で常に読み、聞き、見る癖をつけることが大切である。受講生には、語彙・語法・文法・表現・言語理論の観点はもとより文化的視点、文体的・修辭的視点など幅広い観点から英語を観察し、興味深い例を発見することを求める。その上で、受講生各自が一週間の間に発見した例のうち、特に興味深いと思われる数例をMailing Listで紹介し合い、それを全員で検討しながら、英語の語法文法に関する理解を深める。</p> <p>収集した各例には、その例を特徴づける分類タグをできるだけ多く付与することが求められる。付与した分類タグの分だけ、一つの例を多角的に見たことになる。分類タグには、関連する言語学上の専門用語を正確に用いることも重要になってくるので、言語学関係の用語辞典を頻繁に参照することも必要となる。同時に、Quirk et al. (1985)、Huddleston & Pullum (2002)、Biber et al. (1999)など、既存の文法書を随時参照することも重視される。</p>					
[到達目標]					
日常的に触れている何気ない英文を分析的・複眼的に見る目が培われると同時に、言語学的な概念が習得される。					
[授業計画と内容]					
<p>1回：英語語法文法研究とは 2回：英語語法文法研究に資する例文データベースの構築方法 3回：例文データベースに対する分類タグ付けの方法 4回：生成文法と語法文法研究の関係 5回：生成文法の視点から見た語法文法研究 6回：動的文法理論と語法文法研究の関係 7回：動的文法理論の視点から見た語法文法研究 8回：認知言語学と語法文法研究の関係 9回：認知言語学の視点から見た語法文法研究 10回：談話の構成と語法文法研究 11回：英語史と語法文法研究の関係 12回：英語史の視点からの語法文法研究 13回：コーパスと語法文法研究の関係 14回：コーパスを用いた語法文法研究 15回：まとめ</p>					
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

日頃の課題提出を含む平常点。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

Quirk et al. 『A Comprehensive Grammar of the English Language』 (Longman, 1985) (20世紀最大の英文法書)

Huddleston and Pullum 『The Cambridge Grammar of the English Language』 (Cambridge University Press, 2002)

Biber et al. 『A Longman Grammar of Spoken and Written English』 (Pearson Education, 1999)

他にも参照すべき語法書、文法書は多い。適宜、授業で紹介する。

【授業外学修(予習・復習)等】

多くの英文を日常的に読み、英語語法文法の観点、言語学的観点から例文を収集し、全員が加入するMailing Listに投稿することを求める。不断の努力を怠らないこと。

(その他(オフィスアワー等))

用事・質問がある場合には、メールでご連絡ください。必要に応じて、Zoomで面談します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学大学院言語教育情報研究科 滝沢 直宏 教授		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英語語法文法研究				
[授業の概要・目的]					
<p>英語の語法文法の研究をする際には、まずもって英語の一次資料を分析的な目で常に読み、聞き、見る癖をつけることが大切である。受講生には、語彙・語法・文法・表現・言語理論の観点はもとより文化的視点、文体的・修辭的視点など幅広い観点から英語を観察し、興味深い例を発見することを求める。その上で、受講生各自が一週間の間に発見した例のうち、特に興味深いと思われる数例をMailing Listで紹介し合い、それを全員で検討しながら、英語の語法文法に関する理解を深める。</p> <p>収集した各例には、その例を特徴づける分類タグをできるだけ多く付与することが求められる。付与した分類タグの分だけ、一つの例を多角的に見たことになる。分類タグには、関連する言語学上の専門用語を正確に用いることも重要になってくるので、言語学関係の用語辞典を頻繁に参照することも必要となる。同時に、Quirk et al. (1985)、Huddleston & Pullum (2002)、Biber et al. (1999)など、既存の文法書を随時参照することも重視される。</p>					
[到達目標]					
日常的に触れている何気ない英文を分析的・複眼的に見る目が培われると同時に、言語学的な概念が習得される。					
[授業計画と内容]					
<p>1回：英語語法文法研究とは 2回：英語語法文法研究に資する例文データベースの構築方法 3回：例文データベースに対する分類タグ付けの方法 4回：生成文法と語法文法研究1 5回：生成文法と語法文法研究2 6回：動的な文法理論と語法文法研究1 7回：動的な文法理論と語法文法研究2 8回：認知言語学と語法文法研究1 9回：認知言語学と語法文法研究2 10回：談話の構成と語法文法研究 11回：英語史と語法文法研究1 12回：英語史と語法文法研究2 13回：コーパスと語法文法研究1 14回：コーパスと語法文法研究2 15回：まとめ</p>					
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

日頃の課題提出を含む平常点。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

Quirk et al. 『A Comprehensive Grammar of the English Language』 (Longman, 1985) (20世紀最大の英文法書)

Huddleston and Pullum 『The Cambridge Grammar of the English Language』 (Cambridge University Press, 2002)

Biber et al. 『A Longman Grammar of Spoken and Written English』 (Pearson Education, 1999)

他にも参照すべき語法書、文法書は多い。適宜、授業で紹介する。

【授業外学修(予習・復習)等】

多くの英文を日常的に読み、英語語法文法の観点、言語学的観点から例文を収集し、全員が加入するMailing Listに投稿することを求める。不断の努力を怠らないこと。

(その他(オフィスアワー等))

用事・質問がある場合には、メールでご連絡ください。必要に応じて、Zoomで面談します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学215

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学 文学部 教授 出口 菜摘		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Margaret Atwoodの詩の読解と翻訳				
[授業の概要・目的]					
この授業では、カナダの詩人・作家であるマーガレット・アトウッドが、1968年に発表した第2詩集『あの国の動物たち』(The Animals in That Country, 1968)の読解と翻訳を行う。人間と動物、人間と環境の関係性や境界を問い直す本詩集は、動物倫理や環境問題といった今日的な問題へ接続できるだろう。また、アトウッドの評論『サバイバル』(Survival, 1972)を参照し、比較文化的視座から動物表象について考える。					
[到達目標]					
この授業を通じ、詩の読解能力を養うとともに、文芸翻訳に取り組む。また、比較文化的視座から動物表象について考察することにより、人間が動物を描くことの意味について理解する。					
[授業計画と内容]					
1.Introduction 2.The animals in that country 3.Attitudes towards the mainland 4.The green man 5.At the tourist centre in Boston 6.A night in the Royal Ontario Museum 7.River 8.What happened 9.Roominghouse, winter 10.It is dangerous to read newspaper 11.Progressive insanities of a pioneer (1) 12.Progressive insanities of a pioneer (2) 13.Speeches for Dr Frankenstein (1) 14.Speeches for Dr Frankenstein (2) 15.Speeches for Dr Frankenstein (3)					
[履修要件]					
特になし					
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点50%(コメントやディスカッション等)と期末レポート50%で判断する。レポートの内容については授業時に指示する。

[教科書]

使用しない
初回授業でプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

作品を精読したうえで、テーマに関して問題意識を明確にして授業に臨むこと。また、関連する先行研究や関連資料にも目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

教員の連絡先は以下の通り。n_deguchi@kpu.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学216

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学 文学部 准教授 後藤 篤		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ポストモダン・アメリカ小説研究 Jhumpa Lahiriを読む				
[授業の概要・目的]					
<p>Jhumpa Lahiri (1967-) の第二短篇集Unaccustomed Earth (2008) および先行研究・批評等の関連資料を取り上げる。毎回の授業では、現代アメリカ文学・文化に関する解説もまじえながら、受講者による発表とディスカッションをもとに、インド(ベンガル)系アメリカ移民である作者自身の出自を反映した同書の収録作品を講読する。</p>					
[到達目標]					
<p>比較的難易度の高いテキストの解釈に取り組むことにより、文章の一語一句に込められた微妙なニュアンスが読み取れるような英文解釈のセンスに磨きをかける。同時に、批評理論・文化理論や関連する欧米の文化事象についての知識と理解を深めるなかで、作品のテキスト/コンテクストを読み解く批評眼を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イントロダクション 第2回 “Unaccustomed Earth”(1) 第3回 “Unaccustomed Earth”(2) 第4回 “Hell-Heaven” 第5回 “A Choice of Accommodations”(1) 第6回 “A Choice of Accommodations”(2) 第7回 “Only Goodness”(1) 第8回 “Only Goodness”(2) 第9回 “Nobody's Business”(1) 第10回 “Nobody's Business”(2) 第11回 “Once in a Lifetime” 第12回 “Year's End” 第13回 “Going Ashore” 第14回 エッセイ・インタビューおよび先行研究の概観 第15回 授業のまとめ・フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポート50%と発表課題30%、平常点20%（毎回の授業中の発言やディスカッションへの貢献、授業後のコメント提出）を総合的に判断する。

[教科書]

Jhumpa Lahiri 『Unaccustomed Earth』（Vintage Books, 2009）ISBN:978-0-307-27825-8

[参考書等]

（参考書）

Peter Barry 『Beginning Theory: An Introduction to Literary and Cultural Theory』（Manchester UP, 2017）

三原芳秋・渡邊英理・鶴戸聡編 『クリティカル・ワード 文学理論 読み方を学び文学と出会いなおす』（フィルムアート社、2020）

[授業外学修（予習・復習）等]

辞書・辞典類、アメリカ言語文化および批評理論・文化理論、現代思想に関する文献資料あるいはインターネット資料を積極的に参照し、毎回の範囲を丁寧に予習した上で授業に臨むこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学217

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	佛教大学文学部英米学科 准教授 メドロック 麻弥	
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Vladimir Nabokov _The Luzhin Defense_ 研究				
[授業の概要・目的]					
<p>Vladimir Nabokov (1899-1977)の小説_The Luzhin Defense_ (1963)を精読する。1930年に出版された、チェス名人を主人公とするロシア語小説_Zashichita Luzhina_の英語版である本作は、ナボコフの「ロシア語小説のうち、もっとも『ぬくもり』のある」作品であると自身が認めるものである。その「ぬくもり」や、散りばめられたさまざまなモチーフ、テーマ(とりわけ「音楽」のテーマ)を感じながら読み進める。</p>					
[到達目標]					
<p>技巧的な散文を読み解く想像力と論理的思考力を習得する Nabokovの世界観を説明することができる 文学作品の緻密な読み方を習得する</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 インTRODクシヨN 第2回 Chapter 1 輪読 第3回 Chapter 2 輪読 第4回 Chapter 3 輪読 第5回 Chapter 4 輪読 第6回 Chapter 5 輪読 第7回 Chapter 6 輪読 第8回 Chapter 7 輪読 第9回 Chapter 8 輪読 第10回 Chapter 9 輪読 第11回 Chapter 10 輪読 第12回 Chapter 11 輪読 第13回 Chapter 12 輪読 第14回 Chapter 13 輪読 第15回 Chapter 14 輪読</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>平常点70点+学期末レポート30点として評価する。 平常点としては、予習の状況、授業への貢献を評価する。 レポートでは、作品の基本的な理解度や、精読を通して得られた問題点について論理的に分析して</p>					
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学(特殊講義)(2)

いるか、といった点を評価する。

[教科書]

Vladimir Nabokov 『The Luzhin Defense』 (Penguin, 2000) ISBN:ISBN-10: 0141185988

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

一回の授業で、できれば1章ぶんの輪読をします。自分なりの日本語訳ができるように、毎回予習して授業にのぞんでください。日本語訳だけでなく、問題点、気になる点などもまとめてきてください。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーはありません。質問、連絡等は電子メールで受け付けます。
maya-m@bukkyo-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸大学 大学院国際文化学研究科 教授 西谷 拓哉		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	19世紀アメリカ文学に見る白人と黒人の交流				
[授業の概要・目的]					
この授業では、19世紀のアメリカ文学における人種表象を読み解きながら、アメリカ合衆国において白人文化と黒人文化の接触によってハイブリッドな文化が生まれてきたプロセスを考察することを目的とする。扱う作品は、ポー、メルヴィル、ストウ、トウェインの小説のほか、奴隷体験記、黒人霊歌等も含む。					
[到達目標]					
1. 19世紀のアメリカにおける白人と黒人の文化的交流について基本的な知識を得る。 2. 文学作品の読解を通して、南北戦争前後における人種関係の多様性と多義性を理解する。					
[授業計画と内容]					
前半では、植民地時代から19世紀前半において白人と黒人が接触し、相互交流してきた歴史を概観するとともに、主として19世紀前半のアメリカ文学において描かれた黒人像をたどる。ここでは、白人と黒人の政治的関係を背景として踏まえつつ、19世紀アメリカ文学における人種観の形成とその変容を検討する。後半では、南北戦争以後の白人と黒人の交流史を概観しながら、アメリカ文学において描かれた黒人像の変遷をたどり、19世紀後半における人種表象のあり方や人種の境界線上にある人々の自己意識を検討する。					
第1回	イントロダクション：アメリカにおける黒人の歴史				
第2回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像(1)：ポーの諸作品(1)				
第3回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像(1)：ポーの諸作品(2)				
第3回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像(3)：メルヴィル『白鯨』				
第4回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像(4)：メルヴィル「ベニート・セレーノ」(1)				
第5回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像(5)：メルヴィル「ベニート・セレーノ」(2)				
第6回	反奴隷制の文学(1)：奴隷体験記、黒人霊歌				
第7回	反奴隷制の文学(2)：ストウ『アンクル・トム的小屋』(1)				
第8回	反奴隷制の文学(3)：ストウ『アンクル・トム的小屋』(2)				
第9回	南北戦争の文学的表象				
第10回	マーク・トウェインの描く黒人像(1)：『トム・ソーヤーの冒険』、				
第11回	マーク・トウェインの描く黒人像(2)：『ハックルベリー・フィンの冒険』ほか(1)				
第12回	マーク・トウェインの描く黒人像(3)：『ハックルベリー・フィンの冒険』ほか(2)				
第13回	パッシング小説と映画の系譜(1)				
第14回	パッシング小説と映画の系譜(2)				
第15回	現代黒人文学への接続				
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

アメリカにおける白人文化と黒人文化の交流の流れを理解できているか、人種関係を理解できているか、アメリカ文学の作品読解がきちんとできているかといった観点から評価する。

平常の活動(40%)、中間レポート(30%)、最終レポート(30%)を総合して評価する。

平常の活動は毎回のコメントシート、小レポートによって評価する。

中間レポート、最終レポートは独創性・着眼点(50%)、文章構成(30%)、資料の活用度(20%)により評価する。

【教科書】

KULASISよりプリントを配布します。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

事前に作品からの引用を読んでおくことが求められます。

(その他(オフィスアワー等))

授業前後の相談、メールでの問い合わせを受けつけます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学 文学部 准教授 西谷 茉莉子		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	抒情詩の語り手について考えるーW. B. イェイツの中後期の詩作品を中心に				
[授業の概要・目的]					
<p>抒情詩における語り手をテーマに据えながら、1920年代から30年代にかけて書かれた円熟期のイェイツの詩作品を精読する。"Meditations in Time of Civil War," "Among School Children," "Leda and the Swan," "Crazy Jane poems," "Man and the Echo," "The Curse of Cromwell"などを予定している。</p> <p>批評家Jonathan Cullerによると、近代以降の抒情詩には、語り手の思考プロセスの模倣ではなく、それを表現したものが描かれるという。そのような指摘をふまえ、本講義では、イェイツの中後期の詩作品において語り手の思考プロセスがどのように表現されているか考える。さらに、講義の後半では同時代に発表された他の詩人の作品を併せて読み、比較対象としたい。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 英詩を精読することによって、テキストを読み解く力を向上させる。 2. 口頭発表、ディスカッション、コメントシート作成などの作業を通して、論理的思考や表現力を身に付ける。 3. 注釈の参照、文献検索、批評的な文章の読解など、リサーチに必要な技能を錬成する。 					
[授業計画と内容]					
第1回	イントロダクション、授業の進め方についての説明				
第2回	W. B. イェイツ "Meditations in Time of Civil War"				
第3回	W. B. イェイツ "Meditations in Time of Civil War"				
第4回	W. B. イェイツ "Leda and the Swan"				
第5回	W. B. イェイツ "Among School Children"				
第6回	W. B. イェイツ Crazy Jane poems				
第7回	W. B. イェイツ Crazy Jane poems				
第8回	W. B. イェイツ "Man and the Echo"				
第9回	W. B. イェイツ "The Curse of Cromwell"				
第10回	T. S. エリオットの詩を読む				
第11回	T. S. エリオットの詩を読む				
第12回	W. H. オーデンの詩を読む				
第13回	W. H. オーデンの詩を読む				
第14回	まとめ				
第15回	フィードバック				
----- 英語学英文学(特殊講義) (2)へ続く -----					

英語学英文学(特殊講義) (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業参加度(20点)、発表(30点)、レポート(50点)で総合的に評価する。

[教科書]

プリントを配布します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回、一編、あるいは二編の詩を扱う予定です。担当者は、訳を作成して、前日までに西谷まで提出してください。
口頭発表の担当ではない場合も、作品を読んで十分に準備し、授業内でのディスカッションに備えること。活発な議論を期待しています。
授業で紹介する作品や参考文献を読み、自主的にリサーチを行い、期末レポートの執筆に役立ててください。

(その他(オフィスアワー等))

連絡先は授業時にお伝えします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学220

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	同志社女子大学表象文化学部 木島 菜菜子 准教授		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Charlotte Brontë, *Jane Eyre*を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>シャーロット・ブロンテの『ジェイン・エア』は、時代を超えて愛読され、映画化され、批評されてきた。有名な作品のため、あらすじなどは簡単に手に入るが、本授業では改めて原書を丁寧に読み進めながら、自分の感性を出発点に文学作品を論じる楽しさを味わう。ヴィクトリア朝という作品の時代背景についても知識を増やし、これまでの先行研究で議論されてきた点、他の作家への影響、小説を論じる際の基本的な概念もおさえつつ、作品の読みどころの再発見と更なる解釈の可能性を探る。</p>					
[到達目標]					
<p>辞書を引きながら原書を楽しんで読むことができる。 小説読解のための英語力を身につけている。 小説を論じるための基礎的な概念や知識を身につけており、自分の言葉で作品の読みどころを論じることができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イントロダクション(授業の進め方の説明など) 第2回 *Jane Eyre* Chapter 1~2と小説の書き出しについて 第3回 *Jane Eyre* Chapter 3~4 第4回 *Jane Eyre* 映画鑑賞(Chapter 5~10) 第5回 *Jane Eyre* Chapter 11~13 第6回 *Jane Eyre* Chapter 14~16 第7回 *Jane Eyre* Chapter 17~19 第8回 *Jane Eyre* Chapter 20~23 第9回 *Jane Eyre* Chapter 24~26 第10回 *Jane Eyre* Chapter 27~28 第11回 *Jane Eyre* Chapter 29~32 第12回 *Jane Eyre* Chapter 33~35 第13回 *Jane Eyre* Chapter 36~38 第14回 先行研究と語り直しについて 第15回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
<p>特になし。英語で小説を読むことが好きな学生の受講を希望する。</p>					
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（各回のコメントペーパー）：50%
期末レポート：50%

[教科書]

Charlotte Brontë 『Jane Eyre』（Penguin）ISBN:9780141441146

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎週、該当する章を読み、コメントペーパーを提出する。

（その他（オフィスアワー等））

授業は原則として日本語でおこなう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学221

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸学院大学 准教授 WROBETZ, Kevin Reay		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Academic Writing 1: Linguistics, Game Theory, and Social Interaction				
[授業の概要・目的]					
<p>This course will introduce students to the concepts of linguistics and game theory through the context of social interaction. Specifically, this course will help students understand how the English language underpins social interaction on a global scale and how the rules of social interaction directly affect the use of language. Throughout the course, students will actively participate in games which highlight different contexts of social interaction in the English language as well as discuss how game rules may be modified to achieve different contexts of social interaction in English. As this is a content-focused course taught through the medium of English, students will be expected to read a substantial amount of authentic academic materials in English, to summarize in their own words what they have read, and to engage in in-depth classroom discussion of the content. Much of the content of the course discussions and course materials will relate how the principles of linguistics and game theory may be applied to achieve a deeper understanding of intercultural communication in specific contexts.</p>					
[到達目標]					
<p>This course will increase students' knowledge and understanding of the various roles that the English language plays in the world today, the sociocultural context of intercultural communication, and the inner mechanics of various games which influence how communication plays out. The active participation in games, group discussions, and presentations will develop students' oral communication skills and turn them into more confident English speakers, while the course materials will broaden students' vocabulary skills and general knowledge of the goals of intercultural communication, linguistics, game theory, and the significance of the context of intercultural communication.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Students will be given weekly reading assignments to prepare before each class. Classroom sessions will involve active participation in various games, short lectures to clarify relevant concepts, and group discussions to help students think critically about the main topics of the course. The course will evaluate students through the use of in-class comprehension activities and comprehension worksheets. Additionally, students will submit and present the content of a research essay to evaluate the students' ability to express in writing their understanding of and opinions regarding the course content.</p> <p>Week 1: Course Introduction Week 2: Competition and the Spread of Disinformation A: Game Introduction Week 3: Competition and the Spread of Disinformation B: Informed Majority Vs. Uninformed Minority Week 4: Competition and the Spread of Disinformation C: Language of Deception Week 5: Competition and the Spread of Disinformation D: Class Discussion of Competitive Games Week 6: Competition and the Spread of Disinformation E: Competition and Conspiracy (Us Vs. Them) Week 7: Competition and the Spread of Disinformation F: The Prisoner's Dilemma and the Erosion of Trust Week 8: Cooperation and Global Climate Change Coalitions A: Game Introduction</p>					
英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く					

英語学英文学(特殊講義)(2)

Week 9: Cooperation and Global Climate Change Coalitions B: From Each According to Their Ability
Week 10: Cooperation and Global Climate Change Coalitions C: Language of Teamwork
Week 11: Cooperation and Global Climate Change Coalitions D: Class Discussion of Cooperative Games
Week 12: Cooperation and Global Climate Change Coalitions E: Climate Change Coalition
Week 13: Cooperation and Global Climate Change Coalitions F: The Shapley Value and the Building of Trust
Week 14: Student Presentations on Essays
Week 15: Make-Up Lesson

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Comprehension Worksheets: 10%
Essay: 20%
Oral Presentation: 20%
Class Participation: 60%

【教科書】

All reading material and instructional media will be provided by the course instructor. Some of the reading material will focus on cooperative and competitive game theory (Von Neumann & Morgenstern).

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修(予習・復習)等】

Weekly reading preparation for class discussion. Submission of comprehension worksheets based on the content of weekly readings, in-course instructional material, and lecture content. Research essay and final presentation will also be prepared outside of class.

【その他(オフィスアワー等)】

If students have any questions regarding this course, they are encouraged to contact the instructor at krwrobotz@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学222

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸学院大学 准教授 WROBETZ, Kevin Reay		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Academic Writing 2: Linguistics, Game Theory, and Social Interaction				
[授業の概要・目的]					
<p>This course will introduce students to the concepts of linguistics and game theory through the context of social interaction. Specifically, this course will help students understand how the English language underpins social interaction on a global scale and how the rules of social interaction directly affect the use of language. Throughout the course, students will actively participate in games which highlight different contexts of social interaction in the English language as well as discuss how game rules may be modified to achieve different contexts of social interaction in English. As this is a content-focused course taught through the medium of English, students will be expected to read a substantial amount of authentic academic materials in English, to summarize in their own words what they have read, and to engage in in-depth classroom discussion of the content. Much of the content of the course discussions and course materials will relate how the principles of linguistics and game theory may be applied to achieve a deeper understanding of intercultural communication in specific contexts.</p>					
[到達目標]					
<p>This course will increase students' knowledge and understanding of the various roles that the English language plays in the world today, the sociocultural context of intercultural communication, and the inner mechanics of various games which influence how communication plays out. The active participation in games, group discussions, and presentations will develop students' oral communication skills and turn them into more confident English speakers, while the course materials will broaden students' vocabulary skills and general knowledge of the goals of intercultural communication, linguistics, game theory, and the significance of the context of intercultural communication.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Students will be given weekly reading assignments to prepare before each class. Classroom sessions will involve active participation in various games, short lectures to clarify relevant concepts, and group discussions to help students think critically about the main topics of the course. The course will evaluate students through the use of in-class comprehension activities and comprehension worksheets. Additionally, students will submit and present the content of a research essay to evaluate the students' ability to express in writing their understanding of and opinions regarding the course content.</p> <p>Week 1: Course Introduction Week 2: Intercultural Communication During Disaster A: Game Introduction Week 3: Intercultural Communication During Disaster B: The Interconnectedness of the Globe Week 4: Intercultural Communication During Disaster C: The Role of Communication Week 5: Intercultural Communication During Disaster D: Class Discussion on the Global Response to Pandemics Week 6: Intercultural Communication During Disaster E: Abstraction of Complexity (Learning From Past Mistakes)</p>					
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学(特殊講義)(2)

Week 7: Intercultural Communication During Disaster F: Parallels to Real Life

Week 8: What Housing Crisis? Japan Vs. the West A: Game Introduction

Week 9: What Housing Crisis? Japan Vs. the West B: Play by the Rules (Zoning Ordinances)

Week 10: What Housing Crisis? Japan Vs. the West C: Don't Play by the Rules (Changing Zoning Ordinances)

Week 11: What Housing Crisis? Japan Vs. the West D: Class Discussion on the Housing Crisis in the West

Week 12: What Housing Crisis? Japan Vs. the West E: Comparing Japanese and Western Housing Markets

Week 13: What Housing Crisis? Japan Vs. the West F: Different Rules, Different Outcomes

Week 14: Student Presentations on Essays

Week 15: Make-Up Lesson

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Comprehension Worksheets: 10%

Essay: 20%

Oral Presentation: 10%

Class Participation: 60%

【教科書】

All reading material and instructional media will be provided by the course instructor. Some of the reading will focus on group actions in repeated games (Farrell & Maskin) and the cross-cultural legislative implementation of zoning ordinances (Durning).

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修(予習・復習)等】

Weekly reading preparation for class discussion. Submission of comprehension worksheets based on the content of wweekly readings, in-course instructional material, and lecture contnet. Research essay and final presentation will also be prepared outside of class.

(その他(オフィスアワー等))

If students have any questions regarding this course, they are encouraged to contact the instructor at krwrobetz@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学 文学部 准教授 西谷 茉莉子		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	シェイマス・ヒーニーの初期の詩を精読する				
[授業の概要・目的]					
<p>北アイルランドのデリー州出身のシェイマス・ヒーニー(1939-2013)は、アイルランドのみならず英語圏で広く親しまれている現代詩人のひとりである。本講義では、ヒーニーの第一詩集Death of a Naturalist(1966)、第二詩集Door into the Dark(1969)、第三詩集Wintering Out(1972)所収の作品を精読する。これらの詩では、少年時代の回想、田舎暮らしや自然、詩の創作、アイルランドの政治的状況などのテーマが扱われる。</p> <p>授業では、原書のテキストに向き合う姿勢を身に付け、詩を読むために必要な知識を学ぶことによって、作品を読み解く鍛錬を行う。それとともに、適宜、英語の注釈、伝記的批評、詩論などの文献を併せて読み、その知識を関連させて作品を考察する。</p> <p>毎回の授業は作品の朗読、および口頭発表とディスカッションを中心に進める。う。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 英詩を精読することによって、テキストを読み解く力を向上させる。 2. 口頭発表、ディスカッション、コメントシート作成などの作業を通して、論理的思考や表現力を身に付ける。 3. 注釈の参照、文献検索、批評的な文章の読解など、リサーチに必要な技能を錬成する。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イントロダクション：シェイマス・ヒーニーについて、および作品と関連する社会的文脈、伝記的知識、文学史上重要な出来事などを説明する。授業の進め方や準備の仕方について周知し、発表の担当を決める。</p> <p>第2回 Death of a Naturalistの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第3回 Death of a Naturalistの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第4回 Death of a Naturalistの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第5回 Death of a Naturalistの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第6回 Door into the Darkの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第7回 Door into the Darkの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第8回 Door into the Darkの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第9回 Door into the Darkの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第10回 Wintering Outの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第11回 Wintering Outの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第12回 Wintering Outの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第13回 Wintering Outの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第14回 まとめ</p> <p>第15回 フィードバック</p>					
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学(特殊講義)(2)

授業計画は、状況によって変更することがあります。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業参加度(20点)、発表(30点)、レポート(50点)で総合的に評価する。

【教科書】

テキストや注釈等については、授業内でプリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

授業内で紹介する文献は積極的に手にとってください。

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回、一編、あるいは二編の詩を扱う予定です。担当者は、訳を作成して、前日までに西谷まで提出してください。担当者以外の履修者も、作品を読んでディスカッションに備えてくること。授業で紹介する作品や参考文献を読み、自主的にリサーチを行い、期末レポートの執筆に役立ててください。

(その他(オフィスアワー等))

連絡先等は初回の授業でお伝えします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学224

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	北海道大学大学院文学研究院 竹内 康浩 教授		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	エドガー・アラン・ポーとその影響				
[授業の概要・目的]					
<p>探偵小説の始祖とされる19世紀米国作家エドガー・アラン・ポーの短編小説を読みながら、作家がいかに登場人物の混迷を描き、さらに読者を煙に巻くか、すなわち彼の創作原理を考察します。その原理とは、物理的な鍵のようなもので、謎をロックするときにもアンロックするときにも使えます。また応用編として、その原理を使ってポー以外の作家による作品も読み解いてみたいと思います。</p>					
[到達目標]					
<p>エドガー・アラン・ポーの作品を読むことで、彼の創作原理を理解し、その原理を使用して、ひろく文学作品を考察することができるようになります。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下はあくまでも予定です。受講生の人数などによって適宜調整します。</p>					
1日目					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1回、2回：“Thou Art the Man”(「お前が犯人だ」)を読む(講義) ・ 3回：受講生による発表&ディスカッション(演習) 					
2日目					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 4回、5回：“A Tale of the Ragged Mountains”(「鋸山綺譚」)を読む(講義) ・ 6回：受講生による発表&ディスカッション(演習) 					
3日目					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 7回、8回：“The Murders in the Rue Morgue”(「モルグ街の殺人」)を読む(講義) ・ 9回：受講生による発表&ディスカッション(演習) 					
4日目					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 10回、11回：“The Purloined Letter”(「盗まれた手紙」)を読む(講義) ・ 12回：受講生による発表&ディスカッション(演習) 					
5日目					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 13回、14回：“The Black Cat”(「黒猫」)を読む(講義) ・ 15回：受講生による発表&ディスカッション(演習) 					
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

発表（４０％）、授業での質疑応答（２０％）、レポート（４０％）で総合的に評価する。

【教科書】

エドガー・アラン・ポーの作品（英語）は以下のサイトで全て読むことができます。

<https://www.eapoe.org/works/mabbott/tominfo.htm>

授業では、上記のマボット版を使用します。（ページ数に言及する際、この版のページを用います）。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

受講までに「授業計画」で挙げた諸作品を以下のサイトで熟読しておいて下さい。<https://www.eapoe.org/works/mabbott/tominfo.htm>

余裕のある人は"The Fall of the House of Usher"と"The Sphinx"も読んでみて下さい。

（その他（オフィスアワー等））

連絡はメールで行います。メールアドレスは、qze11357@gmail.com です。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学225

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 家入 葉子		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
題目	Investigating constructional alternations in recent English				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業は、主に客員教授のEva Zehentner先生(チューリッヒ大学)が担当しますが家入が補助します。Zehentner先生の来日スケジュールに変更が生じた場合は、講義内容および使用言語等に変更が生じることがあります。</p> <p>Syntactic alternations most basically refer to cases where “two or more ways of saying the same thing” (Labov 1972: 271) are available, i.e. where two formally distinct patterns express equivalent or similar meanings. For example, in the well-known English dative alternation, a nominal pattern (give the student a book) is more or less interchangeable with a prepositional pattern (give a book to the student). Such alternations have featured centrally in most, if not all, theoretical approaches to syntax (see e.g. Pijpops 2020). Typical issues that have been raised in their regard are to determine the precise relation between the members of an alternation and its theoretical modelling, with e.g. one pattern postulated to underlie the other in deep structure, or both patterns being represented as largely independent from each other (e.g. Goldberg 1995; Rappaport Hovav & Levin 2008; and many others, on the English dative alternation). Furthermore, the factors impacting the choice between alternating variants have received ample attention, investigating the effect of language-internal properties like semantic or pragmatic differences or processing-related features, but also sociolinguistic, external predictors such as variety or genre (e.g. Grafmiller & Szmrecsanyi 2018). In Construction Grammar specifically, alternations were disregarded for some time (e.g. Goldberg 1995, 2006), but have been met with renewed interest ever since Cappelle’s (2006) seminal work on ‘allostructions’ and discussions on ‘horizontal’ links (also Perek 2012, 2015; Ungerer forthc.; for a recent overview of relevant developments see Zehentner 2023).</p> <p>The seminar will introduce relevant concepts and theoretical questions regarding syntactic alternations in Construction Grammar, and will use large standard corpora of contemporary and recent historical English to allow students to carry out research projects on selected alternation phenomena. Specifically, we will use corpora from the Mark Davies family available at www.english-corpora.org, such as COCA (Corpus of Contemporary American English), COHA (Corpus of Historical American English) and the BNC (British National Corpus), among others, which cover a wide range of genres and different timeframes. On the basis of few selected alternation phenomena, students will be guided in their research process, learning how to find topics, formulate specific questions, retrieve and annotate data, as well as analyse and interpret their findings. This will be done in a step-by-step, accessible, and hands-on way, with students receiving specific input on methodological and theoretical aspects of alternation studies.</p>					
[到達目標]					
<p>The goal of the course is to introduce students to syntactic alternations from a Construction Grammar perspective, discussing (i) theoretical questions that arise when dealing with variation between formally or functionally overlapping constructions, and (ii) providing a hands-on introduction to investigating</p>					
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学(特殊講義)(2)

alternations with corpus data in contemporary and recent historical English. On the basis of representative phenomena such as the English dative alternation (gave them a book vs gave a book to them), the genitive alternation (the book 's pages vs the pages of the book), the particle alternation (take your shoes off vs take off your shoes), and the comparative adjective alternation (easier vs more easy), students will be familiarised with the history of alternation research in Construction Grammar, and will learn how to set up a small corpus research project on the alternations in question: This will include practical guidance on how to retrieve relevant data from corpora, how to operationalise factors that may impact the alternations, and how to interpret findings in a constructionist framework.

【授業計画と内容】

1. Introduction to the basics of Construction Grammar
2. Syntactic alternations and their treatment in Construction Grammar
3. Case studies: 4 (in)famous alternations in English
4. Research design I: topics and research questions
5. Research design II: dependent and independent variables
6. Corpus linguistics: standard corpora of English and their use
7. Retrieving alternations from corpora
8. Annotating and analysing alternation data (1)
9. Annotating and analysing alternation data (2)
10. Descriptive statistics (summing up results, observing frequency trends)
11. Inferential statistics (using Excel and R to run statistical tests and models)
12. Hands-on practice of descriptive and inferential statistical analysis
13. Interpreting results
14. Discussion of theoretical implications of empirical findings
15. Wrap-up on data analysis and constructionist approaches

【履修要件】

Active participation in discussions, data retrieval and analysis.

【成績評価の方法・観点】

attendance/class contribution 20%,
data analyses 30%,
report (write-up of findings) 50%

【教科書】

授業中に指示する

Course materials (PDFs) will be provided ahead of the seminar.

【参考書等】

(参考書)

Corpora

英語学英文学(特殊講義)(3)へ続く

英語学英文学(特殊講義)(3)

BNC = Davies, Mark. 2004. British National Corpus (from Oxford University Press). <https://www.english-corpora.org/bnc/>.

COCA = Davies, Mark. 2008-. The Corpus of Contemporary American English (COCA). <https://www.english-corpora.org/coca/>.

COHA = Davies, Mark. 2010. The Corpus of Historical American English (COHA). <https://www.english-corpora.org/coha/>.

References

Cappelle, Bert. 2006. Particle placement and the case for “allostructions”. *Constructions* 1. 1-28. <https://doi.org/10.24338/cons-381>.

Goldberg, Adele. 1995. *Constructions. A Construction Grammar Approach to Argument Structure*. Chicago: Chicago University Press.

Goldberg, Adele. 2006. *Constructions at work: The nature of generalization in language*. Oxford: Oxford University Press. <https://doi.org/10.1093/acprof:oso/9780199268511.001.0001>.

Grafmiller, Jason & Benedikt Szmrecsanyi. 2018. Mapping out particle placement in Englishes around the world. A case study in comparative sociolinguistic analysis. *Language Variation and Change* 30(03). 385-412. <https://doi.org/10.1017/S0954394518000170>.

Labov, William. 1972. *Sociolinguistic patterns*. Philadelphia, PA: University of Pennsylvania Press.

Perek, Florent. 2012. Alternation-based generalizations are stored in the mental grammar: Evidence from a sorting task experiment. *Cognitive Linguistics* 23(3). 601-635. <https://doi.org/10.1515/cog-2012-0018>.

Perek, Florent. 2015. Argument structure in usage-based Construction Grammar: Experimental and corpus-based perspectives. Amsterdam: Benjamins. <https://doi.org/10.1075/cal.17>.

Pijpops, Dirk. 2020. What is an alternation? Six answers. *Belgian Journal of Linguistics* 34. 283-294.

Ungerer, Tobias. forthc. Vertical and horizontal links in constructional networks: Two sides of the same coin? *Constructions and Frames*.

Zehentner 2023 Allostructions revisited. *Constructions* 15(1). 1-20. [Special Issue: 35 Years of *Constructions*]. <https://doi.org/10.24338/cons-569>.

[授業外学修（予習・復習）等]

Assigned reading

（その他（オフィスアワー等））

必要な場合は、<https://iyeyri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23441 SJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(演習Ⅰ) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 家入 葉子		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英文法の面白さと英語の多様性、変化				
[授業の概要・目的]					
<p>Andreea S. CaludeとLaurie BauerによるMysteries of English Grammar: A Guide to Complexities of the English Language (図書館のものを利用)の中から指定する章を読むとともに、関連の論文を紹介する口頭発表を行います。また、英語の文法に関する小規模な文献調査を各自が行い、そのテーマについて授業中に議論を行い、学期末にはレポートを作成します。</p>					
[到達目標]					
<p>Andreea S. CaludeとLaurie BauerによるMysteries of English Grammar: A Guide to Complexities of the English Languageの中から指定する章を講読し、英文法を多様な視点から再確認します。合わせて英語学関係の論文を講読し、英語の多様性、変化への理解を深めるとともに、コーパス言語学の手法や談話分析の手法を習得することを目標とします。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回： イントロダクション 第2回： コーパス言語学のアプローチによる英語の分析(1) 第3回： コーパス言語学のアプローチによる英語の分析(2) 第4回： 文法化と語彙化の視点から(1) 第5回： 文法化と語彙化の視点から(2) 第6回： 談話分析の手法を用いたアプローチ(1) 第7回： 談話分析の手法を用いたアプローチ(2) 第8回： 歴史社会言語学と英語研究(1) 第9回： 歴史社会言語学と英語研究(2) 第10回： 歴史語用論的なアプローチ(1) 第11回： 歴史語用論的なアプローチ(2) 第12回： 英語の標準化と規範文法 第13回： 英語の地域性 第14回： 言語接触と英語 第15回： 文法についてのプロジェクトの報告と議論、および総括</p>					
<p>授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、進行状況により、予定が多少変更になることがあります。 なお必要な場合には、レポートの作成に有用なオンラインツールや辞書の使い方等を習得するためのワークショップ・セミナー等を行うことがあります。</p>					
----- 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----					

英語学英文学(演習Ⅰ)(2)

【履修要件】

英語学英文学専修・アメリカ文学専修では、関連の授業として、特殊講義（家入葉子・Eva Zehentner）、特殊講義（Kevin Wrobetz）、外国語実習（Lachlan Rigby Jackson）も提供（予定）しています。英語の多様性への理解には実際の英語に触れることが欠かせませんので、要件ではありませんが、余裕がある人はこれらの授業も受講してください。特殊講義では、英文法に関する内容を取り上げます。外国語実習のJackson先生も、社会言語学をはじめとする言語研究を専門領域としておられます。Wrobetz先生も、言語や文学の多様な側面に焦点を当てた授業をされる予定です。

【成績評価の方法・観点】

授業への貢献度（40%）およびレポート（60%）によって評価を行います。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

Andreea S. Calude & Laurie Bauer 『Mysteries of English Grammar: A Guide to Complexities of the English Language』（Routledge）

（関連URL）

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の予習（全員）及び、論文の講読（担当者）をお願いします。レポートは授業終了後に提出することになりますが、その作成方法については、授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

必要な場合は、<https://iyeiri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23441 SJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(演習Ⅰ) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 家入 葉子		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中英語入門				
[授業の概要・目的]					
指定した中英語文献を講読するほか、関連の論文を紹介する口頭発表を行います。また、中英語テキストを題材に英語の文法に関する小規模な文献調査を各自が行い、学期末にはレポートを作成します。					
[到達目標]					
Geoffrey Chaucer (著) の作品の講読を通じて中英語についての理解を深めます。また、中英語と現代英語の違いに着目し、言語を变化の視点から観察できる能力を身につけることを目標とします。					
[授業計画と内容]					
Geoffrey Chaucer (著) の作品の講読を通じて中英語についての理解を深めます。また、中英語と現代英語の違いに着目し、言語を变化の視点から観察できる能力を身につけることを目標とします。					
授業計画と内容					
第1回： イントロダクション、データベース利用の方法					
第2回： 中英語の発音および基本的な文法事項					
第3回： Chaucer's Boece の講読およびGeoffrey Chaucerの著作全般について					
第4回： Chaucer's Boece の講読および中英語の綴り字					
第5回： 文法についてのプロジェクトの構想発表と議論					
第6回： Chaucer's Boece の講読および中英語の語順					
第7回： Chaucer's Boece の講読および中英語の名詞・形容詞					
第8回： Chaucer's Boece の講読および中英語の代名詞全般					
第9回： Chaucer's Boece の講読および中英語の語彙					
第10回： 文法についてのプロジェクトの中間発表と議論					
第11回： Chaucer's Boece の講読および中英語の前置詞					
第12回： Chaucer's Boece の講読および中英語の副詞					
第13回： Chaucer's Boece の講読および中英語の助動詞					
第14回： Chaucer's Boece の講読および中英語の動詞					
第15回： 文法についてのプロジェクトの報告と議論、および総括					
授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、進行状況により、予定が多少変更になることがあります。					
なお必要な場合には、レポートの作成に有用なオンラインツールや辞書の使い方等を説明するためのワークショップ等を行うことがあります。					
[履修要件]					
英語学英文学専修・アメリカ文学専修では、関連の授業として、特殊講義(家入葉子・Eva Zehentner)、特殊講義(Kevin Wrobetz)、外国語実習(Lachlan Rigby Jackson)も提供(予定)し					
----- 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----					

英語学英文学(演習Ⅰ)(2)

ています。英語の多様性への理解には、英語の歴史についての知識とともに、現代英語の実際に触れることが欠かせませんので、要件ではありませんが、余裕がある人はこれらの授業も受講してください。特殊講義では、英文法に関する内容を取り上げます。外国語実習のJackson先生も、社会言語学をはじめとする言語研究を専門領域としておられます。Wrobetz先生も、言語や文学の多様な側面に焦点を当てた授業をされる予定です。

[成績評価の方法・観点]

授業への貢献度（40%）およびレポート（60%）によって評価を行います。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

Larry D. Benson et al. 『The Riverside Chaucer』（OUP）ISBN:0199552096

Norman Davis 『Chaucer Glossary』（OUP）

講読する中英語文献については、図書館のものを使用しますが、もし中英語文献への理解を深めたい、将来的に卒業論文等でも扱ってみたいと思う場合は、上記のThe Riverside ChaucerおよびChaucer Glossaryを購入することをお勧めします。The Riverside Chaucerは、ペーパーバックで比較的安価に入手することが可能です。

（関連URL）

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

[授業外学修（予習・復習）等]

中英語テキストの予習（全員）及び、論文の講読（担当者）をお願いします。レポートは授業終了後に提出することになりますが、その作成方法については、授業中に繰返し議論します

（その他（オフィスアワー等））

必要な場合は、<https://iyeiri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学230

科目ナンバリング	U-LET18 23441 SJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(演習Ⅰ) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 南谷 奉良		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	James Joyce, Dubliners精読				
[授業の概要・目的]					
James Joyceの短編集Dubliners(1914)を通じて、その作家の語彙や文体、表現技法に習熟しながら、テキストの記述を支えている歴史的・文化的背景を考察する。授業内発表と学期末レポートを通じて、テキストに対して抱いた疑問や関心をアカデミックな方法論と文体で明晰に言語化できることを目的とする。					
[到達目標]					
(1) 文学テキストの言葉を文化や歴史と関連づけて理解し、それを自身の知と結びつけて説得的に説明することができる。 (2) 文学テキストの読解を通じて各自の興味・関心を発展させ、有益で適切な学術的資料・文献を見つけることができる。 (3) 先行研究と自身の関心をもとに文学テキストの読解を行うなかで、ものの見方を変える視点をもつことができる。					
[授業計画と内容]					
第1回	Introduction: James Joyce(1882-1941)の主要作品と生涯について				
第2回	"The Sisters" (1-149)				
第3回	"The Sisters" (150-305)				
第4回	"An Encounter" (1-150)				
第5回	"An Encounter" (151-301)				
第6回	"Araby" (1-110)				
第7回	"Araby" (111-220)				
第8回	"Evelyn" (1-105)				
第9回	"Evelyn" (105-168)				
第10回	批評文献の読解(1) "The Sisters"; "An Encounter"				
第11回	批評文献の読解(2) "Araby"; "Evelyn"				
第12回	ChatGPTを用いた作品読解の試みー生成AIの可能性と限界				
第13回	レポートの書き方・文献調査法について				
第14回	予備回				
第15回	まとめ・質疑応答				
[履修要件]					
特になし					
----- 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----					

英語学英文学(演習Ⅰ)(2)

[成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業参加・担当者発表60% + 学期末レポート40%にて評価する。

[教科書]

James Joyce 『Dubliners』 (W.W. Norton) ISBN:978-0393978513 (<https://www.amazon.co.jp/Dubliners-Norton-Critical-Editions-James/dp/0393978516>)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、一語一語の意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは水曜13:30から15:00までとする。研究室を訪れる場合は、あらかじめメールで連絡してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学231

科目ナンバリング	U-LET18 23441 SJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(演習Ⅰ) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 南谷 奉良		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	James Joyce, Dubliners精読				
[授業の概要・目的]					
James Joyceの短編集Dubliners(1914)を通じて、その作家の語彙や文体、表現技法に習熟しながら、テキストの記述を支えている歴史的・文化的背景を考察する。授業内発表と学期末レポートを通じて、テキストに対して抱いた疑問や関心をアカデミックな方法論と文体で明晰に言語化できることを目的とする。					
[到達目標]					
(1) 文学テキストの言葉を文化や歴史と関連づけて理解し、それを自身の知と結びつけて説得的に説明することができる。 (2) 文学テキストの読解を通じて各自の興味・関心を発展させ、有益で適切な学術的資料・文献を見つけることができる。 (3) 先行研究と自身の関心をもとに文学テキストの読解を行うなかで、ものの見方を変える視点をもつことができる。					
[授業計画と内容]					
第1回 Introduction: James Joyce(1882-1941)の主要作品と生涯について 第2回 "Two Gallants" (1-194) 第3回 "Two Gallants"(195-381) 第4回 "The Boarding House" (1-142) 第5回 "The Boarding House" (143-261) 第6回 "A Little Cloud" (1-160) 第7回 "A Little Cloud" (161-388) 第8回 "A Little Cloud" (389-496) 第9回 "Counterparts" (1-182) 第10回 "Counterparts" (182-400) 第11回 "Clay"(1-120) 第12回 "Clay"(121-240) 第13回 "A Painful Case" (1-162) 第14回 "A Painful Case" (163-348) 第15回 まとめ・質疑応答					
[履修要件]					
特になし					
----- 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----					

英語学英文学(演習Ⅰ)(2)

[成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業参加・担当者発表60% + 学期末レポート40%にて評価する。

[教科書]

James Joyce 『Dubliners』 (W.W. Norton) ISBN:978-0393978513 (<https://www.amazon.co.jp/Dubliners-Norton-Critical-Editions-James/dp/0393978516>)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、一語一語の意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは水曜13:30から15:00までとする。研究室を訪れる場合は、あらかじめメールで連絡してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学232

科目ナンバリング	U-LET18 23441 SJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(演習Ⅰ) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小林 久美子		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Interpreter of Maladiesを読むーアジア系アメリカ文学研究入門				
[授業の概要・目的]					
<p>インド系作家Jhumpa Lahiriの_Interpreter of Maladies_を読みます。2000年にピューリッツァー賞を受賞した本作は、インド系、パキスタン系の人々のアメリカでの暮らしをhighly readableな筆致で記しています。20世紀後半～21世紀アメリカ文学における特徴の1つとしてアジア系アメリカ文学の興隆を挙げることが出来ますが、本授業においてその代表作を読むことで、奥深いアジア系アメリカ文学の世界に足を踏み入れるきっかけを作ることが出来るでしょう。</p>					
[到達目標]					
<p>1) 英語で書かれた小説を読み、その読書体験を他者と共有する 2) 20世紀後半のアメリカ文学の一大潮流であるアジア系アメリカ文学の代表作を読む 3) 現代アメリカにおける「移民」のフィクションでの捉え方を学ぶ</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下のスケジュールはあくまでも予定です。必ず初回授業で配布されるスケジュールをご参照ください。</p> <p>第1回：Introduction: 作者・作品紹介 第2回：A Temporary Matterを読む 第3回：When Mr. Pirzada Came to Dineを読む 第4回：Interpreter of Maladiesを読む 第5回：A Real Durwanを読む 第6回：Sexyを読む 第7回：Mrs. Sen'sを読む 第8回：This Bleed Houseを読む 第9回：The Treatment of Bibi Haldarを読む 第10回：The Third and Final Continentを読む 第11回：Hell-Heavenを読む 第12回：映画_The Namesake_鑑賞 第13回：レポートワークショップ 第14回：作品全体の総括 第15回：フィードバック</p>					
----- 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----					

英語学英文学(演習Ⅰ)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

毎回の授業後にメールにてコメント提出（20％）・発表（40％：予定回数は2回）・期末レポート（40％）にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表時間は25分から30分ほどの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。

【教科書】

テキストはPandAにてpdf形式で配布します。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

本授業はディスカッション主体の授業です。扱う作品を読まないと（毎回およそ15～20ページほどの分量）、何も言えずに終わってしまうので、必ず読んで授業に臨んでください。発表やレポートの形式については初回授業で説明します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学233

科目ナンバリング	U-LET18 23441 SJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(演習Ⅰ) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小林 久美子		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国系・日系女性作家の短編を読む アジア系アメリカ文学研究入門				
【授業の概要・目的】					
<p>本授業では20世紀に活躍した中国系・日系女性作家の短編を読みます。20世紀後半～21世紀アメリカ文学の特徴の1つとしてアジア系アメリカ文学の躍進が挙げられますが、本授業を通じて、中国系および日系移民の歴史を辿ると同時に、彼/彼女たちの歩みがどのようにフィクションの世界で表現されたかを学びます。取り上げる作家は、Jade Snow Wong、Maxine Hong Kingston、Amy Tan、Fae Myenne Ng、Hisae Yamamotoです。</p>					
【到達目標】					
<p>中国系、日系アメリカ人作家による短編を読むことで、アジア系アメリカ文学に親しむ。 英語で書かれた小説の読み方を学習する。 アメリカ小説における移民の表象を学ぶ。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>以下のスケジュールはあくまでも予定です。必ず初回授業で配布されるスケジュールをご参照ください。</p> <p>第1回：Introduction: 作者紹介および中国系、日系移民の歴史について 第2回：A Measure of Freedomを読む 第3回：No Name Womanを読む 第4回：Two Kindsを読む 第5回：A Red Sweaterを読む 第6回：Seventeen Syllablesを読む 第7回：The Legend of Miss Sasagawaraを読む 第8回：Yoneko's Earthquakeを読む 第9回：Morning Rainを読む 第10回：The Eskimo Connectionを読む 第11回：Underground Ladyを読む 第12回：A Day in Little Tokyoを読む 第13回：レポートワークショップ 第14回：本授業全体の総括 第15回：フィードバック</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
<p>毎回の授業後にメールにてコメントシートを提出(20%)・発表(40%; 予定回数は2回)・期末レポート(40%)にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表時間は25分か</p>					
----- 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----					

英語学英文学(演習Ⅰ)(2)

ら30分ほどの長さとする(残り時間は参加者全員によるディスカッション)。

[教科書]

テキストはすべてPandA経由で配布します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

本授業はディスカッション主体の授業です。扱う作品を読まない(毎回およそ15~20ページほどの分量)、何も言えずに終わってしまうので、必ず読んで授業に臨んでください。発表やレポートの形式については初回授業で説明します。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学234

科目ナンバリング	U-LET18 23451 LJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(講読) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 廣田 篤彦		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火1	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	War Poems講読				
[授業の概要・目的]					
<p>第一次世界大戦を契機に、またはその経験をした詩人によって書かれた詩をWar Poemsと呼ぶ。こうした詩の精読を通じて、英語の詩の読み方の基本を身につけるとともに英詩とその背景についての理解を深めることを目指す。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語による韻文テキストの特徴を理解し、自力で読めるようになる。 ・ 辞書を丹念に引きながら語の細かい意味の違いに注意を払う能力を養う。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 インTRODクション あわせて、今後の授業の進め方について説明する。</p> <p>第2-15回 下記指定テキストに収録された詩の精読と内容についての討論。</p> <p>詩ごとの難易度の違いによって、また、担当者の習熟度によって進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことは出来ないが、毎回おおむね一篇を読み進めることを目指す。</p> <p>扱う詩人としては、Thomas Hardy, Edward Thomas, Siegfried Sassoon, Rupert Brooke, Wilfred Owen, Edmund Blundenを予定しているが受講者の希望も考慮する。</p> <p>フィードバックについては授業中に指示をする。</p>					
[履修要件]					
2-4回生を対象とした講読の授業					
----- 英語学英文学(講読)(2)へ続く -----					

英語学英文学(講読)(2)

[成績評価の方法・観点]

1. 第2週の授業開始前までに提出を求める、第一次世界大戦と英国の関係についてのレポート40%。これにより詩作品が生まれた背景を理解することを目的とする。詳細については第1週に指示をするので必ず出席すること。提出は単位取得の必要条件である。
2. 到達目標の達成度に基づく平常点60%。正当な理由なく2回欠席した場合は以後の出席を認めない。遅刻は欠席とみなす。

[教科書]

Tim Kendall, ed 『Poetry of the First World War』 (Oxford UP, 2014) ISBN:9780198703204

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予め辞書(特に英英辞典)を丹念に参照して、一語一語についてその意味を検討した上で授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学235

科目ナンバリング	U-LET18 23451 LJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(講読) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 南谷 奉良		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月3	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	George OrwellのKeep the Aspidistra Flying (1936)を読む				
[授業の概要・目的]					
George OrwellのKeep the Aspidistra Flying (1936)の読解を通じて、その作家の語彙や文体、表現技法に習熟しながら、テキストの記述を支えている歴史的・文化的背景を考察する。オーウェルが社会問題として捉えていた拝金主義や商業主義の問題、芸術の衰退、貧困や低賃金労働、知的階級や中産階級、下層中流階級等がキーワードになる。サブテキストとして、John CareyのThe Intellectuals and the Masses: Pride and Prejudice Among the Literary Intelligentsia 1880-1939も参照予定である。					
[到達目標]					
(1) 文学テキストの言葉を文化や歴史と関連づけて理解し、それを自身の知と結びつけて説得的に説明することができる。 (2) 文学テキストの読解を通じて各自の興味・関心を発展させ、有益で適切な学術的資料・文献を見つけることができる。 (3) 先行研究と自身の関心をもとに文学テキストの読解を行うなかで、ものの見方を変える視点をもつことができる。					
[授業計画と内容]					
第1回 Introduction 第2回 pp.1-22 (ch. 1) 第3回 pp.23-38 (ch. 2) 第4回 pp.39-66 (ch. 3) 第5回 pp.67-86 (ch. 4) 第6回 pp.87-112 (ch. 5) 第7回 pp.113-135 (ch. 6) 第8回 pp.136-168 (ch. 7) 第10回 pp.169-197 (ch. 8) 第11回 pp.198-226 (ch. 9) 第12回 pp.227-247 (ch. 10) 第13回 pp.248-269 (ch. 11) 第14回 pp.270-277 (ch. 12) 第15回 まとめ・質疑応答					
[履修要件]					
特になし					
----- 英語学英文学(講読)(2)へ続く -----					

英語学英文学(講読)(2)

[成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業への参加状況・口頭発表（60％）と学期末レポート（40％）によって評価する。

[教科書]

授業中に指示する
テキストはこちらで配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、一語一語の意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に興味をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは水曜13：30～15：00。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学236

科目ナンバリング		U-LET18 23451 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(講読) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 森 慎一郎		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火5	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	John Updikeの短篇を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>20世紀後半を中心に活躍したアメリカの小説家John Updike (1932-2009)の異色短篇2篇、"Blessed Man of Boston, My Grandmother's Thimble, and Fanning Island"と"Packed Dirt, Churchgoing, a Dying Cat, a Traded Car"を精読する。短篇集Pigeon Feathers (1962)に収録されたこれら2作は、奇妙に長いタイトル、バラバラのエピソードを連ねたような一見散漫な構成、小説ともエッセイともつかない語り口などを共通点として持つ。不思議な作品だが、アップダイク文学の小宇宙といった濃密な味わいがある。文章はやや難しめ。</p>					
[到達目標]					
<p>丁寧に辞書を引きながら一語一句にこだわって文学作品を読む姿勢を身につけ、英語小説読解の基礎力を養うことを目標とする。加えて、小説を通じて英語圏の文化への理解を深め、文学的な英語表現の機微に親しむことも本授業の目標となる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>授業では基本的に、訳読+参加者間の意見交換の形でテキストを丁寧に読んでいく。各作品を読み終えたところで、受講者の発表をもとに参加者全員で作品全体について話し合うディスカッションの回を設ける予定。</p> <p>おおよその進行予定は以下のとおり。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2回 "Blessed Man of Boston, My Grandmother's Thimble, and Fanning Island"を読む 第3回 "Blessed Man of Boston..."を読む 第4回 "Blessed Man of Boston..."を読む 第5回 "Blessed Man of Boston..."を読む 第6回 "Blessed Man of Boston..."：まとめとディスカッション 第7回 "Packed Dirt, Churchgoing, a Dying Cat, a Traded Car"を読む 第8回 "Packed Dirt..."を読む 第9回 "Packed Dirt..."を読む 第10回 "Packed Dirt..."を読む 第11回 "Packed Dirt..."を読む 第12回 "Packed Dirt..."を読む 第13回 "Packed Dirt..."を読む 第14回 "Packed Dirt..."：まとめとディスカッション 第15回 フィードバック</p>					
<p>学期末には、どちらかないし両方の作品を英語または日本語で論じるレポートを提出してもらう。</p> <p style="text-align: right;">英語学英文学(講読)(2)へ続く</p>					

英語学英文学(講読)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

到達目標の達成度に基づき、平常点（60％）と期末レポート（40％）で評価する。

【教科書】

使用しない
テキストはプリントで配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

各回の授業で読むテキストの綿密な予習は必須。丁寧に辞書を引き、気になる箇所については徹底的に考えたうえで授業に臨むこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET18 23451 LJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(講読) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小林 久美子		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金3	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Daddy-Long-Legsを読む				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業ではDaddy-Long-Legsを読みます。日本では『あしながおじさん』のタイトルで親しまれている本作ですが、原文で読むと、今から百年以上前に書かれたとは思えぬほど、生き生きとした語り口で綴られていることに驚きを感じることでしょう。本授業を通じて、英語で小説を読むことの楽しさを学んでください。</p>					
[到達目標]					
<p>英語で書かれた小説の読解法を学ぶ 書簡体小説の分析方法を学ぶ</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回：イントロダクション--本授業で取り上げる作家たちについて 第2回：Daddy-Long-Legsを読む(1) 第3回：Daddy-Long-Legsを読む(2) 第4回：Daddy-Long-Legsを読む(3) 第5回：Daddy-Long-Legsを読む(4) 第6回：Daddy-Long-Legsを読む(5) 第7回：Daddy-Long-Legsを読む(6) 第8回：Daddy-Long-Legsを読む(7) 第9回：Daddy-Long-Legsを読む(8) 第10回：Daddy-Long-Legsを読む(9) 第11回：Daddy-Long-Legsを読む(10) 第12回：Daddy-Long-Legsを読む(11) 第13回：Daddy-Long-Legsを読む(12) 第14回：Daddy-Long-Legsを読む(13) 第15回：まとめ+フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 英語学英文学(講読)(2)へ続く -----					

英語学英文学(講読)(2)

【成績評価の方法・観点】

毎授業後のメールでのコメントシートの提出（20％）・発表（40％：予定回数は2回）・期末レポート（40％）にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表は担当するテキストに関するもので、25分から30分ほどの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。期末レポートは授業内で取りあげたテキストに関するものとする。

【教科書】

Webster, Jean 『Dady-Long-Legs and Dear Enemy』 (Penguin Classics) ISBN:0143039067 (授業中、随時参照するため、必ずこの版を入手すること)

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

本授業はディスカッション主体の授業です。扱う作品を読まないと（毎回およそ15～20ページほどの分量）、何も言えずに終わってしまうので、必ず読んで授業に臨んでください。発表やレポートの形式については初回授業で説明します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET18 23462 PJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(外国語実習) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 LUDVIK, Catherine		
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水1	授業形態	実習(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Kyoto's Cultural Heritage, in English Part I				
[授業の概要・目的]					
This course aims at cultivating students' general ability for reading, speaking, listening, and writing.					
[到達目標]					
Through class discussions, written assignments, and presentations, this course will enhance the ability of the students to express in English their views on Kyoto's cultural heritage and its preservation.					
[授業計画と内容]					
1. Preserving History: Universities and Museums Kyoto University Museum Reading: Kyoto Museums Guidebook (Kyoto City Board of Education, 1992), pp. 239-240.					
2. Shinto Shrines: Yoshida Jinja Reading: John Breen and Mark Teeuwen, A New History of Shinto (Wiley&Blackwell, 2010), pp. 1-23.					
3. (a) Shinto Spring Festivals: Aoi Matsuri; (b) Discussion on Shinto in Contemporary Japan Reading: Kansai Cool, pp. 43-48; Kyoto Lives, p. 24 “ Inui Mitsutaka, Shrine Priest. ”					
4. Introduction to Buddhism: Commemorating the Life and Passing of the Buddha Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter Three “ City of Buddhism ” pp. 37-59.					
5. Mt. Hiei, “ Mother Mountain of Japanese Buddhism, ” and its Circumambulating Monks Reading: Kyoto Lives, p. 64 “ Kate Connell--Mt. Hiei, Guardian Mountain. ” Assigned Viewing: “ The Monks Risking Death On An Extraordinary Journey, ” Journeyman Pictures (http://www.youtube.com/watch?v=S06oMxdt40A).					
6. Group/Individual Presentations on Sects of Buddhism and Kyoto Temples Readings: Kyoto: A Cultural History, Chapter Five “ City of Zen ” pp. 76-95; Kyoto Lives, pp. 70-71 “ Matsuyama Daiko, Deputy Chief Priest, Taizo ’ in Temple. ”					
7. Discussion on Sects of Buddhism and Kyoto Temples					
8. Zen Temples and Visual Arts: Daitokuji ’ s annual airing of its hanging-scroll paintings; Taizoin ’ s sliding screen painting project Reading: Gregory P. A. Levine, Daitokuji: The Visual Cultures of a Zen Monastery, pp. 83-87. Assigned Viewing: “ Taizoin Hojo; Fusuma-e Painting Project ” (https://www.youtube.com/watch?v=x7JEA658doc).					
9. Pure Land Faith and Monthly Markets: Chionji					
					英語学英文学(外国語実習)(2)へ続く

英語学英文学(外国語実習)(2)

Reading: “ Chionji ” (handout)

10. "Micro Temples": discussion on temple activities and economy in contemporary Japan
Readings: Kansai Cool, pp. 189-193; Kyoto Lives, pp. 34-35 “ Kajita Shinsho, the Path to Honen-in. ”

11. Group/Individual Presentations on Heian-Period Historical and Literary Figures
Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter One “ City of Kanmu ” pp. 1-19.

12. Discussion on Heian-Period Historical and Literary Figures
Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter Two “ City of Genji ” pp. 20-36; Kyoto Lives, p. 78 “ Setouchi Jakucho--The Tale of Genji. ”

13. Summer Festivals: Gion Matsuri history and traditions
Reading: World Heritage document on “ Yamahoko, the float ceremony of the Kyoto Gion festival. ”

14. Summer Festivals: Gion Matsuri visual arts

15. Course Review

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Class attendance and participation in discussions (20%)
Written assignments (25%)
Class presentations (30%)
Review test (25%)

【教科書】

All readings will be posted on Panda.

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修（予習・復習）等】

Students will be assigned weekly readings (selected chapters of the textbooks and handouts) on various aspects of the cultural heritage and history of Kyoto, which will then be discussed in class.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

英語学英文学(外国語実習)(3)へ続く

英語学英文学(外国語実習)(3)

オフィスパワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23462 PJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(外国語実習) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 LUDVIK, Catherine		
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木1	授業形態	実習(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Kyoto's Cultural Heritage, in English Part II				
[授業の概要・目的]					
This course aims at cultivating students' general ability for reading, speaking, listening, and writing.					
[到達目標]					
Through class discussions, assignments, and presentations, this course will enhance the ability of the students to express in English their views on Kyoto's cultural heritage and its preservation.					
[授業計画と内容]					
<p>1. Kyoto's Water Culture: function and impact of water in the lives, culture, and religion of Kyoto people Reading: Kansai Cool, pp. 39-42. Assigned Viewing: Documentary Film “ Water, the Lifeblood of Kyoto ” (http://fod.infobase.com/p_ViewPlaylist.aspx?AssignmentID=83NZ6P).</p> <p>2. Kyoto Gardens: history, features, and aesthetics Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 91-95 “ Dry Landscapes ” ; pp. 133-138 “ Tea Garden ” “ Tea Room ” .</p> <p>3. Kyoto Machiya Townhouses: architectural features, functions Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 164-165; Jurgenhake, Birgit, “ The qualities of the Machiya: An Architectural Research of a Traditional House in Japan ” (2011, http://repository.tudelft.nl/islandora/object/uuid:a9f98f2a-6be7-4693-92ad-26507e69666e?collection=research)</p> <p>4. Kyoto Machiya Townhouses: contemporary preservation measures Readings: World Monuments Fund, “ Machiya Townhouses ” (https://www.wmf.org/project/machiya-townhouses); Kyoto Machiya Revitalization Project (http://kyoto-machisen.jp/wmf-machiya-project/).</p> <p>5. Individual/Group Presentations on Kyoto Architecture</p> <p>6. Discussion on Kyoto Architecture</p> <p>7. Kyoto Imperial Palace: architectural features and gardens Reading: Judith Clancy, Exploring Kyoto: On Foot in the Ancient Capital (Stone Bridge Press, 2008), pp. 29-36.</p> <p>8. Kyoto State Guesthouse and traditional artisanry In-class Viewing: Documentary Film “ Traditional Skills in the Kyoto State Guest House ” (Kyoto Convention Bureau, 1990).</p>					
----- 英語学英文学(外国語実習)(2)へ続く -----					

英語学英文学(外国語実習)(2)

9. Imperial Convents and Cultural Preservation: Hokyoji and Dolls

Readings: Kansai Cool, pp. 77-81; Amamonzeki: A Hidden Heritage, Treasures of the Japanese Imperial Convents (The Sankei Shinbun, 2009), pp. 120-123; Hokyoji restoration handout.

10. Autumn Festivals: Festival of the Ages (Jidai Matsuri) and Kurama Fire Festival (Hi Matsuri)

Reading: Kyoto Lives, pp. 10-12 “ Festival of the Ages ” by John Dougill; additional handouts.

11. Kyoto Cuisine: types, features

Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 223-225; Donald Richie, “ A Taste of Japan, Introduction ” (Kodansha, 1993), pp. 8-12.

12. Kyoto Cuisine: aesthetics

Readings: Kansai Cool, “ The Still Point: Authenticity Within an Evolving Cuisine, ” pp. 93-105.

Assignment: Cuisine worksheet.

13. Individual/Group Presentations Based on Kyoto Lives Interviews

14. Discussion Based on Kyoto Lives Interviews

15. Course Review

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Class attendance and participation in discussions (20%)

Written assignments (25%)

Class presentations (30%)

Review test (25%)

【教科書】

All readings will be posted on Panda.

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修 (予習・復習) 等】

Students will be assigned weekly readings (selected chapters from textbooks and handouts) on various aspects of the cultural heritage and history of Kyoto, which will then be discussed in class.

英語学英文学(外国語実習)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学240

科目ナンバリング	U-LET18 23462 PJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(外国語実習) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学法学部 教授 JACKSON, Lachlan Rigby		
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水4	授業形態	実習(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Language & Society: Sociolinguistics I				
[授業の概要・目的]					
<p>What is the relationship between language and society? Why do people use languages in the ways that they do? Questions such as these are the concern of sociolinguists. This course is a content-based English course that will provide students with an introduction to fundamental sociolinguistics concepts. This content will be particularly useful to students aspiring to teach English in Junior high schools and high schools in Japan.</p>					
[到達目標]					
<p>This is an interactive and communitive-orientated class aimed at developing the four macro skills (listening, speaking, reading, and writing). Students will be required to reflect on short weekly readings, draw on their own language learning experiences, and share their opinions on a range of sociolinguistics-related topics. Course content will challenge students to think about language teaching and learning from sociolinguistics-informed perspectives, and in so doing, help them develop as future language teachers.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Week Description</p> <p>1 Introduction to the Course: “ What is Sociolinguistics? ” Why do people use language in the ways they do?</p> <p>2 Module 1 #8211 Language Variation: (1) Language & Gender</p> <p>3 (2) Language & Region (Accent and Dialects)</p> <p>4 (3) Language & Social Class</p> <p>5 (4) Language & Age</p> <p>6 Module 2 #8211 Language & Culture: (1) Language & Identity</p> <p>7 (2) The Status of English in Japan</p> <p>8 (3) Is Japan a multilingual society?</p> <p>9 (4) Who/what is a “ native-speaker ” ?</p> <p>10 Module 3 #8211 Language & Change (1) Endangered Languages & language Death</p> <p>11 (2) Neologisms</p> <p>12 (3) Language and Globalization</p> <p>13 (4) Global Englishes</p> <p>14 Presentation Workshop & Final Test</p> <p>15 Student Presentations and Feedback</p>					
----- 英語学英文学(外国語実習)(2)へ続く -----					

英語学英文学(外国語実習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Presentation 20%
Short Module Quizzes (3 x 10%) 30%
Final Test 20%
Reflective Journal (3 x 5%) 15%
Classwork 15%

【教科書】

使用しない

There is no set text for this course. The instructor will provide students with worksheets and short weekly readings.

【参考書等】

(参考書)

Edwards, J. 『 Sociolinguistics: A Very Short Introduction 』 (2013) ISBN:978-0199858613
『 』

(関連URL)

languageonthemove.com (A great resource with many very short articles on issues relating to sociolinguistics)

【授業外学修 (予習・復習) 等】

Students are expected to prepare for each class by completing the assigned short weekly reading tasks.

(その他 (オフィスアワー等))

Full participation and interaction with other class members is very important in this course. Students will be required to engage in group and pair work during each class. As a part-time teacher, I do not have a contact hour. I am available just before, during, and after class if you wish to speak to me. You can also email me at this address: lockie@law.ritsumei.ac.jp.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学241

科目ナンバリング	U-LET18 23462 PJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学(外国語実習) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学法学部 教授 JACKSON, Lachlan Rigby		
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水4	授業形態	実習(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Language & Society: Sociolinguistics II				
[授業の概要・目的]					
<p>What is the relationship between language and society? Why do people use languages in the ways that they do? Questions such as these are the concern of sociolinguists. This course is a content-based English course that will provide students with an introduction to fundamental sociolinguistics concepts. This content will be particularly useful to students aspiring to teach English in Junior high schools and high schools in Japan.</p>					
[到達目標]					
<p>This is an interactive and communitive-orientated class aimed at developing the four macro skills (listening, speaking, reading, and writing). Students will be required to reflect on short weekly readings, draw on their own language learning experiences, and share their opinions on a range of sociolinguistics-related topics. Course content will challenge students to think about language teaching and learning from sociolinguistics-informed perspectives, and in so doing, help them develop as future language teachers.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>1 Introduction to the Course: Why Study Sociolinguistics? 2 Module 1: Language, Technology and the Media (1) Language Study and AI 3 (2) Social Media, Texting Apps, & Communication 4 (3) Are we losing the ability to communicate with one another? 5 (4) ' Fake News ' and ' Information Overload ' 6 Module 2: Language Policy & Planning: (1) Attitudes and Ideologies 7 (2) Official Languages 8 (3) Revitalizing Endangered Languages & Language Rights 9 (4) Language Landscapes 10 Module 3: Language & Education (1) Discourses about Japanese Language Learners 11 (2) Bilingual Education 12 (3) Recent Directions in Language Education 13 (4) The Future of Language Learning 14 Presentation Workshop & Final Test 15 Student Presentations and Feedback</p>					
----- 英語学英文学(外国語実習)(2)へ続く -----					

英語学英文学(外国語実習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Presentation 20%
Short Module Quizzes (3 x 10%) 30%;
Final Test 20%
Reflective Journal (3 x 5%) 15%
Classwork 15%

【教科書】

使用しない

There is no set text for this course. The instructor will provide students with worksheets and short weekly readings.

【参考書等】

(参考書)

Edwards, J. 『Sociolinguistics: A Very Short Introduction』 (2013) ISBN:978-0199858613

(関連URL)

languageonthemove.com (A great resource with many very short articles on issues relating to sociolinguistics)

【授業外学修 (予習・復習) 等】

Students are expected to prepare for each class by completing the assigned short weekly reading tasks.

(その他 (オフィスアワー等))

Full participation and interaction with other class members is very important in this course. Students will be required to engage in group and pair work during each class. As a part-time teacher, I do not have a contact hour. I am available just before, during, and after class if you wish to speak to me. You can also email me at this address: lockie@law.ritsumei.ac.jp.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学242

科目ナンバリング		U-LET19 13502 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(アメリカ文学)(講義A) American Literature (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小林 久美子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アメリカ文学史 I				
【授業の概要・目的】					
植民地時代から19世紀末までのアメリカ文学の流れを振り返る。全15回の授業のうち、前半部はピューリタニズム・理神論・アメリカ啓蒙思想といった宗教・思想的話題が中心となる。後半部は、アメリカという歴史の浅い国において独自の「文学」を確立せんとさまざまな作家が苦闘した様子を追うことが主眼となる。本授業を通じて、アメリカ文学が近代性を獲得するまでの道程を包括的に把握することを目的とする。					
【到達目標】					
19世紀末までのアメリカ文学および思潮の流れを概覧し、文学における英文解釈法を学ぶ。					
【授業計画と内容】					
<p>授業計画</p> <p>第1回：序論--新大陸の発見</p> <p>第2回：Jonathan Edwards/ Anne Bradstreet--ピューリタニズムの文学</p> <p>第3回：Benjamin Franklin--アメリカ啓蒙主義と理神論</p> <p>第4回：Ralph Waldo Emerson--超越主義：思想編</p> <p>第5回：Henry David Thoreau--超越主義：実践編</p> <p>第6回：Nathaniel Hawthorne--ロマンスとノヴェル</p> <p>第7回：Herman Melville--小説と世界</p> <p>第8回：Edgar Allan Poe--象徴主義</p> <p>第9回：Walt Whitman--詩と民主主義</p> <p>第10回：Emily Dickinson--詩と観念</p> <p>第11回：奴隷制度と文学--Harriet Beecher Stoweを中心に</p> <p>第12回：アメリカ家庭小説の系譜</p> <p>第13回：Mark Twain--口承文学と小説</p> <p>第14回：Henry James--近代小説</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>					
【履修要件】					
アメリカ文学(講義B)と今年度中に合わせて履修するのが望ましい。					
-----系共通科目(アメリカ文学)(講義A)(2)へ続く-----					

系共通科目(アメリカ文学)(講義A)(2)

[成績評価の方法・観点]

毎授業後にメールにて提出するコメント（30％）と期末試験（70％）により評価する。優れたコメントは次回の授業において紹介する。持ち込み不可の期末試験では、授業で触れた事項の理解度を確認する。

[教科書]

使用しない
資料はプリントにて配布する。

[参考書等]

（参考書）

諏訪部浩一・編 『アメリカ文学入門』（三修社）ISBN:9784384057485（初期から現代に至るまでの主要作家の紹介。各作家に付されている参考文献が有用。）

[授業外学修（予習・復習）等]

期末試験では授業内で取りあげたテキストから出題される。問題は講義内容を踏まえたものなので、試験対策として念入りな復習が求められる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学243

科目ナンバリング	U-LET19 13503 LJ36				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(アメリカ文学)(講義B) American Literature (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 森 慎一郎		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アメリカ文学史				
[授業の概要・目的]					
19～20世紀転換期から現在にいたるまでのアメリカ文学史のおおまかな流れをたどる。各時代を代表する作家、作品を紹介するとともに、できるだけ具体的に個々の作家の文章に触れてもらうことを心がけたい。					
[到達目標]					
アメリカの文学ならびにその背景となる文化に関する包括的な知識を習得すること、文学的な英語表現に親しむこと、アメリカ文学を本格的に学んでいくための土台を築くことを目的とする。					
[授業計画と内容]					
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：自然主義(Crane, Norris, Dreiserなど)</p> <p>第3回：Wharton, Cather, Anderson</p> <p>第4回：モダニズムと詩(Pound, Eliot, Steinなど)</p> <p>第5回：Hemingwayと失われた世代</p> <p>第6回：Fitzgeraldと1920年代</p> <p>第7回：1930年代の文学(Wolfe, Steinbeck, Westなど)</p> <p>第8回：Faulknerと南部文学</p> <p>第9回：演劇(O'Neill, Williams, Millerなど)</p> <p>第10回：アフリカ系文学(Wright, Ellison, Morrisonなど)</p> <p>第11回：ユダヤ系文学(Bellow, Malamud, Rothなど)</p> <p>第12回：その他戦後文学(Nabokov, Updikeなど)</p> <p>第13回：ポストモダン(Barth, Pynchonなど)</p> <p>第14回：その後の文学</p> <p>第15回：フィードバック</p> <p>(以上はあくまで予定であり、前期の講義A(アメリカ文学史I)との兼ね合いや、各回の話の進み具合によっては、上記のトピックをすべて扱いきれない場合もあります)</p>					
[履修要件]					
アメリカ文学(講義A)と今年度中に合わせて履修するのが望ましい。					
-----系共通科目(アメリカ文学)(講義B)(2)へ続く-----					

系共通科目(アメリカ文学)(講義B)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末試験（50％）とレポート（50％）により評価する。期末試験では、アメリカ文学・文化に関する基礎知識の習得度を評価する。レポートは、授業で紹介したアメリカ文学作品（長篇小説）について自由に論じるというもので、読解力、思考力、論述力、とりわけ小説を独創的におもしろく読む能力を評価する。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

亀井俊介 『アメリカ文学史講義 1～3』（南雲堂）ISBN:978-4523292432

諏訪部浩一・編 『アメリカ文学入門』（三修社）ISBN:9784384057485

竹内理矢・山本洋平編 『深まりゆくアメリカ文学 源流と展開』（ミネルヴァ書房）ISBN:9784623090778

[授業外学修（予習・復習）等]

アメリカ文学の世界への導入を目的とした授業なので、予習、復習等は特に求めない（必要のある場合は授業中に指示する）。ただしその分の時間を使って、授業で紹介するアメリカ文学作品をなるべく多く読んでみることを。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学244

科目ナンバリング	U-LET19 23531 LJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 森 慎一郎		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Fitzgerald, The Great Gatsbyを読む				
[授業の概要・目的]					
F. Scott Fitzgeraldの代表作The Great Gatsby (1925)を精読しながら、文体、語りの形式、時代背景、ジェンダー/セクシュアリティ、人種、階級など、さまざまな見地から作品を検討する。あわせて作品の映画化(アダプテーション)についても考える。					
[到達目標]					
文学テキストを精確に読み、おもしろい疑問を持てるようになること。小説The Great Gatsbyおよびその作者Fitzgeraldについて理解を深めること。文学作品へのさまざまなアプローチの仕方に親しむこと。加えて、小説を通じて英語圏の文化への理解を深め、文学的な英語表現の機微に親しむことも本授業の目標となる。					
[授業計画と内容]					
授業は基本的に発表形式で行う。各回につき数名の担当者を指名し、その回の範囲について、レジュメを準備したうえで発表してもらおう。その発表をもとに参加者全員でディスカッションを行う。					
進行予定は下記のとおり。					
第1回	イントロダクション				
第2回	Chapter 1を読む				
第3回	Chapter 2を読む				
第4回	Chapter 3を読む				
第5回	The Great Gatsbyとアダプテーション				
第6回	Chapter 4を読む				
第7回	Chapter 5を読む				
第8回	Chapter 6を読む				
第9回	The Great Gatsbyとアダプテーション				
第10回	Chapter 7を読む				
第11回	Chapter 8を読む				
第12回	Chapter 9を読む				
第13回	The Great Gatsbyとアダプテーション				
第14回	総論とまとめ				
第15回	フィードバック				
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（60％）と期末レポート（40％）を合わせて評価する。平常点は、発表の質やディスカッションへ参加度など、学期を通じた授業への貢献度を評価する。

【教科書】

F. Scott Fitzgerald 『The Great Gatsby』（Penguin）ISBN:978-0141182636

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

発表担当者以外の者も含め、全員が各回の範囲を原文で徹底的に精読してくることを求められる。また、有名な作品で翻訳も多数あるので、開講前にざっとでも一度通読しておくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学245

科目ナンバリング	U-LET19 23531 LJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小林 久美子		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アメリカ現代文学における病の表象について The Gifts of the Bodyを読む				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業は、Rebecca BrownのThe Gifts of the Body (1994)を読みます。エイズ患者のホームケア・ワーカーを語り手に据えた本作は、「病」によってもたらされる種々の二分法(患者と健常者、寿命と病死、家族と他者)について省察を呼びかけるものです。現代アメリカではどのように「病」が小説で描かれるのか、本作の精読によって学ぶことを目的とします。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・英語で書かれた文学作品の解釈を学ぶ ・現代アメリカ文学における「病」の表象を学ぶ ・英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する 					
[授業計画と内容]					
<p>注意：授業スケジュールはあくまでも暫定的なものです。必ず初回授業にて配布するスケジュール表をご参照ください。</p> <p>第1回：【序論】Rebecca Brownと1990年代におけるエイズについて 第2回：The Gift of Sweatを読む 第3回：The Gift of Wholenessを読む 第4回：The Gift of Tearsを読む 第5回：The Gift of Skinを読む 第6回：The Gift of Hungerを読む 第7回：The Gift of Deathを読む 第8回：The Gift of Speechを読む 第9回：The Gift of Sightを読む 第10回：The Gift of Hopeを読む 第11回：The Gift of Mourningを読む 第12回：The Gifts of the Body全体を振り返る1 第13回：The Gifts of the Body全体を振り返る2 第14回：レポートワークショップ 第15回：【総論】The Gifts of the Bodyと小説ジャンルについて</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>毎授業後のメールでのコメントシートの提出(20%)・発表(40%：予定回数は2回)・期末レポート(40%)にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表は担当するテキスト</p>					
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(特殊講義)(2)

トに関するもので、25分から30分ほどの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。期末レポートは授業内で取りあげたテキストに関するものとする。

[教科書]

Brown, Rebecca 『The Gifts of the Body』 (Harper Perennial, 1995) ISBN: 9780060926533 (授業中、随時参照するため、必ずこの版を入手すること)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

受講者は、翻訳で構わないので、第2回目授業までに一通り作品全体を読んでおくこと

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学246

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 廣田 篤彦	
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代英国演劇における多文化主義とその問題				
[授業の概要・目的]					
現代英国演劇、とりわけ旧植民地の背景を有する作家による作品の講読を通じて英国(UK)における多文化主義とその問題を考察する。具体的には、ジャマイカ出身の両親を有するLenny Henry作の一人芝居August in England (2023)を取り上げ、そこに見られるWest Indiesと英国との交流の歴史、ならびに英国社会の文化的多様性を検討し、そこから他者との相互交流の可能性について考察する。異文化体験について英語で討論することによって、多様な文化のあり方を実践的に理解する。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・世界の文化の多様性や、異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解する ・多様な文化的背景を持った人々との交流を通じて、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的に理解する ・英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する 					
[授業計画と内容]					
<p>本授業は</p> <p>a) 戯曲テキストの講読</p> <p>b) 講読する内容と連動した、指定のトピックに関するプレゼンテーション(担当者を指名する)</p> <p>c) テキスト並びに関連文献の講読を通じて学んだ多文化主義の歴史と現状に基づく異文化体験に関するプレゼンテーション</p> <p>の3つから構成される。下に示すのは扱われる全体像であり、受講者の数、英語力、経験により毎回の内容は前後することがある。</p> <p>第1週 【序論】授業の進め方の解説 / 戯曲テキストの読み方とAugust in England の概略</p> <p>第2週 講読: August in England scene 1 / プレゼンテーション・トピック: Windrush</p> <p>第3週 scene 2 / カリブ海地域の植民地化の歴史と現状</p> <p>第4週 scene 3 / 英国におけるfootballとcricket</p> <p>第5週 scene 4 / Notting Hill Carnivalとカリブ海地域の音楽、食文化</p> <p>第6週 scene 5 (a long scene: 講読のみ)</p> <p>第7週 scene 6 / 現在の英国政治における移民問題</p> <p>第8週 scene 7 / 英国における南アジア系移民の歴史と現状</p> <p>第9週 scene 8 / 英国における地域格差</p> <p>第10週 scene 9 (a long scene: 講読のみ)</p> <p>第11週 scene 10 (同上)</p> <p>第12週 scene 11 / Windrush Scandal</p> <p>第13週 英国における多文化主義、異文化交流の歴史と文学</p> <p>第14週: 【異文化体験についてのプレゼンテーション】授業で学んできた知見を活かして、自らの異文化体験を英語で述べ、ディスカッションをする</p>					
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(特殊講義)(2)

第15週【総論】人種・民族・種族等、様々な社会文化的側面において多様な在り方がせめぎ合う場としての現代英文学を包括的に理解する

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

a) テクストの講読 40%、b) 指定トピックに関するプレゼンテーション 30%、c) 異文化体験に関するプレゼンテーション 30%により評価する。正当な理由なく2回以上欠席した場合は単位を認めない。

【教科書】

Lenny Henry 『August in England』 (Faber, 2023) ISBN:978-0571386437

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回十分に予習をしてから授業に臨むこと。授業後は、授業中の解説を理解したうえで要点を整理し、異文化理解の観点から戯曲の理解に努めること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学247

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 南谷 奉良	
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	新しい時代の異文化理解のための「文学研究と生成AI」				
【授業の概要・目的】					
<p>社会や世界との関わりの中で、他者とのコミュニケーションを行う力を育成する観点から、外国語やその背景にある文化の多様性及び異文化コミュニケーションの現状と課題について学ぶ。あわせて、英語が使われている国や地域の文化を通じて、英語による表現力への理解を深め、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する知見を身に付ける。この際、昨今注目を浴びている生成AIのリテラシーと精読・翻訳の作業を言語理解に合流させることで、生成AIの利用が当たり前になる世代に対するコミュニケーションと教育方法を模索する。この目的のため、異文化性や固有の歴史性が埋め込まれた文学テキストの読解を中心に授業を進め、最終的に受講者には、生成AIによってより豊かな解釈可能性をもつAI-Augmented Textを提出してもらう。</p>					
【到達目標】					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解している。 2) 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解している。 3) 英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解している。 4) 異文化コミュニケーションにとっての文学の重要性を理解している。 5) 生成AIのリテラシーを習得し、その適正な利用方法を理解している。 					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 Introduction：新しい時代の異文化理解のための「文学研究と生成AI」</p> <p>第2回 異文化理解の架橋と断絶 生成AIが異文化コミュニケーションにとってもちうる可能性と限界を検討する。</p> <p>第3回 「テキスト共同体」(Brian Stock)と「解釈共同体」(Stanley Fish) 異質な思考や文化的背景をもつ他者とコミュニケーションが可能な場を構想する。</p> <p>第4回 文学作品の原文精読(1) AIによる生成結果を信用しすぎないようするための方法として、Oxford English Dictionaryを用いて、英語で書かれた短編作品を丹念に読解し、close-readingの方法に習熟する。</p> <p>第5回 文学作品への注釈付け(2) 前回扱った作品に注釈を施し、多様な歴史的、社会的、文化的意味によって織りなされたテキストであることの意味を深める。</p> <p>第6回 文学作品の翻訳(1) 異文化間コミュニケーションにおける翻訳の重要性を理解するために、グループ間で翻訳の実践を行う。</p> <p>第7回 文学作品の翻訳(2) 前回の翻訳に対して既存の複数の翻訳を比較し、翻訳の諸問題を理解する。</p> <p>第8回 ChatGPTを用いた文学作品の読解の試み 生成AIを通じて文学作品を読解・翻訳し、解釈や訳語の不自然さや妥当性を検討する。</p> <p>第9回 ChatGPTを用いた文学作品の「続編」作成の試み 生成AIを通じて文学作品を創造的に拡張し、原文テキストに埋め込まれた歴史的、社会的、文化的意味がどのようにして拡張され、ある</p>					
アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く					

アメリカ文学(特殊講義)(2)

いは変容を受けるのかを考察する。

第10回 文学作品とテキスト生成、音声生成 提出課題となるAI-Augmented Textの準備作業を行い、生成物に埋め込まれた「異文化性」を理解する。

第11回 文学作品と画像生成 前週と同様にAI-Augmented Textの作成作業を行う。文学作品の情景描写文から生成AIによる挿絵の作成の試みると同時に、AIによるハルシネーションや過剰/過少生成を見破るリテラシーを手に入れる。

第12回 AI-Augmented Text作成の試み(1) 発表グループ1

第13回 AI-Augmented Text作成の試み(2) 発表グループ2

第14回 講評とグループディスカッション 12,13回で発表されたAI-Augmented Textに対して講評を行い、その後グループに分かれて討議を行う。

第15回 まとめと質疑応答

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業への参加状況・提出物・口頭発表(60%)と学期末に提出する課題(40%)によって評価する。

【教科書】

授業中に指示する

テキストはこちらで配布する。

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業中に指定する配布物を事前に予習しておくこと。復習としては、当該授業回で扱った範囲や学習内容を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは水曜13:30~15:00。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学248

科目ナンバリング	U-LET19 23531 LJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学 文学部 教授 出口 菜摘		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Margaret Atwoodの詩の読解と翻訳				
[授業の概要・目的]					
この授業では、カナダの詩人・作家であるマーガレット・アトウッドが、1968年に発表した第2詩集『あの国の動物たち』(The Animals in That Country,1968)の読解と翻訳を行う。人間と動物、人間と環境の関係性や境界を問い直す本詩集は、動物倫理や環境問題といった今日的な問題へ接続できるだろう。また、アトウッドの評論『サバイバル』(Survival,1972)を参照し、比較文化的視座から動物表象について考える。					
[到達目標]					
この授業を通じ、詩の読解能力を養うとともに、文芸翻訳に取り組む。また、比較文化的視座から動物表象について考察することにより、人間が動物を描くことの意味について理解する。					
[授業計画と内容]					
1.Introduction 2.The animals in that country 3.Attitudes towards the mainland 4.The green man 5.At the tourist centre in Boston 6.A night in the Royal Ontario Museum 7.River 8.What happened 9.Roominghouse, winter 10.It is dangerous to read newspaper 11.Progressive insanities of a pioneer (1) 12.Progressive insanities of a pioneer (2) 13.Speeches for Dr Frankenstein (1) 14.Speeches for Dr Frankenstein (2) 15.Speeches for Dr Frankenstein (3)					
[履修要件]					
特になし					
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点50%(コメントやディスカッション等)と期末レポート50%で判断する。レポートの内容については授業時に指示する。

[教科書]

使用しない
初回授業でプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

作品を精読したうえで、テーマに関して問題意識を明確にして授業に臨むこと。また、関連する先行研究や関連資料にも目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

教員の連絡先は以下の通り。n_deguchi@kpu.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学 文学部 准教授 後藤 篤	
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ポストモダン・アメリカ小説研究 Jhumpa Lahiriを読む				
[授業の概要・目的]					
<p>Jhumpa Lahiri (1967-) の第二短篇集Unaccustomed Earth (2008) および先行研究・批評等の関連資料を取り上げる。毎回の授業では、現代アメリカ文学・文化に関する解説もまじえながら、受講者による発表とディスカッションをもとに、インド(ベンガル)系アメリカ移民である作者自身の出自を反映した同書の収録作品を講読する。</p>					
[到達目標]					
<p>比較的難易度の高いテキストの解釈に取り組むことにより、文章の一語一句に込められた微妙なニュアンスが読み取れるような英文解釈のセンスに磨きをかける。同時に、批評理論・文化理論や関連する欧米の文化事象についての知識と理解を深めるなかで、作品のテキスト/コンテクストを読み解く批評眼を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
第1回	イントロダクション				
第2回	“ Unaccustomed Earth ” (1)				
第3回	“ Unaccustomed Earth ” (2)				
第4回	“ Hell-Heaven ”				
第5回	“ A Choice of Accommodations ” (1)				
第6回	“ A Choice of Accommodations ” (2)				
第7回	“ Only Goodness ” (1)				
第8回	“ Only Goodness ” (2)				
第9回	“ Nobody's Business ” (1)				
第10回	“ Nobody's Business ” (2)				
第11回	“ Once in a Lifetime ”				
第12回	“ Year's End ”				
第13回	“ Going Ashore ”				
第14回	エッセイ・インタビューおよび先行研究の概観				
第15回	授業のまとめ・フィードバック				
[履修要件]					
特になし					
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポート50%と発表課題30%、平常点20%（毎回の授業中の発言やディスカッションへの貢献、授業後のコメント提出）を総合的に判断する。

[教科書]

Jhumpa Lahiri 『Unaccustomed Earth』（Vintage Books, 2009）ISBN:978-0-307-27825-8

[参考書等]

（参考書）

Peter Barry 『Beginning Theory: An Introduction to Literary and Cultural Theory』（Manchester UP, 2017）

三原芳秋・渡邊英理・鶴戸聡編 『クリティカル・ワード 文学理論 読み方を学び文学と出会いなおす』（フィルムアート社、2020）

[授業外学修（予習・復習）等]

辞書・辞典類、アメリカ言語文化および批評理論・文化理論、現代思想に関する文献資料あるいはインターネット資料を積極的に参照し、毎回の範囲を丁寧に予習した上で授業に臨むこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学250

科目ナンバリング	U-LET19 23531 LJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	佛教大学文学部英米学科 准教授 メドロック 麻弥		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Vladimir Nabokov _The Luzhin Defense_ 研究				
[授業の概要・目的]					
<p>Vladimir Nabokov (1899-1977)の小説_The Luzhin Defense_ (1963)を精読する。1930年に出版された、チェス名人を主人公とするロシア語小説_Zashichita Luzhina_の英語版である本作は、ナボコフの「ロシア語小説のうち、もっとも『ぬくもり』のある」作品であると自身が認めるものである。その「ぬくもり」や、散りばめられたさまざまなモチーフ、テーマ(とりわけ「音楽」のテーマ)を感じながら読み進める。</p>					
[到達目標]					
<p>技巧的な散文を読み解く想像力と論理的思考力を習得する Nabokovの世界観を説明することができる 文学作品の緻密な読み方を習得する</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション 第2回 Chapter 1 輪読 第3回 Chapter 2 輪読 第4回 Chapter 3 輪読 第5回 Chapter 4 輪読 第6回 Chapter 5 輪読 第7回 Chapter 6 輪読 第8回 Chapter 7 輪読 第9回 Chapter 8 輪読 第10回 Chapter 9 輪読 第11回 Chapter 10 輪読 第12回 Chapter 11 輪読 第13回 Chapter 12 輪読 第14回 Chapter 13 輪読 第15回 Chapter 14 輪読</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>平常点70点+学期末レポート30点として評価する。 平常点としては、予習の状況、授業への貢献を評価する。 レポートでは、作品の基本的な理解度や、精読を通して得られた問題点について論理的に分析して</p>					
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(特殊講義)(2)

いるか、といった点を評価する。

[教科書]

Vladimir Nabokov 『The Luzhin Defense』 (Penguin, 2000) ISBN:ISBN-10: 0141185988

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

一回の授業で、できれば1章ぶんの輪読をします。自分なりの日本語訳ができるように、毎回予習して授業にのぞんでください。日本語訳だけでなく、問題点、気になる点などもまとめてきてください。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーはありません。質問、連絡等は電子メールで受け付けます。
maya-m@bukkyo-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	神戸大学 大学院国際文化学研究科 教授 西谷 拓哉	
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	19世紀アメリカ文学に見る白人と黒人の交流				
[授業の概要・目的]					
この授業では、19世紀のアメリカ文学における人種表象を読み解きながら、アメリカ合衆国において白人文化と黒人文化の接触によってハイブリッドな文化が生まれてきたプロセスを考察することを目的とする。扱う作品は、ポー、メルヴィル、ストウ、トウェインの小説のほか、奴隷体験記、黒人霊歌等も含む。					
[到達目標]					
1. 19世紀のアメリカにおける白人と黒人の文化的交流について基本的な知識を得る。 2. 文学作品の読解を通して、南北戦争前後における人種関係の多様性と多義性を理解する。					
[授業計画と内容]					
前半では、植民地時代から19世紀前半において白人と黒人が接触し、相互交流してきた歴史を概観するとともに、主として19世紀前半のアメリカ文学において描かれた黒人像をたどる。ここでは、白人と黒人の政治的関係を背景として踏まえつつ、19世紀アメリカ文学における人種観の形成とその変容を検討する。後半では、南北戦争以後の白人と黒人の交流史を概観しながら、アメリカ文学において描かれた黒人像の変遷をたどり、19世紀後半における人種表象のあり方や人種の境界線上にある人々の自己意識を検討する。					
第1回	イントロダクション：アメリカにおける黒人の歴史				
第2回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像(1)：ポーの諸作品(1)				
第3回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像(1)：ポーの諸作品(2)				
第3回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像(3)：メルヴィル『白鯨』				
第4回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像(4)：メルヴィル「ベニート・セレーノ」(1)				
第5回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像(5)：メルヴィル「ベニート・セレーノ」(2)				
第6回	反奴隷制の文学(1)：奴隷体験記、黒人霊歌				
第7回	反奴隷制の文学(2)：ストウ『アンクル・トム的小屋』(1)				
第8回	反奴隷制の文学(3)：ストウ『アンクル・トム的小屋』(2)				
第9回	南北戦争の文学的表象				
第10回	マーク・トウェインの描く黒人像(1)：『トム・ソーヤーの冒険』、				
第11回	マーク・トウェインの描く黒人像(2)：『ハックルベリー・フィンの冒険』ほか(1)				
第12回	マーク・トウェインの描く黒人像(3)：『ハックルベリー・フィンの冒険』ほか(2)				
第13回	パッシング小説と映画の系譜(1)				
第14回	パッシング小説と映画の系譜(2)				
第15回	現代黒人文学への接続				
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

アメリカにおける白人文化と黒人文化の交流の流れを理解できているか、人種関係を理解できているか、アメリカ文学の作品読解がきちんとできているかといった観点から評価する。

平常の活動(40%)、中間レポート(30%)、最終レポート(30%)を総合して評価する。

平常の活動は毎回のコメントシート、小レポートによって評価する。

中間レポート、最終レポートは独創性・着眼点(50%)、文章構成(30%)、資料の活用度(20%)により評価する。

【教科書】

KULASISよりプリントを配布します。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

事前に作品からの引用を読んでおくことが求められます。

(その他(オフィスアワー等))

授業前後の相談、メールでの問い合わせを受けつけます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学大学院言語教育情報研究科 滝沢 直宏 教授	
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英語語法文法研究				
[授業の概要・目的]					
<p>英語の語法文法の研究をする際には、まずもって英語の一次資料を分析的な目で常に読み、聞き、見る癖をつけることが大切である。受講生には、語彙・語法・文法・表現・言語理論の観点はもとより文化的視点、文体的・修辭的視点など幅広い観点から英語を観察し、興味深い例を発見することを求める。その上で、受講生各自が一週間の間に発見した例のうち、特に興味深いと思われる数例をMailing Listで紹介し合い、それを全員で検討しながら、英語の語法文法に関する理解を深める。</p> <p>収集した各例には、その例を特徴づける分類タグをできるだけ多く付与することが求められる。付与した分類タグの分だけ、一つの例を多角的に見たことになる。分類タグには、関連する言語学上の専門用語を正確に用いることも重要になってくるので、言語学関係の用語辞典を頻繁に参照することも必要となる。同時に、Quirk et al. (1985)、Huddleston & Pullum (2002)、Biber et al. (1999)など、既存の文法書を随時参照することも重視される。</p>					
[到達目標]					
日常的に触れている何気ない英文を分析的・複眼的に見る目が培われると同時に、言語学的な概念が習得される。					
[授業計画と内容]					
<p>1回：英語語法文法研究とは 2回：英語語法文法研究に資する例文データベースの構築方法 3回：例文データベースに対する分類タグ付けの方法 4回：生成文法と語法文法研究の関係 5回：生成文法の視点から見た語法文法研究 6回：動的文法理論と語法文法研究の関係 7回：動的文法理論の視点から見た語法文法研究 8回：認知言語学と語法文法研究の関係 9回：認知言語学の視点から見た語法文法研究 10回：談話の構成と語法文法研究 11回：英語史と語法文法研究の関係 12回：英語史の視点からの語法文法研究 13回：コーパスと語法文法研究の関係 14回：コーパスを用いた語法文法研究 15回：まとめ</p>					
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

日頃の課題提出を含む平常点。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

Quirk et al. 『A Comprehensive Grammar of the English Language』 (Longman, 1985) (20世紀最大の英文法書)

Huddleston and Pullum 『The Cambridge Grammar of the English Language』 (Cambridge University Press, 2002)

Biber et al. 『A Longman Grammar of Spoken and Written English』 (Pearson Education, 1999)

他にも参照すべき語法書、文法書は多い。適宜、授業で紹介する。

【授業外学修(予習・復習)等】

多くの英文を日常的に読み、英語語法文法の観点、言語学的観点から例文を収集し、全員が加入するMailing Listに投稿することを求める。不断の努力を怠らないこと。

(その他(オフィスアワー等))

用事・質問がある場合には、メールでご連絡ください。必要に応じて、Zoomで面談します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学大学院言語教育情報研究科 滝沢 直宏 教授	
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英語語法文法研究				
[授業の概要・目的]					
<p>英語の語法文法の研究をする際には、まずもって英語の一次資料を分析的な目で常に読み、聞き、見る癖をつけることが大切である。受講生には、語彙・語法・文法・表現・言語理論の観点はもとより文化的視点、文体的・修辭的視点など幅広い観点から英語を観察し、興味深い例を発見することを求める。その上で、受講生各自が一週間の間に発見した例のうち、特に興味深いと思われる数例をMailing Listで紹介し合い、それを全員で検討しながら、英語の語法文法に関する理解を深める。</p> <p>収集した各例には、その例を特徴づける分類タグをできるだけ多く付与することが求められる。付与した分類タグの分だけ、一つの例を多角的に見たことになる。分類タグには、関連する言語学上の専門用語を正確に用いることも重要になってくるので、言語学関係の用語辞典を頻繁に参照することも必要となる。同時に、Quirk et al. (1985)、Huddleston & Pullum (2002)、Biber et al. (1999)など、既存の文法書を随時参照することも重視される。</p>					
[到達目標]					
日常的に触れている何気ない英文を分析的・複眼的に見る目が培われると同時に、言語学的な概念が習得される。					
[授業計画と内容]					
<p>1回：英語語法文法研究とは 2回：英語語法文法研究に資する例文データベースの構築方法 3回：例文データベースに対する分類タグ付けの方法 4回：生成文法と語法文法研究1 5回：生成文法と語法文法研究2 6回：動的な文法理論と語法文法研究1 7回：動的な文法理論と語法文法研究2 8回：認知言語学と語法文法研究1 9回：認知言語学と語法文法研究2 10回：談話の構成と語法文法研究 11回：英語史と語法文法研究1 12回：英語史と語法文法研究2 13回：コーパスと語法文法研究1 14回：コーパスと語法文法研究2 15回：まとめ</p>					
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

日頃の課題提出を含む平常点。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

Quirk et al. 『A Comprehensive Grammar of the English Language』 (Longman, 1985) (20世紀最大の英文法書)

Huddleston and Pullum 『The Cambridge Grammar of the English Language』 (Cambridge University Press, 2002)

Biber et al. 『A Longman Grammar of Spoken and Written English』 (Pearson Education, 1999)

他にも参照すべき語法書、文法書は多い。適宜、授業で紹介する。

【授業外学修(予習・復習)等】

多くの英文を日常的に読み、英語語法文法の観点、言語学的観点から例文を収集し、全員が加入するMailing Listに投稿することを求める。不断の努力を怠らないこと。

(その他(オフィスアワー等))

用事・質問がある場合には、メールでご連絡ください。必要に応じて、Zoomで面談します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET19 23531 LJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学 文学部 准教授 西谷 茉莉子		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	抒情詩の語り手について考えるーW. B. イェイツの中後期の詩作品を中心に				
[授業の概要・目的]					
<p>抒情詩における語り手をテーマに据えながら、1920年代から30年代にかけて書かれた円熟期のイェイツの詩作品を精読する。"Meditations in Time of Civil War," "Among School Children," "Leda and the Swan," "Crazy Jane poems," "Man and the Echo," "The Curse of Cromwell"などを予定している。</p> <p>批評家Jonathan Cullerによると、近代以降の抒情詩には、語り手の思考プロセスの模倣ではなく、それを表現したものが描かれるという。そのような指摘をふまえ、本講義では、イェイツの中後期の詩作品において語り手の思考プロセスがどのように表現されているか考える。さらに、講義の後半では同時代に発表された他の詩人の作品を併せて読み、比較対象としたい。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 英詩を精読することによって、テキストを読み解く力を向上させる。 2. 口頭発表、ディスカッション、コメントシート作成などの作業を通して、論理的思考や表現力を身に付ける。 3. 注釈の参照、文献検索、批評的な文章の読解など、リサーチに必要な技能を錬成する。 					
[授業計画と内容]					
第1回	イントロダクション、授業の進め方についての説明				
第2回	W. B. イェイツ "Meditations in Time of Civil War"				
第3回	W. B. イェイツ "Meditations in Time of Civil War"				
第4回	W. B. イェイツ "Leda and the Swan"				
第5回	W. B. イェイツ "Among School Children"				
第6回	W. B. イェイツ Crazy Jane poems				
第7回	W. B. イェイツ Crazy Jane poems				
第8回	W. B. イェイツ "Man and the Echo"				
第9回	W. B. イェイツ "The Curse of Cromwell"				
第10回	T. S. エリオットの詩を読む				
第11回	T. S. エリオットの詩を読む				
第12回	W. H. オーデンの詩を読む				
第13回	W. H. オーデンの詩を読む				
第14回	まとめ				
第15回	フィードバック				
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業参加度(20点)、発表(30点)、レポート(50点)で総合的に評価する。

【教科書】

プリントを配布します。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回、一編、あるいは二編の詩を扱う予定です。担当者は、訳を作成して、前日までに西谷まで提出してください。
口頭発表の担当ではない場合も、作品を読んで十分に準備し、授業内でのディスカッションに備えること。活発な議論を期待しています。
授業で紹介する作品や参考文献を読み、自主的にリサーチを行い、期末レポートの執筆に役立ててください。

【その他(オフィスアワー等)】

連絡先は授業時にお伝えします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学255

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	同志社女子大学表象文化学部 木島 菜菜子 准教授	
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Charlotte Brontë, *Jane Eyre*を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>シャーロット・ブロンテの『ジェイン・エア』は、時代を超えて愛読され、映画化され、批評されてきた。有名な作品のため、あらすじなどは簡単に手に入るが、本授業では改めて原書を丁寧に読み進めながら、自分の感性を出発点に文学作品を論じる楽しさを味わう。ヴィクトリア朝という作品の時代背景についても知識を増やし、これまでの先行研究で議論されてきた点、他の作家への影響、小説を論じる際の基本的な概念もおさえつつ、作品の読みどころの再発見と更なる解釈の可能性を探る。</p>					
[到達目標]					
<p>辞書を引きながら原書を楽しんで読むことができる。 小説読解のための英語力を身につけている。 小説を論じるための基礎的な概念や知識を身につけており、自分の言葉で作品の読みどころを論じることができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イントロダクション(授業の進め方の説明など) 第2回 *Jane Eyre* Chapter 1~2と小説の書き出しについて 第3回 *Jane Eyre* Chapter 3~4 第4回 *Jane Eyre* 映画鑑賞(Chapter 5~10) 第5回 *Jane Eyre* Chapter 11~13 第6回 *Jane Eyre* Chapter 14~16 第7回 *Jane Eyre* Chapter 17~19 第8回 *Jane Eyre* Chapter 20~23 第9回 *Jane Eyre* Chapter 24~26 第10回 *Jane Eyre* Chapter 27~28 第11回 *Jane Eyre* Chapter 29~32 第12回 *Jane Eyre* Chapter 33~35 第13回 *Jane Eyre* Chapter 36~38 第14回 先行研究と語り直しについて 第15回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
<p>特になし。英語で小説を読むことが好きな学生の受講を希望する。</p>					
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（各回のコメントペーパー）：50%
期末レポート：50%

[教科書]

Charlotte Brontë 『Jane Eyre』（Penguin）ISBN:9780141441146

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎週、該当する章を読み、コメントペーパーを提出する。

（その他（オフィスアワー等））

授業は原則として日本語でおこなう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学256

科目ナンバリング	U-LET19 23531 LJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸学院大学 准教授 WROBETZ, Kevin Reay		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Academic Writing 1: Linguistics, Game Theory, and Social Interaction				
[授業の概要・目的]					
<p>This course will introduce students to the concepts of linguistics and game theory through the context of social interaction. Specifically, this course will help students understand how the English language underpins social interaction on a global scale and how the rules of social interaction directly affect the use of language. Throughout the course, students will actively participate in games which highlight different contexts of social interaction in the English language as well as discuss how game rules may be modified to achieve different contexts of social interaction in English. As this is a content-focused course taught through the medium of English, students will be expected to read a substantial amount of authentic academic materials in English, to summarize in their own words what they have read, and to engage in in-depth classroom discussion of the content. Much of the content of the course discussions and course materials will relate how the principles of linguistics and game theory may be applied to achieve a deeper understanding of intercultural communication in specific contexts.</p>					
[到達目標]					
<p>This course will increase students' knowledge and understanding of the various roles that the English language plays in the world today, the sociocultural context of intercultural communication, and the inner mechanics of various games which influence how communication plays out. The active participation in games, group discussions, and presentations will develop students' oral communication skills and turn them into more confident English speakers, while the course materials will broaden students' vocabulary skills and general knowledge of the goals of intercultural communication, linguistics, game theory, and the significance of the context of intercultural communication.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Students will be given weekly reading assignments to prepare before each class. Classroom sessions will involve active participation in various games, short lectures to clarify relevant concepts, and group discussions to help students think critically about the main topics of the course. The course will evaluate students through the use of in-class comprehension activities and comprehension worksheets. Additionally, students will submit and present the content of a research essay to evaluate the students' ability to express in writing their understanding of and opinions regarding the course content.</p> <p>Week 1: Course Introduction Week 2: Competition and the Spread of Disinformation A: Game Introduction Week 3: Competition and the Spread of Disinformation B: Informed Majority Vs. Uninformed Minority Week 4: Competition and the Spread of Disinformation C: Language of Deception Week 5: Competition and the Spread of Disinformation D: Class Discussion of Competitive Games Week 6: Competition and the Spread of Disinformation E: Competition and Conspiracy (Us Vs. Them) Week 7: Competition and the Spread of Disinformation F: The Prisoner's Dilemma and the Erosion of Trust Week 8: Cooperation and Global Climate Change Coalitions A: Game Introduction</p>					
アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く					

アメリカ文学(特殊講義)(2)

Week 9: Cooperation and Global Climate Change Coalitions B: From Each According to Their Ability
Week 10: Cooperation and Global Climate Change Coalitions C: Language of Teamwork
Week 11: Cooperation and Global Climate Change Coalitions D: Class Discussion of Cooperative Games
Week 12: Cooperation and Global Climate Change Coalitions E: Climate Change Coalition
Week 13: Cooperation and Global Climate Change Coalitions F: The Shapley Value and the Building of Trust
Week 14: Student Presentations on Essays
Week 15: Make-Up Lesson

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Comprehension Worksheets: 10%
Essay: 20%
Oral Presentation: 20%
Class Participation: 60%

【教科書】

All reading material and instructional media will be provided by the course instructor. Some of the reading material will focus on cooperative and competitive game theory (Von Neumann & Morgenstern).

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修(予習・復習)等】

Weekly reading preparation for class discussion. Submission of comprehension worksheets based on the content of weekly readings, in-course instructional material, and lecture content. Research essay and final presentation will also be prepared outside of class.

【その他(オフィスアワー等)】

If students have any questions regarding this course, they are encouraged to contact the instructor at krwrobetz@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学257

科目ナンバリング	U-LET19 23531 LJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸学院大学 准教授 WROBETZ, Kevin Reay		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Academic Writing 2: Linguistics, Game Theory, and Social Interaction				
[授業の概要・目的]					
<p>This course will introduce students to the concepts of linguistics and game theory through the context of social interaction. Specifically, this course will help students understand how the English language underpins social interaction on a global scale and how the rules of social interaction directly affect the use of language. Throughout the course, students will actively participate in games which highlight different contexts of social interaction in the English language as well as discuss how game rules may be modified to achieve different contexts of social interaction in English. As this is a content-focused course taught through the medium of English, students will be expected to read a substantial amount of authentic academic materials in English, to summarize in their own words what they have read, and to engage in in-depth classroom discussion of the content. Much of the content of the course discussions and course materials will relate how the principles of linguistics and game theory may be applied to achieve a deeper understanding of intercultural communication in specific contexts.</p>					
[到達目標]					
<p>This course will increase students' knowledge and understanding of the various roles that the English language plays in the world today, the sociocultural context of intercultural communication, and the inner mechanics of various games which influence how communication plays out. The active participation in games, group discussions, and presentations will develop students' oral communication skills and turn them into more confident English speakers, while the course materials will broaden students' vocabulary skills and general knowledge of the goals of intercultural communication, linguistics, game theory, and the significance of the context of intercultural communication.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Students will be given weekly reading assignments to prepare before each class. Classroom sessions will involve active participation in various games, short lectures to clarify relevant concepts, and group discussions to help students think critically about the main topics of the course. The course will evaluate students through the use of in-class comprehension activities and comprehension worksheets. Additionally, students will submit and present the content of a research essay to evaluate the students' ability to express in writing their understanding of and opinions regarding the course content.</p> <p>Week 1: Course Introduction Week 2: Intercultural Communication During Disaster A: Game Introduction Week 3: Intercultural Communication During Disaster B: The Interconnectedness of the Globe Week 4: Intercultural Communication During Disaster C: The Role of Communication Week 5: Intercultural Communication During Disaster D: Class Discussion on the Global Response to Pandemics Week 6: Intercultural Communication During Disaster E: Abstraction of Complexity (Learning From Past Mistakes)</p>					
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(特殊講義)(2)

Week 7: Intercultural Communication During Disaster F: Parallels to Real Life
Week 8: What Housing Crisis? Japan Vs. the West A: Game Introduction
Week 9: What Housing Crisis? Japan Vs. the West B: Play by the Rules (Zoning Ordinances)
Week 10: What Housing Crisis? Japan Vs. the West C: Don't Play by the Rules (Changing Zoning Ordinances)
Week 11: What Housing Crisis? Japan Vs. the West D: Class Discussion on the Housing Crisis in the West
Week 12: What Housing Crisis? Japan Vs. the West E: Comparing Japanese and Western Housing Markets
Week 13: What Housing Crisis? Japan Vs. the West F: Different Rules, Different Outcomes
Week 14: Student Presentations on Essays
Week 15: Make-Up Lesson

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Comprehension Worksheets: 10%
Essay: 20%
Oral Presentation: 10%
Class Participation: 60%

【教科書】

All reading material and instructional media will be provided by the course instructor. Some of the reading will focus on group actions in repeated games (Farrell & Maskin) and the cross-cultural legislative implementation of zoning ordinances (Durning).

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修(予習・復習)等】

Weekly reading preparation for class discussion. Submission of comprehension worksheets based on the content of wweekly readings, in-course instructional material, and lecture contnet. Research essay and final presentation will also be prepared outside of class.

(その他(オフィスアワー等))

If students have any questions regarding this course, they are encouraged to contact the instructor at krwrobetz@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学 文学部 准教授 西谷 茉莉子	
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	シェイマス・ヒーニーの初期の詩を精読する				
[授業の概要・目的]					
<p>北アイルランドのデリー州出身のシェイマス・ヒーニー(1939-2013)は、アイルランドのみならず英語圏で広く親しまれている現代詩人のひとりである。本講義では、ヒーニーの第一詩集Death of a Naturalist(1966)、第二詩集Door into the Dark(1969)、第三詩集Wintering Out(1972)所収の作品を精読する。これらの詩では、少年時代の回想、田舎暮らしや自然、詩の創作、アイルランドの政治的状況などのテーマが扱われる。</p> <p>授業では、原書のテキストに向き合う姿勢を身に付け、詩を読むために必要な知識を学ぶことによって、作品を読み解く鍛錬を行う。それとともに、適宜、英語の注釈、伝記的批評、詩論などの文献を併せて読み、その知識を関連させて作品を考察する。</p> <p>毎回の授業は作品の朗読、および口頭発表とディスカッションを中心に進める。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 英詩を精読することによって、テキストを読み解く力を向上させる。 2. 口頭発表、ディスカッション、コメントシート作成などの作業を通して、論理的思考や表現力を身に付ける。 3. 注釈の参照、文献検索、批評的な文章の読解など、リサーチに必要な技能を錬成する。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イントロダクション：シェイマス・ヒーニーについて、および作品と関連する社会的文脈、伝記的知識、文学史上重要な出来事などを説明する。授業の進め方や準備の仕方について周知し、発表の担当を決める。</p> <p>第2回 Death of a Naturalistの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第3回 Death of a Naturalistの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第4回 Death of a Naturalistの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第5回 Death of a Naturalistの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第6回 Door into the Darkの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第7回 Door into the Darkの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第8回 Door into the Darkの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第9回 Door into the Darkの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第10回 Wintering Outの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第11回 Wintering Outの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第12回 Wintering Outの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第13回 Wintering Outの作品の口頭発表とディスカッション</p> <p>第14回 まとめ</p> <p>第15回 フィードバック</p>					
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(特殊講義)(2)

授業計画は、状況によって変更することがあります。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業参加度(20点)、発表(30点)、レポート(50点)で総合的に評価する。

【教科書】

テキストや注釈等については、授業内でプリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

授業内で紹介する文献は積極的に手にとってください。

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回、一編、あるいは二編の詩を扱う予定です。担当者は、訳を作成して、前日までに西谷まで提出してください。担当者以外の履修者も、作品を読んでディスカッションに備えてくること。授業で紹介する作品や参考文献を読み、自主的にリサーチを行い、期末レポートの執筆に役立ててください。

(その他(オフィスアワー等))

連絡先等は初回の授業でお伝えします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	北海道大学大学院文学研究院 竹内 康浩 教授	
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	エドガー・アラン・ポーとその影響				
[授業の概要・目的]					
<p>探偵小説の始祖とされる19世紀米国作家エドガー・アラン・ポーの短編小説を読みながら、作家がいかに登場人物の混迷を描き、さらに読者を煙に巻くか、すなわち彼の創作原理を考察します。その原理とは、物理的な鍵のようなもので、謎をロックするときにもアンロックするときにも使えます。また応用編として、その原理を使ってポー以外の作家による作品も読み解いてみたいと思います。</p>					
[到達目標]					
<p>エドガー・アラン・ポーの作品を読むことで、彼の創作原理を理解し、その原理を使用して、ひろく文学作品を考察することができるようになります。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下はあくまでも予定です。受講生の人数などによって適宜調整します。</p>					
1日目					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1回、2回：“Thou Art the Man”(「お前が犯人だ」)を読む(講義) ・ 3回：受講生による発表&ディスカッション(演習) 					
2日目					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 4回、5回：“A Tale of the Ragged Mountains”(「鋸山綺譚」)を読む(講義) ・ 6回：受講生による発表&ディスカッション(演習) 					
3日目					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 7回、8回：“The Murders in the Rue Morgue”(「モルグ街の殺人」)を読む(講義) ・ 9回：受講生による発表&ディスカッション(演習) 					
4日目					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 10回、11回：“The Purloined Letter”(「盗まれた手紙」)を読む(講義) ・ 12回：受講生による発表&ディスカッション(演習) 					
5日目					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 13回、14回：“The Black Cat”(「黒猫」)を読む(講義) ・ 15回：受講生による発表&ディスカッション(演習) 					
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

発表（４０％）、授業での質疑応答（２０％）、レポート（４０％）で総合的に評価する。

【教科書】

エドガー・アラン・ポーの作品（英語）は以下のサイトで全て読むことができます。

<https://www.eapoe.org/works/mabbott/tominfo.htm>

授業では、上記のマボット版を使用します。（ページ数に言及する際、この版のページを用います）

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

受講までに「授業計画」で挙げた諸作品を以下のサイトで熟読しておいて下さい。<https://www.eapoe.org/works/mabbott/tominfo.htm>

余裕のある人は"The Fall of the House of Usher"と"The Sphinx"も読んでみて下さい。

（その他（オフィスアワー等））

連絡はメールで行います。メールアドレスは、qze11357@gmail.com です。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 家入 葉子	
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
題目	Investigating constructional alternations in recent English				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業は、主に客員教授のEva Zehentner先生(チューリッヒ大学)が担当しますが家入が補助します。Zehentner先生の来日スケジュールに変更が生じた場合は、講義内容および使用言語等に変更が生じることがあります。</p> <p>Syntactic alternations most basically refer to cases where “two or more ways of saying the same thing” (Labov 1972: 271) are available, i.e. where two formally distinct patterns express equivalent or similar meanings. For example, in the well-known English dative alternation, a nominal pattern (give the student a book) is more or less interchangeable with a prepositional pattern (give a book to the student). Such alternations have featured centrally in most, if not all, theoretical approaches to syntax (see e.g. Pijpops 2020). Typical issues that have been raised in their regard are to determine the precise relation between the members of an alternation and its theoretical modelling, with e.g. one pattern postulated to underlie the other in deep structure, or both patterns being represented as largely independent from each other (e.g. Goldberg 1995; Rappaport Hovav & Levin 2008; and many others, on the English dative alternation). Furthermore, the factors impacting the choice between alternating variants have received ample attention, investigating the effect of language-internal properties like semantic or pragmatic differences or processing-related features, but also sociolinguistic, external predictors such as variety or genre (e.g. Grafmiller & Szmrecsanyi 2018). In Construction Grammar specifically, alternations were disregarded for some time (e.g. Goldberg 1995, 2006), but have been met with renewed interest ever since Cappelle’s (2006) seminal work on ‘allostructions’ and discussions on ‘horizontal’ links (also Perek 2012, 2015; Ungerer forthc.; for a recent overview of relevant developments see Zehentner 2023).</p> <p>The seminar will introduce relevant concepts and theoretical questions regarding syntactic alternations in Construction Grammar, and will use large standard corpora of contemporary and recent historical English to allow students to carry out research projects on selected alternation phenomena. Specifically, we will use corpora from the Mark Davies family available at www.english-corpora.org, such as COCA (Corpus of Contemporary American English), COHA (Corpus of Historical American English) and the BNC (British National Corpus), among others, which cover a wide range of genres and different timeframes. On the basis of few selected alternation phenomena, students will be guided in their research process, learning how to find topics, formulate specific questions, retrieve and annotate data, as well as analyse and interpret their findings. This will be done in a step-by-step, accessible, and hands-on way, with students receiving specific input on methodological and theoretical aspects of alternation studies.</p>					
[到達目標]					
<p>The goal of the course is to introduce students to syntactic alternations from a Construction Grammar perspective, discussing (i) theoretical questions that arise when dealing with variation between formally or functionally overlapping constructions, and (ii) providing a hands-on introduction to investigating</p>					
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(特殊講義)(2)

alternations with corpus data in contemporary and recent historical English. On the basis of representative phenomena such as the English dative alternation (gave them a book vs gave a book to them), the genitive alternation (the book 's pages vs the pages of the book), the particle alternation (take your shoes off vs take off your shoes), and the comparative adjective alternation (easier vs more easy), students will be familiarised with the history of alternation research in Construction Grammar, and will learn how to set up a small corpus research project on the alternations in question: This will include practical guidance on how to retrieve relevant data from corpora, how to operationalise factors that may impact the alternations, and how to interpret findings in a constructionist framework.

【授業計画と内容】

1. Introduction to the basics of Construction Grammar
2. Syntactic alternations and their treatment in Construction Grammar
3. Case studies: 4 (in)famous alternations in English
4. Research design I: topics and research questions
5. Research design II: dependent and independent variables
6. Corpus linguistics: standard corpora of English and their use
7. Retrieving alternations from corpora
8. Annotating and analysing alternation data (1)
9. Annotating and analysing alternation data (2)
10. Descriptive statistics (summing up results, observing frequency trends)
11. Inferential statistics (using Excel and R to run statistical tests and models)
12. Hands-on practice of descriptive and inferential statistical analysis
13. Interpreting results
14. Discussion of theoretical implications of empirical findings
15. Wrap-up on data analysis and constructionist approaches

【履修要件】

Active participation in discussions, data retrieval and analysis.

【成績評価の方法・観点】

attendance/class contribution 20%,
data analyses 30%,
report (write-up of findings) 50%

【教科書】

授業中に指示する

Course materials (PDFs) will be provided ahead of the seminar.

【参考書等】

(参考書)

Corpora

アメリカ文学(特殊講義)(3)へ続く

アメリカ文学(特殊講義)(3)

BNC = Davies, Mark. 2004. British National Corpus (from Oxford University Press). <https://www.english-corpora.org/bnc/>.

COCA = Davies, Mark. 2008-. The Corpus of Contemporary American English (COCA). <https://www.english-corpora.org/coca/>.

COHA = Davies, Mark. 2010. The Corpus of Historical American English (COHA). <https://www.english-corpora.org/coha/>.

References

Cappelle, Bert. 2006. Particle placement and the case for “allostructions”. *Constructions* 1. 1-28. <https://doi.org/10.24338/cons-381>.

Goldberg, Adele. 1995. *Constructions. A Construction Grammar Approach to Argument Structure*. Chicago: Chicago University Press.

Goldberg, Adele. 2006. *Constructions at work: The nature of generalization in language*. Oxford: Oxford University Press. <https://doi.org/10.1093/acprof:oso/9780199268511.001.0001>.

Grafmiller, Jason & Benedikt Szmrecsanyi. 2018. Mapping out particle placement in Englishes around the world. A case study in comparative sociolinguistic analysis. *Language Variation and Change* 30(03). 385-412. <https://doi.org/10.1017/S0954394518000170>.

Labov, William. 1972. *Sociolinguistic patterns*. Philadelphia, PA: University of Pennsylvania Press.

Perek, Florent. 2012. Alternation-based generalizations are stored in the mental grammar: Evidence from a sorting task experiment. *Cognitive Linguistics* 23(3). 601-635. <https://doi.org/10.1515/cog-2012-0018>.

Perek, Florent. 2015. Argument structure in usage-based Construction Grammar: Experimental and corpus-based perspectives. Amsterdam: Benjamins. <https://doi.org/10.1075/cal.17>.

Pijpops, Dirk. 2020. What is an alternation? Six answers. *Belgian Journal of Linguistics* 34. 283-294.

Ungerer, Tobias. forthc. Vertical and horizontal links in constructional networks: Two sides of the same coin? *Constructions and Frames*.

Zehentner 2023 Allostructions revisited. *Constructions* 15(1). 1-20. [Special Issue: 35 Years of *Constructions*]. <https://doi.org/10.24338/cons-569>.

[授業外学修（予習・復習）等]

Assigned reading

（その他（オフィスアワー等））

必要な場合は、<https://iyeyri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23541 SJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(演習Ⅰ) American Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小林 久美子	
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Interpreter of Maladiesを読むーアジア系アメリカ文学研究入門				
[授業の概要・目的]					
<p>インド系作家Jhumpa Lahiriの_Interpreter of Maladies_を読みます。2000年にピューリッツァー賞を受賞した本作は、インド系、パキスタン系の人々のアメリカでの暮らしをhighly readableな筆致で記しています。20世紀後半～21世紀アメリカ文学における特徴の1つとしてアジア系アメリカ文学の興隆を挙げることが出来ますが、本授業においてその代表作を読むことで、奥深いアジア系アメリカ文学の世界に足を踏み入れるきっかけを作ることが出来るでしょう。</p>					
[到達目標]					
<p>1) 英語で書かれた小説を読み、その読書体験を他者と共有する 2) 20世紀後半のアメリカ文学の一大潮流であるアジア系アメリカ文学の代表作を読む 3) 現代アメリカにおける「移民」のフィクションでの捉え方を学ぶ</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下のスケジュールはあくまでも予定です。必ず初回授業で配布されるスケジュールをご参照ください。</p> <p>第1回：Introduction: 作者・作品紹介 第2回：A Temporary Matterを読む 第3回：When Mr. Pirzada Came to Dineを読む 第4回：Interpreter of Maladiesを読む 第5回：A Real Durwanを読む 第6回：Sexyを読む 第7回：Mrs. Sen'sを読む 第8回：This Bleed Houseを読む 第9回：The Treatment of Bibi Haldarを読む 第10回：The Third and Final Continentを読む 第11回：Hell-Heavenを読む 第12回：映画_The Namesake_鑑賞 第13回：レポートワークショップ 第14回：作品全体の総括 第15回：フィードバック</p>					
----- アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

毎回の授業後にメールにてコメント提出（20％）・発表（40％：予定回数は2回）・期末レポート（40％）にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表時間は25分から30分ほどの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。

【教科書】

テキストはPandAにてpdf形式で配布します。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

本授業はディスカッション主体の授業です。扱う作品を読まないと（毎回およそ15～20ページほどの分量）、何も言えずに終わってしまうので、必ず読んで授業に臨んでください。発表やレポートの形式については初回授業で説明します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET19 23541 SJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(演習Ⅰ) American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小林 久美子		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国系・日系女性作家の短編を読む アジア系アメリカ文学研究入門				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業では20世紀に活躍した中国系・日系女性作家の短編を読みます。20世紀後半～21世紀アメリカ文学の特徴の1つとしてアジア系アメリカ文学の躍進が挙げられますが、本授業を通じて、中国系および日系移民の歴史を辿ると同時に、彼/彼女たちの歩みがどのようにフィクションの世界で表現されたかを学びます。取り上げる作家は、Jade Snow Wong、Maxine Hong Kingston、Amy Tan、Fae Myenne Ng、Hisae Yamamotoです。</p>					
[到達目標]					
<p>中国系、日系アメリカ人作家による短編を読むことで、アジア系アメリカ文学に親しむ。 英語で書かれた小説の読み方を学習する。 アメリカ小説における移民の表象を学ぶ。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下のスケジュールはあくまでも予定です。必ず初回授業で配布されるスケジュールをご参照ください。</p> <p>第1回：Introduction: 作者紹介および中国系、日系移民の歴史について 第2回：A Measure of Freedomを読む 第3回：No Name Womanを読む 第4回：Two Kindsを読む 第5回：A Red Sweaterを読む 第6回：Seventeen Syllablesを読む 第7回：The Legend of Miss Sasagawaraを読む 第8回：Yoneko's Earthquakeを読む 第9回：Morning Rainを読む 第10回：The Eskimo Connectionを読む 第11回：Underground Ladyを読む 第12回：A Day in Little Tokyoを読む 第13回：レポートワークショップ 第14回：本授業全体の総括 第15回：フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>毎回の授業後にメールにてコメントシートを提出(20%)・発表(40%; 予定回数は2回)・期末レポート(40%)にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表時間は25分か</p>					
----- アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)

ら30分ほどの長さとする(残り時間は参加者全員によるディスカッション)。

【教科書】

テキストはすべてPandA経由で配布します。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

本授業はディスカッション主体の授業です。扱う作品を読まない(毎回およそ15~20ページほどの分量)、何も言えずに終わってしまうので、必ず読んで授業に臨んでください。発表やレポートの形式については初回授業で説明します。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学265

科目ナンバリング		U-LET19 23541 SJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(演習Ⅰ) American Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 家入 葉子	
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英文法の面白さと英語の多様性、変化				
[授業の概要・目的]					
<p>Andreea S. CaludeとLaurie BauerによるMysteries of English Grammar: A Guide to Complexities of the English Language (図書館のものを利用)の中から指定する章を読むとともに、関連の論文を紹介する口頭発表を行います。また、英語の文法に関する小規模な文献調査を各自が行い、そのテーマについて授業中に議論を行い、学期末にはレポートを作成します。</p>					
[到達目標]					
<p>Andreea S. CaludeとLaurie BauerによるMysteries of English Grammar: A Guide to Complexities of the English Languageの中から指定する章を講読し、英文法を多様な視点から再確認します。合わせて英語学関係の論文を講読し、英語の多様性、変化への理解を深めるとともに、コーパス言語学の手法や談話分析の手法を習得することを目標とします。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回： イントロダクション 第2回： コーパス言語学のアプローチによる英語の分析(1) 第3回： コーパス言語学のアプローチによる英語の分析(2) 第4回： 文法化と語彙化の視点から(1) 第5回： 文法化と語彙化の視点から(2) 第6回： 談話分析の手法を用いたアプローチ(1) 第7回： 談話分析の手法を用いたアプローチ(2) 第8回： 歴史社会言語学と英語研究(1) 第9回： 歴史社会言語学と英語研究(2) 第10回： 歴史語用論的なアプローチ(1) 第11回： 歴史語用論的なアプローチ(2) 第12回： 英語の標準化と規範文法 第13回： 英語の地域性 第14回： 言語接触と英語 第15回： 文法についてのプロジェクトの報告と議論、および総括</p>					
<p>授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、進行状況により、予定が多少変更になることがあります。 なお必要な場合には、レポートの作成に有用なオンラインツールや辞書の使い方等を習得するためのワークショップ・セミナー等を行うことがあります。</p>					
----- アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)

【履修要件】

英語学英文学専修・アメリカ文学専修では、関連の授業として、特殊講義（家入葉子・Eva Zehentner）、特殊講義（Kevin Wrobetz）、外国語実習（Lachlan Rigby Jackson）も提供（予定）しています。英語の多様性への理解には実際の英語に触れることが欠かせませんので、要件ではありませんが、余裕がある人はこれらの授業も受講してください。特殊講義では、英文法に関する内容を取り上げます。外国語実習のJackson先生も、社会言語学をはじめとする言語研究を専門領域としておられます。Wrobetz先生も、言語や文学の多様な側面に焦点を当てた授業をされる予定です。

【成績評価の方法・観点】

授業への貢献度（40%）およびレポート（60%）によって評価を行います。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

Andreea S. Calude & Laurie Bauer 『Mysteries of English Grammar: A Guide to Complexities of the English Language』（Routledge）

（関連URL）

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の予習（全員）及び、論文の講読（担当者）をお願いします。レポートは授業終了後に提出することになりますが、その作成方法については、授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

必要な場合は、<https://iyeiri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23541 SJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(演習Ⅰ) American Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 家入 葉子	
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中英語入門				
[授業の概要・目的]					
指定した中英語文献を講読するほか、関連の論文を紹介する口頭発表を行います。また、中英語テキストを題材に英語の文法に関する小規模な文献調査を各自が行い、学期末にはレポートを作成します。					
[到達目標]					
Geoffrey Chaucer (著) の作品の講読を通じて中英語についての理解を深めます。また、中英語と現代英語の違いに着目し、言語を变化の視点から観察できる能力を身につけることを目標とします。					
[授業計画と内容]					
Geoffrey Chaucer (著) の作品の講読を通じて中英語についての理解を深めます。また、中英語と現代英語の違いに着目し、言語を变化の視点から観察できる能力を身につけることを目標とします。					
授業計画と内容					
第1回： イントロダクション、データベース利用の方法					
第2回： 中英語の発音および基本的な文法事項					
第3回： Chaucer's Boece の講読およびGeoffrey Chaucerの著作全般について					
第4回： Chaucer's Boece の講読および中英語の綴り字					
第5回： 文法についてのプロジェクトの構想発表と議論					
第6回： Chaucer's Boece の講読および中英語の語順					
第7回： Chaucer's Boece の講読および中英語の名詞・形容詞					
第8回： Chaucer's Boece の講読および中英語の代名詞全般					
第9回： Chaucer's Boece の講読および中英語の語彙					
第10回： 文法についてのプロジェクトの中間発表と議論					
第11回： Chaucer's Boece の講読および中英語の前置詞					
第12回： Chaucer's Boece の講読および中英語の副詞					
第13回： Chaucer's Boece の講読および中英語の助動詞					
第14回： Chaucer's Boece の講読および中英語の動詞					
第15回： 文法についてのプロジェクトの報告と議論、および総括					
授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、進行状況により、予定が多少変更になることがあります。					
なお必要な場合には、レポートの作成に有用なオンラインツールや辞書の使い方等を説明するためのワークショップ等を行うことがあります。					
[履修要件]					
英語学英文学専修・アメリカ文学専修では、関連の授業として、特殊講義(家入葉子・Eva Zehentner)、特殊講義(Kevin Wrobetz)、外国語実習(Lachlan Rigby Jackson)も提供(予定)し					
----- アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)

ています。英語の多様性への理解には、英語の歴史についての知識とともに、現代英語の実際に触れることが欠かせませんので、要件ではありませんが、余裕がある人はこれらの授業も受講してください。特殊講義では、英文法に関する内容を取り上げます。外国語実習のJackson先生も、社会言語学をはじめとする言語研究を専門領域としておられます。Wrobetz先生も、言語や文学の多様な側面に焦点を当てた授業をされる予定です。

[成績評価の方法・観点]

授業への貢献度（40％）およびレポート（60％）によって評価を行います。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

Larry D. Benson et al. 『The Riverside Chaucer』（OUP）ISBN:0199552096

Norman Davis 『Chaucer Glossary』（OUP）

講読する中英語文献については、図書館のものを使用しますが、もし中英語文献への理解を深めたい、将来的に卒業論文等でも扱ってみたいと思う場合は、上記のThe Riverside ChaucerおよびChaucer Glossaryを購入することをお勧めします。The Riverside Chaucerは、ペーパーバックで比較的安価に入手することが可能です。

（関連URL）

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

[授業外学修（予習・復習）等]

中英語テキストの予習（全員）及び、論文の講読（担当者）をお願いします。レポートは授業終了後に提出することになりますが、その作成方法については、授業中に繰返し議論します

（その他（オフィスアワー等））

必要な場合は、<https://iyeiri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学267

科目ナンバリング	U-LET19 23541 SJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(演習Ⅰ) American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 南谷 奉良		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	James Joyce, Dubliners精読				
[授業の概要・目的]					
James Joyceの短編集Dubliners(1914)を通じて、その作家の語彙や文体、表現技法に習熟しながら、テキストの記述を支えている歴史的・文化的背景を考察する。授業内発表と学期末レポートを通じて、テキストに対して抱いた疑問や関心をアカデミックな方法論と文体で明晰に言語化できることを目的とする。					
[到達目標]					
(1) 文学テキストの言葉を文化や歴史と関連づけて理解し、それを自身の知と結びつけて説得的に説明することができる。 (2) 文学テキストの読解を通じて各自の興味・関心を発展させ、有益で適切な学術的資料・文献を見つけることができる。 (3) 先行研究と自身の関心をもとに文学テキストの読解を行うなかで、ものの見方を変える視点をもつことができる。					
[授業計画と内容]					
第1回	Introduction: James Joyce(1882-1941)の主要作品と生涯について				
第2回	"The Sisters" (1-149)				
第3回	"The Sisters" (150-305)				
第4回	"An Encounter" (1-150)				
第5回	"An Encounter" (151-301)				
第6回	"Araby" (1-110)				
第7回	"Araby" (111-220)				
第8回	"Evelyn" (1-105)				
第9回	"Evelyn" (105-168)				
第10回	批評文献の読解(1) "The Sisters"; "An Encounter"				
第11回	批評文献の読解(2) "Araby"; "Evelyn"				
第12回	ChatGPTを用いた作品読解の試みー生成AIの可能性と限界				
第13回	レポートの書き方・文献調査法について				
第14回	予備回				
第15回	まとめ・質疑応答				
[履修要件]					
特になし					
----- アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)

[成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業参加・担当者発表60% + 学期末レポート40%にて評価する。

[教科書]

James Joyce 『Dubliners』 (W.W. Norton) ISBN:978-0393978513 (<https://www.amazon.co.jp/Dubliners-Norton-Critical-Editions-James/dp/0393978516>)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、一語一語の意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは水曜13:30から15:00までとする。研究室を訪れる場合は、あらかじめメールで連絡してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23541 SJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(演習Ⅰ) American Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 南谷 奉良	
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	James Joyce, Dubliners精読				
[授業の概要・目的]					
James Joyceの短編集Dubliners(1914)を通じて、その作家の語彙や文体、表現技法に習熟しながら、テキストの記述を支えている歴史的・文化的背景を考察する。授業内発表と学期末レポートを通じて、テキストに対して抱いた疑問や関心をアカデミックな方法論と文体で明晰に言語化できることを目的とする。					
[到達目標]					
(1) 文学テキストの言葉を文化や歴史と関連づけて理解し、それを自身の知と結びつけて説得的に説明することができる。 (2) 文学テキストの読解を通じて各自の興味・関心を発展させ、有益で適切な学術的資料・文献を見つけることができる。 (3) 先行研究と自身の関心をもとに文学テキストの読解を行うなかで、ものの見方を変える視点をもつことができる。					
[授業計画と内容]					
第1回 Introduction: James Joyce(1882-1941)の主要作品と生涯について 第2回 "Two Gallants" (1-194) 第3回 "Two Gallants"(195-381) 第4回 "The Boarding House" (1-142) 第5回 "The Boarding House" (143-261) 第6回 "A Little Cloud" (1-160) 第7回 "A Little Cloud" (161-388) 第8回 "A Little Cloud" (389-496) 第9回 "Counterparts" (1-182) 第10回 "Counterparts" (182-400) 第11回 "Clay"(1-120) 第12回 "Clay"(121-240) 第13回 "A Painful Case" (1-162) 第14回 "A Painful Case" (163-348) 第15回 まとめ・質疑応答					
[履修要件]					
特になし					
----- アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)

[成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業参加・担当者発表60% + 学期末レポート40%にて評価する。

[教科書]

James Joyce 『Dubliners』 (W.W. Norton) ISBN:978-0393978513 (<https://www.amazon.co.jp/Dubliners-Norton-Critical-Editions-James/dp/0393978516>)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、一語一語の意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは水曜13:30から15:00までとする。研究室を訪れる場合は、あらかじめメールで連絡してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23551 LJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(講読) American Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 森 慎一郎	
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火5	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	John Updikeの短篇を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>20世紀後半を中心に活躍したアメリカの小説家John Updike (1932-2009)の異色短篇2篇、"Blessed Man of Boston, My Grandmother's Thimble, and Fanning Island"と"Packed Dirt, Churchgoing, a Dying Cat, a Traded Car"を精読する。短篇集Pigeon Feathers (1962)に収録されたこれら2作は、奇妙に長いタイトル、バラバラのエピソードを連ねたような一見散漫な構成、小説ともエッセイともつかない語り口などを共通点として持つ。不思議な作品だが、アップダイク文学の小宇宙といった濃密な味わいがある。文章はやや難しめ。</p>					
[到達目標]					
<p>丁寧に辞書を引きながら一語一句にこだわって文学作品を読む姿勢を身につけ、英語小説読解の基礎力を養うことを目標とする。加えて、小説を通じて英語圏の文化への理解を深め、文学的な英語表現の機微に親しむことも本授業の目標となる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>授業では基本的に、訳読+参加者間の意見交換の形でテキストを丁寧に読んでいく。各作品を読み終えたところで、受講者の発表をもとに参加者全員で作品全体について話し合うディスカッションの回を設ける予定。</p> <p>おおよその進行予定は以下のとおり。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2回 "Blessed Man of Boston, My Grandmother's Thimble, and Fanning Island"を読む 第3回 "Blessed Man of Boston..."を読む 第4回 "Blessed Man of Boston..."を読む 第5回 "Blessed Man of Boston..."を読む 第6回 "Blessed Man of Boston..."：まとめとディスカッション 第7回 "Packed Dirt, Churchgoing, a Dying Cat, a Traded Car"を読む 第8回 "Packed Dirt..."を読む 第9回 "Packed Dirt..."を読む 第10回 "Packed Dirt..."を読む 第11回 "Packed Dirt..."を読む 第12回 "Packed Dirt..."を読む 第13回 "Packed Dirt..."を読む 第14回 "Packed Dirt..."：まとめとディスカッション 第15回 フィードバック</p>					
<p>学期末には、どちらかないし両方の作品を英語または日本語で論じるレポートを提出してもらう。</p> <p style="text-align: right;">アメリカ文学(講読)(2)へ続く</p>					

アメリカ文学(講読)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

到達目標の達成度に基づき、平常点（60％）と期末レポート（40％）で評価する。

【教科書】

使用しない
テキストはプリントで配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

各回の授業で読むテキストの綿密な予習は必須。丁寧に辞書を引き、気になる箇所については徹底的に考えたうえで授業に臨むこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学270

科目ナンバリング		U-LET19 23551 LJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(講読) American Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小林 久美子	
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金3	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Daddy-Long-Legsを読む				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業ではDaddy-Long-Legsを読みます。日本では『あしながおじさん』のタイトルで親しまれている本作ですが、原文で読むと、今から百年以上前に書かれたとは思えぬほど、生き生きとした語り口で綴られていることに驚きを感じることでしょう。本授業を通じて、英語で小説を読むことの楽しさを学んでください。</p>					
[到達目標]					
<p>英語で書かれた小説の読解法を学ぶ 書簡体小説の分析方法を学ぶ</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回：イントロダクション--本授業で取り上げる作家たちについて 第2回：Daddy-Long-Legsを読む(1) 第3回：Daddy-Long-Legsを読む(2) 第4回：Daddy-Long-Legsを読む(3) 第5回：Daddy-Long-Legsを読む(4) 第6回：Daddy-Long-Legsを読む(5) 第7回：Daddy-Long-Legsを読む(6) 第8回：Daddy-Long-Legsを読む(7) 第9回：Daddy-Long-Legsを読む(8) 第10回：Daddy-Long-Legsを読む(9) 第11回：Daddy-Long-Legsを読む(10) 第12回：Daddy-Long-Legsを読む(11) 第13回：Daddy-Long-Legsを読む(12) 第14回：Daddy-Long-Legsを読む(13) 第15回：まとめ+フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- アメリカ文学(講読)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(講読)(2)

【成績評価の方法・観点】

毎授業後のメールでのコメントシートの提出（20％）・発表（40％：予定回数は2回）・期末レポート（40％）にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表は担当するテキストに関するもので、25分から30分ほどの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。期末レポートは授業内で取りあげたテキストに関するものとする。

【教科書】

Webster, Jean 『Dady-Long-Legs and Dear Enemy』 (Penguin Classics) ISBN:0143039067 (授業中、随時参照するため、必ずこの版を入手すること)

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

本授業はディスカッション主体の授業です。扱う作品を読まないと（毎回およそ15～20ページほどの分量）、何も言えずに終わってしまうので、必ず読んで授業に臨んでください。発表やレポートの形式については初回授業で説明します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学271

科目ナンバリング	U-LET19 23551 LJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(講読) American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 廣田 篤彦		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火1	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	War Poems講読				
[授業の概要・目的]					
<p>第一次世界大戦を契機に、またはその経験をした詩人によって書かれた詩をWar Poemsと呼ぶ。こうした詩の精読を通じて、英語の詩の読み方の基本を身につけるとともに英詩とその背景についての理解を深めることを目指す。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語による韻文テキストの特徴を理解し、自力で読めるようになる。 ・ 辞書を丹念に引きながら語の細かい意味の違いに注意を払う能力を養う。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 インTRODクション あわせて、今後の授業の進め方について説明する。</p> <p>第2-15回 下記指定テキストに収録された詩の精読と内容についての討論。</p> <p>詩ごとの難易度の違いによって、また、担当者の習熟度によって進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことは出来ないが、毎回おおむね一篇を読み進めることを目指す。</p> <p>扱う詩人としては、Thomas Hardy, Edward Thomas, Siegfried Sassoon, Rupert Brooke, Wilfred Owen, Edmund Blundenを予定しているが受講者の希望も考慮する。</p> <p>フィードバックについては授業中に指示をする。</p>					
[履修要件]					
2-4回生を対象とした講読の授業					
----- アメリカ文学(講読)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(講読)(2)

[成績評価の方法・観点]

1. 第2週の授業開始前までに提出を求める、第一次世界大戦と英国の関係についてのレポート40%。これにより詩作品が生まれた背景を理解することを目的とする。詳細については第1週に指示をするので必ず出席すること。提出は単位取得の必要条件である。
2. 到達目標の達成度に基づく平常点60%。正当な理由なく2回欠席した場合は以後の出席を認めない。遅刻は欠席とみなす。

[教科書]

Tim Kendall, ed 『Poetry of the First World War』 (Oxford UP, 2014) ISBN:9780198703204

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予め辞書(特に英英辞典)を丹念に参照して、一語一語についてその意味を検討した上で授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学272

科目ナンバリング		U-LET19 23551 LJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(講読) American Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 南谷 奉良	
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月3	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	George OrwellのKeep the Aspidistra Flying (1936)を読む				
[授業の概要・目的]					
George OrwellのKeep the Aspidistra Flying (1936)の読解を通じて、その作家の語彙や文体、表現技法に習熟しながら、テキストの記述を支えている歴史的・文化的背景を考察する。オーウェルが社会問題として捉えていた拝金主義や商業主義の問題、芸術の衰退、貧困や低賃金労働、知的階級や中産階級、下層中流階級等がキーワードになる。サブテキストとして、John CareyのThe Intellectuals and the Masses: Pride and Prejudice Among the Literary Intelligentsia 1880-1939も参照予定である。					
[到達目標]					
<p>(1) 文学テキストの言葉を文化や歴史と関連づけて理解し、それを自身の知と結びつけて説得的に説明することができる。</p> <p>(2) 文学テキストの読解を通じて各自の興味・関心を発展させ、有益で適切な学術的資料・文献を見つけることができる。</p> <p>(3) 先行研究と自身の関心をもとに文学テキストの読解を行うなかで、ものの見方を変える視点をもつことができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 Introduction</p> <p>第2回 pp.1-22 (ch. 1)</p> <p>第3回 pp.23-38 (ch. 2)</p> <p>第4回 pp.39-66 (ch. 3)</p> <p>第5回 pp.67-86 (ch. 4)</p> <p>第6回 pp.87-112 (ch. 5)</p> <p>第7回 pp.113-135 (ch. 6)</p> <p>第8回 pp.136-168 (ch. 7)</p> <p>第10回 pp.169-197 (ch. 8)</p> <p>第11回 pp.198-226 (ch. 9)</p> <p>第12回 pp.227-247 (ch. 10)</p> <p>第13回 pp.248-269 (ch. 11)</p> <p>第14回 pp.270-277 (ch. 12)</p> <p>第15回 まとめ・質疑応答</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- アメリカ文学(講読)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(講読)(2)

[成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業への参加状況・口頭発表（60％）と学期末レポート（40％）によって評価する。

[教科書]

授業中に指示する
テキストはこちらで配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、一語一語の意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に興味をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは水曜13：30～15：00。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学273

科目ナンバリング	U-LET19 23562 PJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(外国語実習) American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 LUDVIK, Catherine		
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水1	授業形態	実習(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Kyoto's Cultural Heritage, in English Part I				
[授業の概要・目的]					
This course aims at cultivating students' general ability for reading, speaking, listening, and writing.					
[到達目標]					
Through class discussions, assignments, and presentations, this course will enhance the ability of the students to express in English their views on Kyoto's cultural heritage and its preservation.					
[授業計画と内容]					
1. Preserving History: Universities and Museums Kyoto University Museum Reading: Kyoto Museums Guidebook (Kyoto City Board of Education, 1992), pp. 239-240.					
2. Shinto Shrines: Yoshida Jinja Reading: John Breen and Mark Teeuwen, A New History of Shinto (Wiley&Blackwell, 2010), pp. 1-23.					
3. (a) Shinto Spring Festivals: Aoi Matsuri; (b) Discussion on Shinto in Contemporary Japan Reading: Kansai Cool, pp. 43-48; Kyoto Lives, p. 24 “ Inui Mitsutaka, Shrine Priest. ”					
4. Introduction to Buddhism: Commemorating the Life and Passing of the Buddha Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter Three “ City of Buddhism ” pp. 37-59.					
5. Mt. Hiei, “ Mother Mountain of Japanese Buddhism, ” and its Circumambulating Monks Reading: Kyoto Lives, p. 64 “ Kate Connell--Mt. Hiei, Guardian Mountain. ” Assigned Viewing: “ The Monks Risking Death On An Extraordinary Journey, ” Journeyman Pictures (http://www.youtube.com/watch?v=S06oMxdt40A).					
6. Group/Individual Presentations on Sects of Buddhism and Kyoto Temples Readings: Kyoto: A Cultural History, Chapter Five “ City of Zen ” pp. 76-95; Kyoto Lives, pp. 70-71 “ Matsuyama Daiko, Deputy Chief Priest, Taizo ’ in Temple. ”					
7. Discussion on Sects of Buddhism and Kyoto Temples					
8. Zen Temples and Visual Arts: Daitokuji ’ s annual airing of its hanging-scroll paintings; Taizoin ’ s sliding screen painting project Reading: Gregory P. A. Levine, Daitokuji: The Visual Cultures of a Zen Monastery, pp. 83-87. Assigned Viewing: “ Taizoin Hojo; Fusuma-e Painting Project ” (https://www.youtube.com/watch?v=x7JEA658doc).					
9. Pure Land Faith and Monthly Markets: Chionji					
----- アメリカ文学(外国語実習)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(外国語実習)(2)

Reading: “ Chionji ” (handout)

10. "Micro Temples": discussion on temple activities and economy in contemporary Japan

Readings: Kansai Cool, pp. 189-193; Kyoto Lives, pp. 34-35 “ Kajita Shinsho, the Path to Honen-in. ”

11. Group/Individual Presentations on Heian-Period Historical and Literary Figures

Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter One “ City of Kanmu ” pp. 1-19.

12. Discussion on Heian-Period Historical and Literary Figures

Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter Two “ City of Genji ” pp. 20-36; Kyoto Lives, p. 78 “ Setouchi Jakucho--The Tale of Genji. ”

13. Summer Festivals: Gion Matsuri history and traditions

Reading: World Heritage document on “ Yamahoko, the float ceremony of the Kyoto Gion festival. ”

14. Summer Festivals: Gion Matsuri visual arts

15. Course Review

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Class attendance and participation in discussions (20%)

Written assignments (25%)

Class presentations (30%)

Review test (25%)

【教科書】

All readings will be posted on Panda.

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修（予習・復習）等】

Students will be assigned weekly readings (selected chapters of the textbooks and handouts) on various aspects of the cultural heritage and history of Kyoto, which will then be discussed in class.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

アメリカ文学(外国語実習)(3)へ続く

アメリカ文学(外国語実習)(3)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学274

科目ナンバリング	U-LET19 23562 PJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(外国語実習) American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 LUDVIK, Catherine		
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木1	授業形態	実習(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Kyoto's Cultural Heritage, in English Part II				
[授業の概要・目的]					
This course aims at cultivating students' general ability for reading, speaking, listening, and writing.					
[到達目標]					
Through class discussions, assignments, and presentations, this course will enhance the ability of the students to express in English their views on Kyoto's cultural heritage and its preservation.					
[授業計画と内容]					
<p>1. Kyoto's Water Culture: function and impact of water in the lives, culture, and religion of Kyoto people Reading: Kansai Cool, pp. 39-42. Assigned Viewing: Documentary Film "Water, the Lifeblood of Kyoto" (http://fod.infobase.com/p_ViewPlaylist.aspx?AssignmentID=83NZ6P).</p> <p>2. Kyoto Gardens: history, features, and aesthetics Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 91-95 "Dry Landscapes"; pp. 133-138 "Tea Garden" "Tea Room".</p> <p>3. Kyoto Machiya Townhouses: architectural features, functions Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 164-165; Jurgenhake, Birgit, "The qualities of the Machiya: An Architectural Research of a Traditional House in Japan" (2011, http://repository.tudelft.nl/islandora/object/uuid:a9f98f2a-6be7-4693-92ad-26507e69666e?collection=research)</p> <p>4. Kyoto Machiya Townhouses: contemporary preservation measures Readings: World Monuments Fund, "Machiya Townhouses" (https://www.wmf.org/project/machiya-townhouses); Kyoto Machiya Revitalization Project (http://kyoto-machisen.jp/wmf-machiya-project/).</p> <p>5. Individual/Group Presentations on Kyoto Architecture</p> <p>6. Discussion on Kyoto Architecture</p> <p>7. Kyoto Imperial Palace: architectural features and gardens Reading: Judith Clancy, Exploring Kyoto: On Foot in the Ancient Capital (Stone Bridge Press, 2008), pp. 29-36.</p> <p>8. Kyoto State Guesthouse and traditional artisanry In-class Viewing: Documentary Film "Traditional Skills in the Kyoto State Guest House" (Kyoto Convention Bureau, 1990).</p>					
----- アメリカ文学(外国語実習)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(外国語実習)(2)

9. Imperial Convents and Cultural Preservation: Hokyoji and Dolls

Readings: Kansai Cool, pp. 77-81; Amamonzeki: A Hidden Heritage, Treasures of the Japanese Imperial Convents (The Sankei Shinbun, 2009), pp. 120-123; Hokyoji restoration handout.

10. Autumn Festivals: Festival of the Ages (Jidai Matsuri) and Kurama Fire Festival (Hi Matsuri)

Reading: Kyoto Lives, pp. 10-12 “ Festival of the Ages ” by John Dougill; additional handouts.

11. Kyoto Cuisine: types, features

Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 223-225; Donald Richie, “ A Taste of Japan, Introduction ” (Kodansha, 1993), pp. 8-12.

12. Kyoto Cuisine: aesthetics

Readings: Kansai Cool, “ The Still Point: Authenticity Within an Evolving Cuisine, ” pp. 93-105.

Assignment: Cuisine worksheet.

13. Individual/Group Presentations Based on Kyoto Lives Interviews

14. Discussion Based on Kyoto Lives Interviews

15. Course Review

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Class attendance and participation in discussions (20%)

Written assignments (25%)

Class presentations (30%)

Review test (25%)

【教科書】

All readings will be posted on Panda.

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修 (予習・復習) 等】

Readings and discussion questions will be assigned for each class.

アメリカ文学(外国語実習)(3)へ続く

アメリカ文学(外国語実習)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学275

科目ナンバリング	U-LET19 23562 PJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(外国語実習) American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学法学部 教授 JACKSON, Lachlan Rigby		
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水4	授業形態	実習(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Language & Society : Sociolinguistics I				
[授業の概要・目的]					
<p>What is the relationship between language and society? Why do people use languages in the ways that they do? Questions such as these are the concern of sociolinguists. This course is a content-based English course that will provide students with an introduction to fundamental sociolinguistics concepts. This content will be particularly useful to students aspiring to teach English in Junior high schools and high schools in Japan.</p>					
[到達目標]					
<p>This is an interactive and communitive-orientated class aimed at developing the four macro skills (listening, speaking, reading, and writing). Students will be required to reflect on short weekly readings, draw on their own language learning experiences, and share their opinions on a range of sociolinguistics-related topics. Course content will challenge students to think about language teaching and learning from sociolinguistics-informed perspectives, and in so doing, help them develop as future language teachers.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Week Description</p> <p>1 Introduction to the Course: “ What is Sociolinguistics? ” Why do people use language in the ways they do?</p> <p>2 Module 1 - Language Variation: (1) Language & Gender</p> <p>3 (2) Language & Region (Accent and Dialects)</p> <p>4 (3) Language & Social Class</p> <p>5 (4) Language & Age</p> <p>6 Module 2 - Language & Culture: (1) Language & Identity</p> <p>7 (2) The Status of English in Japan</p> <p>8 (3) Is Japan a multilingual society?</p> <p>9 (4) Who/what is a “ native-speaker ” ?</p> <p>10 Module 3 - Language & Change (1) Endangered Languages & language Death</p> <p>11 (2) Neologisms</p> <p>12 (3) Language and Globalization</p> <p>13 (4) Global Englishes</p> <p>14 Presentation Workshop & Final Test</p> <p>15 Student Presentations and Feedback</p>					
----- アメリカ文学(外国語実習)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(外国語実習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Presentation 20%
Short Module Quizzes (3 x 10%) 30%
Final Test 20%
Reflective Journal (3 x 5%) 15%
Classwork 15%

【教科書】

使用しない

There is no set text for this course. The instructor will provide students with worksheets and short weekly readings.

【参考書等】

(参考書)

Edwards, J. 『Sociolinguistics: A Very Short Introduction』 (2013) ISBN:978-0199858613

(関連URL)

languageonthemove.com (A great resource with many very short articles on issues relating to sociolinguistics)

【授業外学修(予習・復習)等】

Students are expected to prepare for each class by completing the assigned short weekly reading tasks.

(その他(オフィスアワー等))

Full participation and interaction with other class members is very important in this course. Students will be required to engage in group and pair work during each class. As a part-time teacher, I do not have a contact hour. I am available just before, during, and after class if you wish to speak to me. You can also email me at this address: lockie@law.ritsumeai.ac.jp.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学276

科目ナンバリング	U-LET19 23562 PJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(外国語実習) American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学法学部 教授 JACKSON, Lachlan Rigby		
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水4	授業形態	実習(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Language and Society: Sociolinguistics II				
[授業の概要・目的]					
<p>What is the relationship between language and society? Why do people use languages in the ways that they do? Questions such as these are the concern of sociolinguists. This course is a content-based English course that will provide students with an introduction to fundamental sociolinguistics concepts. This content will be particularly useful to students aspiring to teach English in Junior high schools and high schools in Japan.</p>					
[到達目標]					
<p>This is an interactive and communitive-orientated class aimed at developing the four macro skills (listening, speaking, reading, and writing). Students will be required to reflect on short weekly readings, draw on their own language learning experiences, and share their opinions on a range of sociolinguistics-related topics. Course content will challenge students to think about language teaching and learning from sociolinguistics-informed perspectives, and in so doing, help them develop as future language teachers.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>1 Introduction to the Course: Why Study Sociolinguistics? 2 Module 1: Language, Technology and the Media (1) Language Study and AI 3 (2) Social Media, Texting Apps, & Communication 4 (3) Are we losing the ability to communicate with one another? 5 (4) ' Fake News ' and ' Information Overload ' 6 Module 2: Language Policy & Planning: (1) Attitudes and Ideologies 7 (2) Official Languages 8 (3) Revitalizing Endangered Languages & Language Rights 9 (4) Language Landscapes 10 Module 3: Language & Education (1) Discourses about Japanese Language Learners 11 (2) Bilingual Education 12 (3) Recent Directions in Language Education 13 (4) The Future of Language Learning 14 Presentation Workshop & Final Test 15 Student Presentations and Feedback</p>					
----- アメリカ文学(外国語実習)(2)へ続く -----					

アメリカ文学(外国語実習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Presentation 20%
Short Module Quizzes (3 x 10%) 30%
Final Test 20%
Reflective Journal (3 x 5%) 15%
Classwork 15%

【教科書】

使用しない

There is no set text for this course. The instructor will provide students with worksheets and short weekly readings.

【参考書等】

(参考書)

Edwards, J. 『Sociolinguistics: A Very Short Introduction』 (2013) ISBN:978-0199858613

(関連URL)

languageonthemove.com (A great resource with many very short articles on issues relating to sociolinguistics)

【授業外学修(予習・復習)等】

Students are expected to prepare for each class by completing the assigned short weekly reading tasks.

(その他(オフィスアワー等))

Full participation and interaction with other class members is very important in this course. Students will be required to engage in group and pair work during each class. As a part-time teacher, I do not have a contact hour. I am available just before, during, and after class if you wish to speak to me. You can also email me at this address: lockie@law.ritsumeai.ac.jp.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET21 13604 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(フランス文学)(講義) French Literature (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 永盛 克也	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	レトリックと文学 - フランス文学の場合				
[授業の概要・目的]					
<p>西洋の古代から近代に至るまで、言論に関するあらゆる技術の基盤となっていたのがレトリック(弁論術・修辞学)であるとすれば、そのレトリックが創作原理に応用されたものがポエティック(詩学)であった。つまり、レトリックと文学は古代より密接な関係を持っていたわけである。近現代においては創作におけるレトリックの直接的な影響は減じ、論証と説得というその本来の目的は遠景に退き、レトリックはむしろ修辞的文彩という文体の技術に限定されて受け継がれることになった。しかしながら今日でもなお、レトリックは受容と批評の観点から文学研究の重要な参照枠であり続けている。</p> <p>その一方で、レトリックに対して古代より批判的な視点が存在したことも事実である。「真の雄弁とは雄弁を馬鹿にするものである」と述べたパスカルに代表されるように、文学は常にレトリックの超克を目指す営みであるとも言える。</p> <p>以上のような論点をフランス文学史の流れに沿って検証し、レトリックと文学が取り結ぶ緊密かつ緊張感を伴った関係について考察を加えることにする。</p>					
[到達目標]					
レトリック(弁論術・修辞学)の体系を理解すること、文学におけるレトリックの役割をフランス文学史の流れの中で理解すること、またレトリックの観点をふまえた文学作品の分析の手法を修得することを目標とする。					
[授業計画と内容]					
基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし、講義の進みぐあいに対応して順序や同一テーマの回数を変えることがある。					
第1回 イン트로ダクション レトリックとは何か レトリックと文学					
第2回～第4回 西洋におけるレトリックの体系と歴史					
第5回～第6回 16世紀フランス文学におけるレトリック - モンテーニュなど					
第7回～第8回 17世紀フランス文学におけるレトリック - パスカル、コルネイユ、ラシーヌなど					
第9回～第10回 18世紀フランス文学におけるレトリック - デュマルセ、ルソーなど					
第11回～第12回 19世紀フランス文学におけるレトリック - フォンタニエ、シャトーブリアン、ユゴーなど					
第13回～第14回 20世紀フランス文学におけるレトリック - ポーラン、バルト、ジュネットなど					
第15回 まとめ					
----- 系共通科目(フランス文学)(講義)(2)へ続く -----					

系共通科目(フランス文学)(講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

期末レポート(100%)

[教科書]

プリント等を配布する

[参考書等]

(参考書)

アリストテレス 『弁論術』(岩波文庫, 1992) ISBN:978-4003360484 (戸塚七郎訳 ISBN-10: 4003360486)

クルツィウス 『ヨーロッパ文学とラテン中世』(みすず書房, 1971) ISBN:978-4622007166 (南王路, 岸本, 中村訳 ISBN-10: 4622007169)

佐藤, 松尾, 佐々木 『レトリック事典』(大修館書店, 2006) ISBN:978-4469012781 (ISBN-10: 4469012785)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で抜粋を読んだ作品を通して読んでみる。授業で紹介する関連図書を参照すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET21 13606 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(フランス文学)(講義) French Literature (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 森本 淳生	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	フランス研究入門 文学・思想・映画				
[授業の概要・目的]					
<p>17世紀から現代にいたるフランスの文学と思想を、いくつかの代表的な作品を具体的に読み解き、ときに関連する映画を鑑賞しながら、概観する授業です(フランス語の知識は前提としません)。</p> <p>フランスは17世紀前半、リシュリュー枢機卿が宰相であった時代に中央集権的な王権の基礎を固め、世紀後半、ルイ14世の親政とともに絶対王政を確立します。この時代に、ラシーヌやモリエールといった作家たちが現在まで読み継がれる古典的な文学作品を生み出しました。授業では時代の背景を押さえつつ、映画『王は躍る』(2000年、ジェラルド・コルビオ監督)を鑑賞し、関連するモリエールの諸作品 とくに『タルチュフ』(1664) について考えます。</p> <p>つづく18世紀はいわゆる啓蒙主義が花開き、モンテスキュー、ヴォルテール、ディドロ、ルソーといった錚々たる思想家・文学者が現れた時代です。授業では、こうした時代の思潮をふまえて、パリを訪れたペルシア人による文明批評の手紙という体裁で書かれた『ペルシア人の手紙』(1721)を具体的に読み解いていきます。</p> <p>フランス革命を経た19世紀については、まず、ユゴーの有名な『レ・ミゼラブル』(1862)を映画版(1957年、ジャン=ポール・ル・シャノワ監督)およびテキストの抜粋を使いながら考えてみたいと思います。ユゴーはフランス革命の成果を「ヒューマンイズム」として捉え、それが実際には必ずしも十全に実現されていない現実の世界を生きる「惨めな人々」を描き出しています。19世紀はまた、そうした赤裸々な「現実」が、バルザック、フロベール、ゾラといった作家によって小説作品に描かれた、リアリズム、自然主義の時代でもありました。授業ではその記念碑的な作品のひとつであるフロベールの『ボヴァリー夫人』(1857)について映画版(1933年、ジャン・ルノワール監督)も見ながら考えてみます。</p> <p>以上のような産業主義の発展とともに爛熟するブルジョワ社会と悲惨を強いられ貧窮する庶民の生活を特徴とする「現実世界」への強い批判として、世紀後半には象徴主義と呼ばれるある手の理想主義的な思潮が生まれてきます。授業ではその代表的な詩人であるステファヌ・マラルメの作品を、同時代の美術作品なども参照しながら紹介したいと思います。</p> <p>20世紀については、いわゆる実存主義で著名なカミュの『異邦人』(1942)を映画版(1967年、ルキノ・ヴィスコンティ監督)も見ながら考えてみましょう。これは「神が死んでしまった」現代世界において生きるとはいかなることなのかを考えるうえできわめて重要な作品です。そして最後に、現代に特徴的な、記憶と世界の迷宮的なあり方を、ほとんど呪文的とも言える言葉と息をのむほどに美しい映像によって見事に表現した、レネ・ロブ=グリエの『去年マリエンバードで』(1961)を鑑賞して終わることにしたいと思います。</p>					
系共通科目(フランス文学)(講義)(2)へ続く					

系共通科目(フランス文学)(講義)(2)

【到達目標】

- フランス文学について、17世紀から現代にいたる流れの概略を理解し、いくつかの代表的作品について具体的なイメージを獲得する。
- 作品分析の基本的な作業について、具体的なイメージを獲得する。

【授業計画と内容】

イントロダクション：授業の概要と進め方

17世紀(1)：ルイ14世と絶対王政の確立 『王は踊る』とモリエール(1)

17世紀(2)：ルイ14世と絶対王政の確立 『王は踊る』とモリエール(2)

18世紀(1)：啓蒙の世紀 モンテスキュー 『ペルシア人の手紙』を読む(1)

18世紀(2)：啓蒙の世紀 モンテスキュー 『ペルシア人の手紙』を読む(1)

19世紀(1)：ヒューマンイズムの行方 ユゴー 『レ・ミゼラブル』を読む／見る(1)

19世紀(2)：ヒューマンイズムの行方 ユゴー 『レ・ミゼラブル』を読む／見る(2)

19世紀(3)：リアリズムと近代小説 フロベール 『ボヴァリー夫人』を読む／見る

19世紀(4)：世紀末と象徴主義 マラルメを読む

20世紀前半(1)：カミュ 『異邦人』を読む／見る(1)

20世紀前半(2)：カミュ 『異邦人』を読む／見る(2)

20世紀後半(1)：レネ／ロブ＝グリエ 『去年マリエンバード』を読む／見る(1)

20世紀後半(2)：レネ／ロブ＝グリエ 『去年マリエンバード』を読む／見る(2)

まとめ

期末試験

フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点50パーセント、期末試験50パーセント

【教科書】

プリント配布

【参考書等】

(参考書)

横山安由美、朝比奈美知子編著 『はじめて学ぶフランス文学史』(ミネルヴァ書房、2002年)

ISBN:4-623-03490-9(コンパクトかつ充実した概説書)

永井敦子、畠山達、黒岩卓編著 『フランス文学の楽しみかた』(ミネルヴァ書房、2021) ISBN:

978-4-623-09076-1(代表的作品の解説と、興味深い数々のコラム)

モリエール(鈴木力衛訳) 『タルチュフ』(岩波文庫) ISBN:978-4003251225(たぐいまれな名訳)

モンテスキュー(田口卓臣訳) 『ペルシア人の手紙』(講談社学術文庫) ISBN:978-4065193419(解説も充実した最新訳)

ユゴー(西永良成訳) 『レ・ミゼラブル(全五冊)』(平凡社ライブラリー)

フロベール(芳川泰久訳) 『ボヴァリー夫人』(新潮文庫) ISBN:978-4102085028(読みやすい新

系共通科目(フランス文学)(講義)(3)

訳)

マラルメ(渡辺守章訳)『マラルメ詩集』(岩波文庫)ISBN:978-4003750865

カミュ(窪田啓作訳)『異邦人』(新潮文庫)ISBN:978-4102114018

ロブ=グリエ(天沢退二郎・蓮実重彦訳)『去年マリエンバートで・不滅の女』(筑摩書房、1969年)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業でとりあげる作品については、「参考書等」の欄でしめした翻訳をひとつでもよいので実際に手にとり読んでみてください。

(その他(オフィスアワー等))

KULASISの「オフィスアワー機能」を参照。

この授業は、2023年度後期と同一の内容です。ご注意ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET21 23607 LJ36				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(フランス語学)(講義) French Language (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	関西学院大学文学部 教授 小田 涼		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	フランス語学概論				
[授業の概要・目的]					
この講義の目的は、フランス語の語彙や構文の分析方法を学び、言語学としてフランス語を研究するための入門的な知識を身につけることである。ときに日本語や英語と比較しながらフランス語のさまざまな表現の違いについて考え、フランス語を学問として研究するための基本的な知識を学ぶ。					
[到達目標]					
フランス語とはどういう言語であるか、語彙論、意味論、統語論、語用論などの観点からアプローチしてその全体像を把握できるようになる。フランス語学についての基礎的知識と分析方法を習得する。					
[授業計画と内容]					
基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし、講義の進み具合やその他の事情によりテーマの順序やテーマの一部を変更することがある。また、1つのテーマを2回の授業で扱うこともある。					
第1回：ソシュールと言語学の基本概念、言語学・フランス語学とは何か。 第2回：「持つ(avoir)」的言語と「ある(etre)」的言語 (Have languageとBe language) 第3回：フランス語の名詞の性は何のために存在するのか 第4回：カテゴリー化 (= 範疇化) について 第5回：冠詞と意味の切り分け (英語の可算名詞と非可算名詞の区別はフランス語ではどのように現れるのか) 第6回：総称 (ものごと一般) をあらわす定冠詞単数・複数と不定冠詞単数 第7回：名詞を修飾する形容詞の位置 「le petit Chaperon rouge (赤頭巾ちゃん) では形容詞rougeを名詞の後ろにおくのに、Blanche Neige (白雪姫) では形容詞blancheを名詞の前におくのはなぜか」 第8回：否定：分離的否定、否定の作用域 第9回：叙法(mode)について (直説法、条件法、接続法、命令法) 第10回：情報構造と語順「フランス語の補語人称代名詞はなぜ動詞の前に出るのか」 第11回：不定代名詞のonとBenvenisteの人称論 第12回：BenvenisteによるHistoireとDiscoursの区別 第13回：代名動詞のさまざまな用法 (再帰用法・相互用法・受動的用法) 第14回：まとめ (フィードバック)					
[履修要件]					
フランス語初級を習得しているか、あるいは基本的なフランス語の文法知識があること。					
----- 系共通科目(フランス語学)(講義)(2)へ続く -----					

系共通科目(フランス語学)(講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業の後に取り組んでもらう7回から10回の課題（オンライン提出）の達成度により評価する。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

常日頃から外国語や日本語のさまざまな現象を観察して、言葉に関する直感を磨くよう心がけること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET21 33648 SJ36				
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学（演習I） French Language and Literature	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 鳥山 定嗣		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	Introduction à la versification française				
[授業の概要・目的]					
フランス詩の古典的規則（詩法）の習得を主眼とし、テキスト読解、分析、詩作実践を通してフランス詩の研究方法の入門指導をする。					
[到達目標]					
フランス詩法の基礎を理解し、フランス詩の分析手法を身につけることをめざす。					
[授業計画と内容]					
第1回	イントロダクション フランス詩の特徴について				
第2回	音節数と脚韻（1）				
第3回	音節数と脚韻（2）				
第4回	音節数と脚韻（3）				
第5回	詩作実践のフィードバック				
第6回	韻律と句切り（1）				
第7回	韻律と句切り（2）				
第8回	脚韻の種類（1）				
第9回	脚韻の種類（2）				
第10回	詩作実践のフィードバック				
第11回	音と意味（1）				
第12回	音と意味（2）				
第13回	定型詩（1）				
第14回	定型詩（2）				
第15回	詩作実践のフィードバック				
[履修要件]					
中級程度のフランス語の語学力が必要。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点（授業での発表と課題の提出）が重視される（70%）。そのほかに学期末レポートが課される（30%）。					
----- フランス語学フランス文学（演習I）(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学（演習I）(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

平常点が重視されるので、次回授業分の予習を全員がすることが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

フランス語学フランス文学専修の3回生にとっては必修科目である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学281

科目ナンバリング		U-LET21 33648 SJ36			
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学（演習I） French Language and Literature	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 村上 祐二		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	Introduction à l'analyse des textes littéraires				
[授業の概要・目的]					
フランス語読解力の養成を主眼としつつ、批評的文章の和訳・要約を通じてフランス文学の研究手法の入門指導をする。 フランス語学フランス文学専修の3回生にとっては必修の授業。					
[到達目標]					
文学的テキストの分析手法を身につけること、中級程度のフランス語で書かれたフランス文学に関する研究文献を読めるようになること。					
[授業計画と内容]					
批評的文章や研究書・研究論文の読解への入門を行う。文学研究において重要となる概念や理論、あるいは文学史に関する論文を読解の対象とし、和訳や要約のプロセスを通して内容の理解を目指すとともに、アカデミックな文体のフランス語の読み方を学ぶ。卒業論文準備の過程でフランス語の研究文献を参照する際に、内容を正確に理解するための訓練ともなる。授業は以下のプランに沿って進める。					
第1回 イン트로ダクション					
第2回 文学批評テキストの抜粋を和訳（1）					
第3回 文学批評テキストの抜粋を和訳（2）					
第4回 文学批評テキストの抜粋を和訳（3）					
第5回 文学批評テキストの抜粋を和訳（4）					
第6回 文学批評テキストの抜粋を和訳（5）					
第7回 文学批評テキストの抜粋を要約（1）					
第8回 文学批評テキストの抜粋を要約（2）					
第9回 文学批評テキストの抜粋を要約（3）					
第10回 文学批評テキストの抜粋を要約（4）					
第11回 受講者による発表（1）					
第12回 受講者による発表（2）					
第13回 受講者による発表（3）					
第14回 受講者による発表（4）					
第15回 受講者による発表（5）					
[履修要件]					
中級程度のフランス語の語学力が必要。					
----- フランス語学フランス文学（演習I）(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学（演習I）(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点評価

[教科書]

授業中にプリント等を配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

平常点が重視されるので、次回授業分の訳読の予習を全員がすることが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学282

科目ナンバリング	U-LET21 23651 LJ36				
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(講読) French Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 鳥山 定嗣		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月3	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	19世紀フランス詩を読む				
【授業の概要・目的】					
フランス・ロマン主義を代表する作家ヴィクトル・ユゴー (Victor Hugo, 1802-1885) は『レ・ミゼラブル』や『ノートルダム・ド・パリ』といった小説で広く知られるが、詩人としても偉業を残した。本授業ではユゴーの詩集のなかでも特に評価の高い『静観詩集』 (Les Contemplations, 1856)を精読する。					
【到達目標】					
フランス語文法の正確な知識を身につける。 正しい音読の仕方を身につける。 詩作品の読解の方法を身につける。					
【授業計画と内容】					
第1回 イントロダクション 詩人と作品の紹介 第2回～第14回 毎回数篇の詩を対象として、受講者が音読および訳読を担当するかたちで進める。文法事項や詩の技法、各詩篇の歴史的・政治的背景、詩集における位置と役割などについて補足説明を行う。 第15回 フィードバック 授業中に指示					
【履修要件】					
受講者には毎回授業の予習と積極的な参加が求められる。					
【成績評価の方法・観点】					
授業での発表(100%)					
【教科書】					
プリントを配布する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
テキストの音読、構文の把握、未習の語彙・表現を辞書で調べておくこと。 (その他(オフィスアワー等)) 授業内での積極的な質問を歓迎する。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学283

科目ナンバリング	U-LET21 23651 LJ36				
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(講読) French Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 村上 祐二		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月3	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ジャン=ポール・サルトル 『嘔吐』を読む				
【授業の概要・目的】					
フランスの作家・哲学者ジャン=ポール・サルトル(1905-1980)の小説『嘔吐』(1938)を取り上げ、フランス語原典で精読する。必要に応じて作品の着想源や草稿なども紹介する。					
【到達目標】					
フランス語文法の正確な知識を身につける。 正しい音読の仕方を身につける。 文学作品の読解の方法を身につける。					
【授業計画と内容】					
該当場面をフランス語原文で、音読も重視しつつ丁寧に読み進める。文法的な説明の他、文体の分析も行う。授業は以下のプランに沿って進める。					
第1回 イントロダクション(作者と作品の紹介。授業の進め方の説明) 第2回~第14回 Jean-Paul Sartre, La Nausée (Paris, Gallimard, 1938)の抜粋をフランス語原典で精読 第15回 総括					
【履修要件】					
受講者には丁寧な予習が求められる。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点評価					
【教科書】					
プリントを配布する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
単語の発音および構文の把握。また未習の語彙、表現、固有名を辞書等で調べておくこと。 (その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学284

科目ナンバリング	U-LET21 23651 LJ36				
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(講読) French Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 柴田 秀樹		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月5	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	フィリップ・サボ『哲学と文学』を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>哲学と文学とは、今日では一般に異なる分野とみなされている。しかし、両者の境界は必ずしも自明なものではない。フーコー研究者として知られるフィリップ・サボが2002年に上梓した著作『哲学と文学：ひとつの問題への様々なアプローチと争点』は、その表題が示すとおり、哲学と文学との錯綜した関係を正面から扱ったものである。サボはこの著作で、プラトンからデカルトを経てハイデガー、フーコー、ドゥルーズやバディウに至る哲学者たちが文学をいかに論じてきたかを概観し、哲学と文学との理想的な関係のあり方を模索している。平易でありながら広範な哲学者・作家を俎上に載せたサボの議論は、哲学を志す者にとっても、文学に関心を持つ者にとっても刺激的なものだろう。本授業ではサボの著作を読解することを通じて、フランス語能力を向上させるとともに、西洋哲学・文学に関する基礎的な知識を身につけることを目的とする。</p>					
[到達目標]					
フランス語文献の読解能力を身に着け、哲学と文学の関係について考察するための基礎的な知識を習得する。					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション(授業の進め方についての説明、分担範囲の決定および読解のための前提知識の共有)</p> <p>第2回～第14回 担当者は割り当てられた箇所について訳文を作成し、適宜コメントを加えたレジュメを準備したうえで発表する。担当者ではない出席者も必ず予習をして臨み、意見・質問を出すこととする。</p> <p>第15回 総括</p>					
[履修要件]					
フランス語の基礎的な文法を一通り学習済みであること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(翻訳およびコメント)100%					
[教科書]					
教科書は使用せず、プリントを配布する。					
----- フランス語学フランス文学(講読)(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習：割り当てられた箇所を訳出し、適宜コメントを加えたレジюмеを作成する。担当者ではない出席者も、必ず一読して授業に臨むこと。

復習：授業で扱った範囲の内容や文法上重要な箇所を再確認する。

(その他(オフィスアワー等))

授業中に指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学285

科目ナンバリング					
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学（外国語実習） French Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH		
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火4	授業形態	実習（対面授業科目）	使用言語	フランス語
題目	Literary analyzis				
【授業の概要・目的】					
<p>This course offers an introduction and a reinforcement to methods of literary analyzis known as close-reading. Students will learn how to identify, analyze and interpret stylistic phenomena and linguistic techniques in French literary texts while reinforcing their grammatical and lexical knowledge. They will also practise academic writing in French.</p>					
【到達目標】					
<p>This class is designed to help students:</p> <ul style="list-style-type: none"> - identify and analyze specific formal features in French literary texts - improve their academic writting skills in French <p>The class will be conducted in French by a native speaker.</p>					
【授業計画と内容】					
<p>After an introductory lecture (week 1) presenting the goals and the exercices of the class, we will work on various excerpts from French literary classics, and practice exercices on grammatical structures, lexical fields, stylistical, linguistical and rhetorical features (weeks 2-14). Total : 14 classes and 1 feedback (week 15)</p>					
【履修要件】					
<p>This course is meant for third year students who are specializing in French Literature, but every student who wants or must use French literature in their research can find an interest in it.</p>					
【成績評価の方法・観点】					
<p>The students will be evaluated through continuous assessment : two written essays (40% + 40%), but also active participation in class (20%).</p>					
----- フランス語学フランス文学（外国語実習）(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学(外国語実習)(2)

[教科書]

使用しない

The instructor will provide all the reading material. However, students are expected to bring a notebook to take notes during each lecture.

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

It is necessary to prepare the texts before the class.

(その他(オフィスアワー等))

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学286

科目ナンバリング					
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(外国語実習) French Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH		
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火4	授業形態	実習(対面授業科目)	使用言語	フランス語
題目	Literary analyzis				
[授業の概要・目的]					
<p>This course offers an introduction and a reinforcement to methods of literary analyzis known as close-reading. Students will learn how to identify, analyze and interpret stylistic phenomena and linguistic techniques in French literary texts while reinforcing their grammatical and lexical knowledge. They will also practise academic writing in French.</p>					
[到達目標]					
<p>This class is designed to help students:</p> <ul style="list-style-type: none"> - identify and analyze specific formal features in French literary texts - improve their academic writting skills in French <p>The class will be conducted in French by a native speaker.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>After an introductory lecture (week 1) presenting the goals and the exercices of the class, we will work on various excerpts from French literary classics, and practice exercices on grammatical structures, lexical fields, stylistical, linguistical and rhetorical features (weeks 2-14). Total : 14 classes and 1 feedback (week 15)</p>					
[履修要件]					
<p>This course is meant for third year students who are specializing in French Literature, but every student who wants or must use French literature in their research can find an interest in it.</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<p>The students will be evaluated through continuous assessment : two written essays (40% + 40%), but also active participation in class (20%).</p>					
----- フランス語学フランス文学(外国語実習)(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学(外国語実習)(2)

【教科書】

使用しない

The instructor will provide all the reading material. However, students are expected to bring a notebook to take notes during each lecture.

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

It is necessary to prepare the texts before the class.

(その他(オフィスアワー等))

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学287

科目ナンバリング	U-LET49 39636 LJ48				
授業科目名 <英訳>	フランス語（上級）（語学） French	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水2	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	フランス語
題目	Advanced French				
【授業の概要・目的】					
<p>This course is designed to give students who have already begun to deepen their understanding of the French language and culture the opportunity to master a fuller range of vocabulary, structures and cultural information.</p> <p>Upon completion of this course, students should be able to take the advanced French proficiency test (DELFB2 or DALF C1), required to enter French universities.</p> <p>The class will be conducted in French by a native speaker.</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> - Strengthen listening comprehension and reading from various documents - Consolidate grammar and lexical use - Increase knowledge on oral and written structures in French applied to academic (or formal) speaking and writing - Develop communicative skills 					
【授業計画と内容】					
<p>After an introductory lecture (week 1), we will train on various exercises, fitting the schemes of the DELFB/DALF exam: oral and written comprehension, oral and written production (week 2-14).</p> <p>Total:14 classes and 1 feedback</p>					
【履修要件】					
To attend to this class, students must already have a good level in French.					
【成績評価の方法・観点】					
The students will be evaluated through continuous assessment: this includes 2 tests during the semester, but also participation (classroom behavior, personal work).					
----- フランス語（上級）（語学）(2)へ続く -----					

フランス語（上級）(語学)(2)

[教科書]

Myriam Abou-Samra, Elodie Heu, Marion Perrard, Amadine Caraco 『Edito. Méthode de français. B2』 (2022) ISBN:9782278103669 (Editor : Didier Français Langue Etrangère. Fourth Edition.)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

Regular class attendance is essential. Short assignments will occasionally be given.

(その他（オフィスアワー等）)

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 39636 LJ48				
授業科目名 <英訳>	フランス語（上級）（語学） French	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水2	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	フランス語
題目	Advanced French				
【授業の概要・目的】					
<p>This course is designed to give students who have already begun to deepen their understanding of the French language and culture the opportunity to master a fuller range of vocabulary, structures and cultural information.</p> <p>Upon completion of this course, students should be able to take the advanced French proficiency test (DELFB2 or DALF C1), required to enter French universities.</p> <p>The class will be conducted in French by a native speaker.</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> - Strengthen listening comprehension and reading from various documents - Consolidate grammar and lexical use - Increase knowledge on oral and written structures in French applied to academic (or formal) speaking and writing - Develop communicative skills 					
【授業計画と内容】					
<p>After an introductory lecture (week 1), we will train on various exercises, fitting the schemes of the DELF/DALF exam: oral and written comprehension, oral and written production (week 2-14).</p> <p>Total:14 classes and 1 feedback</p>					
【履修要件】					
<p>To attend to this class, students must already have a good level in French.</p>					
【成績評価の方法・観点】					
<p>The students will be evaluated through continuous assessment: this includes 2 tests during the semester, but also participation (classroom behavior, personal work).</p>					
----- フランス語（上級）（語学）(2)へ続く -----					

フランス語（上級）(語学)(2)

[教科書]

Myriam Abou-Samra, Elodie Heu, Marion Perrard, Amadine Caraco 『Edito. Méthode de français. B2』 (2022) ISBN:9782278103669 (Publisher : Didier Français Langue Etrangère. Fourth Edition.)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

Regular class attendance is essential. Short assignments will occasionally be given.

(その他（オフィスアワー等）)

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET22 13702 LJ36			
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(講義) Italian Language and Literature (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 村瀬 有司		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	イタリア文学史(前期)				
[授業の概要・目的]					
<p>イタリア文学は、中世から現代に至るまで多数の傑作を擁しています。特に13世紀から16世紀の俗語作品は、イタリア半島のみならずヨーロッパ各国の文化に大きな影響を及ぼしました。前期の講義では13世紀から14世紀の主要な詩人と作品を紹介しながら、イタリア語とイタリア文学の歴史を概観します。宮廷風恋愛やアレゴリーといった西洋文化の重要概念についても言及する予定です。</p>					
[到達目標]					
<p>イタリア語とイタリア文学についての基礎的な知識を身につける。 西洋文化の重要なトピックについて理解を深める。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下の予定で授業を進めていきます。</p> <p>初回：イントロダクション</p> <p>第2-14回：(1つの項目につき1-3回の授業を予定)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イタリア語(俗語)の成立とイタリア語の特徴 ・イタリア文学の元祖、シチリア派の詩人たち(ソネットの誕生) ・聖フランチェスコと『被造物の賛歌』 ・シチリアからトスカーナへ：清新体派の詩人たち ・ダンテと『神曲』について(数字の神秘・アレゴリー、比喩の魅力と語りの技法) ・ペトラルカと『カンツォニエーレ』(西欧の抒情詩の源泉) ・ボッカッチョと『デカメロン』(笑いと教えるの百物語) ・人文主義の始まり <p>(レポートの註と参考文献の表記、引用の仕方についても授業のなかで紹介する予定)</p> <p>第15回：フィードバック</p>					
[履修要件]					
<p>イタリア語の知識は必要ありません。</p>					
----- イタリア語学イタリア文学(講義)(2)へ続く -----					

イタリア語学イタリア文学(講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点 (30%)

期末のレポート (70%)

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介します。

[授業外学修(予習・復習)等]

PandAの「授業資料」に掲載するプリントにできるだけ目を通しておきましょう。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET22 13703 LJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(講義) Italian Language and Literature (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 村瀬 有司		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	イタリア文学史(後期)				
[授業の概要・目的]					
<p>イタリア文学は中世から現代に至るまで多数の傑作を擁しています。特に13世紀から16世紀の俗語作品は、イタリアのみならずヨーロッパ各国の文化に深甚な影響を及ぼしています。後期の講義では15-16世紀の主要な詩人・文人ならびに文化現象を紹介しながら、イタリア語とイタリア文学の歴史を概観します。</p>					
[到達目標]					
<p>イタリア語とイタリア文学についての基礎的な知識を身につける。 西洋文学の重要概念について理解を深める。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下の予定で授業を進めていきます。</p> <p>初回：イントロダクション</p> <p>2回～14回：(1つの項目につき1～3回の授業を予定)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人文主義について ・騎士物語(ボイアルドとアリオスト) ・16世紀の言語論争 ・arte(技・技術)とnatura(自然)について ・マキアベリと『君主論』 ・インプレーサとメタファーについて ・創作理論の探求(トルクアート・タツソの詩論) <p>第15回：フィードバック</p>					
[履修要件]					
イタリア語の知識は必要ありません。					
[成績評価の方法・観点]					
<p>平常点(30%) 期末のレポート(70%)</p>					
----- イタリア語学イタリア文学(講義)(2)へ続く -----					

イタリア語学イタリア文学(講義) (2)

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介します。

[授業外学修(予習・復習)等]

PandAに掲示する関連プリントにできるだけ目を通しておきましょう。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET22 23751 LJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(講読) Italian Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 村瀬 有司		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水4	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	イタリア史講読(前期)				
[授業の概要・目的]					
<p>16世紀のイタリアを概観したI. Montanelli / R. Gervasoの“ L'Italia della Controriforma 1492-1600 ”の第1部"La penisola"からユリウス2世とレオ10世を取り上げた章を読みます。</p> <p>イタリア人による歴史書は、日本人によって執筆されたものとは史観・価値観が異なるうえに、イタリア人の読者を想定したものであるためにこれを読むにあたって必要となる知識もまた異なります。このような原書の講読は、イタリア文化そのものにダイレクトに触れる機会を与えてくれるはずで</p> <p>本書は比較的平易なイタリア語で書かれており、これを精読することによって伊語テキストの読解力を効率よく培うことができるでしょう。この読解力の養成が授業の主要な目的となります。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・平易なイタリア語文献を自力で読解できるようになること。 ・イタリア史の基礎知識を習得すること。 					
[授業計画と内容]					
<p>以下の予定で授業を進めていきます。</p> <p>初回(イントロダクション) 授業の進め方、評価方法について説明します。あわせて使用テキストと講読する章を簡単に紹介します。</p> <p>2回~14回 必要に応じてイタリア語文法を確認しながら読み進めます。重要な専門用語や固有名詞については適宜説明を入れる予定です。</p> <p>15回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
イタリア語文法を学んでいること。					
[成績評価の方法・観点]					
毎回提示する簡単な和訳の問題をもとに評価します。					
----- イタリア語学イタリア文学(講読)(2)へ続く -----					

イタリア語学イタリア文学(講読)(2)

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習に際しては、単語の意味を調べるだけでなく書かれている内容を自分なりに把握することに努めましょう。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET22 23751 LJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(講読) Italian Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 村瀬 有司		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水4	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	イタリア史講読(後期)				
[授業の概要・目的]					
<p>100枚の写真に即してイタリア近現代史のトピックを紹介した“Storia d'Italia in 100 foto”(V. Vidotto, E. Gentile, S. Colarizi, G. De Luna著)を講読します。</p> <p>イタリア人による歴史書は、日本人によって執筆されたものとは史観・価値観が異なるうえ、イタリア人の読者を想定したものであるためにこれを読むにあたって必要となる知識もまた異なります。このような原書の講読は、イタリア文化そのものにダイレクトに触れる機会を与えてくれるはずです。</p> <p>1860年から2017年までのイタリアを対象に、写真1枚につき1頁の解説をコンパクトに組み合わせた本書は、オーソドックスなイタリア語散文で書かれており、伊語テキストの読解力を効率よく身につけることができます。この読解力の養成が授業の主要な目的となります。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・イタリア語文献を自力で読み解くことができるようになること。 ・イタリア史の基礎知識を習得すること。 					
[授業計画と内容]					
<p>以下の予定で授業を進めていきます。</p> <p>初回(イントロダクション) 授業の進め方、評価方法について確認をします。あわせて後期の講読テキストについて簡単に説明をします。</p> <p>2回~14回(講読) 必要に応じて文法事項を確認しながらテキストを読み進めます。重要な専門用語や固有名詞についても適宜補足説明をする予定です。</p> <p>15回(フィードバック)</p>					
[履修要件]					
イタリア語文法を学んでいること。					
----- イタリア語学イタリア文学(講読)(2)へ続く -----					

イタリア語学イタリア文学(講読)(2)

[成績評価の方法・観点]

毎回提示する簡単な和訳問題をもとに評価します。

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習にあたっては、文法の知識に基づいて正確に文を読み解くことを心がけましょう。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学293

科目ナンバリング	U-LET22 23751 LJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(講読) Italian Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸大学 グローバル教育センター 教授 河合 成雄		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火4	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	イタリア語講読(前期)				
【授業の概要・目的】					
比較的平易な文学と新聞記事を精読します。イタリア語の読解力を養成することが授業の目的となります。					
【到達目標】					
平易なイタリア語の文章を自力で読解できるようになるとともに、イタリア文学の背景になる知識を身に着けます。					
【授業計画と内容】					
初回(ガイダンス)にごく平易な文章を読み、個々の参加者のイタリア語の読解力や興味の範囲を確認しながら、第2回以降の読み物を考えます。					
2回~14回 必要に応じて文法事項を確認しながらイタリア語の文章を精読します。授業の前半は新聞記事を、後半はごく平易な文学作品を読む予定です。					
15回 フィードバック					
期末試験を実施します。					
【履修要件】					
イタリア語文法の基礎知識を備えていること。					
【成績評価の方法・観点】					
授業中の発表を50%、期末試験を50%として、評価します。					
【教科書】					
プリント配布。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介します。					
【授業外学修(予習・復習)等】					
毎回必ず課題の文章を読んでください。単に読むだけでなく、文章の内容をしっかりと把握し、背景となる知識についても前もって調べてきてください。					
(その他(オフィスアワー等))					
質問は授業の前後に受け付けます。質問や相談が多い場合には、適宜Zoomで予約制により、受け付けます(月曜日10:30-12:00)。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

文献文化学294

科目ナンバリング	U-LET22 23751 LJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(講読) Italian Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸大学 グローバル教育センター 教授 河合 成雄		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火4	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	イタリア語講読(後期)				
【授業の概要・目的】					
イタリア文学について、なるべく平易な文章を読みながら基礎的な素養を身につける。同時に、個々の学生の専門性に応じて読む題材を絞り込みつつイタリア語の読解力も身につける。					
【到達目標】					
自力でイタリア語の原文を読み解く力をつけます。また、様々なイタリア語に慣れるとともに、文学史上必須の知識を学びます。学生個々の専門性に応じて、イタリア文学、あるいはイタリア文化の背景について考察ができるようになります。					
【授業計画と内容】					
初回(ガイダンス)					
2回~4回 ごく平易なイタリア語の文章を読みながら、本格的に読む題材を探します。					
5回~14回 2,3回ずつテーマや文章を決めつつ、イタリア語を精読するとともに、学生個々の専門の背景から1回は発表を行う。					
15回 期末試験・フィードバックを実施します。					
【履修要件】					
イタリア語文法の基礎知識を備え、イタリア語の文章を読んだ経験があること。					
【成績評価の方法・観点】					
授業中の発表を50%、期末試験を50%として、評価します。					
【教科書】					
プリント配布。場合によっては、PandAに前もってテキストをアップします。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
毎回必ず課題の文章を読んでください。単に読むだけでなく、文章の内容をしっかりと把握し背景となる知識についても前もって調べてきてください。					
(その他(オフィスアワー等))					
質問は授業の前後に受け付けます。質問や相談が多い場合には、適宜Zoomで予約制により、受け付けます(月曜日10:30-12:00)。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	U-LET49 29668 LJ48				
授業科目名 <英訳>	スペイン語（中級I）（語学） Spanish	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 小西 咲子		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火5	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	スペイン語（中級I）				
[授業の概要・目的]					
<p>講読を中心とした教科書に沿ってスペイン語の基礎文法を復習する。</p> <p>各課本文の読解を通してスペイン語圏諸国の文化的、社会的知識を学び、併せてその内容に関する口頭練習、空所補完リスニング、文法項目の練習問題に取り組む。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・CEFRのA2程度のレベルを修得する。 ・辞書を用いて時間をかけて語彙を調べれば一般紙の記事や簡単な文芸作品を読解することができる。 ・定型文を発展させて自らで文章を作ることができる。 ・自ら口頭でも発信することができる。 ・スペイン語に関する知識と併せてスペイン語圏諸国の文化に関する理解を深める。 ・中級II（より難易度の高い文法事項の復習と発展）の学習に繋げる。 					
[授業計画と内容]					
<p>講読用テキストのボリュームに鑑み授業2回で1課を終える進度で学習する。 各課のトピックと確認すべき文法事項は以下の通りである。</p> <p>第1～2課 ガイダンス LECCION 1 "EL JUEGO DEL JAI ALAI" 【文法】受身表現 【講読】スポーツ バスク地方の伝統的球技</p> <p>第3～4回 LECCION 2 "LA LUCHA LIBRE" 【文法】前置詞 para/por の用法 【講読】スポーツ メキシコのプロレス</p> <p>第5～6回 LECCION 3 "LA SALSA" 【文法】関係詞 que の用法 【講読】ラテン音楽 サルサ</p> <p>第7～8回 LECCION 4 "EL RAGGAETON" 【文法】現在形と現在進行形 / 線過去と過去進行形 【講読】ラテン音楽 レゲトン</p> <p>第9～10回 LECCION 5 "SIMON BOLIVAR"</p>					
----- スペイン語（中級I）（語学）(2)へ続く -----					

スペイン語（中級I）（語学）(2)

【文法】再帰動詞

【講読】人物 シモン・ボリバル

第11～12回 LECCION 6 "HERNAN CORTES"

【文法】点過去 / 線過去 / 過去完了

【講読】人物 エルナン・コルテス

第13～14回 LECCION 7 "LA DIETA MEDITERRANEA"

【文法】形容詞節における法の選択

【講読】食文化 地中海式ダイエット

期末試験

第15回 フィードバック

- ・ 受講者の理解度を確認しながら進度を調節することもある。
- ・ 必要であれば補助的にプリント教材を挿入する。

【履修要件】

スペイン語の初級文法（少なくとも接続法現在まで）が修得済みであること。

【成績評価の方法・観点】

平常点：20% [発音など口頭パフォーマンスを中心に評価する]

期末試験：80% [リスニングを含む試験を実施し、既習事項を理解・習得しているか判定する]

4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

【教科書】

岩崎ラファエリーナ, 牛島万 『中級スペイン語読解への誘い』（三修社, 2021）ISBN:978-4-384-42019-7 C1087（スペイン語書名『SENDERILLO』）

【参考書等】

（参考書）

上田博人 『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2

辞書は初修時に使っていたものを引き続き活用すること。

（関連URL）

<https://www.sanshusha.co.jp/text/onsei/isbn/9784384420197>(教科書音声ページ)

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回の授業前の準備は必須である。進度に沿って各課の復習（既習事項の定着）、予習（語彙調べ、練習問題の解答、テキストの音声確認や下訳）のうえ授業に参加すること。

スペイン語（中級I）（語学）(3)へ続く

スペイン語（中級I）（語学）(3)

（その他（オフィスアワー等））

教員メール konishi.sakiko.45s アットマーク st.kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 29669 LJ48				
授業科目名 <英訳>	スペイン語（中級II）（語学） Spanish	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 小西 咲子		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火5	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	スペイン語（中級II）				
[授業の概要・目的]					
<p>前期開講の「中級I」に続き、講読を中心とした教科書に沿って基礎文法を復習する。</p> <p>各課本文の読解を通してスペイン語圏諸国の文化的、社会的知識を学び、併せてその内容に関する口頭練習、空所補完リスニング、文法項目の練習問題に取り組む。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・CEFRのA2～B1程度のレベルを修得する。 ・辞書を用いて時間をかけて語彙を調べれば一般紙の記事や簡単な文芸作品を読解することができる。 ・定型文を発展させて自らで文章を作ることができる。 ・自ら口頭でも発信することができる。 ・スペイン語に関する知識と併せてスペイン語圏諸国の文化に関する理解を深める。 					
[授業計画と内容]					
<p>講読用テキストのボリュームに鑑み授業2回で1課を終える進度で学習する。 各課のトピックと確認すべき文法事項は以下の通りである。</p> <p>第1～2課 ガイダンス LECCION 8 "EL TAMAL" 【文法】目的格人称代名詞 / 強調構文 【講読】食文化 中南米のタマル</p> <p>第3～4回 LECCION 9 "FERNANDO BOTERO" 【文法】動詞 llevar の用法 【講読】美術 フェルナンド・ボテロ</p> <p>第5～6回 LECCION 10 "ANTONIO GAUDI" 【文法】-ir型語幹母音変化動詞の点過去 【講読】美術 アントニオ・ガウディ</p> <p>第7～8回 LECCION 11 "GABRIEL GARCIA MARQUEZ" 【文法】無人称文（不定人称文） 【講読】文学 ガルシア・マルケス</p> <p>第9～10回 LECCION 12 "FEDERICO GARCIA LORCA" 【文法】比較表現 / 類似表現 【講読】文学 ガルシア・ロルカ</p>					
----- スペイン語（中級II）（語学）(2)へ続く -----					

スペイン語（中級Ⅱ）（語学）(2)

第11～12回 LECCION 13 "EL DOMINO"

【文法】条件文

【講読】娯楽 ドミノ

第13～14回 LECCION 14 "LA SIESTA ESPANOLA"

【文法】関係詞（前置詞を伴う用法、他）

【講読】娯楽 シエスタ

期末試験

第15回 フィードバック

- ・受講者の理解度を確認しながら進度を調節することもある。
- ・必要であれば補助的にプリント教材を挿入する。

[履修要件]

スペイン語の初級文法（少なくとも接続法現在まで）が修得済みであること。

[成績評価の方法・観点]

平常点：20% [発音など口頭パフォーマンスを中心に評価する]

期末試験：80% [リスニングを含む試験を実施し、既習事項を理解・習得しているか判定する]

4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

[教科書]

岩崎ラファエリーナ,牛島万 『中級スペイン語読解への誘い』（三修社, 2021）ISBN:978-4-384-42019-7 C1087（スペイン語書名『SENDERILLO』）

[参考書等]

（参考書）

上田博人 『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2

辞書は初修時に使っていたものを引き続き活用すること。

（関連URL）

<https://www.sanshusha.co.jp/text/onsei/isbn/9784384420197>(教科書音声ページ)

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の授業前の準備は必須である。進度に沿って各課の復習（既習事項の定着）、予習（語彙調べ、練習問題の解答、テキストの音声確認や下訳）のうえ授業に参加すること。

スペイン語（中級Ⅱ）（語学）(3)へ続く

スペイン語（中級II）（語学）(3)

（その他（オフィスアワー等））

教員メール konishi.sakiko.45s アットマーク st.kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 29673 LJ48			
授業科目名 <英訳>	スペイン語（初級）I Spanish		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 小西 咲子	
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火4	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	スペイン語（初級I）				
[授業の概要・目的]					
<p>スペイン語の発音および基礎文法（直説法過去時制まで）を教科書に沿って学習する。</p> <p>授業は文法事項の解説と例文訳読、練習問題、簡単な会話文の読解からなる。初級文法のうち直説法の過去時制までを一通り学習するので進度が速く、そのため予習と復習は必須である。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語の発音のルールを理解し正しく発音できるようになる。 ・スペイン語の基本的な構造を理解し、直説法を用いた平易な文章を読解しまた作文できるようになる。 ・初級Ⅱ（接続法、命令法、初級文法発展）の学習に繋げる。 					
[授業計画と内容]					
<p>教科書に沿って進めるが、受講者の理解度を確認しながら進度を調節したり、必要であれば補助的にプリント教材等を挿入する。</p> <p>各回の主たる学習項目は以下の通りである。</p> <p>第1回：ガイダンス、スペイン語の歴史と地理について略説、第0課導入 第2回：第0課 [アルファベット、発音、音節の分け方] 第3回：第1課 [名詞の性数、冠詞、形容詞、主格人称代名詞と動詞ser] 第4回：第2課 [動詞estar、存在のhay、指示詞、所有形容詞] 第5回：第3課 [直説法現在：規則動詞と不規則動詞] 第6回：復習（1）第1課～第3課の作文および応用問題 第7回：第4課 [直説法現在：その他の不規則動詞、接続詞] 第8回：第5課 [目的格人称代名詞、動詞gustar、時刻・日付の表現] 第9回：第6課 [前置詞、過去分詞、直説法現在完了] 第10回：復習（2）第4課～第6課の作文および応用問題 第11回：第7課 [再帰動詞、不定主語文、現在分詞] 第12回：第8課 [直説法点過去、天候の表現] 第13回：第9課 [直説法線過去、時間表現のhacer、直説法過去完了] 第14回：復習（3）第7課～第9課の作文および応用問題 期末試験 第15回：フィードバック</p>					
----- ス페인語（初級）I (2)へ続く -----					

スペイン語（初級）I (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点 10%：発音を中心に評価する。

期末試験 90%：筆記試験により既習の文法事項および基本語彙を理解・習得しているか判定する。

4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

【教科書】

川口正道『文法からいくスペイン語』（朝日出版社,2020）ISBN:978-4-255-55113-5 C1087（スペイン語書名『Mi gramatica』）

必要であれば補助的にプリント教材等を挿入する。

【参考書等】

（参考書）

辞書『現代スペイン語辞典』（白水社）

辞書『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』（小学館）

上田博人『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2（中級まで対応した文法解説書）

（関連URL）

<https://text.asahipress.com/free/player/index.html?bookcode=255113>(学習用音声配信ページ)

【授業外学修（予習・復習）等】

進度に沿って各課の復習（既習事項の定着）と予習（語彙調査、例文等の下訳、練習問題の解答、等）をした上で出席すること。

（その他（オフィスアワー等））

教員メール konishi.sakiko.45s@st.kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 29674 LJ48			
授業科目名 <英訳>	スペイン語（初級）II Spanish	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 小西 咲子		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火4	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	スペイン語（初級II）				
[授業の概要・目的]					
<p>前期開講の「スペイン語 初級I」と同じ教科書を用い、引き続きスペイン語の初級文法を学習する。</p> <p>授業は文法事項の解説と例文訳読、練習問題、簡単な会話文の読解からなる。初級文法のうち接続法、命令文、条件文までを学習する。</p>					
[到達目標]					
<p>CEFRのA 1程度のレベルを修得する。</p> <p>辞書を用いて時間をかけて調べれば、日常生活にかかわるごく簡単なテキストなら意味を把握することができる。母語話者の補助があれば、挨拶など日常生活に最低限必要なコミュニケーションをとることができる。トイレ・出口といった市民生活に不可欠な街頭指示なら理解できる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>教科書に沿って進めるが、受講者の理解度を確認しながら進度を調節したり、必要であれば補助的にプリント教材を挿入する。</p> <p>各回の主たる学習項目は以下の通りである。</p> <p>第1回：ガイダンス [教科書第0課～9課の振り返り、第10課導入]</p> <p>第2回：第10課 [関係詞]</p> <p>第3回：第11課 [比較級、最上級]</p> <p>第4回：復習(1) 第10課・第11課の作文および応用問題</p> <p>第5回：第12課 [不定語・否定語、受身文]</p> <p>第6回：第13課 [直説法の未来・過去未来・未来完了・過去未来完了]</p> <p>第7回：復習(2) 第12課・13課の作文および応用問題</p> <p>第8回：第14課 [接続法現在：名詞節における用法]</p> <p>第9回：第15課 [接続法現在：関係詞節・副詞節における用法、命令文]</p> <p>第10回：復習(3) 第14課・第15課の作文および応用問題</p> <p>第11回：第16課 [接続法現在完了、接続法過去、接続法過去完了]</p> <p>第12回：第17課 [条件文、譲歩文、話法]</p> <p>第13回：復習(4) 第16課～第17課の作文および応用問題</p> <p>第14回：文法発展 [平易なテキスト講読または中級文法練習問題]</p> <p>期末試験</p> <p>第15回：フィードバック</p>					
----- ス페인語（初級）II (2)へ続く -----					

スペイン語（初級）Ⅱ(2)

【履修要件】

前期開講の「スペイン語 初級I」を学修していること、もしくは同等（教科書第9課まで）の文法知識を有していることが望まれる。

【成績評価の方法・観点】

平常点 10%：発音を中心に評価する。

期末試験 90%：筆記試験により既習の文法事項および基本語彙を理解・習得しているか判定する。

4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

【教科書】

川口正道 『文法からいくスペイン語』（朝日出版社,2020）ISBN:978-4-255-55113-5 C1087（スペイン語書名『Mi gramatica』）

【参考書等】

（参考書）

辞書 『現代スペイン語辞典』（白水社）

辞書 『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』（小学館）

上田博人 『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2（中級まで対応した文法解説書）

上記のものでなくとも初修時に使用していた辞書、参考書があれば引き続き活用すること。

（関連URL）

<https://text.asahipress.com/free/player/index.html?bookcode=255113>(学習用音声配信ページ)

【授業外学修（予習・復習）等】

進度に沿って教科書各課および配布される教材の復習（既習事項の定着）と予習（語彙調査、例文等の下訳、練習問題の解答、等）をした上で出席すること。

（その他（オフィスアワー等））

教員メール konishi.sakiko.45s@st.kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 29675 LJ48				
授業科目名 <英訳>	イタリア語（初級4時間コース）I Italian(4H)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 菅野 類		
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2,木3	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	イタリア語（初級I）				
[授業の概要・目的]					
<p>イタリア語文法の基礎を学習し、読み書きに必要な知識の習得を目指す。 授業の進め方としては、文法解説の後で練習問題を解いてもらい、知識の定着を図るというオーソドックスなものを想定している。 イタリア語やロマンス諸語に興味のある初学者を対象とする。</p>					
[到達目標]					
<p>現在・過去・未来の各時制と代名詞の使い方を学習し、簡単な読み書きとコミュニケーションができるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1週：オリエンテーションと発音 第2週：Lezione 1 [名詞、冠詞] 第3週：Lezione 2 [動詞 essere と avere] 第4週：Lezione 3 [形容詞] 第5週：Lezione 4 [直説法現在・規則動詞] 第6週：Lezione 5 [直説法現在・不規則動詞] 第7週：Lezione 6 [人称代名詞] 第8週：Lezione 7 [再帰動詞] 第9週：テストと解説 第10週：Lezione 8 [命令法] 第11週：Lezione 9 [直説法近過去] 第12週：Lezione 10 [直説法半過去・大過去] 第13週：Lezione 11 [直説法未来・先立未来] 第14週：Lezione 12 [受動態] 第15週：テストと解説</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- イタリア語（初級4時間コース）I(2)へ続く -----					

イタリア語（初級4時間コース）Ⅰ(2)

[成績評価の方法・観点]

各課の締めくくりで行う小テスト（30%）
前期中2回行うまとめのテスト(70%)

[教科書]

杉本 裕之 『基礎イタリア語講座 - CD付き改訂版 - 』（朝日出版社）ISBN:978-4-255-55311-5

[参考書等]

（参考書）

『伊和中辞典』（小学館）ISBN:4095154020

『フリーモ伊和辞典』（白水社）ISBN:4560000859

[授業外学修（予習・復習）等]

各授業の前に60分前後の予習が求められる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学300

科目ナンバリング	U-LET49 29676 LJ48				
授業科目名 <英訳>	イタリア語（初級4時間コース）II Italian(4H)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 菅野 類		
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2,木3	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	イタリア語（初級II）				
【授業の概要・目的】					
イタリア語文法の基礎を学習済みの学生を対象に、イタリア語で書かれたテキストを読むために必要な知識や技術を習得する。					
【到達目標】					
条件法や接続法といった動詞の性質を理解し、現代イタリアの短編小説やWeb上の情報を自立的に読めるようになる。					
【授業計画と内容】					
第1週：Lezione 13 [比較級・最上級] 第2週：Lezione 14 [関係詞] 第3週：Lezione 15 [ジェルンディオ] 第4週：Lezione 16 [条件法] 第5週：文法補足 1 ciとne 第6週：Lezione 17 [接続法] 第7週：Lezione 17 [接続法・仮定文] 第8週：テスト 第9 - 14週：遠過去および講読 第15週：テスト・フィードバック					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
各課終了ごとの小テスト(30%) 後期に2回行われるまとめのテスト(70%)					
【教科書】					
杉本 裕之 『基礎イタリア語講座 - CD付き改訂版 - 』（朝日出版社）ISBN:978-4-255-55311-5 講読用のテキストは適宜こちらが用意する。					
【参考書等】					
（参考書） 『伊和中辞典』（小学館）ISBN:4095154020 『プリーモ伊和辞典』（白水社）ISBN:4560000859					
----- イタリア語（初級4時間コース）II(2)へ続く -----					

イタリア語（初級4時間コース）Ⅱ(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

各授業前に60分前後の予習が求められる。
講読回では90分程度。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学301

科目ナンバリング		U-LET42 13902 LJ36			
授業科目名 <英訳>	西洋文学入門(講義) Introduction to Western Literature (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 河島 思朗 文学研究科 准教授 村瀬 有司 文学研究科 教授 永盛 克也 文学研究科 准教授 川島 隆 文学研究科 教授 中村 唯史 文学研究科 准教授 南谷 奉良 文学研究科 教授 森 慎一郎	
配当学年	1・2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木5	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西洋文学入門				
【授業の概要・目的】					
西洋文化学系の専任教員7名によるリレー講義です。西洋古典文学、イタリア文学、英文学、ロシア文学、ドイツ文学、フランス文学、アメリカ文学の作品とその受容や語りの技法などをトピックとして、各担当者がその魅力を語ります。西洋文学に関する全般的な理解を深めることを目的としますが、それと同時に、さらに深く学びたい人を西洋文化の世界へといざなう起点となることも期待しています。					
【到達目標】					
西洋文学のさまざまな作家や作品にかんする知識と理解を深めるとともに、文学作品を読み解くための基本的な技法を身につける。					
【授業計画と内容】					
西洋古典文学(河島) 第1週(4月11日)ホメロス『イリアス』:ギリシア文学のはじまり 第2週(4月18日)オウィディウス『変身物語』:ラテン文学における受容と変容					
イタリア文学(村瀬) 第3週(4月25日)ダンテ『神曲』の読み方 第4週(5月9日)マキアヴェッリ『君主論』の読み方					
フランス文学(永盛) 第5週(5月16日)モリエールの喜劇を読む 第6週(5月23日)マリヴォアの喜劇を読む					
ロシア文学(中村) 第7週(5月30日)ロシア文学におけるコーカサス表象(1):プーシキン『コーカサスの虜』 『エルズルム紀行』 第8週(6月6日)ロシア文学におけるコーカサス表象(2):トルストイ『コサック』読解					
ドイツ文学(川島) 第9週(6月13日)ドイツ文学の動物小説 エーブナー=エッセンバッハ『クランバンブリ』 第10週(6月20日)ドイツ文学の動物小説 ザルテン『バンビ』					
西洋文学入門(講義)(2)へ続く					

西洋文学入門(講義)(2)

英文学(南谷)

第11週(6月27日)動物・植物からみる英文学小説

第12週(7月4日)機械・AIからみる英文学小説

アメリカ文学(森)

第13週(7月11日)フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』概説

第14週(7月18日)フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』のさまざまな読み方

第15週(7月25日)まとめ・フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポートにより、到達目標の達成度にもとづいて評価する。レポートについては、KULASISの「レポート情報」によって周知する。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

授業で取り上げる作品の多くは、下記のサイトでも紹介されている。

(関連URL)

http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/210188/1/seiyobungaku_hyakunen.pdf#page=2(「西洋文学この百冊」)

【授業外学修(予習・復習)等】

授業で取り上げた作品、紹介された本や論文を、できるだけ自分でも読んでみることを。

(その他(オフィスアワー等))

特定の国や作家に偏るのではなく、未知の国や作家の文学にも触れ、西洋文学の多様性の一端を実感してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。